

---

# エッセー集

夢野ユーマ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

エッセー集

### 【Nコード】

N4807N

### 【作者名】

夢野ユーマ

### 【あらすじ】

日々、思ったことや経験したこと。

## 愛の死

今日、友人がオーケストラをやっているので、コンサートにうかがいました。前半はマーラーの交響曲第4番。後半は「トリスタンとイゾルデ」の演奏会形式コンサートでした。

マーラーもよかったのですが、私はワーグナーが好きなので、後半がすごくよかったです。

グランドフィナーレの「愛の死」はバレンタインコンサートなどで演奏されることもある曲ですが、日本のオーケストラでは力チツとした演奏が多いです。それがちょっと違うと思っていたのですが、今日は情感たっぷり、すごくよかったです。こちらにも大いに感情移入しました。素晴らしいコンサートでした。

正直なところ、演奏は危なっかしいところもありましたが、演奏している人たちが曲や演奏を愛していて、素晴らしいかったです。

クラシックのコンサートを聴いてリラックスすると小説のイメージネーションも刺激されます。

## 渇き

昨年のカンヌ映画祭の審査員グランプリの韓国映画「渇き」観ました。近年の韓国映画の充実ぶりはすごい。「母なる証明」や「チエイサー」など、続々、傑作が生まれています。「渇き」も、その系譜に連なる作品。

少し分析してみると韓国は日本以上に経済の不振や社会の閉塞が強いけれど、それだけ反逆のエネルギーも強いようです。少なくとも日本やアメリカみたいにきれいに小ぢんまりとまとめない荒削りな怒りが素晴らしい。「渇き」はホラー映画のスタイルを描きながら、底辺で生きる人間の怒りも哀しみも醜さも描ききって、突き抜けると不思議な人間への愛しさが残っていました。

ところで国際的演技派ソン・ガンホがヨン様やイ・ビョンホンみたいに演じているのは悪意だと思う。深刻悲痛な作品の中、爆笑してしまいました。

## マティスとルオーと先生と

マティスはピカソが認めていた数少ない友人である。ピカソのような派手な作風ではないが、代表作「ジャズ」の物の形を極端にシンブルに描いた手法は前衛性を感じる。

一方、ルオーはキリスト教をテーマに非常に重い、思想性のある作品で有名。

と、何の接点もなく見える二人ですが、実は親友でした。何が接点だったのでしょうか？

実は二人とも絵、美術をギユスターヴ・モローに習っているのだった。

モローはピエタなど伝統的なキリスト教の絵を描いた。ルオーはそこを継承した訳です。ところがモローはキリスト教の絵を描く場合でも何か普通のありふれた構図じゃない。またサロメやセバスチャンなどちよつととんだテーマを好んでいた。その辺りがマティスに流れこんだんだと思う。

絵は一つ一つがもちろん面白いんだけど、師弟関係などを工夫した展示も面白い。

## 先生、お土産！

私は中学や高校ではなく、予備校、塾で勉強を教えている。

だから、夏休みなどは忙しい。生徒は勉強もしているけど、どこかバカンスに行く子も多い。いろんなお土産をもらう。ミツキーマウスのキーホルダーとか。まりもっこりのキーホルダーとか。イタリヤやハワイに行った子のチョコはどろどろに溶けていて、笑ってしまった。善光寺の九九福みたいなちゃんとしたものもあれば坂本龍馬のおたべなど怪しいものもある。

でも本当にうれしいお土産は一人一人の子の夏休みの話である。毎日、ビルの中の教室にいる私には一人一人の夏休みの思い出話がサマーウォーズのような冒険である。

夏休みの思い出は心の宝石箱にしまっておく。

残念ですね、

私は生徒を好意的に見ている。いい所を見つけようとしている。しかしある先輩は非常にシニカル、毒舌、エスプリに満ちている。

Kくんという子が話が面白い。

「うちの世界史の先生はホモなんですよ。カッコいい子は優しくしてもらえるですよ」

私「じゃあ君も優しくしてもらえますね」

先輩「残念ですね、」

私「Kくんは神木隆之介よりカッコいい!」

K「神木隆之介、大したことないじゃないっすか!」

先輩「君は目も!悪いんだね」

K「モテ期なんてあるんですかね?カッコいい奴は一生モテ期だし、モテない奴は一生モテないですよねえ」

私「君も一生モテ期だから大丈夫ですよ」

先輩「じゃあ君も一生モテないね」

三人のバトルは続く。(・|・|・)

## 特攻野郎

中日新聞さんと雑誌社リバブックさんのご招待で「特攻野郎Aチーム」試写会にうかがった。8月6日。場所は名古屋市公会堂。

リドリー・スコットとトニー・スコット兄弟のプロデューズで上手く出来ていたが、ちょっと展開が早すぎる気もした。しかし、男子高校生を三人連れて行ってあげたのだが、彼らは大喜びだった。

こういう何も考えなくてもいい作品というのは根強いのかも知れない。そう思った。

私は頭を使うヨーロッパな映画が好き！

もつとも空飛ぶ戦車。ドイツの湖の老人。3Dで観る「大脱走」など馬鹿馬鹿しくて大好き。

ブラッドリー・クーパーとジェシカ・ビールのロマンスもよかった。



## 似てる

私はよく「〇〇に似てる」と言うが、生徒に言わせるとほめることになっていないと言われる。

「Kくんは神木隆之介よりカッコよく、森山未來に似ている」、と言った。ブフフと先輩が笑っていた。

また、のんちゃんという子（ ）には「S M A Pの草なぎくんに似ている」と言ったが、すごく嫌そうにされた。

またEくんには「ハニカミ王子や大沢たかおに似ている」と言ったら、「いや！似てないよ！」と強く打ち消された。

一番、ひんしゆくを買ったのは「市橋達也が善人になったような感じ」という発言だった。

誰それに似ているは控えなきゃ。そんな自分自身は「メガネを外すと武田真治くんに似ているの」と言っていたが、先輩に「顔の骨格と眉毛と目と鼻と口を取り替えたら似ている」「キャー」ンの天野っち似のおっさん」と言われた。（――・――）

## 衝撃！別れ話大作戦！

仕事で刈谷という街に行き、喫茶店（東海地方にはたくさんあるコメダ珈琲店というところ）で、準備をしていたら隣に21才のカップルがいた。（話の中で21才と言っていた。）

二人は自動車免許を取ったこと、バイトのこと、刈谷高校に行っていたころハンドボール部をやっていたことなどを話していたが、ちよつとの沈黙があつて、男が急に「ところで、今日は別れたくて呼んだんだ」と言い出した。女の子の方は「悪いところは直すから別れたくない！」と言っていたが、男はとにかく別れる、友達でいようと頑としてはねつけており、私は「人生の厳粛」（by太宰治）を感じて、凍りついていた。

しかし、別れ話するって呼び出す男もなあ。電話やメールよりはいいと思つたんだろうか？自分は経験が少ないからこういう時の定石が分かんない。

あと友達になろうつて言われても、こんな話の後で友達になれないだろう！女の子も男に珈琲かけて出ていけばよかったのに。

もつとも自分は片方が帰ったらちよつと話しかけようと企んでいたんだけど、それを見抜かれたのか男は目の前で女の子が泣いているのを冷酷に見つつ、なかなか帰らなかった。私の仕事の時間の方が来て、私はチツと仕事に行った。

あの後、よりが戻ったなら僕は天使なの。

しかし生徒には「先生、ハイエナじゃないっすか！」と言われた。

（――）

## オバケ（ゝゝゝ、じ）

さて、刈谷で仕事があった日の次の日、岡崎という街に行った。徳川家康の生まれた城下町できれいなところである。

その町外れの山の上に美術博物館というところがあり、バスで行くことにした。どういう都市計画なのか分からないが、山すそに市民病院があるらしく、ほとんどの人は市民病院で降りて行った。

「あれっ？」

ところが、一番前の席に一人のじいちゃんが座っていた。

そして山奥の美術博物館に着いてもじいちゃんは降りなかった。私はげげんに思いつつ、美術博物館でホアン・ミロの絵を観て、岡崎の街を見下ろす展望レストラン・セレーノで桜海老のサラダ、ミネストローネ、ビーフステーキ、フルーツなどを食べて、じいちゃんのこととは忘れていた。

そして、帰りのバスに乗った。

「あれれっ！」

また同じじいちゃんが同じ席に座っていた。

しかし、私はオバケのためじいちゃんは循環の路線に乗っているだけで同じところをぐるぐる回っているのだらう、と思った。

帰ってから生徒にその話をしたら、そのじいちゃんは本当にじいちゃんだったんですか！と突っ込まれた。

靈感がないので、私には分からない。今度、また美術博物館、行ってみよ。

## 常連なんかならないわ

常連というのが苦手である。と言うと常連のいる店に行くのが苦手と受け取られるだろうが私は常連になるのが苦手。

今年は仕事の都合でホテルに宿泊することがあるのだが、常連さんですね、みたいに扱われると何かムズムズする。苦手。

「ご朝食はなし、明日の朝刊は中日、天蓋つきベッドをご用意いたしました」

ギャーやめてくれ！

しかしホテルの人はむしろサービスでやってらっしゃるんだろう。つまり常連扱いされると喜ぶ人が多いのだ。多分。

しかし飲食店などでも私は行動を読まれていると何か恥ずかしい。東海地方はごはんおかわり自由の店が多いのだが、ある店で最初から二杯分ごはんが盛ってあったことがあった。

恥ずかしかった。

でも全部食べた。

## 乙女座の男の子

ハッピーバースデー！マツジュン。今日はマツジュンのお誕生日です。おめでとうございます。

ということは乙女座なんだ。

乙女座の男の子は特徴がある。

？男くさいもの、不良、893への憧れ。

私が一番可愛がっているKくんは乙女座である。不良に憧れ、武術などを練習している。荒いしゃべり方も心がけている。

また大学時代、一番仲よかった友達も乙女座だった。

石原軍団のドラマや藤岡弘のドラマを録画していた。

893の雑誌も愛読していた。

？しかし、二人とも実は汚すことの出来ない純粹で優しい魂の持ち主で、悪人になることは出来ない。

Kくんは家族をすごく大事にしているし、大学時代の友達は銀行で働いている。

二人が手に入れることの出来ない男くさを手に入れようと頑張っているところ、可愛い。何か乙女チック！

## 小説の原稿料

今から書くことは思い出話で、自慢みたいに誤解なさないで下さい。

私は収入の大多数は教師として得ているけれど、新聞社、出版社、テレビ局などのちょっとした行事などには呼んでもらえる。それは若かった頃、小説や歌（31文字の和歌）でいささか賞を取ったりしたからである。

ある時、お名前は出せないが同人誌じゃなく、原稿料がもらえる雑誌に作品を四回載せてもらった。そして三回、その雑誌の中の大賞にノミネートされた。結局、無冠に終わったが、賞へのノミネートなしで一つ作品を載せてあげます、と言われ、一つ作品を載せてもらったのは編集者の方の残念賞みたいな感じだったのかな？と思う。四回でもらった原稿料は三十万円ぐらいだった。十万円ぐらいのが二本と五万円ぐらいのが二本。内容は関係なく、あくまで原稿用紙の枚数だった。

こういう体験が出来たのはとてもよかった。その雑誌からは芥川賞のさらに前哨戦になる賞を取った人も二人出た。しかし、残念ながらお二人とも新人賞レースで活躍という状態ではない。だから私は新人賞の厳しさ、取ってもゴールじゃないということはよく分かっているし、焦ってはいけないうよく思う。

今、思うとしまったな、と思うのだが、当時、マンガの原作を書いてみないか？というお話があったが、私はマンガに詳しくなかったし、当時は力量がなく、お断りした。

最近、自分なりにスタイルを工夫し、書きたいこともいろいろある。マンガの原作のような作品を近いうちに書きたいな、書けたらいいな、と思っている。



怪談！お蔵だし！（＾Ｏ＾）

夏休み終わる（TOT）

だから、怪談を一つ。

先輩から聞いた実話。

山形県のホテルにスキー旅行で行ったんだよ。

六人でさ。全員同じ階がよかったんだけど、三階と六階に三人ずつ分けられたのね。俺は六階だった。

きれいなホテルだったよ。地元の華族の人の邸宅を建て増したってことでさ。

まあ大学生だし、チェックインしてコースの夕食を食べた後は三階にみんな集まって麻雀とかチェスとかやってたの。昔だったから煙草パツパ吸ってさ。

一段落して、俺、六階だったんだけど、戻ることにしたのね。レトロな、フランス映画でアパルトマンに出てくるようなエレベー

ターに乗ったの。そしたら。ほわん。  
ほわん。

四階と五階でいちいちドアが開くのね。誰もいないのに。

で、まあ六階に行ったけど、やっぱり遊び足りないのね。  
三十年ぐらい前。ゲーム機とかないし。  
それで俺、三階のダチを呼びに行ったの。六階でまた麻雀やろつて。  
て。

ほわん。  
ほわん。

またエレベーターが五階、四階で止まって、三階に着いて、友達の  
部屋開けたのね。

そしたらそいつがさ、気まずそうな感じで目を伏せて「いいよ。早  
く帰れよ」ってドアを閉めようとするの。

おつかしい奴だな〜と思いながら、またエレベーターに乗って、  
ほわん。  
ほわん。

また四階と五階で止まるのね。  
でも六階に戻ってまあ寝たかな。

それで翌朝、食堂に行くとき、三階の奴が逆にニヤニヤしてて、  
「お前さ、昨日、後ろに可愛い子連れて来やがって。お前タラシだ  
もんな。あの女の子いつ引っかけたんだよ」って。

俺の顔色が変わるの、気づいたんだろうな、給仕してたばあちゃんが「ああ、お嬢様が・・・」って。

聞いたら、そのホテルが華族の屋敷だった時、お嬢様はエレベーターホールに身を投げて・・・

俺たちみたいな若い大学生が来ると出てくるんだって。

これってモテてるのかな？

## 誕生日大合戦！

インターネットに月と日を入力するとその日に生まれた有名人がズラズラ〜と出てくる。

Kくん、乙女座、9月5日生まれが「俺と誕生日同じは誰ですか？」  
と言うので、調べたら、この日はすごい！

伊達政宗、ルイ14世、棟方志功、キム・ヨナ、そして仲村トオル！

「すごいっすねー！」

Kくんは喜んでいた。

それを見て、のんちゃん（・成績優秀・ハンド部の副主将・B型）  
が「俺も調べて欲しいっす」と言った。

のんちゃんは10月16日生まれ。

「おっ！すごいじゃん！アメリカの文豪ユージーン・オニールやドイツが世界に誇る巨匠ギュンター・グラスと一緒にじゃん！のんちゃんもノーベル文学賞とれるかも！」

「いや、あの、AKBとかSKEとかやってる十代の可愛い女の子  
いないっすか？」

「！！・・・いないね・・・十代の可愛い女の子」

「ユージーン・オニールつてめちゃくちゃ暗い作風でノーベル文学  
賞とった時はもう廃人ですよ。ギュンター・グラスもノーベル文学  
賞とった後、ナチスに協力してたことが発覚して、追及されてま  
したよね！」

（ああん、師匠が師匠なら弟子も弟子。詳しいな！）

「俺、勲章もらって不幸になるなんかいやっす！（TOT）可愛い  
アイドルの女の子と暮らしたいっす！」

「泣くな！のんちゃん、自分と同じ誕生日は天国の緒形拳さんと松

坂慶子と間寛平にいやんだぞ！」

「うう・・・(TOT)」

あへあへ！

## 悪人（偽）

妻夫木聡くんの最新作「悪人」の試写会の招待状が中日新聞さんから送られてきた。ちよつと都合がつかなかったので、のんちゃん（映画好き）にあげることにした。

しかし髪を金色に染めた妻夫木聡くんは悪人というより場末の温泉場のちんぴらのようです。（T―T）

本当は純粹で優しくハンサムな子（妻夫木聡）が世間に残酷にいじめられ、理解してくれる美しい優しい女性（深津絵里や満島ひかり）と恋をするみたいなくさい芝居がみえみえだ。

しかし、考えてみると若い男の子でシリアスな悪役がやれる子って誰がいるだろう。

赤西仁とか市原隼人とか三浦春馬とか、みんなお洒落で可愛くて、優しい感じだもんな。

稲垣吾郎くんがシリアスな悪役に挑戦したという「13人の刺客」の試写会の案内も来てたな。何か悪い予感がする……（――）

シリアスな悪役……誰か思いついたら教えて。

## フローズンリバー

泣いた！

去年のアカデミー賞の台風の目だった「フローズンリバー」を観た。一年にあるかないかの感覚、感動が体の中を暴れ回っている感じ。その感覚に出会いたくて、映画やお芝居、コンサート、美術館などに出かける。感動が体の中で暴れ回ると自ずと創作のイマジネーションも刺激される。

それはそれとして、「フローズンリバー」はスターも出ておらず、一時間半ぐらいにコンパクトにまとまっているが秀作だった。あえてストーリーは書きたくない。

まっさらな心で観て欲しい。本当におすすめです。決して明るい話ではないけど、本当の人間ドラマにふれた感動を味わえます。ストーリーは秘密だけど、テロ戦争や経済破綻で苦しむ人々の真実の姿を容赦なく描ききっていた。苦しみ、哀しみ、人間の醜さ、絶望。しかし、それを描ききったところにかすかに暗示される希望。それを目撃した時、とめどなくあふれる涙を抑えられなかった。カタルシスの雨がハートを洗い流してくれた。

是非、本当の映画を観たい方はその目で確かめてみて下さい。おすすめです。

一生の中でこんな作品を書けたらどんなに素晴らしいだろう。  
頑張る！

## 先輩伝説（――）ホラー編

実話です。（――）

大学を出た後はテレビ局の仕事をしたんだけどさ、各地のホテルって怖いところが多いのね。エレベーター降りた瞬間、監獄みたいな感じになってたり、殺気を感じたり。

部屋に入ると水道から髪や血が流れてきたり、窓から逆さ向きに人の顔がのぞいてたり。お前（夢ちゃん）そういう経験ないの？ない？お前、鈍感だもんね。この前、見せてくれたAPU大学の生徒の写真も窓ガラスに人影が映ってるのに「撮った人でしょ」って笑いながら、おせんべい食べてたもんね。

俺も慣れてるから、あんまり怖がらないんだけど、群馬県のホテルに泊まって、ベッドに横になった時、「あっ！ヤバい！」って思ったの。寝たら殺されるな、って。

よくあるんだけど、飾ってある絵の裏とか、デスクの引き出しの中にお札や十字架がないか探したのね。でも、見つからないの。天井裏とか、浴室とか丹念に探したけどないの。

見つけたらホテルの奴に言っただけで宿泊代は返してもらったし、よくそういうことあるんだけど。

ないの。あきらめて、チェックアウトする準備してさ、変なくせなんだけど、俺、ベッドのシーツとっちゃうのね。



そしたら、ベッドにびっしりお札が貼ってあったの・・・

お前って基本的に全然靈感信じてないよね。信じてたらそんなにポテトチップス食べられないよね。それ新しい味？ちよっとちよっだ  
い。

## 切り札

私の生徒の中でやはり一番面白いのはカズマであろう。

カズマはB型でパツパラパーだった。

カズマと夢ちゃんの数々の攻防は語り草になっている。

カズマは基本的に勉強が好きじゃなかった。

顔はジャニ系で、髪はフワフワしていて、いつもドルガバの服を着て、お洒落で、でもマザコンだった。

お母さんの写真持ってたし。

「ボクのママはキレイなの」ってよく見せてたな。

カズマのルックスにひかれる女の子も多かったけど、カズマのブルグを見たりすると去っていったな。(TOT)

「今日、サングラスが欲しかったので、ママに買ってもらったため栄のデパートに一緒に行きました。一緒にいちじくのタルトを食べ、ミックスジュースを飲みました。美味しかったです!」

そしてママの写真。じゃーん。

そんなカズマだが、根は優しい素直な子だったので、みんなに愛されていた。

カズマ伝説という切り札を時々、出していくことにする。

## あなたと読む恋の歌101首

私は時々、読売新聞さんと中日新聞さんに歌を載せてもらう。それを生徒に見せた。目的は自慢である。(・|・:)

しかし、カズマは「ギャハハ、どれもこれもひどい歌ばかりや、モテてないのに恋の歌作ってモテとると見せかけとる!」「メガネをかけたデブが恋愛に憧れの気持ちを持つのが邪悪」など笑い転げていた。(、・)

優等生のおっちゃん(・成績優秀・水泳部のキャプテン・かに座O型)は笑いをかみ殺していた。

のんちゃん感想はちょっと変わっていた。

「忽那汐里とか川島海荷とか仲里依紗とかがこういう歌作ってたらいいですね!」

「いや、ダメだって」

「でもカズマくん、化学の時間、ずっと夢ちゃんの歌の本、ラインマーカーで線引きながら見てたじゃないっすか!」

カズマの顔色が蒼くなった。

あっちゃんがカズマを羽交い締めにし、のんちゃんがカズマのスケッチブックを取り出す。

そこにメモされていた歌はとてつもないものばかりだった。

「二十歳とはロングヘアーをなびかせて畏れを知らぬ春のヴィーナス」(俵万智)

「硝子粒光る路面に二人立つ 蕁烟の見張りのように」(穂村弘)

「幾億の命の果てに生まれたる二つの心そと並びけり」(柳原白蓮)

「月面に脚が降りたつその時も我らは愛し愛されたきを」(村木道彦)

「カーテンの向こうは多分雨だけどヒバリがさえするようなフェラチオ」(林あまり)

とてつもない結果だった。全員が硬直していた。

## 現実的乙女たち

私は男子校にいる訳ではないので、女の子も生徒にいる。しっかりした子は女の子の方が多いくらいである。

ヨーコ、蘭、マユはクラスを仕切っていて気も強かった。

カズマ、あっちゃん、のんちゃんは圧倒されがちで、硬派なKくんは比較的人気があった。

しかし、女の子たちは今はそういうものなのかジャニーズのアイドルとか好きじゃなかった。

「auのCMとか見てても嵐とか青臭いよね」

「小栗旬もアタシは好きじゃない」

私（呆れて困った感じで）

「じゃあ、みんなは誰が好きなの？」

「ジョニー・デップとブラッド・ピット」

「アタシはオーランド・ブルーム」

「マユはインディ・ジョーンズ」

インディ・ジョーンズはちょっと反則だろうと思って、笑ってしまった。ちなみにマユちゃんの弟は3、4歳だが、「インディ・ジョーンズの次の舞台は日本なの」と話していた。「願望を話しているんですよ」とお母様がおっしゃっていた。

話がちよつとそれるけど、生徒に小さい弟や妹がいると必ず私になつてくる。

「どうして先生のこと好きなの？」と聞いたら、

「JR名古屋高島屋のおもちゃ屋さんの店長と先生はそっくりなの」と言っていた。東海地方特有の顔らしい。( - - ; )

それはさておき、私は呆れながら、女の子に聞いた。

「日本人の男の子で好きな子いないの？」

「一人だけいるよ」

「誰？誰？」

「ダルビッシュ」

( - - ; )

## A Y A K A

新しい女の子が来た。絢香という可愛い子だった。

ヨーコたちの顔色が蒼くなり、カズマたちはデレデレになった。

しかも絢香は本物のお嬢様だった。

今の皇后が若い時、通っていた聖心女学院の富士山校舎に寄宿し、週末帰ってきた時だけ、夢ちゃんに論文を習いに来ていたのだった。

夢ちゃん（私）は聖心女学院のパンフを見ていた。

「このゴルフ場みたいなのは何なの？」

「ゴルフ場です。体育の時、ゴルフやるための」

「ふーむ。テレビはないの？」

「はい。週末に録画したのを見てます。ヘキサゴンとか、『ラスト

フレンズ』とか『魔王』とか『流星の絆』とか」

「『流星の絆』真犯人は三浦友和だったでせう」

「えー、すごい、どうして分かるんですか？」

「フオーツフオーツフオツ、長く生きればそれぐらい分かるんですよ」

カズマはあっちゃんやのんちゃんを語らい、ボルテージを上げていた。

「あっちゃん、のんちゃん、助けてよ！ああいう天然のお嬢様、大好物なんだよーん」

ヨーコ、蘭、マユらは危機感を強めた。

「アタシたちは結託しなきゃ！」

カズマは遊び慣れていたので、絢香に積極的に話しかけていた。

「勉強会やっているからさ、来なよ」

しかし、ヨーコたちはカズマの今までの悪行を暴露した。カズマの瞳に虚ろな光が宿った。それは夢を奪われた人間の瞳に宿る虚ろな光だった。（うそ）

「絢香、気をつけた方がいいよ。カズマ、淑徳（名古屋のお嬢様学校）の子と付き合っている時、浮気したから」

「何言うれす!？」

「彼女いるのに別の女の子と映画行つたの」

「えゝ、それは浮気だと思いまゝす。やだゝ!」

ガーン!ガーン!ガーン!

カズマの恋はシャボン玉のように弾けて消えた。次回、みそぎのバンジージャンプに続く!？（\*―\*）



## カズマの詫び状（T―T）

カズマ筆（添削・夢）

僕は詫び状を書かないといけないような悪い子じゃないと思うんだけど、女子に脅迫され、書くことになりました。表向き浮気をしたからということになっていますが、「うちの女子は顔面偏差値が低い」と陰口をきいたのが発覚してしまったようです。（T―T）  
また夢ちゃんの授業をサボって喫茶店でF1を見ていたことも発覚してしまいましたようです。

夢ちゃんは僕が休む日を計算に入れているみたいなんですけど・・・

また犬の出産を観察するため学校を休んだことも否定派がいるようです。

「瑛太と森山未来はどっちが不細工か」を話していたのもいけないらしいです。僕は瑛太が不細工だと思うのですが、女子は違っらしいです。

最後にみそぎとしてやったバンジージャンプ、すごく面白かったです。またやりたいです。飛んでいる時の満面の笑顔がだめだったようです。（T―T）

## 伊太利亜

イタリアにバカンスに行っていたヒデキが帰ってきた。

夢ちゃん、カズマ、ヨーコ、蘭、マユはヒデキの家に行った。

ヒデキの部屋に入るとヒデキの末の弟、キョンキョンが女の子が来たことに興奮して、部屋に入ってきた。

「これはお兄ちゃんの部屋の電気です！これはお兄ちゃんが集めるスターウォーズのフィギュアです！」

「キョンキョン、落ち着けよ！」

やがて、キョンキョンは子供を魅了する夢ちゃんの膝に抱かれた。

「これお土産です」

ヒデキは夢ちゃんにチョコレート、ボッティチエルリ、ジオルジオ・モランディのカードなどを差し出した。

カズマには「はい」とフェラーリの車のプラモを渡した。

カズマは乗り物好きである。

ヒデキは男子に対するよりはぎこちなく、女子の方にスカーフとブローチと香水を差し出した。

蘭はちょっと焦れていた。と、ドアが開いた。あどけない美少年が顔をのぞかせる。

ヒデキ、タカくん、キョンキョン。名古屋に咲いた絢爛たる美少年の花である。陰のあるハンサムで武術に励んでいるヒデキに対し、タカくんは優等生的な美少年だった。

「お兄ちゃん、お茶持ってきたんだけど」

「おう」

「あの・・・悪いけど、お兄ちゃんのペットのサンショウウオちゃんのエサの虫、部屋にいない？僕、虫苦手なんだけど」

「神経質な奴だな！」

「僕はお兄ちゃんがサンショウウオちゃんに虫を食べさせていることも我慢しているの！」

ままま、とみんなでタカくんをなだめる。夢ちゃんは独立独歩でサンショウウオちゃんの写真を撮っていた。

タカくんがロシア紅茶やロシアケーキを持ってきた。

「ところで」ヒデキは言った。「バカンスに行っただんですけど、従姉の子と一緒に」

夢ちゃん「あら素敵じゃない」

ヒデキ「でも全然可愛くないですよ。ばあちゃんは可愛いって言うんですけど、それはばあちゃんに似ているからなんですよ。何かいき遅れそうだから俺に期待しているみたいで」

ヒデキは救いを求めるようにカズマを見た。夢ちゃんとキョンキョンは無心にロシアケーキをかじっていた。女子たちはタカくんに見とれていた。それぞれの想いを抱きながら、青春の時間が流れていた。

## 人はバケモン

そうね。

女性の先輩も怖い話を教えて下さることになった。

私も夢ちゃんと一緒に靈感なんかないわよ。でも結局は人間が怖いって結論になるのかしら。

私が大学生の時、住んでいたマンションのセキュリティはしっかりしていたと思う。

入り口のホールにオートロックのガラスの玄関があって、カードキーじゃないと開かなくて。

だからある時、エレベーターに乗った時、見慣れない男が乗ったんだけど、顔も見なかったの。しばらく一緒に乗ってたけど、目も合わせないようにして。

そしたらね、何日かして、早朝に刑事が来たの。マンションの一室で女の人の死体が見つかったんだって。それで詳しいことを聞きたいから上がらせてくれ！って言うんだけど、アタシ、夢ちゃんと一緒に低血圧がひどいから少し後に改めてお越し下さいって突っぱねたの。

シャワーを浴びたり、コーヒーを飲んで、人心地ついたら、また刑事が来たわ。でもさっきの刑事じゃなかった。そして刑事が見せてくれた犯人の写真は・・・

最初に来た男だった。あのエレベーターの男もそいつだったのね。私は全然気づいてなかったんだけど、私を目撃者と思って、殺しに来たのね。

バケモンは人間よ。

コータロー！奔（はし）れ！

自分は最近、ある先輩に「お前は社会人なのか！？」と叱られ、シヨックを受けていた。

教室のあるビルの喫茶室でクリームあんみつと珈琲を頼み、自分は社会人じゃないのかも、とうちひしがれていた。

「千の風の人とはちゃんと音楽教育を受けているけど、若い子には魅力ない」と言うマユちゃんに「許されないっしょ！」と言い、「マクドナルドでバイトしたい」と言うカズマに「いいじゃん！」と言っていたが、シンヤに「あゝ、若ぶってしゃべってるけど『何とかっしょ』とか『じゃん』とか年寄り」などと突っ込まれていた。

（――）

そんな感慨深い私のところにコータローが挨拶に来た。

一緒に「青春アミーゴ」を歌い、踊っていたコータローがもう就職活動なんだ。そう思うと私ももう若くないってことか。まだ生徒と「瞳のスクリーン」とか歌い、踊っているけど。

「コータローはどこ行くつもりなの？」

「はい、アパレルの仕事したくて、名古屋の駅ビルのデパートにエントリースhirt出したいんですけど、これでいいでしょうか？」

「コータロー、パパがシェフやっている縁で寿司屋のバイトやってたけど、ルネッサンスホテルに引き抜かれて、松田聖子ディナーシヨールのホテル側の責任者にまで出世したでしょ。あれ、書いてくと

いいよ。アパレル業界の人喜ぶ」

コータローはタバコを吸いながら、書類を書いていた。  
ああ、この子、本当に少年から大人の男になったんだ。  
銘柄はキャメルだった。

コータローは挨拶回りで帰って行き、私は溶けたバニラアイスを口に含んだ。

本当はアパレル業界が今後、日の出の勢いになるのは難しい。アパレル業界より外資系の企業とか進めるのが本当は正しいのかも知れない。

しかし、本当にやりたいことをがまんすれば何かの悔いが残るだろう。若いんだから、中に入って限界を悟ったら、また再出発すればいい。奔れ！コータロー！

私は冷めた珈琲を口にした。ほろ苦だけど、美味しかった。心の中のBGMは「瞳はダイヤモンド」

## キャリア・マリガン

「17歳の肖像」観ました。大好き！今年のアカデミー賞作品「ハートロッカー」は久しぶりに???の作品だったので、「マイレージマイライフ」「第9地区」そしてこの作品と他の候補作に力作、快作が多く、疑問です。

それはそれとして、この作品はまっさらな気持ちで一人でも多くの方に観て欲しいです。下に感想を書きますが、出来れば読まずにまっさらな気持ちで劇場で観て欲しい！

とにかく新星キャリア・マリガンが素晴らしい。21世紀のオードリー・ヘップバーンという評判はフェイクではありませんでした。しかし、第二次大戦後のロンドンとパリを舞台にしながら、「ローマの休日」「麗しのサブリナ」「ティファニーで朝食を」の愛と夢に満ちた乙女ちっくな世界でなく、新しい時代が生まれる苦しみ、そこに生きる人間の歓びと哀しみを見つめたドラマはまさに現代の新しい傑作！愛も夢も滅びさっていく時代の中で逞しく生き抜いて行こうとするヒロインの姿を目撃する時、感動の涙があふれて止まらないでしょう！これも今年のベストワン候補です。

60年後の「ローマの休日」は映画史の新たなスタンダードとして輝くでしょう！



ちょっと映画の宣伝ぽい煽り方でしたがキャリー・マリガンの次にお父さん役のアルフレッド・モリーナの演技派ぶりには舌を巻きました。芸術家や学者を得意とするモリーナがロンドンの分からず屋の頑固親父を体現しつつ、最後、モリーナならではの魂の芝居で、観客を震撼させました。今年の助演男優最有力。

## 甘甘の採点

映画雑誌にちよつと原稿を送って、アカデミー賞の予想を書いたり、年末のベストテンを決めたり、しかし、その中で関係者、後輩、生徒のみんなから言われることがある。

「夢ちゃんの採点は甘甘」「毎月、年間ベストワンが頻出する」「ほとんどの作品が星4つ半プラス」

でも仕方ないんだもん。だって本当に面白いんだもん。

マスコミ用試写室の片隅で体を折り曲げて号泣している自分の姿は度々目撃されている。生徒（特にのんちゃん）に「何でこの作品で泣くんすか!？」と突っ込まれることもしばしばである。最近ではアリエッティで泣いていた。

しかし、そんな風ではほめ屋として評判が悪くなるかというところにはからんや（そうではない）。年間一回あるかないかだが、??となる時がある。そういう時は雑誌社や試写会を主催したところに「ごめんなさい。ダメでした」というお手紙を送る。そうするとその作品は「夢ちゃんですら感動させられなかった!」という衝撃を与える。

批判、批評はただ揚げ足をとっていいものではない。いつもニコニココメントの批評家が一年に一回、控えめに言うダメ出しの方が激甚ダメージを与えることもある。

## 最近、影響を受けた二冊の本

最近、影響を受けた二冊の本がある。

高橋源一郎さんの「一億三千万人のための小説教室」と穂村弘さんの「本当は違うんだ日記」である。

実は先に読んだのは後者で、その破格の面白さと自由さに、このエッセー集を書く刺激を受けたのである。基本的に穂村弘さんは草食男子で僕はダメな男なんです！と卑屈なほど強調する。しかし、そのユーモアの中に意外と強かな芯の強さ、博識、鋭い感性、観察力などがうかがえるのである。

もちろん私はそんな人生の達人の域には達していないが、自分も素直に書きたくなった。

高橋源一郎さんの方はとても尊敬している先生に勧められた。

小説教室と書いてあるが高橋源一郎さんが評価する作品が紹介され、それも自由なものが重んじられている。

そういう例として穂村弘さんの作品や、私に古典を教えて下さった藤井貞和先生などが引用されていて、うれしくなってしまった。

実は高橋源一郎さんには女性スキャンダルなどで印象が悪かったのだが、本当に見直した。株が上がった。

お二人のように自由に書いて行きたい！

## 河野裕子先生

ちよつと暗い話にはなつてしまふけれど、最近、二人の文芸の巨匠の訃報があつた。やはりふれてはおきたい。

河野裕子先生は癌で亡くなつた。歌会始めの選者も務め、主要な文学賞もほとんど制覇してきた大御所である。

ところが！私は彼女には悪い印象を持っていた。斎藤茂吉が営んでいた短歌の団体はアララギという団体だったが名古屋中心の「未来」という団体と「塔」という京都の団体に分かれた。

「未来」は比較的新しい作品を意欲的に作っていたが、京都の「塔」は比較的保守的で、近年も穂村弘さんや林あまりさんといった新しい作品を作る人に厳しかった。

私はそういう保守性にちよつと反感を覚えたのだった。

しかし、河野裕子死去のニュース速報を見た瞬間、へたりこむような感じがした。

上手く表現出来ないが、伝統を守りながら確かに存在している大御所に反発しながら、若い歌人たちは新しい作品を苦しんで生み出していたのだろうか。

河野裕子先生は京大の教授永田和宏先生の妻で夫妻で活躍していた。永田和宏先生が河野裕子先生に贈った歌に「どう切っても西瓜は三

角にしか切れぬあとどれぐらいの家族だろうか」がある。

私はこの歌も保守的と思っていて、内実は知らなかったが、永田和宏先生は河野裕子先生の命が限りが迫っていると分かっていたいらしたのかと思う。

河野裕子先生、私は反逆児でしたけどご冥福をお祈りいたします。

天国から永田和宏先生を見守って差し上げて下さい。

## 白夜を旅する者よ

つい先日、三浦哲郎先生が亡くなった。オールドマスターズの訃報を面白おかしいエッセー集の中に混ぜるのもいかかと思うが、生きるとか世間とはそういうごちゃ混ぜとも思う。

三浦哲郎先生が兄弟姉妹四人が自殺という壮絶な人生、運命を見つめた偉大な作家ということは小説をちよつとたしなむ人には説明不要。くだくだしく代表作の説明もしない。

しかし、私は教材でよく三浦哲郎先生の作品を使う。白眉は「鳥寄せ」である。貧しく寒い東北の村で身を寄せあつて生きている家族がいるが父も母も自殺し、取り残された幼い兄弟の絶望は淡々と、しかし、しっかりと見つめられている。偉大な巨匠とされていたが、三浦哲郎先生の根底には貧困や差別への怒りが確かにあつたと思う。そして、だからこそ中学の教科書によく載る「盆土産」のような優しい作品の暖かさが際立つのだと思う。

三浦哲郎先生、素晴らしい作品をありがとうございました！

## へそ曲がり王子

あっちゃんとは私が教えている子の中でもずば抜けて優秀である。しかしへそ曲がり王子なのだった。(――)

ワールドカップの時、にわかサッカーファンが増えた。私もご多分にもれない。

持ち前の記憶力、勉強好きなどが相まって、トーナメントの組み合わせや日程に詳しい先生として教室でも重宝されるようになった。

それを苦々しく見ていたのが、あっちゃんである。

あっちゃん「ワールドカップの時だけ、サッカー好きになっとる者がある」

私「私ですよ。それが日本人というものですよ」

あっちゃん「カメルーンとかコートジボワールとかセルビアとか普段はみんな関心持っていない！」

私「この子は根性が曲がってるね！明日から毎日、先生の家来なさい！直してやるから」

あっちゃん「うー」

もつとも一番すごい便乗はある先輩の「私の元カレは本田佳祐に似ていた」というものだった。

あっちゃんに話が戻ると、あっちゃんは水泳部のキャプテンながら、オリンピックの水泳も見ていなかった。

「えっ、北島康介の泳ぎ見てないの？めっちゃ感動するでしょ！」  
「ああいうもんは別もん！」

のんちゃん（私と感性が似てる）が「あっちゃんは好きなもんはあるんですかね」と疑問を抱いていた。先輩が答えた。

「ありますよ。自分が大好きなんです！」

呆れる私たちをよそにあっちゃんは自転車をシューと走らせて、去って行った。



## 恋の思い出（偽）

もう公開されている作品だが、「ハナミズキ」の試写会の募集をしている時、とてつもない条件がついていた。

「あなたの恋の思い出を書いて下さい！」というものである。

私の不徳のいたすところで、男子生徒を集め、言った。

私「ちよつとさ、三歳ぐらいからずっと好きな幼なじみの女の子がいて、お風呂なんか一緒に入って、ずっと育ってきて、大学入ったら、結婚しようと思ってる、みたいなさ、ちよつといい話、私が作るから、ケンゴかノブカズの名義で出してよ」

「絶対！やだ！」

「ケンゴくんに賛成」

その時、へそ曲がり王子がクリティカルヒットを出した！

「先生が33年間で一回も恋したことがなくて惨めってストーリーを作りますよ！」

「ギャーハハハ」

全く師匠の恩をわきまえない者ばかりだ！（、・、）

しかし、師匠も師匠なら弟子も弟子か。（TOT）

## 息もできない

本当は時間を少し置いた方がいいのかも知れない。しかし、また今年のベストワンクラスの大作を観てしまった。韓国映画「息もできない」である。

前評判は高い作品だった。近年の韓国映画はアイドル中心の韓流が終わって、非常に力強い作品が多い。「チエイサー」（私は今年観たが）「母なる証明」が去年の映画界を席巻したけれど、今年の「渴き」と「息もできない」も年末にランキングを騒がせると思う。正直、「戦場でワルツを」「フローズンリバー」と今日の「息もできない」のどれを一位にしたらいいか、うれしい悲鳴を上げています。

この作品もなるべくまっさらな心で予備知識なしに観て欲しいです！

この映画を観ながら、二つのことを考えました。人は何故、誰かを愛するのか、という根源的なこと。もう一つは人は何故、小説や映画を作るのかということ。

この作品は恐ろしく暴力的で決して万人には勧められないです。しかし、息もできない緊張の中、最後まで観届けた時、一人一人の人が心の中に愛しい人を改めて抱きしめるそんな映画です。本当に素晴らしい作品でした！

## 幸福の黄色いハンカチ

タイトルは受け狙いではなく、今日、「息もできない」の上映まで時間があつたので、名画座で「幸福の黄色いハンカチ」観ました。私の生まれた年の作品なんですが、意外とすごく面白かったです。私は山田洋次監督の作品はあまりたくさん観ていないんだけど、この作品は面白かった！高倉大根や武田鉄矢はどうでもよかったけど、桃井かおりさんと倍賞千恵子さんが素晴らしかった。

本筋とは関係無いけれど、ちょっと思ったのは一昔前まで日本人はこんなに貧しく、でも元気に生きていたんだということ。私はかろうじてこの映画の世界の感じを覚えている。そんな、なつかしさを感じられただけでもよかった。

## 柳ヶ瀬

私は岐阜県の大垣という街に住んでいます。地味な県ワーストワンを佐賀と争う岐阜県。町田康さんの小説では岐阜県は悪の象徴として描かれます。当たってる。

大垣は岐阜の西の街でシネコンなどもある住みやすい街ですが、今日は岐阜の柳ヶ瀬に足を伸ばしました。柳ヶ瀬はいいところなんだけど、岐阜駅から離れているのが欠点です。

しかし、何とか歩いていき、なつかしい感じのパン屋さんで焼きそばパンや、玉子焼きを具にしているサンドイッチを買い、映画館に行きました。

夕食も柳ヶ瀬に行くとき必ず行くステーキハウスに行き、ワインを飲んでいました。私は何かすごく洒落な店より、気楽な店が好きみたいで、その店には柳ヶ瀬の水商売の人がよくいて、今日もいました。(ーーー)

私自身、大垣の商店街で生まれ育ったので、岐阜や尾張一宮に行くと、何かホッとします。

これが戦後に発展した名古屋より東の地域三河に行くとき非常に不安な気持ちになります。同じ東海地方でもすごく違います。

自分の感じ方としては大垣は北陸、近畿に近いので、三重県に行くのも何となく、落ち着きます。三河よりは大垣に近いです。論理的

なものじゃなく、感じ方ですが。

## キングダム・ホスピタル

タイトルはヨーロッパ映画界最凶の狂人ラルス・フォン・トリアーの戦慄ホラー映画から借りただけで、これから書く先輩の話とは無関係である。

内臓を悪くしたことがあつてさ、ある病院に通つてたのね。そこに透析（病気の人の血液を入れ替えること）をやっている人の施設があつたの。

ひよんなことでそこで知り合つた若い感じのいい人がいてさ、仲良くなつたの。

ところが、ある日、病院の階段の踊り場でその人がうずくまって苦しんでいたの。一応、持病がある人な訳だから、慌てて、看護婦さんを呼びに行つたけど、「あれっ！」その人はいなくなつてたの。

でも病院のことだから誰か別の人が手術室か集中治療室に連れて行つたのかも知れないと考えて、その日は帰つたの。

二週間後に経過を見てもらうのと、薬をもらうために病院に行つて、「〇〇さんはどうになりましたか？」って尋ねたら、内科の先生の顔が真っ青になつて、「何、言ってるんですか！〇〇さんは二週間前、透析をやるため病院に来るところ、交差点で居眠り運転のトラックが突っ込んできて、亡くなっていますよ」って……

茫然として帰ったんだけど、また一週間経って同じ病院に行ったら内科の先生も変わってたの。

「x x先生はどうしたんですか？」って尋ねたら、あの踊り場から転落して亡くなったって。

俺？もちろん病院を変わったよ。

え？その病院がどうなったか？

それは言えねえな。今日、健康診断だったよね。

行っでらっしゃい！

## 人はバケモン2

先輩が「俺も人間が恐ろしい話を知っている」と張り合ってきた。

(-.-;)

ある時、肝試しであるお寺に丑三つ時（午前3時ころ）に行つたのね。墓地もあるところだ。

寺の柱には梵語（古代インドのサンスクリット語）がびっしり書いてあって、異様な雰囲気のお寺なの。

それで俺は靈感が強いから墓地のさらに裏の森から異様なアウラが出ていたから行つてみたの。

そしたら、さすがの俺も足がすくんだ。巨大で、曲がりくねった根が地上に突き出ている御神木にびっしり藁人形がうちつけてあったの。

そしたら、ザッザッザッ。遠くから異様な気配がやってきたの。

白髪だけど、大柄なババアが頭に角のように二本の懐中電灯をさして、走ってきたの。

「見たな〜！」って、叫んで。

両手には藁人形と五寸釘と金づちを持って。

もちろん猛ダツシュで逃げたよ。



え？そういう生活してる俺が怖い？

無礼なこと言うな！（、（

## 夢を与える

マユちゃんのパパは男子生徒に「夢を与える英雄」と尊敬されていた。

マユちゃんのパパは東海地方で一番名門のお嬢様学校を出て、英語の先生の資格もとり、イギリスに留学して、美術の勉強もした。家にはターナーの絵が飾ってある。きれいで頭がよかったので、テレビのクイズ番組に出たこともある。

一方、マユちゃんパパは「戦国バサラ」などアニメを録画して、マユちゃんの弟と並んで観賞。「スターウォーズ」や「インディ・ジョーズ」もよく観ていた。

オタク男子生徒は「パパさんは好きなことに打ち込みながら素晴らしい女性と結婚した英雄、あやかりたい」と憧れていた。

マユちゃんのパパに「どうして結婚なさったんですか？」と尋ねてみた。

奥様は紅茶を飲み干すと「愛していたからです」とお答えになった。

困った（-\_-;）

困った（-\_-;）

生徒の休みが終わり、私は入れ替わりに休みモードで映画を観ております。

しかし、今日、観た作品は意外な秀作でびっくりしました。とにかく観て欲しいのですが、今回は普通の善男善女が「えっ？」と思うような作品です。

内容が反社会とかではなく、アイドル映画だからです。AKBというグループの小野恵玲奈という子が出ています。

今回は何の賞もレビューもない作品なので、敢えて本格的に論評します。

「さんかく」という日本映画です。

東京で暮らす若いカップルのところに女の子の妹が来て、三角関係になる。こうまとめると面白くなりそうにないのですが、意外や意外、すごく面白かったのです。

成功のカギの一つはキャスティングとキャラクター作りです。

若いカップルの役は高岡蒼甫と田畑智子。ハッキリ言うあまり美男美女じゃないけれど、演技に高い評価のある人です。これはほめる意味で言うんだけど、何か不幸とか貧しいという設定で輝く二人です。

始まって五分か十分ぐらいでアイドル映画としては変！とざわざわし始めます。高岡蒼甫のキャラクターが秀逸で、痛い車（痛車）に乗っていて、性格も悪い。そんな男しか相手にしてもらえない田畑智子の焦燥感がギリギリ伝わってくる。

そこにふらっと中学生の妹がやって来て、ダメ男はすぐ妹を好きになり、三人の力関係や精神のバランスが危うくなっていく。

ここでのアイドルの女の子が演技が上手い訳ではないですが、非常に存在感が素晴らしい。思春期の女の子の目の前の相手でくるくる人格が変わってしまう特徴を非常に上手く表している。すごい！

この後はよさそうだなと思った方は読まずに観て欲しいのですが、

結局、妹が田舎に帰った後、ダメ男は妹にストーカー行為を始め、姉はダメ男にストーカー行為を始め、非常に怖いサスペンスになっています。この辺、去年のアイドル映画「おと・な・り」でも岡田准一と麻生久美子のラブストーリーと思ったら主要キャストに狂人がいて、急に日常がねじまるのですが、収拾も下手だった。それに比べるとはるかに上手く、手に汗を握ります。

ただ作品をホラー、サスペンスと宣伝しなかったのはすごくよかったです。理由は後述しますが主要キャストが最後救われることを強く願いました。そして救われるハッピーエンディングです。

もう一つ、この作品が成功したのは、都会の若者の生活の描き方もすごく上手かった。日本の映画監督は大貴族出身で生活なんか描かず幻想に溶かしこむか、逆に極端に貧困を描くか、二極化しがちで

す。文学もそうです。前者は谷崎潤一郎、三島由紀夫などです。後者は松本清張や井上ひさしです。ところが、この作品では都会の若い子の憤ましい、でもちよつとギリギリした感じがよく描かれています。だから、この子たちが救われて欲しいと思えるのです。

最後の成功のカギは偉大なフランス文学を彷彿とさせるところがあります。子供の純粋さが大人社会を破壊するところはジャン・コクトオの「アンファンテリブル」フランソワーズ・サガン「悲しみよこんにちは」のよう。世界の崩壊の仕方はアルベール・カミュの「異邦人」

監督はその辺り、意識的にシナリオを書いたのか、無意識なのか。無意識の方が面白い。私ぐらいまでの世代はやっぱり名作は読んでおきたいという意識があつたので、読んだのかもしれないが、限られた時間と予算がサガンやカミュのような作品を作らせたと考える方が何か面白い。そう思いました。

頑張って論評を書きましたので、是非、ご覧下さい！

## 文学と映画

最近、映画のことばかり書いていますが、文学と映画を観比べ、いろいろ考えています。

実は今日、文芸大作「東京島」も観たのですが、かろうじて合格の出来で、ちよつとがつくし。

原作は村上春樹なんかより海外の大きい賞レースに絡む天才桐野夏生さんの傑作ですが、結論を言うと映画としては中途半端。

原作をカットした方なのでしょうが、それでもやや分りにくいストーリー。二時間半ぐらいあるのですが、しつかり描くにはもっと時間が必要だったかも。

無人島に一人の女性が流れつき、そこに日本人と中国人が流れつき、一人の女性をめぐる対立を描きながら、文明批評や現代社会の批判を描く意図は分かるのですが、映画は舌足らずになってしまいました。

主演の木村多江と、助演の窪塚洋介は頑張っているのですが。

窪塚洋介くんは何度もヌードになり、頑張るのですが、顔がハンサムすぎて、スタイルがきれいすぎるため、「ふん！私たちとは関係無い人！」みたいになって、生活に説得力を与えられないのです。

また漂流した人たちがブランド品などを着て、こざいなのも何か意図があるのかもしれませんが、読みとれませんでした。

すごく深いテーマを扱っているだけに残念な壮大な野望の残骸、失敗作でした。桐野夏生さんは本当の悪人なんだと思います。だから「柔らかな頬」「グロテスク」「残虐記」「アトムソーリー、ママ」といった暴力的な悪の作品は映画化しづらいかもしれませんが、挑戦して欲しいです。期待し続けます。粘り強く。

## コメディ映画

日本で公開を求める署名が起こった「ハングオーバー」というコメディ映画を観ましたが、うーん。(・|・)

こっというのが面白い映画なのかなあ？確かにアイデアも素晴らしいし、造りもしっかりしているけど、やっぱりハリウッドのコメディ映画は少し感覚が違うかなあ？

ジュリアやメグのロマンティックコメディは大好きです！

「幸せになるための27のドレス」とか「電話で抱きしめて」とか「恋愛適齢期」とか。

今日のは男子向けだった。

自分も男子だけど。(・・;) ( ;・ )

## リーヴァイ・シュトラウス、ツインメル、岡井隆

えっ！うそ！と思われるかも知れないが、私には悩みというか悔いというか、劣等感みたいなものがある。それは一回も普通の会社のサラリーマンをやったことがないことである。しかも私は商店街に生まれたので、家族もサラリーマンの経験があまりない。

だから私はサラリーマンの常識みたいなことを恐ろしく知らないことが多い。

余談だけど、私の生徒はお医者さんの子が多いけど、そういう子もサラリーマンの生活はあまり分かってないことが多い。

金曜日の夜などにサラリーマンが駅にたくさんうろついているのを見ると何かうらやましいなあと思う。

しかし、最近、いろいろ調べているうちにリーヴァイ・シュトラウス、ツインメル、岡井隆といった大物の学者ですら、同じような悩みを持っていたと知った。

もちろん自己をそんな大物と同列に匹敵させることは許されるべくもないが、かなり大物でも学校しか知らないという悩みを持っていたのか。それは衝撃だった。特にリーヴァイ・シュトラウスは熱帯の方に冒険に行ったり、普通のサラリーマンよりはるかに激しい生活をしているのに、サラリーマンをやらなかったという後悔を抱いたのだ。しかし、同時にリーヴァイ・シュトラウスはこの生き方が好きという意味のことも記録している。



この悩みはサラリーマンになってみれば、解消するのだが、多分、解消せず、ちよつとくすぶらせ続ける（何だ？それ）だろう。しかし、よく考えてみるとサラリーマンが一枚岩でないように、先生もいろいろである。私のように小学生の生徒とのおしゃべりに夢中になっているような先生もいないか。そうか。

## 先輩 v s kくん

先輩とKくんの闘いの第2ラウンド！

私が、昔の近藤真彦と中森明菜の別れ話をしていて

「Kくんもカッコいいから、女の子に恨み買わないように気をつけなきゃ！」

K「いや、俺はマッチさんほどかつこよくないから」

先輩「当たり前だ！ふざけるな！ぶん殴ってやる！」

先輩「Kくんはアルプスの少女ハイジのペーターに似てますね」

先輩「Kくんは昭和の香りがしますね。タンクトップじゃなくて白いランニングシャツ。ハーフパンツじゃなく、半ズボン。そういう格好でアイスクャンデーをペロペロしているのが似合いますね」

先輩「Kくんは2ラウンドか3ラウンドでノックアウトされたボクサーみたいだね」

先輩がいろいろ話をしていて

K「先輩はホラ吹いてますよね！」

先輩「自分こそホラみたいな話ばかり言ってるのに人を信用しないとは何事だ！鍛え直してやる！木刀持って来い！」

Kくん「大人が武器使うなんて虐待ですよね！」

私の目から見ると実は非常に似た者同士の二人なのだった。

## 京都・背徳の夜

これは最近じゃなくて、ゴールデンウィーク頃の話ですが。

あっちゃんやヒデキらは同じ男子校に通っている。

そこは真面目な進学校のイメージが強いが、実際はレクリエーションが多い。

京都への遠足（泊まり掛け）に行った二人が帰ってきた。

私「どうだった？」

ヒデキ「よかったすけど、先生の受持っていない子（担任してない子）ではやみっているじゃないですか」

「いるね」

「あいつが遠足中も全然みんなの輪に加わらず、ケータイばかり見てるんですよ。『彼女からメール来た』って。でも見せてくれな感じですよ」

「・・・」

「夜、お寺に泊まったんだけど、『彼女の写真見てる』とか言っつて、ケータイばっか見てるんですよ」

「・・・」

「それが夜１０時ぐらいになったら、いつも寝てるらしくって、寝ちゃったから悪いなと思いつつ、そいつのケータイをチェックしました」

「悪いなって思っでなくせに」

「そしたらメールはお母さんからのメールと、アイドルのファンク

ラブのメルマガとか、ダイレクトメールばかりでした」(TOT)

「痛いね、痛々しいオブザイヤーだね」

「画像も女の子の写真はなくて初音ミクとかリリカルなのはとかそういうのばかりでした」(TOT)

「・・・」

「翌朝もずっと彼女いる演技をしてるんですよ」(TOT)

はやみよ、生きていればきつといいことがあるさ。お前の人生はばたいてるぜー！

## 悪の勉強会

さて、カズマはテスト前になると勉強会という名の現実逃避を行っていた。

金城学院という名古屋のお嬢様学校の近くのミスタードーナツやファミレスに女の子を集めてハーレム状態になるのだ。

「それでさ、それ、どれぐらいやるの？」

「3〜4時間ぐらいかな」

わ！迷惑！（- - #）

女子でちゃんと勉強やる子には

「勉強会、勉強してないよね」「悪の勉強会」

とひんしゆくを買っていた。

「何々、次の句を読んで答えなさい。高浜虚子『去年今年貫く棒のごときもの』、棒のごときもの・・・ギャハハー、棒のごときものってピーッ！のことかな？」

「やだー、セクハラだよー」女の子の投げた消しゴムがカズマのピーッに当たった。

「ギャハハー、僕のピーッに命中させた子は僕とつきあえるという賞が送られます！」

「きゃー、やだー」

「あははー」

こんな感じだった。

「何々、安西冬衛の詩集『軍艦茉莉』（ぐんかん・まりー）を読んで・・・ギャハハー、安西冬衛、キャラ者もんだよー。『軍艦茉莉』だって！」

（筆者・注・安西冬衛の「軍艦茉莉」は日本文学史に輝く傑作です。「てふてふが一匹韃靼海峡を渡って行った」の一節が有名です。）

笑いつつ、カズマは夢ちゃんに習った歌をナプキンに書いてアオイに渡した。

「唇と唇ふれたきそこがある。韃靼海峡より遠きそこ」（俵万智）カズマよ！キャラ者はお前だ！

## 決戦！オバ・キラー・ナムバーワン

のんちゃんとタカくんは競っていた。

何をか？

オバ・キラー・ナムバーワンの地位を。

ヒデキはそんな地位とつてもしょうがねえじゃん！と思っていた。  
女子は注目していた。

夢ちゃんはブフフと笑いながら、見守っていた。

ヒデキが「俺の弟はすごいオバ・キラーなんです」と言い出し、「俺こそが名古屋一のオバ・キラー」と思っていたのんちゃんの闘争心に火がついた。

オバ・キラーとはオバチャンにもてるということである。

オバ・キラーにはいくつか条件がある。顔が可愛い童顔であること。  
真面目な優等生で勉強出来ること。

体はそれでいてソフトマツチヨであること。

礼儀正しいこと。

あまりお洒落はダメ。警戒されるから。

名古屋の繁華街の栄の中心にある巨大な広場オアシス21で決戦を  
することにした。見届け人は夢ちゃん、カズマ、ヒデキ、あっちゃ  
ん、ヨーコ、蘭、マユ。

タカくんとのんちゃんは早速、道端で「僕は雨に濡れた可愛い子犬、  
僕を助けてビーム」をビビビと出した。



「あらゝ、大丈夫？ちよつとそこでお茶飲まない？」

よし！二人はそれぞれオバチャンのグループに声をかけられ、スターバックスに入って行った。

「これ食べなさい！」

「ありがとうございます！」

さすが！名古屋のオバチャン！スターバックスの店員が勧める高いケーキやデザートは食べずに、カップえびせんやかりんとうの袋をスターバックスのオープン席で開けている。ヒデキだったら「やめろよ！恥ずかしいから」と言うかも知れないが、タカくんとのおんちゃんは素直に従っていた。

タカくんは兄が反逆児だったので、批判的な気持ちからオバ・キラになった。

のおんちゃんは従姉妹が全員女の子で、女の子に好かれるアウラをゲツト！した。

二人は順調にオバチャンに気に入られ、トークを展開し、道を教えてもらい、手土産ももらった。

「僕のお兄ちゃんと弟は乱暴者でペットのサンショウウオちゃんのエサの虫を僕にけしかけてきたりするんです」

「まあ、ひどいわね」

（ババアだましに俺をだしに使うんじゃないよ！（、、））  
ヒデキは苛々した。

のおんちゃんも仕上げに入っていた。

「俺は京大に進学しようと頑張っています」

「まゝ、感心な子ねゝ、うちの孫なんか特攻服着て、走り回っているのに」

（そっちの方が素直な子じゃん！）  
ヨーコは苛々していた。

「今回はどちらが勝ちですか？」  
カウンター席で観察していたみんなは「引き分け」という判定を下した。

「あの、今回の決戦で僕たち決めました」  
「ザ・オバ・キラーズを結成します」  
「御園座（名古屋のオバチャンが集まる劇場）に衣装を買いに行つてきまゝす」

一同は二人を見送るとカラオケに行った。

## 文学とブーム

文学も人間の営みで、社会の一部だから、実はブームというものがある。

私が大学生のころ、十数年前はミステリーブームだった。

その時はそのジャンルに力のある書き手が集まり、文学史の中でも意味がある現象を残した。ここは一冊の本になるぐらいだが、端的に言つと、芥川賞と直木賞の間の差がなくなった。純文学と大衆文学という枠組みがかなり無効になった。

デビューの順番などははっきり分らないので、おおざっぱなまとめ方になるが大沢在昌、宮部みゆきはミステリーなのに純文学より人間がしっかり描けていると評価された。

またさらに天童荒太、桐野夏生らは一歩進んで、ミステリーという枠を広げ、現代社会の深刻な問題をミステリーの形を借りて描いたと評価された。

ところが、ブームの渦中で彼らがそれほど評価されていたかと言うと、少しためらわれる。

またブームに便乗する出版社、編集者、評論家は多かったが、彼らの横暴さはひどかった。

しかし、ブームというものが終わってみると力のある作家はちゃんと残っているし、尻馬に乗っていたものは面白いようにいなくなっ

ている。

今のライトノベルのブームというのはかなり長く続くかも知れないが、やはりいつかは終わるだろう。

それでも本当に力のある人はそのジャンルを続けて残っていくし、便乗しているだけの奴は何か新しいブームに去っていくだろう。

私自身は何のブームが来ようと、自分の好きなことは大事にしつつ、ブームからの刺激も大事にし、何かを書いていけたらいい、と思う。

## 太宰治「如是我聞」

寺田寅彦は「何度読んでも面白いのは夏目漱石の『修善寺日記』と正岡子規の『仰臥漫録』」と言っているが、私はここに太宰治の「如是我聞」を代表とする日記、エッセー、書簡などをつけ加えたい。こんな人が隣に住んでいたら、困るが、面白過ぎる。

特に第一回芥川賞を落選した時、川端康成に送ったお手紙、「川端康成へ」は何度読んでも爆笑してしまう。

「小鳥を飼い、舞踊を見るのが立派な生活なのか！刺す！そう思った。大悪党だと思った」

殺害予告である。

こんなもんを真剣に書いて、ポストに入れたりしていたのかと思うとやっぱり笑ってしまう。

川端康成はどういう気持ちになったのだろうか？

そして遺作的文章「如是我聞」ははっきり言うと志賀直哉に似えられたということが書いてあるいじめられっ子の遺書みたいだが、それですら、細部に至るまで太宰治の工夫や心づかいが行き渡っていて、深刻悲痛というより、やっぱり大爆笑してしまう。

特に太宰治はシミュレーション好き（現代のオタクっぽい）で志賀直哉になりきって太宰治自身の悪口を言っているところを想像するくだりなどは腹を抱えてしまう。

また遺書であるにも関わらず、巧妙に伏線を張って、オチをつけた

り、私は一つの結論に達した。

太宰治は死ぬ気なかったのではないか？

実は太宰治は自殺ではなかったという説はけっこうあるのである。

「遺書」にほとばしっている生命エネルギーや笑いを見ると、死ぬ気はやっぱり無くて、事故か他殺だったのではないか？

犯人は志賀直哉か川端康成かも知れない。

## 今日の勉強

今日は小学生の子に勉強を教えていたが、教材は手塚治虫先生の「ガラスの地球を救え」と宮沢賢治の「いちようの実」  
二大偉人のコラボレーションである。

しかし、小学生の子は「宮沢賢治、何かイヤヤ」と言っていた。  
私はそういう意見を聞くと腹が立つよりうれしくなってしまう。  
本当に子供の本音を聞くには、真剣に言い分を聞いてあげないといけない。

そして私は子供の本音を聞くのが大好きだ。

小学生の子は「宮沢賢治の詩的な表現が時代遅れで気に入らない」と言っていた。

そういう時も「この人は本当に偉い人なんだよ」などと言わず、「どこが特に気に入らなかったの？」など意見を聞くのが本当に面白い。

なるほど、こういう幻想美みたいなのが若い子には「何かうさぐせえな」と思えるんだ、など自分の中でも余韻をいろんな角度から楽しむ。

宮沢賢治ほどの偉人や太宰治だって絶対化せずに虚心にふれるといろんな意見が出てくる。

私自身は「自分はここが好きだけだな」と好きなところをちよつと朗読し、宮沢賢治の工夫や生涯をちよつと紹介する。

それで十分ではないか。

それで興味を持って作品を読むもよし。忘れ去るもよし。その子が私なんかいなくなる遠い未来にふわつと私の言ったことを悟る日が

来るかも知れない。  
それも面白い。



## 教科書なんか信じるな！

私に国文学を教えて下さった小森陽一先生は「教科書はおかしい！」という強い信念を持っていた。私もそれに共感する。

小森陽一先生のお説の紹介になつてしまふが、教科書には必ず出てくる作品がある。夏目漱石「こころ」中島敦「山月記」芥川龍之介「羅生門」森鷗外「高瀬舟」「舞姫」三浦哲郎「盆土産」ヘルマン・ヘッセ「少年時代」

そして、国語に正解があること自体おかしいのに、正解が決められ、卑俗な道徳にすり替えられてしまふ。先生はそれをはつきりと文部省やアカデミズムの洗脳と激しく批判していた。

教科書なんか好きじゃないぜ！という逞しく、健全な子はいい。

教科書は正しいと思うような痛々しい子は危ない。そういう子は役人や学者が勝手に決めた都合のいいイデオロギーに簡単に洗脳されてしまふ。

ついでに付言しておく日本語の正しい文法など無い。ある程度の法則性はあるが、きちんと研究すればするほど、完全な体系は作れない。私に文法を教えて下さったのは尾上圭介先生だったが先生は「は」と「が」はどう使い分けるかを生涯研究なさった。しかし、それがまだ定着している訳ではない。それが本当の学問であり、学校の文法書にはたくさん間違いが含まれている。

話を教科書が選ぶ話に戻すが、決まりきった作品が決まりきった考え方を育てるのは自由な魂を持った人には我慢ならないことである。

そういう自由な人間のため、こんなラインナップの教科書はどうだろう。

谷崎潤一郎「細雪」坂口安吾「風博士」江戸川乱歩「芋虫」か「押し絵と旅する男」太宰治「斜陽」か「魚服記」北杜夫「さびしい王様」三島由紀夫「近代能楽集」川端康成「浅草紅団」夢野久作「ドグラ・マグラ」トーマス・マン「ヴェネツィアに死す」か「マリオと魔術師」

白洲正子や斎藤史、塚本邦雄なんか面白い。

## 正義の味方のマサキくん

私の生徒は今ぐらいから受験に向けて、スタートする子もいる。

新しくマサキという子が来た。優しそうな爽やかな子だった。

「俺は趣味は車とナンパです」

恋愛体質の夢「あつ！そうなの！ナンパは週何回ぐらいやっているの？」

「今までの人生で一回だけです。その代わり、えっちなビデオを毎日見て、週5〜6発、抜いています！」

（……）それはナンパが趣味じゃなくて、えっちなビデオが趣味なんじゃないか、マサキよ。

しかし、私は私で大ボケで生徒のブログの車の写真を見せた。カズマは車の免許証を持っていて赤いクーパーと白いBMWに乗っている。

しかし、それを見たマサキは不機嫌になった。

「（……）先生、車が好きっていうのはこういうのじゃないっすよ」

「えっ、違うの？」

「俺は安い車を改造するのが好きなんですよ。『イニシャル頭文字D』って、分かります？」

「分かりません」

「じゃあ先生に分かるように言いますけど、車が好きっていうのはすごく広いですよ！（、）先生は音楽好きと聞いて、演歌歌手をヒップホップの歌手のところに連れて行っているようなもんなんですよ！」

「そうなの？ジャズとシャンソンぐらいかと思っていた」

「先生だって、古典の専門家ですよって言われて、大嫌いな『忠臣蔵』の講義しろ、って言われたら怒るでしょ！」

（そ、そうなの？）

そんなマサキくんだったが正義感も強かった。

Kくんが「俺の世界史の先生はホモで」とネタふりをやろうとしたら、「多くの人の中にはそういう人がいるから差別しちゃいけない！」と強引に遮った。

また先輩がKくんを「ハナクソみたいな男の子」とくさした時も「そんな人を傷つけることを言うのは許せない！」と涙を流して怒っていた。

新しい波乱の予感！！（――；）

## 肉

名古屋は尾張徳川家の本拠地なので、京都などとも縁が深い。生徒たちと京都のある古寺に合宿に行った。

私「まゝ、いいところね」

生徒はげんなりしていた。特に食事が最悪だと思っていた。

楽しいはずの夕食の時間。

食事は大根、にんじん、さつまいも、カボチャ、オクラ、筍、なすなどを薄い出汁で煮込んだもの。がんもどきを煮つけたもの。豆腐とワカメのおみそ汁。

「美味し〜い！」と夢ちゃんは食べていた。

「この世で一番美味しいのはお葬式のおとき（精進料理のこと）ですよ！子供のころ、お葬式があるとワクワクしてね」

夢ちゃんはだいきくさん（お寺の家事をする人）ととてもないことを話していた。

夢「あなたたち、もっとちゃんと食べなさい！男の子は頭と顔がよくなるし、女の子は美容と健康にいいから」

「すき焼きかしゃぶしゃぶ食べたい・・・」

「俺はカツ丼食べたい・・・」

その夜、生徒たちは寺を脱出した。

「あつ、コンビニとなか卯（食券制の店、関西風）あるよ！」

生徒たちはなか卯で牛丼やカツ丼、カツカレーを食べた。またコンビニで法兰克福トやフライドチキンを買って、食べた。

いつも食べてるのより、ずっと美味しかった。

古寺に戻ると住職と夢ちゃんがガルルーと怒っていたが、その夜の肉の味は忘れられないのだった。

## 響けレیدیオ

私は普段、あんまりテレビを見ない。別にかっこをつけている訳ではなく、夕方ごろから夜が仕事なので、ゴールデンの番組をあまり見られないのである。

それで私は仕事の後はNHKのラジオ深夜便というのを聴くのを楽しみにしている。とはいえ、この番組はそんなに集中して聴く番組ではない。基本的には年配の方向けで静かな番組である。

しかし、だからこそジャズやシャンソン、オールディーズの曲を楽しめる。フランク・シナトラ、シルヴィ・バルタンなどなつかしい（厳密には彼らの活躍時、私は生きてなかった訳だが）曲を聴きながら、本を読める。そこが気に入っている。

もともとNHKらしい変なところはたくさんある。まず放送をやっているのがNHKをやめた老人で、時々、急に別な老人に交替する。あまり考えると怖い。（・・）

また放送時間は23時20分から5時までだが、23時台は各地の老人に電話をかけて話をするなどNHKの素人第一主義がよく出ている。

そんな番組だが、私にも苦手なコーナーがある。

月曜日の24時台にやっている藤沢周平の作品の朗読である。

私は本当に自分自身はダメな人間だな、と思うが国民的作家みたいな人はみんな嫌いである。司馬遼太郎、藤沢周平、村上春樹。

また藤沢周平の朗読をしている松平定知は下手くそ！  
来週から美輪明宏先生自伝「紫の履歴書」朗読にチェンジ希望！



## 話しかけられる

何日か前に「息もできない」という映画を観た感想を書いたが、今日、生徒と話していて、映画の本筋と関係無いあることが判明した。

「息もできない」を観て、エレベーターに乗り込んだ時、元氣そうなじいちゃんと一緒になった。インテリで弱々しい老人でなく、昔は遊びもやりましたという感じのいい味のオヤジだった。

そのオヤジがいきなり「今の映画、すごくよかったね！」と話しかけてきた。私も私で「全盛期の今村昌平監督みたいでしたね！」など話していた。

そして、映画館の出入口で「お先に失礼しますね」と去った。

と、のんちゃんに話したら、「よく話す勇氣ありますね」と言われた。

考えてみると私はよく話しかけられる。デニーズでよく仕事の準備をしているのだが、ある時、ウェイトレスに「クリスマスケーキが売れ残ってしまったので、切ったのを食べませんか？500円ぐらいで」「いいですよ」

私は冷たい食べ物が苦手だったので、ケーキに添えてあるアイスクリームが溶けるのを待っていた。

「どうしてアイスクリーム食べないんですか？溶けちゃいますよ！」  
「ハハハハ、君は面白い子だね！」

こっちこそ面白い客である。

また、教室のそばのスーパー銭湯に入った時も、いい味のオヤジイが入浴後、「兄ちゃん！服着ると若<sup>わか</sup>う見えるのう！」と話しかけてきた。

ヌードはデブデブのオヤジイってこと？（TOT）

また私から人に話しかけることも多い。

松坂屋美術館で外国製のノートやレターセットを安売りしていた時も「こないいいものを安く売っちゃダメでしょ！」と話しかけた。店員さんは笑っていた。

そうか私が老人になると話しかける老人になるんだ。

## 病院の光景（・・）

こんにちは。

私は以前はちよつとしたことは活動報告に書いていたのですが、最近「エッセー集」という形にしています。

それをちよつと更新出来なかったのですが、ちよつとした病気になるっていました。

しかし、私は短気からデータを消してしまつたのですが、以前いろいろ載せている時にある重い病気の方に活動報告を読んで気を紛らわせています、というおたよりをいただいたことがあり、ちよつとした病気のことを書いたりするのは深刻な病気で悩んでいらつしやる方に失礼なような氣もしました。

けれど、起きたことをいろいろ記録しているので、病気になつたことだけ隠すのも変だし・・（・・）

この先、病気や病院の話は苦手な方はご遠慮下さい。

さて、柳ヶ瀬に行った日ぐらゐから左足のつけねのこぶが痛み出しました。

こぶは以前からあつたもので、そこを虫が刺したのか、と思つていましたが痛みがなかなかひかなかつたので、ちよつと大きめの病院に日曜日でしたが行きました。この前の日曜日。そうしたら「ガングリオン」というものじゃないか。それは休日診療の先生では診られないから週明けに整形外科に行つて下さい」と言われ、週明けに整

整形外科に行きました。それが月曜日。

そうしたら、「これはガングリオンじゃなく、粉瘤。まずは薬で治してみて。それで終わるか、手術するか半々」と言われました。

そして、昨日、火曜日にそのこぶから膿、血が出てきました。

それを今日、診<sup>み</sup>せに行ったところ、結局、簡単な切開手術をするこ  
とになりました。

恥ずかしながら、私はスポーツの部活をやったこともなく、大ケガは子供の時にひき逃げにあったことぐらい。  
入院するような大病をしたこともなく、痛みの経験があまりありません。

しかし整形外科の先生と看護婦さんたちには日常茶飯事なのか、先生は真面目な感じの方でしたが、看護婦さんたちは髪を金色に染めた元気なオバちゃんたちでした。（――）

麻酔の注射をし、患部を切開したのですが、私は気力がなく、それは目をつぶったりしているうちに終わってしまいました。

足のつけねのこぶということでトランクスの上にハーフパンツという格好でしたが、看護婦さんたちはハーフパンツとトランクスをまくりあげながら、「ギヤーハハ」と笑っていたり、精神的にも大ダメージです。（TOT）

その後、処置室というところで、点滴を受けることになったのです

が看護婦さんが「注射痛かったの？男の方が弱いからね。女は出産とかあるからね」と話しかけてきて、出た！人生説教だよ！（T O T）

若い時だったら反発したかもしれませんが、反発する元気もなく、また看護婦さんの人生説教には一理あるような気もして、点滴を受けていました。

そうしたら、処置室のカーテンで仕切られたところで、声からかなり高齢と分かる女性が「土曜日に孫の結婚式に出るから一日おきに強い痛み止めを打ってくれ！」と主張しており、「人生の厳粛（by 太宰治）」を感じました。結婚式をやることもなく、出ることもなく、麻酔や点滴で弱っている自分はやっぱりダメなのかも知れない。（T O T）

整形外科の先生は「強い薬を一日おきに使ったり出来ない！」と押し問答していました。

看護婦さんたちは「〇〇〇は豚キムチだよ、ギャーハハ」（〇〇〇は聞き取れなかった）と話したり、病院内の派閥抗争を熱心に話しあったり、その喧騒の中、自分は死んだようになりながら、自分、整形外科の先生、看護婦さんたち、処置室のばあちゃん（生命力の弱い順）、みんな生きてるな、と志賀直哉風の感慨を得ました。

ここまで書いて、思い出したのですが、去年、祖父が肺癌の手術を受け、集中治療室を出た時も、看護婦さんが「明日から歩行の練習をします！」と言うので、「そういう特別な部屋があるんですか？」と尋ねたら、「この部屋でやります！」と言われました。（T | T）

看護婦さんはみんなが思っているほど天使みたいな存在ではないよ

うです。

三十を過ぎてそんなことが分かった自分はどつすればいいのか？

## 松平健「忠臣蔵」

さて、病院に行く日に挟まれた昨日は読売新聞さんのご招待で名古屋の御園座で松平健さんのお芝居「忠臣蔵」を拝見しました。

しかし、私は何故か「忠臣蔵」が昔から好きじゃないのです。私は一応、国語・国文学会のメンバーですが、国語・国文学会にはおおよっぱには平安時代中心の派閥と江戸時代中心の派閥があります。私は「源氏物語」の専門家だから、江戸時代中心派閥とは対立しているはずなのですが、上田秋成や為永春水も好きだし、狂歌も好きだし、しかし、江戸最大の作品「忠臣蔵」はちよつと嫌いなのです。

何故、嫌いなのかをつきとめるため大河ドラマやお正月の12時間ドラマ、映画などで「忠臣蔵」をやっていると必ず見てしまうし、「忠臣蔵」研究の本もたくさん読んでいるし、あれっ、これってもしかして好きっていうこと？

中村勘三郎と大竹しのぶの大石内蔵助とおrikは軽かったなあ。しかし、高倉健と浅岡ルリ子の大石内蔵助とおrikで浅岡ルリ子のあのメイクのままで出てたのは何だったんだ？

吉良上野介の役がやれる上品な老人がいなくなったな、等いろいろ考えさせられます。

昨日の「忠臣蔵」はクライマックスである討ち入りを描かず、その前後の大石内蔵助とおrikの心を描くもので、これはこれで面白いと思いました。ちなみにおrikの役は紺野美沙子さんでした。主税の役が崎本大海、遥泉院の役が森ほさちでした。

昨日、印象的だったのは普段、老人ばかりの御園座にけっこう若い子が来ていたことです。「忠臣蔵」の後のマツケンコンサート（一時間弱）を見に来ていたのか？それにしても。

私は松平健にコンサートをやるほど持ち歌があるのかが気になりましたが、「暴れん坊将軍」のメロディに歌詞をつけたものなどあり、びっくりしました！そしてマツケンサンバが二回もアンコールがあり、圧倒されました。マツケンと「忠臣蔵」恐るべし！



## 現実逃避入門

今は夏休み明けのテストも終わつたいい時期だが、カズマは打たれ弱い子で、テスト前の時期は悪の勉強会など現実逃避に徹していた。

もつとひどいのは私に「古典の中のえつちな話してよー！（TOT）潤いが欲しいんだよー！」とせがむことだった。

もつとも私は私で、乗り気だった。

「源氏は藤壺を強引にてごめにしようとして、襲いかかり、藤壺は泣きながら逃げようとするのね。しかし、そこで源氏が髪の毛をつかんでいたの、藤壺の体は逃げる事が出来ず、勢いで体から服がすべりおちて、裸の体だけが・・・（以下自主規制）」

ゲヘー！

「浮舟は匂宮と一緒に舟に乗るんだけど、匂宮は二人でエロなことをしている絵を描いて浮舟をしきりに誘うのね。匂宮は祖父の源氏と違ってひ弱だったから浮舟をてごめにしようとしたんだけど、野育ちの浮舟はたくましいから肉弾戦ではかなわなかったの。名前がはかないからみんな読み間違えているけど、松下由樹とか米倉涼子みたいな子なの。それでエロな絵を見せられて、燃えてきて・・・（以下自主規制）」

シュツシュツシュー！ポー！

カズマは自家発電を起こしてしまっていた。

「これは『源氏』じゃないんだけど、説話の中で、ある男が鮭を盗んだ疑いをかけられ、服の中を見られるとやっぱり鮭があつて、開き直つて言うの。『どんなお妃様でも鮭がないはずがない。あるに決まっている』って」

「え？」

カズマはむっくり起きた。

「その話はオチが分からない」

私はプリントを丸めたものでカズマの頭をはたいた。

「自分で考えな」

「じゃあ、考える・・・ところで、この『平中物語』ってエロいの？」

！

私は必殺ボケたふりで質問を黙殺した。

「あっ！ボケたふりしている！多分、すごくエロいんだ！探してみよっと！」

(――・――)

カズマよ、そのエネルギーで勉強しちゃうだ？

## 先輩 vs Kくん・リターンズ

Kくんは9月5日生まれというのをご記憶だろうか？

Kくんは公約通り、誕生日の翌日、バイクの免許をとった。教室の英雄である。

「カッコいいー！」

「ちよつと免許証見せて」

私は免許証を見せてもらった。平成六年生まれがバイクを・・・生徒が全員平成生まれになったのも感慨深かったが、そう遠くないうちに生徒が全員、21世紀生まれになるだろう・・・

「それにしてもKくんってカッコいいよねー！この写真なんかジューンボーイコンテストにそのまま送れますよ！」

先輩「またそういう嘘教える。ダメですよ。若い子は真に受けかねないですよ」

Kくん「俺、ちよつとニキビがあるんで」

先輩「なくてもダメだと思いますけどね。夢ちゃんとKくんは頭の中も顔も昭和で止まっていますからね」

あつちゃんとのんちゃんは笑いをかみ殺していた。

Kくん「バイクは夏休み中、バイトをやって自分で買いました」

私「陽灼けしてて、すごくカッコいい！」

先輩「お年玉は使わなかったの？」

Kくん「お年玉は全部親に預けています」

私以外の全員が「えゝ！」と声を上げた。

「な、何？正しいでしょ！」

「何時代の話だよ！みんな自分で持っているよ！」

かなりおとなしく真面目な子もはにかみながら、「自分で管理している」と言っただ。

先輩「だから言ったでしょ。あんたたちは昭和で止まっているって  
はにかくさい」

私「私、はにかくさいって言葉の意味知ってますよ！（、、）」「

先輩「（、――、）」「

## 花

「えー、今日は世阿弥の『風姿花伝』の講義をします。世阿弥は芸術家の生涯を『花』という言葉で表現しました。若い時はただ若さと美しさがあつて、実力がなくてもキヤーキヤー言われます。これを『時分の花』と言います。しかし、その後、若くもなければ可愛くもなく、実力もない暗黒時代がやって来ます。しかし、それを耐えて、修行して得た実力を『本当の花』と言い、『時分の花』も『本当の花』にはかないません」

ここで講義を終われば、立派な国文学者で終わるのに夢ちゃんは「私もまだ21だけど、キヤーキヤー言われる」と言つた。

成績優秀で前の方に座っている生徒は肩を震わせ、笑いかみ殺していた。

おつちよこちよいのカズマが「暗黒時代じゃん！本当は33歳だし」と口をすべらし、説教部屋行きになつた。

シンヤはカズマとトイレで髪を直しながら話していた。

「僕たちつて花の時代つてことだよね！僕、早乙女太一みたいにお姫様の格好で踊ったりしたい！」

カズマはシヨックを受けた。

カズマはカズマで星の王子様みたいな格好で、「100%勇氣」とか歌うことを夢見ていたからであつた。

夢ちゃんの言葉には不思議な呪縛力がある。

もっとも夢ちゃんはあるビルのレストランでハヤシオムライスを  
食べながら、大河ドラマの脚本家に選ばれた時のことを考えていた。

夢見る先生と生徒たち！

## 頭の中の割合

私は塾・予備校の講師という職業柄、今ぐらいから生徒のこと、仕事のことで頭の中が六、七割ぐらいになる。（普通の社会人は常に95%ぐらいは仕事のことを考えている）

残りで文学のこと、美術館、オペラ、御園座、映画、美味しい店、芸能人のこと、お洒落、健康、家族のこと、バイトの大学生の子とデートすることなどを考えている。

そんな状態なので、今から言い訳するのも変だけど、来年の3月ぐらいまである程度まとまった作品は書けないかも知れない。ただ、今、書きかけている「始皇帝・謀殺」の他に二つぐらい書きたい話がある。

どちらも現代的で、でも私らしい味付けのものになると思う。学園ものである。

もう一つまだ形にもまとまっていなくて、ドローとしたアイデアだけど、私は不思議な大学時代をおくった。そのことを私小説にしたという思いがあります。

でも少し不安に思うのはこのサイトはソーシャルネットワークサーブिसみたいな要素が強くて、純文学みたいなもの、古典や名作を読んでいる人はあまりいないから、書いてもセルバンテスみたいな感じかも知れない。でも、例え少しでも読んで下さる方がいるなら書いてみようかな?とも思います。最後の作品は本当に迷います。

学園もので明るいのは来年の3月まででも時間を見つけたら書きたいです。少しでも。



## 純文学の運命

一つ前の文章で、このサイトは純文学を書いている人、好んで読んでいる方は少ないと書いてしまった。悪い意味で書いたのではないので、削除したりせず、補足的なことを書きたい。

別にこのサイトだけでなく、ガチガチの純文学というのは読む人は減り続けていて、古典芸能でも特に人気のないもの（能とか琵琶とか）と同じような運命をたどっているような気がする。しかし、私はそのこと自体を一概に悪いとは思っていない。

実は私の考え自体まとまっていなくて、二つの考えの間で揺れている。

一つは純文学は使命を終えたので、やはりなくなっていくのではないかと、ということである。その場合、マンガやライトノベルなどが今まで純文学が担っていた役割を負うんじゃないかと思う。

ところが、同時に私は純文学や古典がしぶとく強かに再生するんじゃないかとも思う。何とはなれば、ライトノベルやマンガでも本当にすぐれたものは過去の偉大な作品の何らかの影響を受けていることが多い。またマンガやライトノベルを愛読している子も一定の量を読みこなすと純文学や古典を読みたいと進歩、進化してくることが多い。

私は生徒とある程度、信頼関係を作っているので、よくおすすめめのマンガなどを見せてもらうが、その下敷きに名作があると指摘すると強い興味を示すことが多い。また私もマンガやライトノベルの進歩にびつくりすることがある。最近で言うと、「罪と罰」の日本を舞台にしたマンガ版は原作の細部までしっかり再構成していて、び

つくりした。

今、比較的有名な出版社が古典を新訳して出しているのも潜在的な需要を示しているような気がする。

何より私は思うのだが、現代の社会は閉塞感に覆われ、刹那的な快楽を追い求めている。そういう生き方を強いられる人を見下すつもりはないが、本当にもっと行き詰まってきた時、人は明るく楽しいだけの作品ではなく、重厚で本格的な作品や、民族のアイデンティティを感じられるような作品を求めるのじゃないかと思う。

最後の方は私の祈りも込められた思いである。

悪文乱筆ごめんあそばせ！

ギャー！ナンパ地獄！

さて、エッセー集は当初、知的、上品みたいな方向性を目指していたのに気づいたら、とんでもないところに向かっている。

それとはかく、「京都・背徳の夜」の続きである。遠足と修学旅行の中間の関西旅行。

ヒデキとあっちゃんは通天閣に行ってしまった！名古屋のボンである二人は通天閣の辺りがけっこう怖いところと知らなかったのである。（TOT）

「明石焼きくれや」

「ドアホ！明石焼き欲しいんなら明石行けや！」

ヒデキとあっちゃんは蒼冷めた。二人はこんな柄の悪い店は初めてだったのである。

「は、早く通天閣見て帰ろ！」

自販機と自販機の間にもたれこんで寝ているオヤジや、片方だけのゴム長靴を自分の前に置いて自己の内部に沈潜している若い男などがいる。二人の中の危険センサーがビビビと高まる。

そして太ったジジイが二人に話しかけてきた。

「可愛い子やな。お小遣いあげるさけ、ちよっとさわらせてや」

フギヤーツ！！シャツ！！

悪夢のナンパ地獄の話を平和な名古屋に帰ってきてからすると地上5cmをいつも浮いているカズマが「僕も名古屋駅でナンパされたことある！」と言い出したのである。

「珈琲飲みに行こうって誘われて、珈琲飲めないからって、断ったの」

(・・) 何かちょっと断るポイントがズレているような・・・

黙って聞いていた夢はカチャンとロイヤルミルクティのカップをソーサーに置いた。

実は夢ちゃんも名古屋駅でナンパされたことあるのである。

結婚指輪をしたオヤジだった。

人の心はラビリンス。

## 秋晴れ、天晴れ、学園祭！

私はカズマとのんちゃんの学園祭に出かけた。

二人はそれぞれのクラスの模擬店をやっていた。

カズマは決して草食でなかったが、料理が得意だった。器用にクレームパイを焼いている。

私「この味なら合格かな！」

カズマ「のんちゃんが苦戦しているけど」

私は慌てて、のんちゃんの模擬店に行った。下手に作るのも難しいと思うのだが、焼きそばに苦戦している。

私は生まれた家が飲食店だったのもあり、見ていられなく、エプロンをつけると鉄板に向かった。

私「キャベツと豚肉をお塩で炒めるの！それから焼きそばをからめていって、キャベツをしんなりさせるの！隠し味は胡椒！」

のんちゃん「あれ、先生、あのすごいチェーンつけた財布持っているの、Kくんじゃないっすか！」

Kくん「先生、のんちゃん、何やってるんすか？」

私「焼きそば！」

Kくん「俺も焼きそば上手いっすよ！朝食によく作りますもん！」

Kはウインナーともやして焼きそばを作り出した。

塾・予備校の知り合いが改めて学園祭で知り合ったり出来るのも学園祭の醍醐味。

ヨコ、蘭、マユは体育館で、草食男子たちの逆宝塚劇団公演に夢中になっていた。

シンヤが「夜桜お七」に合わせて、華麗な舞を見せる。

秋晴れの下、みんな幸せ！みんな、元気！みんな、大好き！

## 続・病院の光景（―・―）・チキンハート

水曜日に切開手術をいたしました私ですが、昨日、一昨日と午前中に処置というのを受けに行っていました。

傷口を消毒し、点滴をしてもらうのです。この傷口をさわられるのが非常に苦痛だったのですが、今日の午前中で処置は一区切りとなりました。次は連休明けです。連休中はちゃんと働いて、月曜日はオペラを観たいです。

病院に短期間ですが毎日通って、普遍的な真理ではありますが健康のありがたみが分かりました。また病気を抱えている人に親切にするべきと改めて思いました。

自分は学校の先生に比べて教務中心（のはずですが、いろいろやっています。）で、どちらかと言うと難関大受験の子が多いのですが、体が弱くて学校にちゃんと行けない子を受持つこともあります。

そういう子が駅の売店にあるような軽い読み物を読んでいる時、「ミステリーでも西村京太郎とか内田康夫じゃなくて、中井英夫とか山田正紀とか一流の読んだら？」と勧めた時、「そういう元気ない」と断られた意味が分かりました。

今回のことも読むこと、書くことに活かしていきたいです。

ところで、もう一つ分かったのは老人パワーです。

午前中の病院には老人がひしめいて、元気にいろんな話をしていて、私はこぞっこ扱いで、疎外を感じました。（T―T）

みんな元気そうで自分はどこにいるか分からなくなりました。

木曜日に雨が降ったら、老人はほとんどおらず、病院と自分は思っていたけど、老人のサロンなのかもしれません。

また老人が悠々としているのに対して私は傷口をさわられるとぐったりしており、看護婦さんたちも笑ったり、「見てて痛々しい」と話しかけてきたり、点滴を受けて死んだようになっていて私のそばで「子供が漢字ドリルを丁寧にやらない」「旦那が早く帰って来ないからウザい」など話しこんだりしていました。

私もあと六十年ぐらい修行したら、この光景に溶け込めるのかな？  
と思いました。（＾＾；）。。。



## ケンゴの幸せブックレビュー

ケンゴが「これ面白いから読んで」とマンガを貸してくれる。先週は「ホームクルス」今日は「鬼燈の島」ホオズキノシマ。

「殺し屋1」の山本英夫の新作もとんでもない怪物作品だったが、「鬼燈の島」は物語を読む面白さ、面白い物語の力強さを感じさせる作品だった。

強いて言うと言が少し粗いが、それも少年少女のサバイバルのストーリーに合っていて、リズム感やエネルギーを感じる。

「鬼燈の島」はミステリ、サスペンスのお好きな方にはおすすめです。

しかし、小学生の時から知っているケンゴがちょっとえっちなシーンもある作品を勧めてくれるのはちょっと微妙な気持ちもする。(

ー・ー・)

しかし、長年の付き合いだから、指定関係で作品の好みが似ているのも微笑ましい？(\*ー\*)

私たちは絵の上手さよりはストーリーのスピード感とか、合理性を大事にしているのだと思う。もうちょっと踏み込んだことも書きたいのだが、作品がミステリなのであまり書けないのが残念。

「罪と罰」マンガ版もケンゴに教えてもらったのだった。

しかし、ケンゴは時々、難問を出してくる。映画友達でもあるのだが、「ロックスストックウースモーキングバレルズ」のガイ・リッチー監督の問題作「リボルバー」を観て、解説してと言われた。うーむ、なかなかの難問なり。（――；）

## ギッター・コレクション展

今日、久しぶりに美術館に行きました。松坂屋というデパートの中にある美術館でしたが、ギッター・コレクション展というのをやっています、すごくよかったです。

〇〇コレクション展というのは大抵海外の富豪の美術コレクションで、ギッター・コレクションもギッターさんという人の江戸美術のコレクションです。とても素晴らしい展示でしたが先回りして書くとは日本美術の素晴らしいコレクションは大抵、ガイジンさんにおさえられているのが残念です。

ギッター・コレクションは江戸と言えば有名な浮世絵ではなく、近年人気の高い伊藤若冲、曾我蕭白のような奇想の画家、また近年人気の禅画、そして琳派という流派の美術が中心です。

琳派が描く美しいカラフルな自然。禅画の素朴な線と、モノトーン。そして若冲ならではの不思議な絵。若冲の作風はすごく広いのですが、禅画に近いものが多くて、コレクターの好みがよく表れています。

それにつけても残念に思うのが日本の美術界がおしなべて海外のブームの後追いになっていて、日本人が気づいた時は海外のコレクターに名品が買い占められていることが多いことです。だから若冲にしても琳派にしても禅画にしても素晴らしいコレクションはプライス・コレクションなど海外に多いです。余談ですがプライス・コレクションが日本に来た時は一日中観て、それでも足りずに翌日も観

に行きました。

日本の美術館では東京の出光美術館と京都の細見美術館がいいコレクションを持っていますが、日本人が日本美術に疎く、海外の金持ちに作品を買い占められていることが残念。（ただ観ている立場からはあまり関係無いとも言えますが）

あと日本人が日本美術に疎いにも関わらず、けっこうボケた解説がつけてあることにショックを受けました。特に「アメリカ人のギッターさんが日本の美術の美しさに気づいたのはすごい」と書いてありましたが、その論理で言ったら、日本人はレンブラントやルノアールのよさは分からないことになってしまいます。文化によって異なるな影響は受けるけど、美しいものは国や民族を越えて伝わると思います。

また解説を読む時間の方が長い人が多いですが、なるべく美術そのものを観て、自由に感じて欲しいと願っています。

ギッター・コレクションは日本では無名だけど、いい作品をたくさん含んでいました。知識とかでなく本当に好みや感性で選んでいるからでしょう。

名古屋辺りの方はまだ会期があるので、おすすめです。

## オッフェンバック「ホフマン物語」

本当にすごい映画やコンサート、舞台などを観た後は虚脱してしまう。今がそういう状態です。

今年、名古屋は街が出来て、400周年。奈良の1300周年のかげに隠れています。が、メモリアルイヤーに合わせるように愛知トリエンナーレという芸術の祭典が街中で行われています。その目玉として土曜日と今日、本格的オペラ「ホフマン物語」が日本のクラシック音楽界、さらには海外の一流演奏家も交えて上演されました。

200年ぐらい前の文豪ホフマンの小説を基にオッフェンバック（「天国と地獄」の人、「カステラー番電話は二番」の人）が作曲した作品。

ただし、未完成だったため（オッフェンバックが亡くなった）演出家や演奏家がい로운なアレンジをする余地があるのですが、今日の公演は自分が今までに観てきた、聴いてきたオペラの中でも一、二を争う屈指の出来でした。最後、初めてこの作品の意味、含みが理解出来て、涙が溢れて止まりませんでした。

作品は全5部構成でホフマンが主人公になり3つの恋を語り出します。（プロローグ）真実の愛を探してヨーロッパをさすらうホフマンはまるで光源氏のようにですが、一つ一つの恋物語は奇想天外。しかし不思議と現代を生きる私たちをハッとさせるのです。

最初の恋人はオランピア。人ではなく、ロボットです。この第1幕はSFコメディの趣です。オランピアの役の方の歌と演技がすごく上手かった。コロラトゥーラという歌唱を美事にこなしていました。その上手さがまた人工的な感じを非常に強めていました。

ロボットが壊れてしまい、ホフマンはミュンヘンへ。

そこで天使のようなアントニアに出逢います。アントニアは汚れない純粹な存在です。しかし体が弱く、全力でアリアを歌えば死んでしまうのですが、ホフマンと結婚して生きるのではなく、命を燃やし尽くして歌を歌う芸術家の宿命を選びとる！そこで観客の感動と衝撃が絶頂に達します。

第1幕に比べて派手な舞台セットや仕掛けはないのですが、一番まともなラブストーリーで緊張は途切れません。

そして第3幕は一転、やけになったホフマンがヴェネツィアにいます。実は一貫してホフマンを破滅させるためつきまとっている悪魔が悪女ジュリエッタに「ホフマンを騙せたらダイヤモンドをあげる」と言い、ジュリエッタは愛を求めるホフマンを巧みに騙し、かわいそうなホフマンは身も心もボロボロになり、全てを失います。

しかし、エピローグ、みんなが去っていった中、ひそかにホフマンを見守っていた芸術の神・ミューズがホフマンを励まします。この悲劇に耐え、この経験を小説やオペラにするのがホフマンの運命と。ここが芸術の哀しみと喜びと偉大さを非常によく表現していて、涙が溢れて溢れて。最後、ホフマンとミューズがアリアを歌います。

「人は愛があるから素晴らしい。人は涙があるからいつそう素晴ら

しい」

そのリフレインの中、舞台はグランドフィナーレを迎え、涙、涙の中、カーテンコール。

拍手は10分ぐらい鳴り止みませんでした。

私も感動でフラフラになって愛知県芸術劇場を出ました。

今日の公演を作り上げた全てのキャストとスタッフの皆様、ありがとうございました。

## 岡本翁

さて、前話とはガラリと変わるのですが、ある時、社長から電話がかかってきました。

私「はい」

社長「あの・・・」

私「何でしょうか？」

その依頼はある老人の方が小説の書き方を習いたいというもので私は笑って、快諾した。

その老人・岡本翁は教室にフラッとやって来た。

五木寛之先生の文庫本を持参した岡本翁は「この記号はどういう意味ですか？」といろんな記号について尋ね、私は「かぎかつこの中にさらに台詞を入れる時は二重かぎかつこを使うといいですね」などと説明していた。

正直、記号の使い方などはどうでもいいことである。

私は雑誌に小説を載せてもらった時、日本語の読点のつもりで勘違いして英語の読点をうつっていた。それは雑誌に載せる時、編集者が簡単な操作で直すだけである。それを生真面目に勉強しようとなさる岡本翁のお人柄が微笑ましく、私は教室のあるビルの喫茶室に誘ってお話をうかがうことにした。



好好爺の岡本翁とは談論風発となり、私は「五木寛之先生の作品を読んで印象的だった売血、血を売るとは昔は本当にあったのですか？」とうかがったところ、「私、やってましたよ」という想像以上のお答えが。「血液が検査されて、いい血液じゃないと買ってもらえなくてね、祈る気持ちでしたよ。買ってもらった後は増血剤をもらってね」

はつきり言って、私が岡本翁に教えられるようなことはなく、戦後のお話などをいろいろうかがった。

岡本翁の口も滑らかになり、小説の構想を教えて下さった。

「僕は大人の男と女の機微が分かる二人の話を書こうと思ってね、フォフォフォ。終戦記念日に二人が京都の祇園で出会います。そして半年後に北海道のむまんべつで再会するんです。フォフォフォ」

何かすごい作品になりそうである。（＾Ｏ＾）

何より、お年寄りの方が知的な趣味を持って、新しいことを勉強し、小説を書くことに挑戦してらっしゃることが素晴らしい。

岡本翁の大人の男と女の機微が分かる二人の小説、いつか読むのを楽しみにしている。

## 小論文の採点

私は生徒のことを書いているが、勉強そのもののことをあんまり書いていないかも知れない。

たまには書いてみようかな、と思う。

私は小論文という科目も教えている。私は33歳だが、私が学生ぐらいの時は推薦入試はそんなに盛んではなかった。しかし、最近は推薦入試（AO入試、アドミSSIONオフィス入試）というので、夏休みや今ぐらいに入試が終わる子もいる。

推薦入試では本人が小論文を提出することが多いので、そういうのを教えている。

私はふだんちよけて（ふざけて）いろいろ書いているが、一応、ちゃんと（かな？）仕事をしている。小論文で大学が採点するポイントは幾つかある。

？学業が優秀か。

？スポーツで顕著な成績を上げた。（国体やインターハイで実績を上げたなどのレベル。またスポーツの部活のキャプテンなど）

？芸術・芸能で顕著な活躍をした。（私が教えた中では日本舞踊の家元や詩吟の家元の子などがいた。）

？生徒会。ところが、これが曲者で、推薦入試志望の子が一番多く申請する項目がこれなので、アピールは弱い。

？国際活動（ホームステイや留学。これも案外やっている子が多い。ケンゴはイギリス。ヨーコはハンガリー。絢香はマルタ島などに行っていた。）帰国子女も優遇される。

？ボランティア活動。これは狙ってやられては困るんだけど。

？最後は私が仕事始めた頃はなかった項目だけどコンピュータに関する知識や技術を持っていること。

これらの項目の何かを自己アピールするのだが、気をつけたいのは嘘をつかないということである。人物評価の担当者は嘘はすぐ見抜く。

とはいっても、この項目の何にも当てはまらないという平凡な子がほとんどである。

だから、たいていは生徒と「何、書こうね？」「君、○○やってなかったっけ？」などと考えることになる。私は生徒をけっこう観察しているが、それは「君、こういういいところあるよ」と教えてあげるためである。

## 「火の魚」

昨日、テレビで室生犀星の小説をドラマ化した「火の魚」を観た。原田芳雄さんと尾野真千子さんが主演。原田芳雄さんは田舎の島でひっそり暮らすポルノ作家、尾野真千子さんはその編集者を演じている。孤独で気難しい老人がだんだん編集者の女性にひかれていくという話で、ところが女性が癌になり、老人が改めて人間の生と死を見つめるという話だった。

面白かったが、私は原田芳雄さんを見るといつも何か引つ掛かりを感じる。

上手いし、風采もいいが、何かギラギラしていて、弱々しい老人の役とかをやっていると「ん？」となる。

井上ひさしの最高傑作「父と暮らせば」（原爆で死んでしまったおとつたんが、幽霊になって娘と暮らし、ほのぼのした中に戦争や原爆への批判が描かれる）の映画版でも原田芳雄さんは父親役をやっていて、上手いが、何かギラギラしていた。

でも考えてみると、最近、枯れた上品な老人などあまりいない。原田芳雄さんが老人役をやっているのはそういうリアリズムを体現しているのだろうか？（――）

## ピラフ？チャーハン？

名古屋は最近はおか抜けてきたけど、一昔前までは大都市なのに田舎という位置づけだった。そしてそれも理由のないことではない。

しかし私の住んでいる大垣は名古屋のベッドタウンで、もっと田舎なのである。

今日、それを感じる事件（？）があった。

今日は平日だったので、病院に消毒の処置を受けに行った。その待ち時間に病院のそばの喫茶店に寄り、何か食べるのが最近の習慣になっていたのだが、今日、ピラフを注文したら高菜チャーハンが出てきた。私は好き嫌いがないが、お漬物だけはちよつと苦手なのである。高菜は何とか食べられるけど、高菜の量が多い。（

ー・ー・ー）

「これ、ピラフっていつちやダメですよ！」と抗議したかったが、多分、喫茶店をやっている老夫婦は高菜チャーハンがピラフだと思っているんだ、と思い、抗議はしなかった。また高菜チャーハンも全部きれいに食べた。

最近ほとんど手伝っていないけど、両親がやっている店を手伝っていた時、「冷麺」と「冷やし中華」を同じものと思っている人も多かった。

そういう経験は久しぶりだった。

ちなみに東海地方では朝１１時ぐらいまではモーニングと言って、飲み物に軽い食事がつく。

トーストとゆで玉子が多いが、トーストにあんこを載せた小倉トーストというのが、けっこうある。私は東京に行くまで小倉トーストは全国的な食べ物とっていた。

またゆで玉子の代わりに茶碗蒸しが出ることもある。

「コーヒーに小倉トーストと茶碗蒸しって食べ合わせ悪いですよねー！」と生徒が言っで、びくん！とした。

古くなってる？私。(´・`・；)

## 名古屋飯を考える？

一つ前の話からで、名古屋、東海地方にはいろいろ独特の食べ物がある。

？みそカツ

私が名古屋飯の中で特に好きなのが、みそカツである。これはトンカツに甘辛いみそがかけてあるものである。私はこれも全国的な食べ物と思っていた。ただ補足して書くとみそカツは東京大学の食堂にもよくあった。東京大学の生徒の二大産地は東海地方と九州だからじゃないかと思う。

くどい料理なのだが、その分、ご飯が進む。

？海老フライサンドイッチ

名古屋と言えば海老フライ、ではリサーチが甘い。

私は海老フライサンドイッチの形にしたのが好きである。海老フライはさっぱりしていてご飯のおかずには弱いような気がする。

海老フライサンドイッチはトースト二枚の間に海老フライ三尾ぐらいとキャベツの千切り、玉子焼き、タルタルソースをたっぷり挟んで、三切れぐらいに切り分ける。

玉子焼きが隠し味になっている。名古屋駅のサンドイッチ専門店コンパルの海老フライサンドイッチが特にいい。

コンパルは珈琲も美味しい。

?うなぎ

うなぎは静岡が有名だが、名古屋も盛んで、食べ方もたくさんある。ひつまぶしというのは名古屋独特と言われているがうなぎを三段階に分けて食べるものである。最初は普通に。第二段階は薬味のネギや海苔を混ぜて、第三段階はそこに出汁をくわえお茶漬けにして食べる。私はひつまぶしはそれほど好きじゃない。普通のうなぎが好きである。ちょっと変わった食べ方としてはうなぎを玉子焼きで巻いたつまき玉子というのを載せたつまき丼というのが好きだ。

うなぎは名古屋独特とは言えないが、名古屋は比較的うなぎ屋さんが多いと思う。

意外と長くなりそうなので、ここで一区切り。続きをまた書きます。



## 雑誌・「ターザン」

私は自分は甘い先生と思っているのだが、生徒にはボケた先生と思われる。

雑誌「ターザン」のやせる特集みたいなのを教室で見っていたら、あつちゃん、のんちゃん、ヒデキ、カズマらが笑い死にしそうになっていた。

「ひどい！これはひどすぎる！」

「やせる特集を買うなんて・・・」

「買う時、エロ本より恥ずかしいよね！エロ本で挟んで隠したりして」

「無礼者！ちゃんと買っていますよ！堂々と」

「店員さんもレジで受け取って、プツって耐えてたと思う」

「ギャーハハハ、表紙もひどいっすね！山口達也吠える『今の若い子は細すぎて色気のカケラもない』だつて！」

「本当にカッコいい人が出てきたら、『ふん！自分とは関係無い人！』ってなっちゃうから」

「ぶよんぶよんですよ！」

「あゝ、全く師弟愛のない子たちだ！こんな生徒育てるんじゃないかな！毎日いろいろ工夫しているのに！」

「この巻末の商品の広告もひどいっすね！」

「パンチングボールとかダンベルとか、買っても全然やらんと思う」

「やりますよ！失礼な！」

「絶対やらん！」

あっちゃんは水泳部のキャプテン、のんちゃんはハンド部の副キャプテン、ヒデキはマーシャルアーツをやっていて、鍛えられている。カズマは運動部はやっていないが、サーフィンをやっている。

「だいたい何でターザン読んどるのに、やせんのか？」

ギクッ！（――）

「やせる特集の後に美味しいレシピとか載っているのが、ダメっすね！」

「うむむ・・・」

「でも先生って食べる量すごいからこれでも驚異的な体型かも」

「よくデザートバイキング行ってるもんね。チョコフォンデュとか」

「またみんなで行きたいですね」

「女子も呼んでね」

だんだん脱線していく一同であった。

## 名古屋飯を考える？

さて、名古屋飯の続き。

？どて煮

大阪にもどてがある。大元は牡蠣の土手鍋らしい。材料が大阪で牛すじ肉になり、名古屋では牛すじ肉をやはり八丁味噌で煮込むことになった。

どて煮は曲者と私は思っている。美味い不味いの当たり外れが大きい気がする。

私は信用しているお店でしか食べない。もともとは庶民的な食べ物と思うが、ホテルのランチなんかでもアレンジしたものが出たりする。

名古屋飯の中の陰の実力者。

？みそ煮込みうどん

私あまり食べない名古屋飯。私の住んでいる大垣は京都にも近づいているため、私は濃い味の麺類はちょっと苦手。ただ人に出されたら、素直に食べます。

あと山本屋というお店が有名だが、高いわりに麺にくせがある。もっと普通の小さい店でできたてを食べる方がおすすめ。

?ラーメン

名古屋にはこれというラーメンがない。しかし名古屋の人はラーメン好きと思う。名古屋駅の中には全国のラーメンが食べられる店がある。しかしそこも高くて混んでいる。

それより、みんながよく食べていて、美味しいのはスガキヤというチエーン店のラーメン。出汁は白くて、いい意味で脂っぽい。チャーシューと玉子が入っていて、麺も大盛りにしてもらえて、安いんだけど、美味しい！

これもひそかなおすすめ！

## 古川美術館（前書き）

こんにちは。この前書きは時間がたったら、消すつもりですが、木曜日の朝に薬などの副作用なのか具合が悪くなり、ちよつと木曜日午前中は休講にしました。

何とか午後からはだましだまし、働いて、今日に至ります。昨日で薬ものみきつたので、またしばらくは大丈夫と思います。昨日で更新が滞って、失礼しました！

## 古川美術館

月曜日に松坂屋美術館に行きましたが、水曜日には古川美術館に行きました。

名古屋の住宅地の中に古川爲三郎翁の洋館と和風建築があり、そこを美術館にしてあるのです。

今回の展示のテーマは美人画。上村松園、鍋木清方、伊東深水など美人画の有名な人の作品をたくさん観ることが出来ました。

洋館の方が美術館になっており、和風建築の方は室内の調度などを楽しみながら、お茶を楽しめるようになっており、抹茶、ほうじ茶、お団子のセットをいただきました。

和風庭園にとかげがいて、びっくりした！自然があるから。何かホツとしました。

美術館の受付の方とは顔馴染みで、今年はやっぱり異常な暑さだったから、美術館にあまりうかがえなかったとお話しました。

木曜日にガタンと気温が落ちて、びっくりしましたね。

## オーケストラアンサンブル金沢

さて、水曜日は美術館に行った後、大好きなオーケストラ、オーケストラアンサンブル金沢のコンサートに行きました。

オーケストラアンサンブル金沢は地方のオーケストラながら日本でも屈指のいいオーケストラです。ただ外国人演奏家の方が多いので、強い外人選手がいるスポーツチームみたいですが。

名古屋は北陸に近いこともあり、年に2〜3回、コンサートがあります。3月にもうかがったのですが、その時は比較的新しく、珍しい曲が多かったです。

オーケストラアンサンブル金沢は観客との一体感やグルーヴ感を大事にするので、クラシック音楽の枠を広げるような曲をやったり、大胆な選曲をしますが、一体感を出す方法として有名な曲をやることも多いです。今回は後者寄りかな。

曲目はメンデルスゾーン「弦楽のための交響曲」第10番。ラヴェル「ピアノコンチェルト」ピアノリストは菊池洋子さんです。

休憩を挟んで、武満徹「訓練と休憩の音楽」「葬送の音楽」「ワルツ」そしてフィナーレはモーツァルトの「交響曲」第39番でした。現代日本の作曲家・武満徹の曲をやったところはオーケストラアンサンブル金沢らしいです。その時、感動してスタンディングオベーションしているじいちゃんの前から三列めぐらいにいました。そのことに何か感動しました！

ところで演奏も素晴らしいのですがクラシック音楽のコンサートでは無料でパンフが配られるのですが、オーケストラアンサンブル金沢はその文章も非常に面白いんですよ。

近いうちに何らかの形で紹介するかもしれません。お楽しみに！



オッパイ星人現る！（、）

小学生の時（中学受験の時）から教えているケンゴが言い出した。

「せんせー、ジュリア・ロバーツとかキャメロン・ディアスとかアンジェリーナ・ジョリーとかどう思う？」

「はあ？（、）、（、） みんな大スターじゃない！」

「でも、もうババアですよー！」

「！（、）何、言うんだ！すごくキレイなままですよ！」

「俺、キラ・ナイトリー（パイレーツオブカリビアンシリーズのヒロインの子）が可愛いと思うんですよ！」

「はあ？あの子、顔も可愛いし、演技も上手いけど、貧乳だよー！ペタンコですよー！」

「何、言ってるんすか！（、） いやらしい！」

「若い子ならスカーレット・ヨハンソンの方がいいですよ！胸がポイーンとしているし、唇とか厚ぼったくて、すごくエロな雰囲気が出てるから」

「胸、胸ってエロいですね！エロジジイ！」

ケンゴはプンプンしていた。

私は私で思っていた。うーん。今の若い子は胸、あんまり気にしな

いのかな？

言われてみると最近の女の子ってあんまり巨乳って言わないな。

「せんせー、古典の説明しながら叶姉妹好きとか言っていましたもんね」

「ふぉふぉふぉ」

ケンゴとオツパイ星人の鬨が始まる！（――；）

## 学生街の喫茶店

名古屋の千種という街は予備校や塾がけっこう林立しているところ  
です。

学生がうろうろしているので、安い店が多いです。250円のお弁当屋さんとか食券制の定食屋さんとか。また小さい器にいろんなおかずが入っているのを選ぶお店など。そういうところは野菜をたくさん食べられるのが、いいです。

その中でもとても素敵なカフェを見つけました。

初めて入った時は雰囲気圧倒されたんだけど、珈琲がとにかく美味しくてミルクは入れず、砂糖だけでアロマを楽しみました。美味しくて美味しくて、二杯めは半額なので二杯飲んでしまいました！あんまり美味しかったから休みの日も行ったら、数学の先生に会いました。名古屋ぐらいの街だと人が集まるところは自ずと絞られてくるのかも知れないな、と思いました。

明日もそこに行くのが楽しみです！

## アンファンテリブル

私は中学受験をやっている小学生も教えている。と言っても、どの学年の子と勉強していても、あまり変わらないのだけど。

それでも小学生までの国語の教材は、ちょっと道德の要素が入っており、パーチクリンの私の格好のからかいの対象になる。

昨日、斎藤茂太（斎藤茂吉の長男）のエッセーをやっていたら、「他人の悪口を絶対言ってはいけない。他人の悪口を言っている時、人は醜い」と書いてあった。

別に間違っではないと思う。思うが、他人の悪口を言っている時、人は輝いていると思うけど。

電車や居酒屋にいるサラリーマン、スーパーのフードコートや喫茶店にいるオバチャン、病院の待合室にいる老人、教室にいる浪人生など、みんないろんな悪口を言うことに夢中になっている。あの上司は現場が分かっている。俺の方が仕事出来る。

〇〇さんは本当にわがまま。みんな〇〇さんを嫌っている。（みんなというのは自分の派閥だけ）

うちの嫁は本当に鬼嫁なの。私は姑にいじめられても歯を食いしばってやってきたのにあれぐらいのことが出来ないなんて。

夢ちゃんには本当にいい加減だからね。俺たちと違って背負っているもんがないんだよね！

こんな感じである。

しかし、本当に不思議なことに悪口の言い方にもコツがあるみたいで悪口にも愛嬌やおかしみのあるチャーミングな悪口がある。

逆に聞いているとうんざりするエンターテイメント性のない悪口もある。

この差は何なんだろう？

この前、Kくんが「俺のクラスには彼女がいる奴がいないんですよ！」「と言っていた時、先輩がすかさず「君を見ていたら、そうだろうね」と切り返していた。（……）

## ほめ屋

一つ前の話からの流れだけど、ほめるのは悪口を言うより、かなりテクニクがいると思う。

カズマは「教室で一番カッコいいのは俺、二番めは・・・」「俺はMMK、もててもてて困っちゃうだよ」などと口走ってしまうパープリンだった。

悪口を言われても、あまりこたえている様子はなかった。

しかしヨーコが愛知県出身のアイドル石田卓也（「リアル鬼ごっこ」の主演の子）を引き合いに「カズマは映画スターの石田卓也よりかっこよくて、男気があって、カリスマがあって」とほめ殺しの技を使ったら、プレッシャーで青菜に塩という感じになった。（カズマはヨーコの陰に諸悪の根源、YYという人がいると主張している。）

もつとも私は私ではめる難しさを感じていた。

バイトの大学生で北海道から来た子がいて、真冬でも素肌の上に半袖のワイシャツを着て、「東海地方って暑いですね」と言っていた。ハタタリでなく、鼻に汗をかいていた。（しかし、北海道は建物の造りがしっかりしていて寒くないと聞いていたのに。それにしても。（・・・））

それで忘年会の時に「柴田先生はいつも素肌の上に半袖のワイシャツで男らしいですね」と言っておいたら、後に女子生徒に「田舎者っていじめられた! (TOT)」と話していた。一言も田舎者とか言っていない。(・・)(・)(・)(・)(・)

ほめるのは難しい!

## 小論文の採点？

これを書くことで身に危険が迫ったら、どうしよう？（うそ）

いわゆる難関大学にはいろんな癖がある。「ドラゴン桜」みたいなマンガでも描かれているかもしれないが、よりディテールを書いてみようと思う。

一流で、規模の大きい私大には「記念受験」というのを受けに来る奴がいる。

「受かることはないだろうけど、東京に行くきっかけにもなるし、〇〇大学を受けたってだけではくがづくぜ！」という子が意外とたくさんいる。はくって何だよ？（- - - #）

しかし一流私大はそういうアホを落とすための罠？もたくさん仕掛けている。

有名なのは上智大が「現代文」と書きながら、近現代の人が古文で書いた文章を出し、記念受験の学生を一掃することである。

もうちょっと巧妙なのが早稲田である。ここは記念受験の王国である。

早稲田のやり方は巧妙で、普通の学生には解けないめちゃくちゃ難しい問題を混ぜ、それを解こうと頑張る学生を落とすことになっている。本当に早稲田を合格したい子は解ける問題、解けない問題の分類から始める。



しかし、私が一番気になっている、はつきり言うと変な大学は慶応大学である。

慶応大学では細かい問題のある国語の代わりに小論文が出される。その論調が変なのである。（――）

「さあ、お前たちが支配する愚民たちに情けをかけてやりなさい」という感じ。何？その上から目線。（ちなみに小泉元総理、小沢一郎氏らは慶応）

近年の問題で私が気になったのを書き出してみる。

？街に動物園を作ることにしたので民衆を説得する文章を書きなさい。

「民衆を説得」というところに独特の価値観がかいま見える。こんな奴には絶対説得されたくないと思う。

？浜崎あゆみの歌詞を紹介しつつ、こういうのを聴いている若い愚民の悩み相談にのってあげなさい、というもの。

あゆの歌を聴いている若い愚民より俺たちは上の存在という不気味な意識が感じられる。（――）

他にも「日本の英語教育を今後どうすべきか？」など、全て強者の

論理である。

？戦火のサライエヴォでサミュエル・ベケットの「ゴドオを待ちながら」を上演することによってどういう意味がありますか？

ぶっ飛んだ問題である。まず戦火に苦しんでいる子供に食べ物や薬を与えてやれよ、と思う。

しかし、この問題は少し考えさせられた。戦場というのは極端としても、悲惨な人にとって文学が救いになることはあるかも知れない。あれっ、じゃあ良問なの？分からなくなって来ました。（――；）

## 名古屋飯を考える？

名古屋飯第3弾！

？天むす

海老の天ぷらが具になっているおにぎり。名古屋飯はくどい印象があるかも知れない。私は天むすはさっぱりしたもの、体調が悪い時などでも食べられるという感じである。

天むすは駅の売店などでも名古屋、東海地方では置いてある。強いて美味しい店を挙げると美濃味匠が私は好きだ。

名古屋は他にうなぎのおにぎりなんかもある。名古屋駅の改札近くの売店は意外とたくさん変わったおにぎりがあるので、おすすめです。

？きしめん

私は麺類が好きなので、きしめんも好き！麺が平たいのである。これも名古屋飯としてはさっぱりしている方。

そばやうどんのようにいろんな具材を入れることもある。

私はそんなに好まないが海老の天ぷらを入れる人が多い。

私はむしろ定食ものなどに麺類があると食べやすく感じる。ここは関西と似た感覚である。

？手羽先

私の苦手な名古屋飯。鶏の手羽先を唐揚げにしたもの。食べにくい上、食べる場所が少ない。

これは私のライフスタイルの問題なのだろうが、私の仕事はちょっと一匹オオカミ的で、仕事の後、居酒屋に行くとか忘年会とかが比較的少ない。そのため居酒屋のメニューの手羽先はあんまり食べたことがない。

ところで、名古屋は味つけが濃いらしい。

バイトの大学生で関西から来た子と食事していて私が「これ、ちょっと辛いね」と言ったら、バイトの大学生ヒロくんは「めっちゃくちゃ辛いじゃないっすか！」とびびっていた。

## 昭和浪漫第二章

今日の私は意気込んでいた。

一年に一回ぐらいある「源氏物語」を講義する日だったのである。

しかし！

小学生の時からやはり教えており、来年、エースとして大活躍してくれるであろうタツヤは意外なほどスラスラと「源氏物語」を読んでいた。

「あらら、出る幕がないですね。訳は出来ても、論理は理解出来ない子が多いのに」

「簡単つすよ！俺は本をたくさん読んでるし！」

「そうですね。あなたはライトノベルを何百冊も読んでいますからね。文学に慣れているんですよ。素晴らしい！」

しかし、賢い子は地雷を踏んだりもする。

「そこで帝はイチヤイチヤしていたんです」

「先生の訳は分かりやすいですけど、何か古いつすね！やっぱり昭和の香りがします！」

「！（、、）」

「いやっ！ちやいます！昭和の香りっていうのはほめてるんすよ！「源氏物語」はもちろん、ヘンリー・ジェームズとかテネシー・ウ

イリアムズとか泉鏡花とか偉大な文学は過去への追憶が本質だった  
っておっしゃってたじゃないっすか！先生の古い言葉は逆に新鮮な  
んですよ！」

「・・・（――；）」

「芸能界を例えに古典を説明するテクニクや、漢詩や和歌を流行  
歌に例えて説明するテクニクも全盛期の『ザ・ベストテン』みた  
いなんて思っていないっすよ！昭和は夢中っす！」

「昭和ナメんなよ！（、・）」

## 本が好きな人

穂村弘さんの「本当は違うんだ日記」があんまり面白かったので、簡単に手に入る文庫になっっているものを全部手に入れた。

いろんな面白い要素があるのだが、一つ言えるのは穂村弘さんは本が好きで、本について書いている部分を集めるだけで、一冊になるぐらいである。そして読書好きだとうなずける部分がけっこうある。

特に思ったのが好きだからこそ読まなくなる本があるということところである。

あまりに好きで内容を覚えてしまうということと、読んだ時の精神的なショックがよくも悪くも大きいらしい。

穂村弘さんにとってのそういう作品は大島弓子さんのマンガだそう  
だ。

また穂村弘さんが主張されるには読みやすくよく読む作品というのがあるらしい。

これも分かる。

「源氏物語」は私は意外と読み返していない。一回で読みとった内容が衝撃的だったからだと思う。

逆に「百人一首」とそれに関する本は何度も読んだ。読むと何か落ち着く。また軍記ものも何か好きである。戦争は嫌いだが、軍記ものを通した人間ドラマが好きなだろう。

また穂村弘さんはよく買ってしまう本というのも挙げていらした。これも分かる。私も古本などで、二冊買ってしまった本がある。岩波文庫の名作が多い。読まなきゃという気持ち強い訳である。

私は本を読むことに関しては貪欲である。なかなか飽きないと思う。まだ読みたい本がたくさんあって、先が楽しみだ。



## 巨編(うそ)・日本の未来を憂える

私は生徒のあら探しはしていないつもりである。

今から書くことは生徒が悪いというより愛知県の教育委員会や親世代への怒りである。

最近、かなり成績が優秀な生徒でもなかなか大人っぽく振る舞えない子が多い。私が言うのも自爆という感じだが。(――)

特に思うのがスケジュール管理とメールの作法である。

成績優秀な生徒はいろんな予備校や塾をやっていたり、習い事もやっていたりすることが多い。それ自体はかまわないのだが、「〇〇日は休みます」と素っ気なく書いて、ボーツとしている子が多い。

「〇〇日は欠席するので、日に代わりの講義をして下さい」とちゃんと说不い子が多い。

そういう子は親さんがスケジュールを管理していて、自由がない面もあると思う。

また学校のスケジュールに追われて、なかなか思い通りにならない面もあると思う。

しかし、大学受験では自分である程度スケジュールを管理して、自分で勉強の計画を立てて、自分のペースで走らないといけない。

学校は最低限、最大公約数のことは教えてくれるけど、難関大学を受けるには自分で各大学のことをよく知ってる、専門的知識のある「先生」について、自主的に学ぶことが必要である。

それこそ暴論に近いけど、今、学校の言いなりになっている生徒や親さんを見るともどかしく思う。

私ぐらいの頃までは学校は難関大学受験の生徒の足を引っ張ったりしなかったと思う。また生徒も適当に手を抜いて、しかし、やるべき時はやっていた。

社会全体が管理され、しかもそれに逆らう生命力、反逆心が失われているようで非常に不安に感じる。

私はちょっと横着な生徒や、やんちゃな生徒が好きである。そういう子は無茶をして傷つきながらも生きることが本当に感じとるだろう。

優等生の子はもつと型を破って生きて欲しい！坂口安吾も言っているでしょう。生きよ！堕ちよ！

私はパッパラパーだけど、自分を生きている。

生きにくい時代かも知れないけど、ただ一人一人が心を開いて素直に生きれば、社会がよくなるよ！これは私の遺言？？？です。

「優等生と呼ばれて長き年月をかつとばしたき一球が来る！」  
（俵万智）

## 「ペルシャ猫を誰も知らない」

映画を観ました。忙中自ずから閑有りとはよく言ったもので、今日は生徒が体育祭で休みだったので、教材に目を通す。受験までの一番忙しい時期のスケジュールの会議や打ち合わせ。そういう中で仕事を頼むメールや電話がたくさんあり、目が回りそうです。

しかし、そういう中でも空き時間に映画館に「ペルシャ猫を誰も知らない」を観に行き、また理系の先生とお茶を飲みながら、歓談。夕方になると体育祭が終わった生徒が帰ってきて、彼女出来たと話していたり、ヒデキが生傷だらけになっていて、ギャーと思ったり。

次から次にいろんなことが起こることを充実というのなら、私は充実して生きています。

「ペルシャ猫を誰も知らない」はイランのバフマン・ゴバディ監督の映画でした。

西洋文化が厳しく禁じられる一方、若者が自由や民主化を求めるイランで若者たちが何とか権力の目を盗んで、ロックやラップをやったりする話で終盤は特に面白かったです。実はアラビア人の名前や顔が分かりにくいので、なかなか作品に入り込めなかったのですが、分かってきたら面白くなって来ました。

映像センス、カメラワークに非常に独創性があり、びっくりしました。

今日は本当にへへへへです。

## 「マイ・ブラザー」

今日も仕事の休憩時間に映画を観ました。

巨匠ジム・シェリダンの新作「マイ・ブラザー」です。

素晴らしい作品でした。これも今年のベストワン候補です。

オチなどを楽しむ作品ではないのですが、あまり核心のことは書かないようにします。

ジム・シェリダンは日本ではそんなに有名ではないのですが、ダニエル・デイ・ルイスを発掘した「マイ・レフト・フット」、ジャイモン・フンスーを発掘した「イン・アメリカ」など発表作はアカデミー賞はもちろん、映画関係者からは非常に高い評価を受けており、新作も今までの総決算的な傑作でした。

ただ、アメリカの最近の戦争を全面的に否定・批判した内容なので、一切の賞はノミネートもされていません。（去年でいうと「縞模様のパジャマの少年」もそういう傑作でした。）  
しかし、素晴らしい作品です。

「スパイダーマン」のトビー・マグワイア、「スターウォーズ」のナタリー・ポートマン、「ブロックバックマウンテン」のジェイク・ギレンホールと、比較的若い役者で、演技に定評のある三人のアンサンブルが美事！

軍人で英雄である兄、劣等感の塊の弟、そして兄の妻と幼い娘たち。

ところが、兄が中東の戦争で死んでしまい、弟は兄嫁とめいたたちのために尽くし、初めて生きる意味を感じ、遺族たちは弟の優しさで再生していきます。

ところが、そこで死んだとされた兄が生存していたと分かり、帰ってくるのです。三人はどうなるのでしょうか？（淀川先生風）

感心したのは子供の描き方。ジム・シェリダンの作品は子供の目に映る大人というのが一つのキーワードなのですが、子供は決してキレイ、可愛い存在でなく、時に大人を激しく批判し、大人の幸せを脅かす存在です。その人間への眼差しがすごい。そしてそれがかなりきついことを描きながら下品にならない気配りの行き届いた演出が素晴らしい。

ジム・シェリダンのもう一つのキーワードは狂気なんですね。しかし、それはサイコサスペンスみたいなおもちゃでなく、やっぱり描き方が巧妙を極めているから観ていると本当に手に汗を握ります。トビー・マグワイアが戦場から狂人になって帰ってくる兄を演じているのですが、鬼気迫るものがあります。どこがどうと言うのは難しいのですが、例えば深夜、トビー・マグワイアが眠れずガラスのコップを何度も何度も食器棚に置いたり、出したりしているのがじんわり怖い。

最後がハッピーエンドか否かは是非、劇場で観てみて下さい！緊張感の途切れない作品で、全く飽きが来ませんでした。エンドロールが終わるまで一人の観客も席を立ちませんでした。

## 言葉・ことば・コトバ！

ちよつとかたい話から始めるのですが、私は言葉と文学の専門家として、方言の話なんか敏感です。

ある先生の活動報告が楽しいのですが、それにくわえて、名古屋弁が非常に上手いんです。そこにうなりました。

実は東海地方のように人口も一千万以上で、面積も広いと実は方言も多様だし、方言研究には本当は厳密にはいろいろルールがあるんです。ただ学術論文を書く訳ではないので、この文章の中の名古屋弁はおおざっぱなものを考えて下さい。

実は私は東海地方と近畿地方の重なりあう大垣に住み、名古屋中心で仕事をしているので、気づいたのですが、大垣は京都と結びつきが深く、自分の言葉は京言葉に近いんですね。だから生徒の名古屋弁を完全に上手く再現出来ないです。

生徒で名古屋弁が強い子は祖父母と暮らしている子、また代々、名古屋に住んでいる子が多いです。

そこで困ったものがカズマで、カズマは何故か標準語で話しているんです。理由はカッコつけだと確信します。

ただアナウンサーをやっていた先輩によるとカズマと自分が標準語



のつもりで話しているのは、全然装えていないらしいです。

私はそのことは自覚しています。一文字の単語をハキツと発音出来ないから。木とか血とか実とか。

逆に「ちゃうんとちゃうるか」みたいなやわらかい言い方は得意です。

## ハロウィンのカボチャ

先輩「Kくんはハロウィンのカボチャに似ていますね」

K「＼（、O´ /キック！俺、彼女いますよ！」

先輩「ゲーム機の中にいる女の子でしょ。はんかくさい」

K「学園祭の時にナンパした女の子ですよ！o（、へ´）      パンチ！」

私「Kくんはカッコよくて、頭がよくて、面白いですもんね」

K「今、整えるのに夢中なんですよ。」

お日さまとかけてバイクととく、その心はハーレー」

「キモいオタクとかけて沈みそうな船ととく。ナンパせん」

先輩「自分のこと言ってる。ブフフ」

K「コーヒーとかけて歴代総理ととく。その心はサトウがあります」  
「夏休みとかけてアイドルととく。その心はファンが欠かせない」

先輩「整えるセンス、ゼロですよ。そんなに整えたかったら日本と中国の間でも整えてたら」

ケンゴたち「ギャーハハハ」  
私「（ー；ー）」

## 修学旅行のグループ分け

私は小学生の生徒とも友達感覚でおしゃべりに夢中になっているが、ききずてならないことを聞いた。

クラスで人気のある男子と女子が「修学旅行、同じグループで行こうね」と約束していたのに「人気のある子でグループを作るのはズルい」と異議が出て、約束していたグループはバラバラにされ、嫌われものの子との混成グループを組まされたという。

小学生の女の子には「いやな子もいいところが見つかるかもしれないよ」とアドバイスしたが、何か変な感じ、わだかまりが残った。

修学旅行のグループなど生徒に任せてやればよいのではないだろうか。そういう人間関係を通して、子供も生きることや人付き合いを学ぶものなんじゃないかと思う。

またどうしても仲間に入れない子や、不自由な子がいる時は先生が生徒会長の子にめんどろを見せたり、知恵が昔はあったと思う。今はそういう知恵も働かないのだろうか。

かく言う私だけど、私は集団行動が苦手な子で修学旅行は苦手だった。でもそれも人生経験だったと思うし、高校の時はとても楽しい修学旅行だった。

よかったら感想なんかにお気軽に寄せて欲しいけれど、修学旅行のグループ分けて先生が決めるものでしたか？私は昔は自由だったと思うんだけど。

## ノーベル賞おめでとうございます・マリオ・バルガス・リヨサ

私はニュースについてはほとんど意見を言わない。別に言うに価する意見も知識もない。ただ、今日10月7日、ノーベル文学賞について、ちよつと書きます。

マリオ・バルガス・リヨサ（スペイン語では正しくはジョサというのですが、全ての新聞やニュース番組が「リヨサ」と表現しているので、このエッセー集でもリヨサと書きます。）のノーベル賞受賞。これほど驚き、嬉しかったニュース、最近なかったです。

リヨサは南米の偉大な文豪でしたが、ノーベル賞はないと私はあきらめていました。

日本では左翼、共産党系の人々が芸術や報道をやっていて、政治家や経済界は保守で対立（本当は共存？）しています。

ところが、南米では左翼知識人や左翼政治家の力がとても強く、テロなどもあります。世界的に一番有名な南米作家ゲイブリエル・ガルシア・マルケスは（一応、引退した人ですが）キューバのカストロ議長と二人三脚で頑張つて来ました。

しかしリヨサはマルケスを激しく批判し、左翼の独裁じゃない民主国家を作ることに関心と正義感を燃やし、ペルーの大統領選挙にも出ました。ちなみに作家としては反則なほどハンサムです。それはさておき政治への発言が強く、南米という地域で孤立しているので、ノーベル賞はないと思っていたのです。

マルケスとは政治的対立からパイプ椅子で殴り合うぐらい対立。それぐらい情熱や正義感を持った作家や政治家が日本にいるでしょうか？そんなに熱くなるなんて危ないとかせせら笑うんじゃないでしょうか。

でも、そうやって現実の激しさを見つめ、人間と戦争と宗教を見つめた人間がノーベル賞を取るんです。訳の分からん妄想を書いて、腹黒いマスコミに起こされた集団ヒステリーで騒いでいるような奴、村上春樹と奴の読者にリヨサをおすすめしますよ。二度と春樹を読む気はなくなるでしょうね。本物だけが持つ輝きがあります。

私は大学時代、原稿用紙数千枚になるだろう超大作「世界終末戦争」を読み、感動のあまり、「都会と犬ども」「緑の家」「ラ・カテドラルでの対話」などは全部、大学の図書館で読みました。またお金をはたいて、古本でリヨサの本を揃えました。

でもノーベル賞をきっかけに全ての作品が復刻されること、それによって自分のコレクションの値段が暴落することを心から望みます。日本人が偽物の作品を読むのをやめる大きなきっかけになることを心から願います。

リヨサ万歳！

## ヴッパータール交響楽団

私はクラシック音楽のコンサートに行くのが好きです！

今日も仕事の後、ヴッパータール交響楽団のコンサートに行きました。ヴッパータールというのはケルンに近いドイツの街です。

今日の曲はドイツ！でした。

ワーグナー「ワルキューレの騎行」「ジークフリート牧歌」  
ベートーベン「エロイカ」そしてモーツァルト「ジュピター」第4楽章。

ところでクラシック音楽の作曲家はぶっ飛んだ奴が多いです。

「ジークフリート牧歌」は神話のジークフリートじゃなく、ワーグナーが妻のコジマと息子ジークフリートにクリスマスプレゼントとして作った曲。すごいプレゼント。

しかし、上には上があり大富豪メンデルスゾーンは12歳までにあらゆる古典を勉強し、晩年のゲーテとも丁々発止の会話をしたそうです。誕生日プレゼントはオーケストラ。(・ー・;) )

メンデルスゾーンはお抱えオーケストラを使って曲を作ったのです。

日本人は真面目だから、ベートーベンやモーツァルトが貧しく生き



ながら、頑張ったみたいなストーリー作りが好きですが、芸術家にはけっこうキャラ者<sup>もん</sup>が隠れていますよ。

## 修学旅行のグループ分け・レポート中間発表

さて、修学旅行のグループ分けについて、小学生の女の子に話を聞いて、エッセーに書いたのですが、生徒や先生に尋ねてみたところ、いろいろ予想外な反応がありました。ご意見を下さった方には改めてお礼を申し上げます。

まず私が受け持っている生徒で、高校生の子は概して、グループ分けは自由にやらせてもらえたという意見が多かったです。

比較的、田舎に住んでいる子が多かったからかもしれません。

あっちゃんかヒントをくれたのですが「仲間外れが出たら先生がグループ分けするよ」と言われて、上手くやれたという話を聞きました。この先生は「君臨すれども統治せず」の知恵があります。大いに参考にしたいです。

ベテランの先生や大人の方によると学校の先生が完全に主導権を持つて、グループ分けをするのも少なからずあるそうです。

私は作品なんかも見てもらっているのですが、私のさりげない一言にポイントが隠れていたらしく、昔は生徒会長などがあぶれた生徒のめんどろを見ていた、という辺り、今の学校では通用しないことも多いらしいです。生徒自身が他の生徒を気づかう余裕がないと聞き、非常に哀しい気がしました。

大人の意見のさらに上に行く意見があり、Kくんが小学生だった時は学級が崩壊していて、先生がグループ分けしようとしたのを生徒

が拒絶したり、「誰々が入るなら暴れる」など荒廃していたそうです。（――）

Kくんの小学校は今日までに聞き取った中では一番名古屋の中心にあるところだ。

グループ分けがおおらかだったという子は比較的田舎に住んでいる、身近に老人が暮らしているという傾向がありました。

調査数が少ないので、一概に言えないですがもやもやと私が感じている傾向は言えそうな気がします。

私は生徒に勉強を教えることに絞りこんだ仕事ですが、なるべく人に親切にするとか最低限の生き方のマナーは伝えたいです。

それにしても、学級が崩壊しているというのを聞くと非常に哀しいです。日本という素敵な国がどうしてそんな風になってしまったのでしょうか？（――）

## 悪魔のような女

タイトルは往年のフランス映画から拝借し、他意はなし。

10月になるとさすがに生徒も進路を決めないといけません。

あっちゃんは優秀で、あまり手はかかりません。

夢「まゝ、君はご親戚の地縁とかあるし、大阪か京都の医大に行きなさい。ずっと名古屋にいた君は東京は向いていないでしょう。東京のグレた子は本当にグレていますからね」

あっちゃん「（――＃）偉そうな。東大に不良おったの!？」

夢「そうですね・・・」

同級生の顔を思い出すとみんなホエホエとしてアホみたいな子だった。童貞率も高かった。

夢「不良・・・不良・・・不良らしい不良はいなかったけど、同級生の女の子が出版社か、教育関係の中小企業にバイトに行つて、そのオヤジの愛人になつてね、わ子様、男の赤ちゃんを出産して、もとからいた奥さんを追い出して、妻になつたつていう子がいましたね。ありますね、人が生きています」

あっちゃん「ねえよ!（、、）」

Kくん「その女はきれいだったんすか？」

夢「そうでもないから不思議なんですよ。ああいうのは魔性ですよ」

のんちゃん「こえ〜」

世の中にはいろいろな人がいる。

いろいろな出会いがある。

だから怖いと心を閉ざしたくない。面白いと思う。また明日は何かに出逢うため街に出かける。

「今日もまた街に出かける道端の素敵な歌にめぐり逢うため」(愚詠)

光源氏はヘンタイか？

教科書で必ずやる「源氏物語」

しかし、これは教科書でやるような作品なのだろうか？（・・・・・）

タツヤは正義感が強く、厳しい批判派だった。

「源氏は12歳で年上の従姉・葵と結婚してやりまくり（？）で、うらやましい、じゃなくて、ふざけてますよね」

夢「愛の英雄ですよ（＾Ｏ＾）」

タツヤ「17歳の時は空蝉、軒場の荻、夕顔を次々お持ち帰りですよ。人間の屑ですよ！しかも夕顔は源氏とえっちしている時に死んじゃって押尾学も真つ青ですよ！（、・・）」

夢「偉大な人間の悲劇ですよf＾＾」

タツヤ「18歳の時に10歳の紫に目をつけて、ストーカーを繰り返し、自宅をのぞきこみ、大人になったら上玉になると思って結婚したり、キモいっす！いなくなつて欲しいです！」

夢「でもこの狩野派のさし絵なんかロマンチックですねー」

カズマ「俺は源氏の気持ち分かるな。俺もママが大好き！好きな女の子はママに似た子だし。ママのことはユカちゃんと呼んでるし」

夢」――「お前もちょっと夢や愛を求めるのをやめてみ  
ちゃどつだっ」

## ショパン・イヤー・シプリアン・カツアリス

今年はショパン生誕200周年で、ショパンをテーマにしたコンサートが盛んに行われています。私も度々、足を運んでいます。

今日、ラファウ・ブレハッチという若者のコンサート、この前の日曜日、シプリアン・カツアリスというちょっと通な人のコンサートに行きました。

シプリアン・カツアリスは比較的明るく軽快な曲を選んで、弾いていました。

フランスの方なのですが非常にサービス精神が旺盛でクラシック音楽のコンサートですが、英語と日本語の片言で観客に話しかけたり、非常にフレンドリーでした。

クラシック音楽とは堅苦しいものではなく、生まれた時代にはその時代の人々のエンターテイメントだったのだ、という静かな信念が軽やかなメロディから伝わってきました。

そしてアンコールではゴットシャルク、マルチェッロなどの曲をやり、ショパン・プログラムではなくなったのですが、かえってすごく感動しました。

またチャイコフスキーの「秋の曲」もやり、時候にもかかっていきます。



大満足のコンサートでした！

## ショパン・イヤール・ラファウ・ブレハッチ

さて、今日はラファウ・ブレハッチという若者のコンサートに行きました。

ラファウ・ブレハッチはショパン・コンクールで優勝したピアニストですが、私（33歳）より若い。（――；）25歳です。

ラファウ・ブレハッチはクリスチャン・ツィメルマンという現代最高のピアニストの弟子です。

そしてツィメルマンはカツアリスと違い、すごく厳しそうな人でコンサートも厳しい雰囲気、はつきり言って殺気みたいな感じになっています。それがイヤな感じにならない圧倒的な力量をツィメルマンは持っているからいいのですが。

その弟子なので、ブレハッチは技術もすごく上手く、真面目な感じでした。ところが私もそうだったのですが、秋花粉で苦しんでいる人が多く、ちょっと客席がなかなかあったまらない。

しかしアンコールで「英雄ポロネーズ」を弾く辺りで、お客さんもだいぶあったまりました。

クラシック音楽の曲は演奏家によって、すごく変わります。そこが魅力です。

明るい人も素敵。真面目な人も可愛い。みんな違ってみんないい！

## 修学旅行のグループ分け・完結編

さて、修学旅行のグループ分けですが、一週間の聞き取り調査で、だいたい分かりました。

グループ分けを先生がやるか、生徒が自主的にやるかは学校や先生の傾向にもより、分かれるようです。

生徒が自主的にやれる学校が増えて欲しいし、生徒にもしたたかに行動して欲しいです。仲間外れの子を作らず、上手くグループ分けをしてみてください！

以下、聞き取りの中で面白かった話を書きます。

北海道の出身で、寄宿制の学校に通っており、週末勉強に来ているえりりんの話。

北海道は小学校の時は修学旅行は北海道内。

中学は南の方に住んでる子は東京に行くが札幌のえりりんは東北へ。川下りをし、川の対岸にある神社に石を投げ込み、願いをかなえるというおまじないをやっている時、男子の投げた石が眉間に的中。出血！

サバイバル修学旅行！

私の高校の時の修学旅行は長崎周辺でした。吉野ヶ里遺跡やハウステンボスに行き、長崎市内自由行動の日がありました。もちろん仲

のいい子でまわっていました。うちの高校は野球部がカッコいい子が多く、ナンパをして、カラオケボックスに行っていました。野球部の子はそれが発覚して修学旅行から帰ってきた後、丸坊主にされていました。

高校生ぐらいだと旅行よりカラオケがよかったのかも知れないけど、ちよっともつたいない気がします。

修学旅行にこれから行かれる皆さん、楽しんできて下さい。

## 谷川型と寺山型（・・・）

私は文豪・谷川俊太郎をずっと怖がっていた。

谷川俊太郎は穂村弘が誰かに雑誌の対談で言っていたのだが、ある意味すごい生涯をおくっていた。

谷川俊太郎によると谷川俊太郎は哲学者で法政大学の学長・谷川徹三の子供として生まれ、親に愛され、裕福に育ち、勉強も出来て、不幸というものを知らない。そう豪語するのである。

そして不幸、差別、怒り、怨念などを原動力に大活躍していた寺山修司について、全く理解出来ないと豪語していた。

寺山修司。青森の極貧の辺境に生まれ、父親は戦死して会うことなく、母親は戦後、米軍基地に働きに行った。修司は親戚の映画館の屋根裏に住まわされ、スクリーンからさまざまなことを学んだのである。自殺未遂も何度かあり、体を壊して死んでいった。その作品は全世界で高い評価を受けている。

谷川はそんな寺山のことを「気の毒に思ったから助けてあげたけど、不幸とか作品は全く理解出来ない」と言っていた。

それで私は谷川俊太郎は人間の気持ち全然分からない恐ろしい存在のような気がして、作品を読んで来なかった。

ところが、先日、谷川俊太郎のベスト版の詩集を先輩の先生が貸して下さったので、読んだら、あれっ？意外とすごくいいのである。人間の負の面を知らないというのはハツタリじゃない本音なんだと分かった。おおらかな人間と世界への讃歌がそこには描かれていた。素直で、心地よい、確かに寺山とは違う世界である。

しかし、自分は寺山型だからな、と思っていたら、のんちゃんに「先生は谷川型です」と言われた。(・|・) エッ……………？

## 引っ越ししました

私事ではございますが、引っ越しました。

受験シーズンが近づいてきたので、駅に近いところにいた方が楽かな、というのが一つ。

大垣はすごく寒いので、より暖かい家に移りたかったというのも一つ。

あと先日、粉瘤になったので、前の家がいけなかった訳でもないかもしれませんが、環境を変えたくまりました。

実は前に住んでいたのも祖父母の不動産で、今回も祖父母のマンションに手周り品だけ持って引っ越しました。

夜、電気を消したら、以前住んでいた弟夫婦が天井に星座が光る仕掛けを作っていて、ムズムズしました。いい年して。

昨日、駐車場の周りで水道工事をやっていたので、夜、自分で運転して本当に簡単なものだけ、運びました。今日の午前中、また少し荷物を運びました。

引っ越しでまた新しい気持ちで活動していきたいです。

秋花粉には負けぬ！



## 宇野亜喜良展（・・）

日常の中にとんでもない非日常が混じってしまうことがある。

三連休中、私は仕事をしていました。祝日に刈谷という名古屋より東の工業都市に行きました。そこに刈谷市美術館というのがあります。

小ぢんまりとした美術館で今までも地元の素人画家の絵が飾ってあったりしました。

ところが、今回は無料ではなく、有料の企画展として宇野亜喜良展をやっていました。

宇野亜喜良。現代日本美術の巨匠。

商品の広告などを手がけるイラストレーター、デザイナーとして出発しながら、ありあまる才能で幻想的な絵に進出。特に寺山修司との出逢いで才能を爆発させ、エロティシズムとグロテスクさをたたえた力作を次々生み出す。

それで刈谷市はけっこう活気のあるところで、若い家族連れや、微妙な年代の子供が来ていましたが・・・美術にも映画やコンサートのように年齢制限を設けなきゃダメですよ！（、へ、）

宇野亜喜良のエログロの絵を見て、あえいでいた少年、道誤らない

かな？（－|－）

世間の人は芸術を甘く見ていますが、本当に優れた芸術には毒も闇もあります。また芸術作品をエロティシズムの目線で見るとおかしくないこと。三島由紀夫は自身の作品を「春本」として読んでいる人がいると喜んでいました。

宇野亜喜良展は作品の質も高かったし、展示もセンスがありました。例えば宇野亜喜良が装丁した本を集め、並べ、オブジェを作ったり。美術を観るちよつと玄人の方、ちよつと非日常の世界をのぞきたい方、悪い子におすすめ。フッフ。

## 中島哲也監督「告白」

今年の日本映画の今のところ、ベストワン！ブラボー！

不思議です。欠点の多い原作。ちょっとミスカストではという中島哲也監督。

ところが、そのケミストリーは中島哲也監督の最高傑作に結実しました。

「告白」は湊かなえさんのベストセラーミステリです。内容にふれるので、ちょっと改行しますね。ネタバレが気になる方はご遠慮下さい。

「告白」はミステリとしては粗い、不自然なところがけっこうあります。しかし、面白いのです。

また内容的にも悪人と悪人が闘っているエグい感じです。

もともとテレビCM界で活躍され、映像や音楽のセンスに定評がある中島哲也監督が、こんなドロドロした作品を？と首をひねったのですが、意外な相性は本当にびっくりです！

監督ならではの映像が原作の粗いところを気づかせず、疾走感をた

たえて最後まであれよあれよと観ている者を連れていき、飽きさせません。決して明るい話ではないのですが、悪や不愉快も徹底する  
とある種の感動があります。

もう一つ感心したのが、映画を通してですが、原作者の湊かなえさんは松本清張みたいになるかもな、と思いました。ポイントはトリックなどより犯罪に関わる人間を描くことに力点があること。しかも何となく悪に肩入れしている感じがする。もう一つは犯罪を描きながら時代や文明の記録に作品がなっていること。

タイトルを思い出せないところが私はパーチクリンですが、海外ミステリの古典も上手く下敷きにしていました。

久々に観ててゾクゾクするほど興奮しました！

## 「十三人の刺客」

「告白」のせいでわりをくったのが同じ日に観た「十三人の刺客」これはこれで非常にしつかりした造りでよかったです。ただこの作品も残酷。

「悪人（偽）」という話で稲垣吾郎くんがシリアスな悪役をやる映画があると書いていますが、これです。

予想はしていましたが稲垣吾郎くんは悪役というよりは狂人という感じの役でした。こういう役は目立つので、ちよっと得しています。むしろ市村正親、松本幸四郎、松方弘樹、伊原剛志らが作品を支えているのが印象的でした。

余計な一言ながら、時代劇は怖いな。

髪型やメイクでごまかしている子が不細工なのがバレたりするから。○○くん。

話は稲垣吾郎くんが悪い殿様で、十三人の刺客が天下のため、参勤交代の道の途中に要塞を作り、悪い殿様の軍団を倒し、悪い殿様を亡き者にしようとする話です。

戦闘シーンは迫力がありますが私はちよっと疲れてしまいました。

細部がリアルなのに話がめちゃくちゃなのが監督の確信犯なのでし

ようが非常に不思議な感じでした。

また奇想天外な映画ながら結末はわりと予想通りなのはちょっと食  
い足りなかったです。

でもホラーに近いバイオレンスが見られるので、そういうのが好き  
な人にはおすすめ？（\*―\*）

## 文藝賞と盗作

シリアスな話題はほとんど書いていない私だが、昨日、文学の世界に大激震が起こった。

河出書房新社の文藝賞が受賞作が盗作だったため、今回は該当作なしになったのである。

さらに印象的だったのは盗作の対象はインターネット上の内容で、受賞予定だった方は盗作をしたという意識もなかったらしい。

私は文学の方とはかくインターネット上のことはよく分からない点もあるが、この事件には強い印象（もちろん悪い意味だが）を受けた。

河出書房新社の文藝賞は非常に意欲的な賞で、男女とも最年少の受賞記録は文藝賞が持っているはずだ。

また内容も斬新なものが多い。

だから受賞予定作も今までの常識的な文学作品からはみ出すものだったのだろう。

そういう作品を探す意欲は尊いが盗作を見抜けなかったのは惜しい。

とはいえインターネット上には膨大にテキストがあふれていて、盗作かそうでないかを見抜くのも、きつと難しいだろう。

今の私は身の回りを書いているだけだから、盗作のされようもないが、こういうことがあるとインターネット上には作品を出せないとちょっと恐ろしくも思う。

特に今回印象的だったのは受賞取り消しになった人が「インターネット上の作品に著作権があると知らず、盗作の意識がなかった」と言っていることである。

インターネット上の作品だって作品に決まっているだろう。新聞などの上品な報道では何をどれくらい盗んだかよく分からず、もどかしい。週刊誌などが詳しく真相を追求することに、今回はかりは期待している。

本当は文学に敬意を持ち、真面目にしていれば、盗作などするはずがない。

そういうことをする人はどこか人間的に歪なのだろう。

私は簡単にいろんな芸術観賞の記録をつけているがパンフやチラシを丸写ししたことはない。それでかえって拙い表現になっているかも知れないが、そういうのも含めて味、個性であり、私なりの誠実さを貫いている。



## ストラスブール美術館展

今回はダメ出しです。

地元・岐阜県美術館でストラスブール美術館展を観賞しました。

外国の美術館のコレクションを借りる展覧会ですが、久しぶりにこういう美術展を観ました。いい意味ではないです。

外国の都市の名前を冠した美術展は時々、内容がいかがかと思われる時があります。昔、もうちょっと景気がよくデパートが美術館をやっているころはよくこういうのがありました。パンチの弱い絵が多いのです。

周りの人はきれいな絵と満足しているようでしたが、私は物足りなくてムズムズしていました。

本当に優れた芸術家の作品は荒々しいほどエネルギーや個性があふれているものです。

そういう熱気がありませんでした。

ピカソ、グラマンク、モネなどちょっとだけありましたが質的に疑問・・・

以下、美術館を観るコツをちょっと提案ですが、どうしても一つの

美術館や誰かのコレクションの展覧会はいろんな作品を観られると思いがちですが、私は一人の画家中心の展覧会をおすすめしたいです。世間的には無名でもまとめて観ると画家の個性がひしひしと伝わって感動することが多いです。グラマンク、モランディ、キスリング（みんな超一流ですが）などは個人特集の展覧会でファンになりました。

どんなジャンルの芸術でもそうですが、埋もれた傑作、天才がゴロゴロしています。感性のアンテナを広げて、そういうのをキャッチしていきたいです。

## あいちトリエンナーレ2010

美術の話題がちょっと多くなっているのですが、一つよろしく。

それも今、愛知県であいちトリエンナーレ2010という行事をやっている、東海地方では美術ブームだからなのです。

あいちトリエンナーレ2010は名古屋の中心部の美術館だけでなく、街中にアートの空間を作り出し、街中を祝祭の空間にしようという行事です。

不景気な時に、という批判もあったのですが、意外と始まるとたくさんのお客がやって来て、盛況。うれしい誤算です。

昨日、名古屋市美術館と愛知県美術館の会場に行きました。

愛知県、名古屋市はもともと前衛アート作品の展示が多いです。

これは私の推理ですが、伝統的作品で優れたものはやはり首都圏と近畿圏が先に所有していたからでしょう。

だから前衛アート中心のあいちトリエンナーレ2010も比較的に受け入れられたんじゃないかと思います。

名古屋市美術館の会場は美術館の空間全体がアートになっていました。

愛知県美術館はもう少し初心者向けで、前衛アートの巨匠草間弥生や若手の注目株志賀理恵子など比較的有名な人の展示が多かったです。

おっ！と思ったのは撮影をすることが許された作品がいくつもあったことです。（普通は許可されない）

またミュージアムグッズがいろいろ作ってあって、販売されていたのも楽しかったです。

ノートを二冊買いました。

東海地方の方にはおすすめます。

## ファンキー雛忌

教科書に載る話はけっこう偏っている。古典もそうである。そして面白くない話が多いが、たまに当たり、面白い話がある。それを紹介したい。あゝ、読んだことある、という方も多いと思う。

漢文では「論語」「史記」などがよく教科書に載るし、比較的、勇壮で面白い話がある。

しかし、今回、紹介したいのは中国史上サイアクのナルシスト雛忌のアネクドットである。ちなみに私のおちよくったダイジェストではなく、本文を読みたい方は「戦国策」という作品に載っております。

春秋戦国時代、後世、正義がなかったという乱世であり、人々は生き残りをかけてしのぎを削っていた。

その中、斉という大国に雛忌という男がいた。その心のねじけぶりは狂人と言ってもよかった。

雛忌は自分はハンサムと思っていた。

（カズマみたいですねゝ、とつかみを入れる。）

しかし、徐公という男が雛忌よりハンサムだと噂を聞いた。雛忌は幾晩も寝苦しい思いをした。

ナルシス雛ちゃんに妻に尋ねた。

「俺と徐公はどっちがハンサムかな？」

妻は雛忌を痛々しいと思った。しかし、言った。

「あなたに決まっていますよ」

パーチクリンの雛忌は妻はえこひいきをしていると思い、愛人を呼び、尋ねた。

「俺と徐公はどっちがハンサムかな？」

愛人は雛忌を疎ましく思った。しかし、言った。

「あなたに決まっていますよ」

疑り深く、自己愛は弱さの裏返し、雛忌は愛人は媚びていると思った。

その翌日、地方から陳情にやってきた客がいた。雛忌は常識にも尋ねた。

「俺と徐公はどっちがハンサムかな？」

客は心の中で腹をかかえた。しかし、陳情が大事だったので、言った。

「あなたに決まっていますよ」

雛忌は嘘つきで卑屈で醜い人間特有の鋭い勘で自分が馬鹿にされていることに気づいた。

雛忌は鏡に顔を映した。

（鏡に顔を映すのがまた気持ち悪いですね、というドッカーンと

ウケる。」

そしてやっぱり自分はハンサムじゃないと絶望する。

実はこのアネクドト（エピソード）は中国語の比較を勉強するための単元なのだが雛忌の異常性が強く心に残ってしまう。

三人が雛忌に「あなたが美しい」と言った時、どういう気持ちでしたか？という問題がついており、答えは「媚び」「へつらい」なのだが、「痛い」「寒い」「ウザい」「カズマみたい」「いじめられそう」などと余白に書いて、丸をつける。

あなたの周りにもいませんか？こういう足りん子ちゃん。

## えりりんに会いたい

えりりんが教室にやって来た時、左手の薬指に指環をしていた。

夢「あの・・・その指環、意味分かってんの？（＾０＾；）」

えりりん「やだー、分かってますよー！今は彼氏がいたらするんですよ（＾０＾）」

夢「あら、そうなの」

そういえばカズマもモデルの女の子にクリスマスに指環を贈ってた。フラれてたけど。

ちなみにヨーコたちは「モデルとか言ってもピンからキリまでいるんだよ！田舎のスーパ－のチラシに載っている子だってモデルなんだから！！」と言っていた。妬みだろう。

ところで私はミステリの本も好きだし、何かこの仕事の長年の勘も鋭く、

「彼氏つてもしかしてミチヒコじゃないの？」

「えっ！どうして分かるんですか？」

「あなたの学校とミチヒコの学校は女子高と男子校で部活なんか合同だから。私の生徒は目指している目標も似通ってるし」

「すごい」



受験生でもエンゲージリングして恋しているなんて素敵じゃない。  
頑張ってね！

「終バスに二人は眠る紫の降りますランプに囲まれながら」(穂村弘)

## 宇野千代最強伝説

宇野千代。おばあさん。しかし、日本で女として最初にいろんなことをなしとげたと自分で豪語する宇野千代さんはただのおばあさんではなく、非常に圧迫感がある。

教科書で「檸檬」がよく取り上げられる梶井基次郎の全集の最後に宇野千代さんが寄稿している文章もあまりに面白いので、紹介することにする。

ご存知の方も多いと思うが梶井基次郎は短い生涯を駆け抜けた天才だった。全集も文庫本一冊の量である。

その天才梶井は「私のことが好きだった」と宇野千代さんは豪語する。（――；）

全集に寄せる文章を書くため、かつて梶井と滞在した村を数十年ぶりに訪ねるとその長老の女性が「宇野千代さんが昔、村にやって来たことは語り草になっている。この村では宇野千代さんほど美しい人はいないと人々は語り継いでいる」と感激していた。と宇野千代さんは自ら記録している。

日本芸術院会員、勲三等受賞、菊地寛賞、野間文芸賞などたくさん受賞。（しかも女性として初のことが多い。）「ホントなのかよ！？」とつつこめないアウラをバンバン出している。

そして思い出の村を周りながら「梶井が私を愛していることは知っていたが、私はふった。そのことで梶井は命を縮めたが、私は何も悔いていない」と書ききる宇野千代さん。  
カッコいいい！

男の作家たちが必死に努力しても日本に定着させられないハードボイルドを軽々と実践してしまっている。

強くないと女じゃないんだ・・・（・・；）

## 膾炙

人口に膾炙す・膾はなますという料理。炙はあぶり肉。焼き肉。それは多くの人の口に合う美味しい食べ物であるように多くの人に人気があるという意味で用いられる。「福山雅治さんは老若男女の人口に膾炙す」

私「炙というのはね、青椒肉絲みたいな料理なんですよ。でも私、学生の中からこの言葉に疑問持ってたね、私、青椒肉絲が嫌いなんですよ」

K「あつ！俺もそうです！クド系がダメなんですよ！」

私「そう！やっぱり自分たちは魂のフィアンセなんですよ！青椒肉絲は筍の食感がまた気持ち悪いでしょ！」

K「ああ、そうです！」

カズマ「（――）ダブルボケの会話だ・・・」

私「私はね、アイスクリームやかき氷も苦手なんですよ。体が弱いから冷たいのダメなの」

カズマ「でも先生、水の氷を珈琲に混ぜてたじやないですか！」

私「あれは冷やしているんじゃないで、冷ましているんですよ！」

カズマ「そういうのを詭弁っていうんですよ！」

K「今、メチャはまっているのはセブイレブンのソース焼きそばです。玉子焼きが載せてある」

私「私も大好き！（＾q＾）」

カズマ「あれ、けっこうクド系だよ。（・・）」

## 盗作の余震

さて、先日 of 文藝賞の盗作が一つのきつかけになったのではと思うが、また盗作事件がニュースを騒がせている。

「詩と思想」、前橋市の詩のコンクール、北原白秋にちなむ詩のコンクールなどなどで受賞を重ねていた中学三年生の女の子の作品がやはり盗作であると父親が告発し、受賞取り消しなど関係者是对応に負われているらしい。

私も少し深刻に考えるようになった。

実はこのエッセー集を作品の形にしているのは退会する以前に活動報告に書いていたことを盗用されたことがあったからなのである。

その人には最初は気持ちを傷つけないように抗議を申し入れたが、非を認めるどころか嘘を重ね、反省の様子はなかった。また私以外の人も似たようなトラブルを起こしていた。

私はある意味、その人が恐ろしくなった。

平気で盗用・盗作などを行い、周りとトラブルを起こし、活動報告では周りをアジェーションするようなことを書いている。そして、それを無批判に受け入れている周りの方たち。

こういう批判的なことを書く私が嫌がらせを受けるかも知れないという臆病な気持ちから私は今まであまり積極的に抗議出来なかった。

しかし、文藝賞の盗作事件をきっかけにネット上の盗作への厳しさが急激に高まっている。

だから私もこれからはそういうことには厳しく対応していきたい。

今までのことに遡及して何かを言うことはないし、名前を出すつもりもない。

しかし、その方は二回めの退会騒ぎ後も私のページを見ている気配もあるので、今後はどうか盗用などはやめて下さいとこの場で気持ちを伝えておく。

今までは活動報告は著作権など曖昧なものという甘えがあったのかも知れない。

常識のある人なら「夢野さんの活動報告に書いてあった〇〇について私も書きますね」とか一言断るし、私もそれを咎めることなどない。

インターネット上の盗作への厳しい対応がこれから強まると思うので、後にトラブルにならないようにほとんどの方にはお聞き苦しいことを書いてしまいました。

すいません。でもインターネットの方にエチケットやマナーを考えること、文学を尊重することを訴えたくて、書いてしまいました。

またシリアスじゃないことに帰っていきます。

## 盗作余話（笑）

あつちゃん「先生、盗作のことあんまり書かん方がええよ」

私「何で？（――＃）」

あつちゃん「自分で自分の首しめる」

カズマ「夢ちゃん、夏休みの終わりに小学生で宿題積み残してる子の読書感想文とか日記、けっこう執筆しているじゃないっすか。あれ、逆盗作でしょ！」

私「（――；）・・・」

カズマ「大学生の論文もけっこう書いているでしょ！夢野色に染め上げて・・・夢野色、地獄じゃん！」

私「無礼者！（、o、）」

のんちゃん「でも盗作って何なんでしょうね？芥川やシェイクスピアが盗作しているなんて言いませんもんね」

私「原典とのブレンド具合でしょ」

のんちゃん「今はインターネット上に載せてないですけど、先生の作品も古典ものでもんね」

私「（――；）」

のんちゃん「現代語訳とかを工夫してるから救いがあるけど」

私「ダンケ！ダンケ！」

カズマ「盗作と言えば、天才美少女事件」



私「ああ、あれね」

拙作「八月のフルーツパフェ」の原型を読んだヨーコが

「これさ、アタシが書いたことにしようよ」

私「はあ？（ ˊ ˋ ˊ ˋ ）」

ヨーコ「先生が出してもさ、話題性ないじゃん！アタシが出したら、天才美少女あらわるって話題になるじゃん！」

カズマ「ぶっ！美少女って言えるのかなあ・・・（。□。）はっ！」

カズマは厳しい罰を受けた。

それにしても周りに友達がいれば、つつこんだり、笑ったりして、最悪の一步を止めてくれる。

一線を越えてしまった人には友達いなかったのかな？（ ˊ ˋ ˊ ˋ ）

## 「ブライト・スター」

イギリスの三大文豪。戯曲はシェイクスピア。小説はディケンズ。詩はキーツである。

そのキーツの生涯を描いた映画「ブライト・スター」を観ました。

キーツは貧しさと無理解の中、25才で結核で亡くなります。今から200年ぐらい前。

しかし、その晩年にファニー・ブローンというフィアンセと短く哀しく、でも満たされた愛の日々を送ります。

その二人の出逢いからキーツの死までの時間をキーツの詩をたっぷり織り込みながら、濃密に描いています。

ブライト・スターというタイトルはキーツがファニーに捧げた詩のファニーの瞳を表す言葉です。

私は不勉強で、映画ではキーツの弟の死がきっかけで二人が出逢い、短い日々で世界で最も美しい詩集「エンディミオン」「ヒュペリオン」などが編まれていくのですが、時系列が史実とは少し違ってもいいかもしれません。

でも映画としてはまとまっていました。

キーツの描く妖精のお姫様と、洋裁が得意なファニーのイメージは重ね合わされ、イギリスの美しい四季と二人の恋は幻想的に描かれます。ラベンダー畑のファニーや、二人の愛を象徴する蝶に囲まれ

るファニーの美しさは必見です。（木村カエラさんのバタフライみたい！）

最近、「〇〇は読んでおくべき」と言い回しが流行っているそうですが、キーツの幻想美はその後のヨーロッパの芸者家に絶大な影響を与えたので、この映画なんか観るのはおすすめです。どうせ観たり読んだりするなら、本家本元を。

またキーツとファニーを苦しめる周りの人間と、二人を守る家族の描き方も秀逸でした。

特にファニーが無知であると古典のことをしつこく訊いてきて、いじめる俗物。

それが本当にいやなやつなんです、そいつからファニーを守ろうとキーツの愛が燃えるのです。

醜いキューピッドだな。（……）

監督はカンヌ映画祭グランプリ監督ジェーン・カンピオン。  
美しい映画でした！

## 荒れる教室

今日、身近で衝撃的な事件が起こった。

教室に私、ベテランの英語の先生、ベテランの数学の先生がいて浪人の生徒のめんどろをみている時、浪人の女の子が「英語の先生が私を見下してる」とか「私はお金を払ってる立場だ」など泣きながら訴えて、暴れており、教室や事務所が非常に悪い雰囲気になりました。

混乱の中で私はベテランの英語の先生に「先生は間違ってる」とお伝えしたけれど、高校が終わった生徒が教室にやって来たので、社長やベテランの英語の先生が事態をどう收拾したかは分かりません。

先輩は普段はKくんはブサイクだ、とかふざけてばかりいますが、私に戒めとして教えて下さったのは、先生というのはどんなに民主的に振る舞っても、何かを知っていて教えるという時、権力が発生する。だから厳しく自己を律して、権力にまつわる責任をしっかりと果たしていくということ。未熟な私はそれをちゃんとやれてないと思うし、自分の教えてる子はいいい子ばかりだから見守ってくれているけど。私は応えられるように日々、必死に頑張っています。

正直なところ、いろんな生徒がいる学校ではいろんな価値観があるので、衝突もありますが、予備校や塾では勉強に絞っている分、あまりトラブルは起こらないのに。（――）

正直なところ、荒れていた女の子は女の子で、何かよっぽど追い詰められているのか気の毒でした。高い目標を持っている子だと、今ぐらいの時期にテストでいい判定が出ないと不安になるかもしれない。

でも、それに耐えて頑張ることはペーパーテスト以上の大事な「勉強」なんだけど。

みんな頑張つて！私も頑張るから！

## 古典の裏道

教科書でやる古典は何でつまらないのか。  
わざとつまらない部分を選んでいるとしか思えない節がある。

例えば「奥の細道」旅立ちのシーンと平泉にやってくるシーンぐらいである。

あんまり面白くない。

そこでいきなりクイズです。

芭蕉は何で生計を立てているのでしょうか？

それを語るだけで楽しくなる。

芭蕉は各地で人々の俳句の集まりに師匠として参加しているのである。

思いきって分かりやすく言うところ各地でカラオケ大会をやり、審査をしながら最後は本人がメチャうまの歌唱を披露という感じである。

そついう強かなジジイだから「奥の細道」全編を読んでいくと、何が風雅だ、大爆笑の連続である。

「みちのくのしのぶもぢずり誰ゆゑに乱れそめにし我ならなくに」

（陸奥にはしのぶもぢずりの石がある。それで乱れた模様をつける衣のように恋に乱れる私の心。誰のせいでこうなったのだろう。私のせいじゃないのに）

百人一首にある歌である。

芭蕉はこの衣に模様をつけるのに使う石碑を見に行く。

すると現地の人々は観光客が石を見に来るのをうざがって、悪ガキたちにより石は崖の底に突き落とされていた。

芭蕉はそれを見なかったことにして去っていく。（ただし記録はしておいた。）

また笠島というところは平安時代のハンサム歌人藤原実方が産土神つばすながみに殺されたという伝説の地である。（史実は民衆の反乱、争いに巻き込まれて亡くなった。）西行が東北に行ったのも実方の霊を慰めるためだった。

しかし、芭蕉が笠島来ると雨がジャンジャン降りだった。ちょっと神社まで行くのつらいな、と思った芭蕉は「笠島はいつこ五月のぬかる道」と句を適当に作り、これでいいでしょ、とサツサツと行ってしまう。

笠島の産土神も何故、この強かなジジイに罰を当てないのか？

一番笑えるのは元気な芭蕉の世話をする弟子の曾良そらが北陸で倒れてしまい、船か何かで運ばれていき、芭蕉のその先の泊まるところには

曾良の「お師匠様、頑張つて！」という息も絶え絶えに書いたお手紙が待っている。芭蕉は元気に俳句カラオケ大会をやっている。

日本古典は長いものじゃない。全文を載せ、先生が自由に料理すればよい。

私の提言です。o(^-^ )o



## ヒップホップ孔子

さて、芭蕉も実像を歪められ神聖視されているが、孔子もそうである。

教科書では「論語」中心に教えているが、これまたつまらないところを選んでいる。

孔子は決して道德の先生ではなかった。

詩。それも教科書でやる芸術的な漢詩ではなく、歌謡曲の詞が好きだった。

好きなジャンルは恋歌である。(・・・)(・・・)

孔子は気に入った歌があると何度も弟子に歌わせ、覚えると自分で歌った。

「庭に桜の花びらがはらりはらりと散っている。お前を愛しく思っているが、街は遠く離れてお前に逢えない・・・」

そこで孔子は言う。

「いいか、お前たち。よく聞かがよい。この男は愛しいが、逢いに

行けないと言っているだろう。だが、本当に愛していたらどんなに離れていても逢いに行くんだよお！この男にはそこまでの愛がないんだよお！お前たちは本当の愛を見つけろよお！」

出た人生説教！（TOT）

孔子に歴史や学問を習いに来てた若者たちは隙あらば恋愛を指南してくるジジイを困り顔で見っていたかも知れない。

でも学校の先生の話でも案外覚えていることって、人生説教の方がも知れない。

また孔子の言葉には真実がある。

私は大学の同級生で大切な子がいた。

しかし、私は地元に戻り、落ち着いたら迎えに行こうと思っていた。その子は結局、結婚してしまった。本当に好きだったら一人前になるまで待つとか悠長なことを言っていたらダメなのかも知れない。また私は横浜の赤レンガ倉庫まで逢いに行ったりしたが、向こうは逢いに来てくれなかった。

滋賀から名古屋に大学で勉強するため来たヒロくんは滋賀に彼女を置いてきたが、半年ぐらい名古屋で過ごして、やっぱり別れのちぎりをむすんで別れたと言っていた。

「論語」は道德の教科書じゃなく、恋愛の教科書にもなる。

## ラジオと文学者

読書週間だからなのか昨日、NHKラジオに二人大物作家が出ていた。

そんなに意図的に聴いていた訳ではないが、やはり文学のことが好きなので、二人の放送を聴いてしまった。

一人は土曜楽市に出ていた渡辺淳一氏である。

もう一人はラジオ深夜便に出ていた川上弘美さんである。

ある意味、当たり前なのだが、いろんな人が聴いているので、二人の生涯を簡単に紹介するのだが、特に心に残ったのはやっぱり川上弘美さんの方だった。

私は初期の短い作品が好きなのだが、作品を出すことに特に読み巧者、玄人からは絶賛を受ける大物である。

少し意外なことに川上弘美さんは幻想味を帯びたご自身の作品が日本の文学の伝統の中ではちょっと異質というのは自覚してらした。

そういうことは一切考えていない仙人みたいな人と思っていたので、軽い驚きだった。

ただ、お話はおっとりしていたが、ご自分の作品や創作スタイルには強い信念をお持ちなのがよく分かった。

一方、渡辺淳一氏はあまり文学のことを言わず、比較的社会のことに意見を言ったりするのが印象的だった。

相手がNHKのアナウンサーでなく、残間理恵子だったからかも知れないが。

しかし自作の宣伝は意外とお上手だった。

「孤舟」読んでみようかな。

ラジオからはそれるが、今日、予備校街の立派な書店に入ったら、町田康さんの新作が二冊も出ていることを知った。

私が今、生きている作家で新しい作品を積極的に探すのは三人だけである。

町田康さん、津島佑子さん、山田正紀さんである。

## 鷗外と現代

最初にお断りすると森鷗外の鷗はかもめという字ですが、私のケータイでは字が出ないです。便宜的に森鷗外と書きますね。

タツヤが「阿部一族」をやっていて、頭を抱えていた。

あっちゃんやのんちゃんに匹敵する逸材のタツヤだから、作品の表面は読めるのだが、意味が分からない。共感が出来ないのである。

だいたい夏目漱石が広く愛されているのに比べて、森鷗外はあまり読まれていない。

太宰治は日記で夏目漱石をもてはやし、森鷗外を読まない日本社会を激しく批判して書いている。

鷗外は何者だったのだろう。

あまりに頭がよすぎたので、小学生に混じって勉強することは出来ず、年をごまかして東大医学部に入る。そしてヨーロッパの言葉は全てラテン語のなまったものと考え、ラテン語をマスターし、ヨーロッパ各国の言葉をマスターなど鷗外のエピソードは優秀をはみ出す不気味なところがある。東大卒業は普通の日本人が大学に入る１９歳の時だった。

そしてヨーロッパ留学をし、軍の仕事をしながら、山県有朋や西園

寺公望と文学を利用して交流する政治家の顔。

樋口一葉、与謝野晶子、芥川竜之介などを勢力下に置くなど文壇にも影響力を持つ。

そして、そんな鷗外の素顔は謎に包まれている。

山崎正和先生のご指摘だったと思うが、鷗外の作品の最大の主題は日常の中に破滅が潜んでいて、急に日常が地獄になるという残酷な真理だとあった。

「阿部一族」「高瀬舟」などは確かにそういう世界の崩壊をしっかりと描いている。

また見逃しがちだが、「高瀬舟」の犯人は普段はどういう生活をしていたのか、考えると不気味である。

鷗外。日本文学最大のブラックボックス。もっと読まれてもよい。

## 大爆笑・プロポーズ大失敗作戦

私「鷗外の世界はね、日常の中に潜む地獄を描いているんですよ・・」

のんちゃん「先生、そんな経験したことあるんすか？」

私「ありますよ・・・」

語られたエピソードはとてつもないものだった。

私、ある後輩の女の子と結婚したくなってね、一緒に古川美術館なんか行っただですよ。

古川美術館は高級住宅地の覚王山のそばで帝国ホテルのパティスリがやっていたババロア屋さんなんかあってね、そういうところを紹介してあげたり、覚王山の展望レストラン・ジ・クーに行ったり。

歌を新聞に載せてもらってた縁で俵万智さんの「あなたと読む恋の歌百首」を持っていたから、それを贈って、プロポーズしようとしたんですが、「私、俵万智嫌いなの！」って言われてね。

カズマ「エグすぎる！（　・　）」

しかもミクシイが何かで友達のブログを見ていたら帝国ホテルのバロアのこと書いてあったりしてね・・・追及したら、「ああ、つきあってるよ！」って、逆ギレされてね。

カズマ「痛々しいオブザイヤーですね。（；）」  
のんちゃん「遠恋の人にも別の結婚相手がいるの隠されてたんですよ」

私「まあ二回もそんな結婚のことでたまされるなんて私がパーチクリンなんですよ」

カズマ「やっと気づきましたか」

私「何だと！（、・）」



## 最近の私

最近、更新が滞っていました。すいません。

このサイトは学生さんの利用が多いので、説明不要かもしれませんが、今ぐらいの時期に入試が終わる子もけっこういます。入試が多様化しているからです。

あっちゃんが今日、某大学を力試しに受けるので、私も東奔西走していました。

生徒の前に立つて教える時間が仕事の一番中心ですが、教えるためにいろんな大学の問題文を読んだり、準備が忙しいです。

大学の問題文の他、各予備校や出版社の問題集や模擬テストにも目を通しています。

そついう訳で更新はマイペースですが一つよろしくお願いします。

忙しい中でも数学の先生とお茶を飲みながら研究したことを話し合い、お互い和歌を詠んだりして充実して過ごしております。

数学の先生が面白いミステリを探していたので、山田正紀の「ミステリ・オペラ」などをお貸ししました。

読み返してみるとかなり深いところまで私は山田正紀さんの影響を受けているなとヒヤヒヤしました。

最近、盗作のことを何度か書きましたが、どんな人でも偉大なモデルがいて、それを模倣することからスタートする訳ですし、なかなか難しいです。

山田正紀さんは戦後というより近代最大の作家・中井英夫の影響を受けているし。

ただ山田正紀さんの「ミステリ・オペラ」中井英夫の「虚無への供物」「黒衣の短歌史」など圧倒的な作品を知っていることは私の幸福と不幸だと思います。偉大な作品を読む楽しみは幸福。創作をする上では非力さを感じさせられ、不幸。

それでも仕事の繁忙期が終わったら仕事しながら学んだことを大いに取り込んで、また新しい作品を書きたいです。

台風の近づく朝に。

## 星を継ぐ者

タイトルは大作のバクリです。

昨日、Kくんが「家の仕事継ぎたくない！」「恋愛とかに口出しされて腹立つ！」と荒れていました。ちなみに家のお仕事はお医者さんです。

生徒を見ているともう人生の選択を迫られる年になったかと感慨があります。

自分の生徒は多分、比較的恵まれていて、もっと早くつらい選択を強いられる子も現代は多いでしょう。

でも悩んでいる子に「もっと苦しい子がいる」と言っても仕方がない、と言つより、それは一番無責任な言い方のような気がします。

悩んでいる子にとってはその悩みは他の誰にもかわってもらえないものだと思います。

「とりあえず大学行って、選択肢を増やしたら」とか私もいなししていますが。非力なので、悩みを聴いてあげて、「君は恵まれてる方だつてそのうち分かるよ・・・」と呟くぐらいです。

Kくんは本質的に賢く、真面目なので、将来、私がさりげなく「もっと弱い立場の子がいる」と言つた真意を悟ってくれると思います。

私自身はかない存在で、好きな小説や古典を語り、文法を教え、テストを採点してと日々過ごしていますが、さりげなく呟く言葉が若い子たちの心にちよつとでも残ったらいいです。

## 「嵐を呼ぶ男」

私は岐阜県の西の方の大垣に住んでおり、岐阜市に映画を観に行ったり、美術館を観に行ったりする。

けっこう何日も前のことになるのだが、岐阜市の柳ヶ瀬に行った。

新しい映画をやる映画館の他に名画座、古い映画をやる劇場がある。  
一本、500円。( - - - )

石原裕次郎の「嵐を呼ぶ男」をやっていたのだが、びっくりした！！  
すごく面白いのである。不覚にも号泣してしまった。

「おいらはドラマー」という歌を歌うやつです。

もしケーブルテレビなどで観られたらおすすめします。  
エンターテイメントのお手本の面白さでした。

石原裕次郎は今の基準ではそんなにカッコよくなくて、不思議です。  
数学の先生によるとあんまりカッコいいとファンが移入出来ないらしいけど。

昔の日本映画はすごく面白かったんだな、と思う。  
また何か観に行きたいです。

## ハンサム作家

水嶋ヒロ処女作「KAGEROU」ポプラ社小説大賞受賞！賞金2000万円ゲット！

近年、まれな感動と興奮を与えてくれるニュースである。

私はミクシイのニュースで知ったのだが、けっこう拒否反応が多い。

しかしリリー・フランキーさん、劇団ひとりさん、品川さん（下の名前が分からない）などタレントの方が小説を出している例はたくさんあるし、売れている。

難しい問題である。

小説家になろうというサイトで頑張って書いている方や、文学賞に送っている方はタレントさんが本を出すのは不公平に思うかも知れないけれど、売れる本を出すという出版社のビジネスの論理もあるだろう。

私自身は最近、作品を出してないし、出していた時もアクセスがそんなにある訳ではない。

それでも何か書くのは結局は何か書くのが好きということに行き着くのかなと思う。たくさんの方に読んでもらいたいというのは自然な感情である。

孔子は「人に知られなくても恨まない」と述べ、そこが教科書に載っているが、実は執拗なまでにこの言葉を繰り返して、最後の方で「本当はすごく怒っている」と神に対して怒りを爆発させる。そこには笑いと感動がある。

私は「理解されなくてもかまわない」「どうせ売れない」みたいなかしこぶった言い方はあまり好きじゃない。

本当に努力して努力して、怒っている方が人間味があるんじゃないかなと思う。（私自身はあまり努力してないので、ダメだが。（- - ;））

水嶋ヒロ受賞はけっこう小説家になりたい人にショックだろうけど、見守っていききたい。

私は水嶋ヒロ好きだから、写真集とかと合わせて水嶋ヒロの小説、買ってみよっかな。

意外とマダム・チャタレイみたいな傑作だったりするかも！（^o^）

## 最大の編集者

戦後最大の小説家は誰ですか？とアンケートを取ったら、大学教授や一流の作家など玄人が多ければ谷崎潤一郎。素人が多ければ、太宰治か三島由紀夫がデッドヒートを繰り広げるだろう。

しかし、もし戦後最大の編集者は誰ですかというアンケートがあれば（ないけど）中井英夫がぶっちぎりだろう。

寺山修司、塚本邦雄、葛原妙子、中城ふみ子、尾崎左永子、春日井建、山中智恵子、村木道彦、挙げ尽くせない多くの文学者を発掘した。

これは最大の功績である。  
文句のつけようがない。

しかし、私が中井英夫に凄みを感じるのは文学の世界に圧倒的な力、権力を持ちながら、自分自身が小説、詩、短歌を書き始め、どれをとっても戦後の群少作家グループをよせつけぬ圧倒的な傑作だったことである。

そしてその先に私は人間の本当のミステリを感じる。



中井英夫は編集者としても、創作者としても、活躍しながら文学の世界、出版の世界の裏側を「黒衣の短歌史」に鮮やかに活写した。

それを読むと文学の選考とか出版の判断は実に虚々実々の駆け引きがあり、編集者と作家・歌人の激突でもある。

また中井英夫は自分が出したい作家を出すためには川端康成、窪田空穂といった文豪に働きかけたり、尾山篤二郎や近藤芳美といった巨匠とも激しく戦っている。

そのことから分かるのは文学賞の選考や本の出版はものすごい闘いで、ある意味いつでも血に汚れていたかも知れない。

そついう意味ではタレント本を出すため、いろいろバタバタしているのは文学の世界も品が下ったなと思う。

中井英夫が生きていたらどう思うだろう。  
出すにしろ、もっと巧妙に出しただろう。

中井英夫は編集者時代、自分の作品を新人文学者の作品として出させてた節がある。そのことについては機会があつたら、書きたい。

## カズマ日記

カズマ筆（添削・夢）

夢ちゃんがバイトの大学生の先生を連れてホテルのバアにワインを飲みに行った写真を見せてはしゃいでいました。

夢「大学生のヒロくんと同級生ですかって言われたの」

俺「（――）お世辞でもうれしいですか？」

夢「お世辞じゃないもん！灯りはローソクだったし、自分は童顔（――）だからそう見えたんだもん！」

俺が観察していると夢ちゃんは小学生の子にも「先生は21才」と教えていました（TOT）

他にも夢野妄言録を書いておきます。

「ヨン様的なポジションに行きたい」

「カヴァレリアルスティカーナは本当はとっても哀しい曲なの！」

「尊敬している人は美輪明宏先生」

「まだ大学生で通る」（通らねえよ。（――）カズマ心の叫び）

「あっちゃんより私の方が若さがある」

「藤原竜也は大根役者」

「長年、この仕事をやってきた。（21才というのと整合性は？）」

「自由になりたい」

「みんなの兄的存在」

「私には大人の男くささがある」（ねえよ（- - #））

そんな夢野ですが、昨日、銭湯で老人に「いつから太ってるの？」  
って声をかけられ、ショックを受けていました。ザマミロ。

## 新しい作品「不良」

最近、新しい作品「不良」というのを載せ出しました。

このサイトではライトノベルのような作品が主流のため、日常がただ描かれていく作品を出すのも場違いなのかな？と思いましたが一応、書きました。

意外と筆がよく走り、「エッセー集」と同時進行させて行こうと思っています。一つよろしく願います。

一部の知り合いの方には私小説ですねーとわれています。エッセー集のKさんと「不良」の速水は確かにちよつと似ていますが、私は浅倉先生のようなクールな先生じゃないので、一種の理想です。

でもエッセーが自分の明るい？面としたら、小説は暗い、悲しい面かな？と思います。

手探りですが、頑張ります。

## でしゃばりドラゴン

先日、私の生徒で比較的温厚で真面目な生徒サトシくんが文学事典を使いながら文学史を教えていたら、「えっ！村上龍って作家だったんですか！」と言われ、ひっくり返った。（――；）

なるほど私世代にとって村上龍は村上春樹と人気を二分する流行作家でダブル村上の時代などと言われていた。

しかし、今の若い子からすると「カンブリア宮殿」で訳の分からんことを話しているオヤジ、就職活動のハウツー本を出しているオジサン、サッカー好き、中田英寿氏とヌード写真を撮影（覚えている自分が憎い（TOT））。

まとめるとテリー伊藤や森永卓郎とかと同じような存在になっていたのである。（――；）

しかし考えてみると村上龍は水嶋ヒロの逆で何かタレントになんたくていろいろ書いていたようで、今の状態は都落ちではなく、手に入れた栄光らしい。（――；）

考えてみると原作・脚本・監督作品「KYOKO」（主演・高岡サキ）など昔から村上龍は作家としては邪道と思われることに執着していた。（寺山修司のようにあらゆる分野で世界的な賞をとったり出来ないところがご愛嬌）

バブル時代にも「リユウズバー」というトーク番組をやっていた。

話下手が何故トーク番組を？

一応、芥川賞もとった人が芸能人になりたがり、芸能人が文学賞を欲しがる。

何かもうよく分らん。(TOT)

## ガキ帝国

今日、小学生の女の子と勉強しながら、最近の売れている芸能人の話をしたが恐ろしいことに話が通じない！（――；）

A K B、西野カナなど名前は聞いてもどんな曲を歌っているかわからない。

高校生がちょっとマニアックなバンドを好きだったりしてもついていけない。

そういうオヤジイにはならないつもりだったが、なっている。（T O T）

逆にサザンオールスターズ、ユーミン、小田和正あたりは妥協して、挙げてみても通じなかった。

その中、何とか通じたのは松田聖子ちゃんとジェロだった。  
すごいな聖子ちゃん。

Kくんは何故か昔の曲に詳しく、「寿司食いねえ」をカラオケで歌ったらバカウケだったと言っていた。

それにしてもやっぱり日本の文化って何か偏っていないだろうか。  
子供向けか老人向け。

大人の娯楽がないような気がする。

しかし、地下鉄で自分より上ぐらいのサラリーマンが携帯型ゲーム機をやったり、犯罪ゲーム・グランドセフトオートの攻略法を話し合っていたり、ついていけない。(TOT)

ちなみにタイトルは井筒和幸監督・島田紳助さん主演の名作からパクリました。



## 師匠が師匠なら弟子も弟子

来年、また「源氏物語」の映画をやるらしい。「源氏物語」の世界と紫式部の生きた歴史世界が合体したパレルワールドで光源氏と藤原道長が紫式部の愛をめぐって争う話らしい。

光源氏は生田斗真。紫式部は中谷美紀。藤原道長は東山紀之。

超能力者安倍清明が窪塚洋介。中宮彰子が連仏美沙子。

藤壺が真木よう子。六条が田中麗奈。葵が多部未華子、夕顔が芦名星。弘徽殿太后が室井滋さんとすごいキャストである。

Kくん「生田斗真が光源氏とか役者不足ですよー！生田斗真なんかすごい不細工ですよー！ただテレビに出ているから売れているだけで、あいつ普通に街にいたらかなり不細工ですよー！」

夢「Kくんと比べたらほとんどの男の子は不細工ですよ」

女子たち「ブー！」

タツヤ「先生の生徒ってみんな変わっていますね」

みんな「タツヤ！それ自爆だよ！」

タツヤ「えっ！（TOT）イヤや！俺はキャラ者ちゃうで！」

みんな「タツヤは十分夢野ユーマ一座の看板役者をやれる変わりモンだよ！」

夢「行く春や鳥泣き魚の目に涙（春は過ぎてゆき、芭蕉は江戸を去ってゆき、鳥たちも悲しくて泣いているし、魚たちも別れを惜しんで泣いている）。あれ、やった時にタツヤ『あー、芭蕉、自己中心的でム力つくなー！』って言ってたもんね」

タツヤ「うう・・・俺はキャラ者やない・・・（TOT）」

カズマ「夢ちゃんに弟子入りする時点で立派なキャラ者だから」

ヨーコ「しかも『デユララ』とか『禁書目録』とか『涼宮ハルヒ』とか『召喚獣』とか全部愛読しているタツヤに夢ちゃん、かなり期待しているから」

夢「そうなんですよ。次回は手塚治虫に絶大な影響を与えたフリッツ・ラングについて講義します」

タツヤ「あ、何か面白そう。（＾Ｏ＾）」

みんな「ほっておきましょう（――・・）」

## 文学と世襲

最近、文学をめぐる問題はいろいろゴタゴタしている。そういう中で見逃されていることがある。

年間の最も優れた作品に贈られる文学賞の一つドゥマゴ文学賞が朝吹真理子さんに決まった。というニュースを聞いて、私はビビビと反応した。

朝吹なんてありふれた名前じゃない。

記事を見たら、やっぱりフランス文学者朝吹登水子の親戚だった。

（朝吹登水子の弟の孫、甥の娘という関係である。）

朝吹登水子はフランスの大人気作家フランソワーズ・サガンの翻訳を独占的にやっていた。「悲しみよこんにちは」「ブラームスはお好き」などを手掛けてきた。戦後文学界の大スターである。

その子孫の女の子はやはり朝吹登水子の弟子筋に当たる詩人か学者のパーティーに出ている時に新潮社の偉いさんに「何か書いていただけないでせうか？」と丁寧に頼まれ、作品を執筆。そして出版。年間最高の賞を受賞という順調な歩みを見せている。

水嶋ヒロさんの比でない。あからさまに新潮社が売り出そうとして

いる。

ところがこちらにかみつく、批判する人はほとんどいない。いや、一人もいないと言ってもよいだろう。

実は私もこの扱いは難しいと思っている。

家族・親戚が一流の作家や学者で出版社の人が積極的に出してくれ  
るという人は昔から多かった。斎藤茂吉の息子が北杜夫。吉行エイ  
スケの息子が吉行淳之介。佐藤紅緑の娘が佐藤愛子である。

しかし、こういう世襲作家が一定以上の活躍をしたことも認めない  
訳にはいかない。

子供の時から文学的にいい環境に恵まれてきたことはアドバンテー  
ジ、プレステイジーだろう。

最近だと金原ひとみ、三浦しをん、井上荒野がそういう世襲作家で  
ある。

私が不思議に思うのは水嶋ヒロさんをしきりにバッシングする人が  
こつこつ世襲作家が堂々と出てくることに何も意見を言わないこと  
である。そういう問題があることも全く知らない気配すらある。  
ちよつと気の毒に思う。そんな一時のニュースに反応しているだけ  
では話題作りに協力しているだけで、出版社や編集者にもなめられ  
るだろう。

日本人は怒りパワーすら奪われた白痴化状態になっているのかも知  
れない。

おそろしやおそろしや。

## 別役実さん

昨日の午後、NHKラジオに別役実さんが出演していた。日本を代表する戯曲作家である。

そのお話をラジオで聞いたのだが、非常にしつかりしたお話で感動した。

何を書くにしろ言葉に発してすぐ理解できないような不自然な文を書くな、とおっしゃるのにはドキリとさせられた。

今は古語で分からなくなっているが、古典小説も和歌も漢詩も当時の人にとっては耳で聞いて楽しめるエンターテイメントであった。

また別役実さんがおっしゃるには三島由紀夫あたりまでの文豪は実際に読んで意味がすっきり通る、朗読にたえうるそうである。

太宰治は特に句読点まで効果的に利用して、独特のリズム感を作っている。

頭の中で観念的な作品を作ることを別役実さんは戒めていた。

もう一つ感心したのは別役実さんが若い子の言葉などを安易に使わないことであった。

今、濫用されている言い回しで「～させていただく」という言い回しがある。

この言い回しは一昔前まではなかった。

橋本龍太郎総理が使って、流行ったのだ。その当時、作家の嵐山光三郎さんだけがこれを汚い言葉と批判なさっていた。だから私も、

人様が使うのをとがめまでしないが自分自身は使わない。

だいたいよく考えて欲しいが「くさせていただく」と言うからには何者かにやるかやらないかを判断してもらって、委ねる感じがする。

時と場合によっては通じるかも知れないが、先日、こんな言い回しを見つけた。

「トイレでのいたずらを発見したら厳しい対応を取らせていただきます」

これはおかしい。

「取ります」でいい。

また次のはどうだろう。

「この学校を卒業させていただきました」

裏口入学でもしたのか？「卒業いたしました」でいいだろう。

こういう変な言い回しが流行り、変と感ぜない人ばかりというのも怖い。(････)

本筋に戻ってくるけど、別役実さんは小一時間ぐらいの話の中で乱れた敬語などがなく、感服した。

形骸化した敬語については私は言葉の専門家としてまた書きたい気もする。

ただ周りの人の言葉狩りになることはいやである。

お読み下さった方が少し立ち止まって下されば幸いです。



## 新しい短い作品

新しい短い作品を最近、二つ載せました。

一つは「俺はテレビが嫌いだ」という作品です。

水嶋ヒロさんの文学賞事件をもとに書きました。

私はこの主人公ほど純粹ではないんですが、不満を持っている人をモデルに書きました。

最近、書店やネット上で水嶋ヒロさんの作品はすごく宣伝されていますね。

売れる本を出すというのは否定できない世の中の道理だし、ただ文学が好きな人は自分の道を貫いていくしかないと思います。

もう一つは問題作「宮本教授」です。

実は出ささないか、迷ったのですが「不良」の松浦先生のモデルである摩けこの山先生に昨日、生原稿を見てもらったところ、意外と好評だったので、出すことにしました。

ある架空の作家が亡くなり、その追悼記事やインタビューがいろんな媒体に出て、その架空の作家はどんな人だったかを推察させるといふ、ちよつと実験的な作品です。

「不良」もけつこつ続きを書いています、なかなか入力が出来な

いです。（私は原稿用紙に書いています。）

やはり靡けこの山先生からユーヤがオネエっぽいという破壊的な指摘がありました（――；）、だんだん開きなあって、続きを書いてしまいました。

なるべく早く出していきます。少しお待ち下さい。

最近、自分としては初めての試みですが、「不良」を書きつつ、短い作品のアイデアが浮かぶと書いております。

近況報告でした。

## 自作を語る？「始皇帝・謀殺」

自作を語るなんて、不遜なのだが、むしろお断りです。

「始皇帝・謀殺」は中国古代を舞台にしたエンターテイメントである。

そして始皇帝の生みの母・朱姫、育ての父・子楚、本当の父・呂不韋の三人を描いている。この三人は歴史上本当にいた人である。東洋古代の習慣で女性の名前はよく分からないのだけど、伝承などでは朱姫と言われているので、従うことにした。

三人に仕える紅紅、愛羅、禁、廉などは架空の人物です。

秦王国の人はだいたい本当にいた人ですが、困ったのが漢字が出ない！（――；）

蒙剛という将軍が出てきますが、もうごう、というのはもっと難しい文字です。Wikipediaなどに出てきますので、興味のある方はご覧下さい。

それに限ったことじゃないですが、読んで下さった方からよくWikipediaだとかGoogleなどでいろいろ調べながら読むというお言葉をいただくことがあり、とてもうれしいです。

始皇帝の時代は分からないことだらけとは言え、歴史は一般の方が思っている以上に研究が進んでいる面があります。

それを一回咀嚼して再構成するのが自分の作品かな、と思っています。

キャラクターのちょっとした性格なども歴史からこつじやないかと想像して書いています。

## 「スーパオペラ」

昨日、久しぶりに映画館に行った。

阿川佐和子さん原作の映画「スーパオペラ」観賞。

大好き！！こういうチャーミングな作品。( ^ 3 ^ ) /

ストーリーは現代のおとぎ話で大きいけど古びた洋館に一人のアラフォーのヒロイン（坂井真紀）が住んでいて、二人の男性が転がりこんできて、三人で暮らし始める。

若い男は西島隆弘くん。

この子は顔もしかべりも性格も全部いいですね。

そしてもう一人が藤竜也さんなのだが、役名がトニオというので、舌をまいた。

先日、世襲のことを書いたけど、阿川佐和子の父親・阿川弘之らの世代には大人気だった文豪トーマス・マンの最高傑作「トニオ・クレエゲル」などのちよつと新しい古典世界が背景にある夢の世界で、クライマックスの美しさと優しさと哀しさにはあふれでる涙を止められませんでした。

穏やかに優しい三人が生きる中で生きることや恋することの甘さとほろ苦さが丁寧に描かれており、今年の隠れた佳品です！

こついう作品を拝見すると親が大物で子供の時から文学に親しめた環境の強さを感じさせられる。

素敵な作品なので、よかつたらご覧下さい。

## カズマ日記？

カズマ筆（添削・夢）

受験が近づき、それなりにみんなピリピリしています。

その中で全く空気の読めない男、違いの分からない男、それが夢ちゃん。（・・；）

そして夢ちゃんはあちゃんとフルコンタクトの闘いをする事になったのです。

夢「カズマのダルメシアンはすごく速く走るの～。あっちゃんはすごく速く走るの～。だからあっちゃんはダルメシアンなの～」と妄言を吐き、あっちゃんを激怒させました。

そして一番優秀なあっちゃんとフルコンタクトでガチンコ勝負をすることになったのです。

二人とも初めてみる、大学入試問題で勝負！

「頑張れ！頑張れ！あっちゃん！フレー！フレー！あっちゃん！」

「永遠に許すまじ！夢野！」

「上から目線のシヨタおじさんをぶつつぶせ！」

夢「全く師匠の恩をわきまえない奴らばかりだ！」

シユンスケ、サトシ、ダイキら地味な男の子たちは「先生は僕たちに優しくしてくれたから」と夢ちゃんを応援していました。

ダーティ夢野、デビル夢野は「最初の文字が漢字で書けなくても動揺してはダメですよ！」などとあっちゃんを威嚇したりしていた。

悔しいことに夢ちゃんは終始あっちゃんをリードして問題を解いていく。

最後、採点。

「あっちゃん、88%です！」

「おっ！」

平均は50～60%で学生としては驚異的だが・・・

「せ、先生の点は・・・95%です！」

ドヤ！夢野のドヤ顔が決まった。

ハア～と落胆する生徒たちを見ながら、夢ちゃんは涙をこらえていた。

頑張れ！私を倒すことが出来て、初めて私の後輩になれるんだぞ！

仏の夢ちゃんだった。（鬼と書いたのに誤植が直らない。）



## 勉強出来るアホ

カズマがバイトを始めた。

何か小学生や保育園の子のめんどろをみる保育士みたいな仕事らしい。

「小学生が小学生に何教えるんだ？」「保育園児がカズマのお守りをするようじゃ世も末だな」など言われている。

どうもバイト先の隣の女の子を狙っているらしい。( - - - )

カズマは「ひどいよ！俺がルックスがジャニ系で小学生ばいからって」と言っていたが、曲解だろう。

みんなが小学生と言っているのは内面の問題である。「俺はルックスはジャニ系で、小学生みただけ、ピーツ！は遅い大人の漢おとこだもん！」

だからそういう言動が小学生なんだって。( - - - # )

またカズマは周りから頭のいいアホと言われていた。

実はカズマの師匠もそう言われていた。

カズマはエッセー集を読むと全然勉強出来ないように見えるかもしれないが、難関の国公立大学を受けられるぐらい勉強出来る。

しかし、アホなのだそうだ。

しかし、何か理解出来る。

## 映画「悪人」を観て

こんばんは。

「エッセー集」の更新がだいぶ遅れました。  
すいません。

活動報告で弱音を書いたりしたので、方向性を悩んでいるみたいに  
思われたかもしれませんが、仕事が忙しかったです。

受験に詳しい方ならご存知かもしれませんが、今は受験が多様な  
で、今ぐらいに合格が決まる子もあり、二人合格が出ました。

長い前置きが終わり、本編ですが、今年の話題作「悪人」観ました。  
劇場で。

夏休みの終わりに中日新聞の試写会に招かれたのですが、忙しくて  
行けず、やっと自腹を切って、観ました。

結論から言うと、まず「自分は普通の善男善女」と思う圧倒的大多  
数の人にはおすすりめ。

今時点で読売新聞と朝日新聞が年間ベストに選出していますが、何  
度も泣けるポイントがあり、かなり感動します。監督は「フラガ  
ー」の李相日<sup>イ・サンイル</sup>です。「フラガール」で感動した人は号泣必至です。

しかし、その上でつつこむんだけど、あまのじゃく、へそ曲がりな

人だけ、この先はお読み下さい。

感動は感動で、いいんだけど、主要キャストがモテないブサイク、ブスで出会い系をきっかけに殺人事件が起こるというのに、妻夫木聡、深津絵里、満島ひかり、岡田将生というキャストینگはいかななものか？

美男美女ばっかだもん。モテないとか不自然だもん。

「エッセー集」の夏頃の内容に「悪人」は多分、悪人じゃないと書いたが、やっぱり予想通りだった。

妻夫木聡はジイちゃんとバアちゃんの介護をしたり「いい子」そのものだった。（TOT）

浪花節だよ我が国は、で本当の悪人が主役の作品ってないなあ、日本では。

年末になると私は年間ベストを決めて、映画雑誌社に送っている。

「悪人」はベストテンには入れると思うが、悪に徹していた「告白」を上位に思う。

「悪人」キャストینگをリアルにして撮り直してみちゃどうか？

## 究極の選択（先輩復活）

夢「はい、という訳で『こそ』という言葉は逆接で文章をつなぐんですね。『頭こそ悪いが顔はハンサム』とか」

のんちゃん「ひどい例えっすね。（――）」

夢「えっ？じゃあ、『顔こそブサイクだが、勉強は出来る』？」

Kくん「それもひどいっすね。（――）」

夢「はい！それでは究極の選択です！君たちはどっちかを選ばないといけないならどっち？」

（――）Kくん「え、えー・・・顔がブサイクかな。勉強が出来たら、いい会社に入れて、金があれば結婚出来ると思います」

先輩「自分がブサイクだから、予防線張ってるブッフ」

のんちゃん「でもカズマくんの暴れっぷりを見ると顔ハンサムも侮れないですよ」

夢「二人とも両方いいから大丈夫ですよ」

先輩「ブッフ。KくんってNHK教育テレビの人形劇の人形みたい。辻村寿三郎先生や阿部肥先生の人形みたいなやつじゃなくて、小道具さんの作った人形」

ケンゴたち「ギャーハハ！」

夢「（――）」



## 新しい小説・古い小説

私は他人様の文学観に口出しするつもりはない。  
ただ、最近、気づいたことをちよつと書き留めておく。

勉強の中で大江健三郎の「個人的な体験」を取り上げた。

ノーベル賞受賞作品である。

しかし、はつきり言つて大江健三郎は古びてしまつていて、生徒の失笑をかつていた。

まず主人公が「鳥」という名前で、日常性を消そうとしたのが、今読むとすべっている。

またいろんな設定や比喩も今読むと古びているか、浮いている。

小説は難しい。

三島由紀夫や星新一は新しい言葉、流行語、固有名詞は入れないことで作品が古びないようにした。しかし、中井英夫のようにそういうものを駆使して時代そのものを記録した天才もいる。

結局は一人一人の作家の資質なのだろうか。

大江健三郎と同じ日に芥川龍之介の「煙管」もやった。

これは天保六歌仙の河内山宗俊を描いた作品だが、全然古びていなかった。すごく面白かった。

歴史や古典の中の普遍的なテーマを描くことが古びない秘訣なのだろうか。

私はいろいろこれからも試行錯誤して行きたいと思っている。



## 「キャタピラー」

よく有名小説を映画にすると面白くなる、原作のイメージが壊れる、と言われる。

しかし、今日、観た「キャタピラー」は原作のいいところを活かしながら、素晴らしい映画になっていた。

ただ原作自体が江戸川乱歩の最高傑作である残虐と狂気の極みなので、危ないと思う人はここから先は読まないで下さい。

第二次大戦末期、ある若い兵士は両手両足が断裂し、全身ケロイド状になり、のども耳もつぶされ、芋虫、キャタピラーになって妻（寺島しのぶ）のもとに帰ってくる。

人々はその兵士を「軍神様」とたたえ、妻は軍服を着て、勲章をつけた夫をリヤカーに乗せ村中を回り、人々は軍神様を拝む。ここに人間の愚かさ、醜さ、戦争の非人間性、残虐さがよくあらわれています。

そして乱歩の原作では夫は必死に自殺して妻を救おうとする極限の狂気の愛が描かれるのですが、映画版は戦争に焦点を合わせ、敗戦までにものすごい被害が出て、夫は敗戦に耐えられず自殺するという反戦の作品にアレンジされていました。

最後、原爆をテーマにした名曲「死んだ女の子」が流れ、立ち上がれないほどの感動がありました。

またこの作品はベルリン映画祭の最優秀主演女優賞を受けたのですが、夫に尽くしながら、不条理な運命に耐える寺島しのぶの演技はすごかった！

今年のベストワン候補です！

## 「アルゼンチンタンゴ」

一つ前の映画が暗いので、ちょっとお口直しに。

今、映画界はドキュメンタリーブームですが、アカデミー賞の常連、世界的巨匠ウォルター・サレスがアルゼンチンタンゴをテーマにドキュメンタリー映画を撮りました。

イヤー、素晴らしかった。アルゼンチンタンゴっていいものですね。世界三大劇場と言われるコロソ劇場でアルゼンチンタンゴのスターたちが結集し、グラントコンサートをやる。そのコンサートとそこに至るまでの一人一人のミュージシャンを追いながら、たっぷり音楽を聞かせます。

さすがウォルター・サレスだな、と舌を巻いたのがほとんど説明を入れないのに、本当に芸術に詳しい人間には分かるようにいろんなことを暗示しているところです。

だから観ていて、全然うるさくないのに時々ハッとさせられます。

例えば世界三大劇場と言いつつ、使っているピアノが日本製。

クラシック音楽に詳しい人間なら公的な劇場のピアノはスタインウェイというメーカーじゃないといけないのが常識。

それがYAMAHAなので、映画の背後の貧困がじわっと感じさせられます。

ここまでは真面目に論評して来ましたが、一つショックなことがあります。( -\_- )

アルゼンチンタンゴの欠かせない楽器がバンドネオンです。形はアコーディオンに似ているのですが。

カズマがギター、サックス、ウクレレをやっているので、私はバンドネオンやりたいと思っていたのですが、途中、バンドネオンを分解するシーンがあり、想像をはるかに越える複雑さだったので、やることはあきらめました。（――）

## 2010年回顧・クラシック音楽

さて、早いもので一年も終わりがけです。  
だんだんいろんなジャンルの年間ベストを発表して行こうと思います。  
先陣を切るのはクラシック音楽！

- 1位オペラ「ホフマン物語」
  - 2位クリスチャン・ツイメルマン
  - 3位スウェーデン放送合唱団「レクイエム」
  - 4位ユンディ・リ
  - 5位オペレッタ「チャルダッシュの女王」
  - 6位ヴァーナル交響楽団
  - 7位東京フィル
  - 8位オペラ「ナブッコ」
  - 9位シプリアン・カツァリス
  - 10位オーケストラアンサンブル金沢
- 次点・ラファウ・ブレハッチ

1位の「ホフマン物語」は今まで観たオペラの中でも屈指の出来でした。音楽、舞台演出、全てがよかった。

クリスチャン・ツイメルマンとスウェーデン放送合唱団は同点ぐらいいですが客のマナーがよりよかったツイメルマンを上にしました。でもモーツァルトの「レクイエム」を生で聴けて、感動した。それだけにケータイを鳴らした人がいて。（- - #）

ユンディ・リはやつと聴けました。多分、私より若いのに帝王ツィメルマンと演奏曲がだいぶ重なっていることが衝撃的だった。

5位の「チャルダッシュの女王」は明るくエンターテイメントに徹していて大好きです。「ナブッコ」の方が完成度は上なのですが、楽しさを評価。

ヴツパータール交響楽団と東京フィルは素晴らしい交響曲を聴かせてくれました。どちらもオペラちつくな曲が上手い！

オーケストラアンサンブル金沢は曲選びに味があつて、楽しいです。

またシプリアン・カツァリス、ラファウ・ブレハッチらはショパンイヤーを大いに盛り上げてくれました。特にシプリアン・カツァリスのサーヴィス精神には脱帽！

来年もたくさん素晴らしいコンサートをリポートしたいです。（

o - - - ) b

「信さん」(；|；)

(映画の話ですが)

「告白」があった。「悪人」があった。「キャタピラー」があった。

どれも人間の悪の面、病んだ部分、陰を見つめた力作だった。

これが2010年の日本かと思った。

しかし、今日、ふらっと入った劇場で私の年間ベストワン作品を見つけた。号泣した。ワンワン泣いた。(；|；)

平山秀幸監督の「信さん」である。

ほとんど宣伝もされていない作品だったが、監督とキャストにひかれて観た。

それが大傑作だった。

下旬に年間ベストテンを選定するけど、多分、これが1位で内定。

作品が始まり、15分ぐらいでノックアウトされた。

私は山崎貴の「ALWAYS」には大いに疑問を持っている。

昔の日本の貧しさは暴力や哀しみもつきまとうていたのではないか？北野武もヴェネツィア映画祭に出品した作品でそういうことをほめかしていたが、国内で正面きって異を唱えたのはこの作品だけだろう。

昭和38年、上品な婦人美智代（小雪）が子供を連れて炭鉱町にやってくる。東京の子はすくいじめられそうになるが信さんという手のつけられない不良が子供、守を助けてくれる。

実は信さん自体、天涯孤独で家では鬼ババアの継母にめちやくちや虐待されている。

信さんは守をかばい、美智代に抱きしめられ、人間のぬくもりを知り、泣きじゃくりながら恋に落ちる。

もうこの始まりだけで一年分ぐらい泣いた。小雪は大根役者だが、信さんに憧れられるだけでセリフも少ないので、このキャスティングは絶妙であった。

九州北部の炭鉱町で労働組合のことや在日の子がいじめられることが描かれ、守は遅しく成長していき、怒りを知り、正義を感じる。信さんは学校の花壇の花や農作物を盗んで美智代に贈ったりぎこちない形でしか愛を示さない。

そして7年の時がたち、守（池松壮亮）は高校生になり、信さん（石田卓也）は妹（継母の娘）を進学させるため炭鉱で働いている。

そしてある時、信さんは長年の愛を美智代に打ち明け、結ばれるのだが……



この先、結末まで書いてしまうので、NGの人は引き返して下さい。

信さんの幸福はつかの間、鉦山が爆発してしまい、信さんは死んでしまう。

鉦山もなくなり、人々も去っていき、街もなくなる。

美智代と守も街を去っていくが、美智代の宝物は信さんが描いた下手くそな肖像画だけだった。

そして空と海はどこまでも青く、人間の喜怒哀楽をよそに永遠なのだった・・・

映画評論家としては信さんをいじめる継母役の大竹しのぶの演技は鬼気迫るものだったと特筆しておきたい。

彼女も非常に暴力的な愛しか持っていない。信さんが死んでしまっても何事もなかったかのように、ジャツジャツとお米を洗っている。しかしちやぶ台には信さんのお膳がある。

この演出は反則だろう！！本当に声を上げて泣いてしまった。

貧しさの中で傷つけあいながらもぬくもりを求めて生きる人間の歡びと哀しみを描いて、ハッピーエンドでないのに、私は確かに希望を感じた。

遅しく生き残る人々の姿に。バラバラになりながらも未来を求めて

生きていく人々の姿に。

この作品は平山秀幸監督から未来へのラブレターである。

## ホラー映画「ベストセラー」(TOT)

昨日のことになるが、韓国のホラー映画「ベストセラー」というのを観た。

実はこのサイトでの他の先生とのやりとりでも指摘されたのだが、私は映画を観て、あまり怖いと思ったことがない。

靈感もない。オバケや妖怪、UFO、宇宙人も見たことがない。

「ベストセラー」はまあ合格の出来だった。

半分ぐらい観たところでオチは予想出来てしまうが、設定がまあまあ魅力的だから、何とか最後まで観られる。

ある女性作家が盗作をしており、名声を失って田舎の別荘に行き、復帰作を書こうとするが怪奇現象が次々起こるというものだった。

うーん。ホラー映画を観る人は観て、こわっ！と本当に思っているのだろうか。

サイコサスペンスみたいなのもあまり怖くないし。

あまり観ていないのもあるかも知れないが。これは怖いというのを誰かご存知じゃないだろうか。

今までで一番怖かったのは向田邦子先生の「阿修羅のごとく」で大

竹しのぶと桃井かおりがとくみあいのケンカをしているところだった。(・・・)

ところで、昨日は東海地方にたくさんあるコロナワールドというところで、映画を観て、温泉に入ったのだが、入り口で一人分の料金を出したのに「お連れ様はどうしますか？」と言われ、「いや、一人だけ」と言ったら、店員が怪訝そうにしていた。

えっ、何？何が見えたの？(・・・) エッ……………？

## 小津の魔法使い

岐阜には名画座がある。

新しい映画ではなく、古い映画を上映している。料金は500円である。

そこで世界的巨匠小津安二郎の作品を三本観た。

「秋刀魚の味」「東京物語」「麦秋」である。すごく面白かった。と言っても、表面的には「えっ？何が面白いの？」という感じかも知れない。

主役は老人のことが多く、動きも少ない。

しかし、心理や人間関係が巧みに描かれ、飽きさせられない。

また特に「東京物語」は全世界の映画評論家、映画記者が投票をしてもジョゼフ・L・マンキーウィッツの「イヴの総て」やフリッツ・ラングの「メトロポリス」とオールタイムベストワンを競り合う傑作である。

海外の人は「東京物語」こそ恐ろしい映画の極みと感じるらしい。

ある老夫婦がめんどろをみて欲しいと東京にやってくるが長男も長女もそれぞれの家庭や仕事に夢中で老夫婦は邪魔にされている。唯一優しくしてくれるのは死んだ次男の未亡人（原節子）だけである。誰も悪人はいないが、老夫婦は孤独と絶望を味わう。

その家族の中の孤独と絶望が小津安二郎監督を貫くテーマである。それは人間の根源的な孤独を描いているから西洋の監督や評論家に衝撃を与えたのだろう。

デンマークのラース・フォン・トリアーやベルギーのダルデンヌ兄

弟に影響を与えていると思う。

それにしてもストーリーは暗いのだが昔の日本の風景と昔の日本人の上品さ、昔の女優さんの美しさと上手さにはため息が出る。原節子、岩下志麻、岡田茉莉子、岸田今日子、淡島千景、香川京子。

そして全ての作品に戦後最大の伝説的女優杉村春子先生が出ている。

(･･････)

すごく上手い。

でも野中広務元官房長官に似ている。

## 2010年回顧・洋画

### 作品ランキング

- 1位 息もできない
  - 2位 戦場でワルツを
  - 3位 母なる証明
  - 4位 冷たい雨に撃て、約束の銃弾を
  - 5位 9・9番目の奇妙な人形
  - 6位 フローズン・リヴァー
  - 7位 17歳の肖像
  - 8位 マイレージマイライフ
  - 9位 第9地区
  - 10位 NINE
  - 11位 マイ・ブラザー
  - 12位 アルゼンチンタンゴ
  - 13位 渴き
  - 14位 カールじいさんの空飛ぶ家
  - 15位 インビクタス
  - 16位 キャピタリズム
  - 17位 シャネル&ストラヴィンスキー
  - 18位 ドン・ジョヴァンニ
  - 19位 ハート・ロッカー
  - 20位 プレシャス
- 次点・・・ブライトスター、ペルシャ猫を誰も知らない

### 最優秀監督賞

ヤン・イクチュン「息もできない」  
アリ・フォルマン「戦場でワルツを」

シェーン・アッカー「9・9番目の奇妙な人形」  
ジョニー・トー「冷たい雨に撃て、約束の銃弾を」  
ポン・ジュノ「母なる証明」

最優秀主演女優賞

キム・ヘジャ「母なる証明」  
キャリアー・マリガン「17歳の肖像」  
メリッサ・レオ「フローズン・リヴァー」  
キム・オクビン「渴き」  
ズリー・デシャネル「500日のサマー」

最優秀主演男優賞

ヤン・イクチュン「息もできない」  
ジョニー・アリデイ「冷たい雨に撃て、約束の銃弾を」  
ジョージ・クルーニー「マイレージマイライフ」  
トビー・マグワイア「マイ・ブラザー」  
ソン・ガンホ「渴き」

最優秀助演女優賞

ヴェラ・ファームガ「マイレージマイライフ」  
マリオン・コティヤール「NINE」「インセプション」  
マライア・キャリー「プレシャス」  
ナタリー・ポートマン「マイ・ブラザー」  
ケイト・ハドソン「NINE」



最優秀助演男優賞

ウォンビン「母なる証明」

ジェイク・ギレンホール「マイ・ブラザー」

マット・デイモン「インビクタス」

マット・ディロン「アーマード」

アレック・ボールドウィン「わたしの中のあなた」

## 2010年回顧・邦画

ランキング

1位 信さん

2位 告白

3位 悪人

4位 キャタピラー

5位 人間失格

6位 ボーイズオンザラン

7位 かもめ食堂

8位 借りぐらしのアリエッティ

9位 十三人の刺客

10位 めがね

次点・・・さんかく

最優秀監督賞

平山秀幸「信さん」

中島哲也「告白」

李相日「悪人」

若松孝二「キャタピラー」

荒戸源次郎「人間失格」

最優秀主演女優賞

松たか子「告白」

深津絵里「悪人」

寺島しのぶ「キャタピラー」「人間失格」

小林聡美「かもめ食堂」「めがね」  
田畑智子「さんかく」

最優秀主演男優賞

妻夫木聡「悪人」  
峯田和伸「ボイスオンザラン」  
高岡蒼輔「さんかく」  
池松壮亮「信さん」「半分の月がのぼる空」  
藤竜也「スープレーパー」

最優秀助演女優賞

大竹しのぶ「信さん」  
橋本愛「告白」  
満島ひかり「悪人」  
もたいまさこ「かもめ食堂」「めがね」  
小野恵玲奈「さんかく」

最優秀助演男優賞

岡田将生「悪人」「告白」  
西島隆弘「スープレーパー」  
松本幸四郎「十三人の刺客」  
中尾明慶「時をかける少女2010」  
松田龍平「ボイスオンザラン」

審査員特別名誉賞

樹木希林「悪人」「借りぐらしのアリエッティ」

三田佳子「人間失格」

安田成美「時をかける少女2010」

## 「悪の教典」(、)

夢「宝島社の年末恒例の年間ベストテン投票、今年の1位は貴志祐介の『悪の教典』ですねー。まあ宝島社のベストテンは昔は文藝春秋のベストテンからもある前衛的な作品を拾うランキングだったんだけど、今年の作品はすでに角川書店で一番権威ある山田風太郎賞をとった作品で、まあ新味はちょっと少ないですねー。ハンサムな人気者の先生がクラス全員を虐殺するって内容で、みんなは先生が優しくてよかったですねー！(＾O＾)」

みんな「(・ー・#)僕たち私たちもデビル夢野の巧みな出題、テスト作りで何度も皆殺しの憂き目にあっているから・・・リアリズムだから、『悪の教典』」

カズマ「鴨長明と俊成卿女の歌論集をそれぞれ書けには泣かされました」(鴨長明は「無明抄」俊成卿女は「無明草子」)

ヨーコ「『あめり』という言葉を文法的に解説しなさい、とか」(ラ行変格活用「あり」連体形撥音便無表記・婉曲「めり」終止形)

あつちゃん「李卓悟の『焚書』読まされた・・・」(李卓悟 東洋最大の怪物作家。あらゆる権威を否定し、自作は全て政権に焚書されると予言し、変死をとげる。作品「焚書」は東洋文学の最高峰である。)

のんちゃん「山本文緒の『プラナリア』の女のドロドロのいじめ世界、まじ怖かったっす！（T.O.T）永瀬さん、サイコパスっす！」

みんな「（-\_-#）デビル夢野に底意地の悪い教師オブジイヤーを送ります！」

夢「（、o、）」

## メリークリスマス

ピロリロロ

カズマ「あつ、夢ちゃん、着メロ替えましたね」

夢「そうなの。前はV6の『シュガーナイトメア』だったけど、マライア・キャリーの『恋人たちのクリスマス』とジャクソン5の『ママがサンタにキッスした』にしたの。日本のクリスマスソング、駄目でしょ。無意味に湿っていて」

カズマ「『クリスマスイブ』と『いつかのメリークリスマス』が特に湿ってますね」

ヨーコ「でもマイケルのこと考えるとジャクソン5って、ちょっと湿ってない？（；|；）」

夢「まあ、そのことは考えちゃ駄目ですよ」

カズマ「ところで、Kくんはサンタさんっていつまで信じていた？」

Kくん「中2です！（^o^）v」（今、高1！）

みんな「（・ー・；）」

夢「Kくんは育ちがいいですもんね。朝、起きたら『おはようございます』帰ってきたら『ただいま』寝る時は『お休みなさい』って言うようにしつけられてますもんね」

先輩「ブフフ。おはようからお休みまでのライオンのマスコットキヤラになったら？Kくんはムーミン谷の王子です」

みんな「ギャーハハ」  
夢「（ー・ー・）」



## 2010年回顧・美術

大賞・・・「日本の美に出会う」展（ＪＲ名古屋高島屋）

金賞・・・「ギター・コレクション展」

銀賞・・・「あいちトリエンナーレ2010」

銅賞・・・森田りえ子展（三越・栄店）

### 注目美術展

・三岸節子展（松坂屋美術館）

・20世紀美術への招待状展（岐阜県美術館）

・マティス・ルオー版画展

・宇野亜喜良展（刈谷市美術館）

最優秀美術館賞・・・該当なし

### 奨励賞

・愛知県美術館

・岡崎市美術博物館

・松坂屋美術館

審査員特別名誉賞・・・ヤマザキマザック美術館

寸評・・・大賞と金賞はともに私の大好きな江戸時代の絵画の流派・琳派の展覧会という偏愛の結果です。

銀賞は逆に現代の世界の最先端のアートの祭典でみんなの予想外の大ヒットになりました。こういうイベントはどんどんやって欲しいです。

銅賞は今もお元気でご活躍の森田りえ子先生の展覧会。サインもいいただきました！（o・・・）b

注目美術展は洋画の三岸節子さん。

20世紀美術への招待状は富山県的美術館の作品のコレクション展でしたが一番多様で充実していました。明治の日本画とルーチョ・フォンターナを一緒に観られるなんてすごい！

前衛画家では宇野亜喜良先生の展覧会。エッセー集で詳しくリポートしておりますので、よかったですらご覧下さい。

マティス・ルオー版画展は素晴らしい企画でしたが、以前、松坂屋美術館でやったものと出品が重なっているので、大賞を逃しました。同じ理由で岡崎市美術博物館は福富太郎美人画コレクション展をやっていました。私は福富太郎美人画コレクションを観るのは二度めなので、ノミネートしませんでした。（・・・）

最優秀美術館賞は私がいろいろ行けなかったのがダメなのですが、該当美術館なし。

奨励賞は愛知県美術館。トリエンナーレ2010に力を入れていましたが、渡辺華山展、小川芋銭と珊瑚会の画家展もよかった。惜しいのはこういう常設展に近い展覧会に人が全然来ていないこと。愛

知県美術館は素晴らしいコレクションがあるので、自信を持って発信を工夫して欲しいです。

岡崎市美術博物館はとても素敵な美術館。個別の展覧会でノミネートが出なかったのは上記の理由。

松坂屋美術館はデパートのイベント会場を越える意欲的な展示が多かったです。ブラヴォー！

そして審査員特別名誉賞は今年オープンしたヤマザキマザック美術館。常設展しかやっていないのですが日本には珍しく外国作品だけで信念が素晴らしい。またフラゴナール、ドラクロワ、ブーシェなど日本ではほとんど観られないオールドマスターズ中心の構成も素晴らしい。

あとは愚痴ですが、今年は名古屋が400周年で日本美術の古い名作をけっこうあちこちで展示していたのに行けなくてガックシ。( ; )

また東海地方では古代ローマが一種のブームになり、いろいろ展示をやっていたのですが、それも行けなくてガックシ。( ; )

来年はゴッホを筆頭にカンディンスキーや堂本印象など大物の展覧会が多いので、楽しみです。( ^o^ )

## リポーター夢野！

リポーターの夢野です！（？）

今日、海老蔵さん事件の影響をもろに受けている御園座に乗り込みました。

黒木瞳さん、石黒賢さん、錦織一清さんらのお芝居「取り立て屋お春」観賞です。

御園座の外壁に一年間のスケジュールがカレンダーになって貼つてあるのですが2月の海老蔵さんの写真の上にブルーのシールが貼つてありました。（・・・）

市川團十郎と中村七之介の間に不自然な空白が・・・

ところが、中に入ると「あれっ！」中で無料で配っているカレンダーには堂々と海老蔵さんが出ています。（・・・）

どうも松竹はあまり非を感じていない様子とにらんだ。（・・・）

しかし、私と海老蔵さんは同い年で、国文学はもちろん歌舞伎も扱うので海老蔵さんの奔放な言動（世間的には奇行なのでしょうか？）（TOT）はたくさん聞いていました。

特に「源氏物語」のお芝居をやるため（お姫様役は尾上菊之助（o・・・）b）瀬戸内寂聴さんのところに挨拶に行った時、「本当にツルツルですね！」と寂聴さんの頭をさわったり、「あっ！木だ！」

と庭の木にいきなり登り出したり、それを誰も無礼とか非常識とか  
とがめなかった十年間の結果がこれか。(TOT)

成田屋！

## 2010年回顧・舞台

大賞（ダブル受賞）・・・「近代能楽集」「ホフマン物語」

最優秀演出家賞・・・栗國淳

最優秀女優賞・・・藤山直美「おかしな二人」

最優秀男優賞（ダブル受賞）・・・美輪明宏「近代能楽集」、早乙女太一「公演2010」。

特別賞・・・カルロ・コロンバーラ、幸田浩子。「ホフマン物語」

### ノミネート作品

「近代能楽集」

「ホフマン物語」

「おかしな二人」

「チャルダッシュの女王」

「ナブッコ」

「梅咲きぬ」

「松井誠公演2010」

「忠臣蔵」（松平健）

「早乙女太一公演2010」

「松竹新喜劇」

### ノミネート女優

藤山直美「おかしな二人」

紺野美沙子「忠臣蔵」

名取裕子「梅咲きぬ」司葉子「松井誠公演2010」  
知念里奈「早乙女太一公演2010」

#### ノミネート男優

美輪明宏「近代能楽集」

早乙女太一「公演2010」

松平健「忠臣蔵」

桂ざこば「松竹新喜劇」

前川清「おかしな二人」

特別功労賞・・・前川清。

寸評・・・演劇ですがオペラを入れるか迷いました。（-\_-;）  
クラシックでも取り上げているから。  
でも「ホフマン物語」を讃えるため入れました。

「近代能楽集」は蜷川幸雄演出、藤原竜也主演版も観たことあるのですが、美輪明宏版は美しさ、演技力、演出力が桁違いだった！

早乙女太一は若手ですが女形としては絶頂期の感。正直、今年の公演は前半男の子、後半女の子で出ていましたが、まだ女形に徹した方がいい。

さて、オペラ歌手をノミネートに入れると独占されてしまうので、

カルロ・コロンバーラと幸田浩子さんのお二人の歌唱に特別賞を贈ります。

藤山直美と前川清のお芝居と歌のショーもよかったです。藤山直美はやっぱり天性の女優。

前川清の歌唱もすごく上手かった！　へ（＾ｏ＾へ）（ノ＾ｏ＾）ノ



## カズマ日記？

神様ってやつばいるんだ！（。ロ。）

デビル夢野が相変わらず傲岸不遜にいろいろ教えていたところ、「井原西鶴！ゲホッゲホッゴホゴホッ！」といきなりむせ出しました。（^O^）

「い、井原西鶴・・・ゴホッ！」

「先生、井原西鶴がどうしたんですか！？」

「『日本永代蔵』は純文学なんですか！？」

「ゲ、ゲホッ！」

みんなはニヤニヤと見守り、別の教室の小学生が「大丈夫かな？」「すぐくむせてる！」と話していました。微笑ましい。（^O^）

デビル夢野は高級？緑茶綾鷹を飲もうとして震えています。

ケンゴくんやあっちゃんたちは笑い死にしそうです。

ヨーコ「でも井原西鶴、何だったんだろ？」

カズマ「わかんないけど、シヨタおじさんにとっては井原西鶴は紫式部や太宰治に匹敵する偉大な存在らしい」

ヨーコ「『男色大鏡』とか書いてるもんね」

デビル夢野「ゲホッ！井原西鶴！」

カズマ「何だやっぱそっちの方向性か」

デビル夢野は瀕死になりながら、文学事典を開いて、井原西鶴のページを示していました。

ダイイングメッセージ？

## 文学事典の楽しみ（邪道）

Kくん「ギャーハハ、松本清張と井上ひさし、文壇の二大ブサイク、ひどいっすね！電気クラゲみたいっすね！」

夢野「これ見て、伊集院静、こんなにブサイクなのに夏目雅子と篠ひろ子と結婚したんだよ」

Kくん「ママが言っていたけど、美男美女って本人が満たされているんで、ブサイクと結婚しちゃうれしいですよ！」

夢野「じゃあ、Kくんも危ないですね」  
先輩「ブフフ」

夢野「女性では高樹のぶ子先生がきれいな。渡辺淳一センセが芥川賞・直木賞の選考会の帰りのタクシーで乳をももつとしてつきとばされて、かつらが吹っ飛んだの！」

Kくん「ギャーハハ」

夢野「ユージロー、どうしたの？もじもじして」

ユージロー「こ、この子可愛い！アイドルよりずっと可愛い！」

夢野「ああ綿矢りさね・・・（――；）オタクの星だもんね。何の取り柄もないキモいオタクのことが好きで好きでたまらない天才美少女の恋を描いた名作（迷作？）『蹴りたい背中』の」

ユージロー「僕、この子大好き！何でもしてあげたい！」

Kくん「こわっ！」

夢野「この子はどう？金原ひとみ」

ユージロー「キャバ嬢みたいでやだ！僕は幼稚と言われようとオタクと言われようと純粹でいたいんだもん！イノセントボーイだけが行けるパラダイスがどこにあるんだもん！」

Kくん「こわっ！」

みんな「（――・――）」

## お名前探偵団（・・）ゞ

昨日、小学生の女の子と話していたのだが、小さい子のお名前がますます力オスになっている。

私の知っている中で、けっこう変わっているのは「ココロ」とか「舜」。後者は中国神話の神の名前である。これで実物がキモイオタクだったら目も当てられない。（TOT）

また女の子の双子で「小豆」と「きな子」（・・；）うーん。

しかし、昨日の女の子の話ではもつとすごい名前があるらしい。

ある兄弟が「王子」「妃」という名前らしい。でも普通名詞だもん。それ。固有名詞になってないもん。

また東海地方は外国人労働者が多いので、やむを得ないが、「ハインリッヒ」という子もいる。「フランス」もいた。（・・；）（；・・）

洒落たお名前は子供の時は可愛いかも知れないけど、老人になってから困ると思う。

病院の待合室で「エレナばあちゃん」「セリーヌばあちゃん」「シユートじいちゃん」「レオンじいちゃん」とか呼ばれると思うとき  
つい・・・（・・；）

## 可愛いベイベ

最近、男子と女子で賛否が分かれている件がある。

佐藤健がブログで「苦ちい」「お見逃ちなく」など赤ちゃん言葉を使っている件である。(――・:;)」

Kくん「ぶん殴ってやりたいですねー」  
タツヤ「腹立つわー」

蘭「えー、可愛いよねー」

マユ「美男子だから許されるの。Kくんやタツヤは許されないの！  
(、o、)」

男子「ブー！」

夢「でも、カズマも『カズマくん、〇〇しちゃう！』とか話してるよ」

みんな「(――・:;)」

ケンゴ「カズマくんは将来、Ikkoさんみたいになる！(、o、)」

「

カズマ「あっ！でもこの前、女の子にセーラー服借りてコンビニ行っただけ、バレなかった！(^o^)」

みんな「(――・:;)」

ケンゴ「店員も痛々しくて何も言えなかったんじゃないかな。(・・  
;)」

夢「カズマに言うておくけど、カズマは30ぐらいになったらオバサン顔のオジサンだよ！今だけだから輝きは」

カズマ「カズマくん、泣いちゃう！(TOT)」

みんな「ほっておきましょう。(――;)」

## 歯磨き大作戦（o . . .）b

仕事にもよるだろうが私はしゃべることが仕事の中で大きい比重を占めている。

生徒とそんなに密着している訳ではないけれどエチケットとして、歯磨きは必ずしている。

また餃子、キムチ、納豆、ステーキのんにくソースなどは仕事前には控えている。

珈琲も好きだが、飲んだ後は歯磨きする。

ところが、今日、スーパーというかショッピングセンターで歯磨きしていたら、小さい男の子がトイレで遊んでいた。

「こんなところで歯磨きしちゃいけないだよ！（、o、）」

夢「どうして？」

「（. . . . .）ここは手を洗うところだから？」

夢「いいえ、歯磨きもしていいんですよ！（^o^）」

それにしても私は老人、子供を含め、いろんな人に話しかけられる。アウラが出ていないのか？（. . .）

しかし津山三十人殺しの犯人も子供に好かれていたというし、こええな。（. . . . .）



「ふたたび」感動した！

年間ランキングを決めたのですが、あれは全くの自分の都合で20日が映画雑誌のランキング投票の締め切りだったので、そこまでする2010年としたのですが、今日、「ふたたび」という作品を観ました。これが2010年ランキングに間に合っていたら、かなりたくさんの部門にノミネートできた傑作でした。号泣号泣。

意外と重い作品です。

テーマはらい病です。

これまでに「砂の器」（野村芳太郎監督）、「愛する」（熊井啓監督）などらい病をテーマにした作品はたくさんあるのですが、この作品は未来への希望を感じさせる明るい作品でした。

神戸のある一家のところにらい病のため隔離されて60年を過ごしたじいちゃん（財津一郎さん）が帰って来ます。じいちゃんはい病になつて隔離されるまで、ジャズバンドをやっていて、それを再結成するため孫（鈴木亮平）と旅に出ます。

いい味のじいちゃんたちと再会し、ジャズライブハウスで演奏へ。メンバーはおひよいさん（藤村俊二さん）、犬塚弘さん、佐川満男さん、そしてジャズライブハウスをやっているじいちゃんの役で渡辺貞夫さんが出ています。

後先がちよつと逆になってしまいますがらい病は昔は偏見があり、不治の病と思われていました。

純粋な孫はじいちゃんと旅をしながら差別など人間世界の不気味な面をちらつと目撃しますが天真爛漫ではつらつとした子で、新しい時代を切り開いていく希望を感じました。

アメリカの国民的文豪マーク・トウェインも「本当の笑いは本当の悲しみから生まれる」と言っていますが、現代っ子の孫と頑固ジジイの旅は笑いを巻き起こしながら、時折、観る者をハツとさせる。例えば、現代社会に帰ってきて、コンビ二のおにぎりを開けないじいちゃんを笑いながら助ける孫の姿に笑いながらもじいちゃんが奪われた60年の時間を気づかされるのです。

この作品の笑いには哀しみが一滴したたらせてありました。

そういう意味では戦後屈指のコメディアン財津一郎さんの演技は素晴らしかった！ブラヴォー！

楽しいから笑うんじゃない、笑うから楽しいんだと涙の中で気づかされます。

ちょっと脱線してしまうけど、じいちゃんの息子と嫁の役は陣内孝則と古手川祐子さんと、自分が若い時は主役ばかりやっていた大スターがだんだん親の役になっていくのは自分も年になっていくということか・・・（――；）

本当に脱線してしまうけど、古手川祐子さんはじいちゃんを差別して追い出そうとし、国からの賠償金は横取りしようとする鬼ばあいの役で、ちょっと路線変更が急過ぎて勇み足じゃないかと思う。そういうカテゴリーには泉ピン子とか高畑淳子とかすでにいるんだから、もうちょっと穏健な路線がいいと思う。

b ジャズも素晴らしいし、年末年始の私の一押しです！（o・・・）

## 蓮實学長（＾Ｏ＾）

私は一応、なんちゃって、だが東大に行った。  
そこで気づいたのはキャラ者の先生が多いということである。

もしかするとシリーズ化するかもしれないが、まず取り上げたいのは私が通っていた頃の学長（総長とも言う）蓮實重彦先生である。

（・・・・・）

蓮實学長はフランス文学の研究者だったが、何千本いや何万本かもしれないが映画を観ている映画評論家でもあった。そして、特に小津安二郎研究は国際的に高く評価されていた。

そのため小津安二郎の生誕か没後何周年かの企画で世界中の監督で小津安二郎の影響を受けている者を選び、小津安二郎をテーマに映画を撮らせることになった。

選ばれたのは中国の巨匠ホウ・シャオシェンだった。  
主演は一青窈さんと浅野忠信さん。

ここまでは順調なプロジェクトだった。

ところが蓮實学長は何を思ったのかその作品に自分自身も出演する  
と言い出したのである。（・・・・・）（；・・・）

出来上がった作品は「珈琲時光」

みんな、蓮實学長はどこに何の役で出てくるのか、ハラハラ見守っていた。

「あれっ？」（・・・）

ところが蓮實学長が出てこないまま、エンドロールが流れ出した。

（TOT）

蓮實学長は「私の出演シーンを全てカットするとはさすがホウ・シヤオシエン。美事だった！」と語っていて、私たちは笑いを押し殺すのに骨が折れた。

何千何万もの映画を観ていても演技は出来ないのか。（TOT）

あと偉大な芸術家はそんなものかな？と思うがホウ・シヤオシエン、すごいな、と思った。何もしがらみ感じてないもん。ボーダーラインとか全然見てないもん。（・・・）

## カズマ日記？

ジングルベル

クリスマスイブです。（＾Ｏ＾）

とはいえ冬季講習が組まれています。（・・・・・）

シヨタおじさんも朝一で教室にやって来て、ますます意気軒昂です。  
（・・・・・）

教室のあるビルもクリスマスでエントランスホールではジャズライブが行われていますが、夢ちゃんにはジャズに合わせてダンスを踊ったりしているけど、すごく下手くそ！（・・・・・＃）

夢野、男33才、働き盛り、ジャズ好き。みたいに見せかけようとして、見せかけることにも失敗している。（TOT）

まるで生まれたての仔鹿のようなヨタヨタしたステップで、リズム感や運動神経のなさがバレバレ。（・・・・・）典型的な下手の横好き。

観客に配られるココアを強引にもらおうとしたり、一応、ビルのテナントの店員？（教師というのの扱いは難しい）なのに、どうなの？（・・・・・）

また冬季講習の生徒にビルのクリスマスフェアの福引きの券が配ら

れていますが、デビル夢野は気の弱そうな男子生徒に「券、余つてたらもらうよ」とまるでだふ屋だし。（、・）（流石に券を奪うのは失敗した。）

しかし、教師枠で会社の人に券をもらっていました。  
めげねえ男だ！（、・）

明日、クリスマス当日、一気に何回も福引きをしようと企んでいるようです。（-|-;）

「そんな先生ですが生徒はみんな先生を尊敬しています。一年間ありがとうございました！」（添削・夢）

## カズマ日記？

神様ってやっぱりいるんだ！（。□。）

デビル夢野のクリスマス。

教師枠でもらったくじを引きましたが、全部ハズレ。インスタントのおみそ汁（もちろん赤だし）でした。ザマミロ！

しかも午前中の教室にくじのハズレでパネトーネ（パンケーキの一種）をもらった女の子がたくさんいたので、「ハズレでもパネトーネ！」と意気込んでいたようですが、午前中にパネトーネは配り終わられ、おみそ汁でした。（-|-）

夢「ガクーツ（\*-\*）」

カズマ「こういうの気持ちだからね、落ち込まないの！（。o。）  
＼（-|-）」

それにしても怠け者で、遊び人の夢野翁が朝から深夜まで講座をやっているとは冬季講習なかなか侮れぬなり。

しかも夢野翁にじわじわとダメージを与えることが起こりました。冬季講習は忙しくなるため、新しい若い先生がやってきました。

新人の先生「夢野先生からいろいろ学んで頑張ります！（-|-）  
ど」



夢野「いや、私なんか足輕、一兵卒ですよ。私たち同世代じゃない  
( ; )」

新人の先生「いえ、世代が違います!」

夢野「( - | - # ) (殴ってやろうかと思いつつ) 私もいつまでも  
若い可愛い子ちゃんじゃいられないか。( - | - : )」  
カズマ「別にもとから誰もそう思っていないから」

若い新しい先生が入ってきて、夢野はどうなるのか!?

## マサキの選択

「正義の味方のマサキくん」はたまたま今まで出番が少なかったが、着実に足場を固めていた。(――;)」

「究極の選択」の「ハンサムでアホ」と「不細工で勉強出来る」の選択で、不細工を選択する子が多い中、「俺はハンサムを選びます！(o・・・)b」と豪語。

夢「何で？(・・・;)」

マサキ「不細工は努力してもハンサムになれないじゃないですか！でもハンサムに生まれて努力して勉強すればいいんですよ！」

ケンゴ「そ、そうかな・・・(・・・;)」

そしてマサキは大学に提出する願書に「ノーベル賞をとった科学者は『やっていることが失敗するんじゃないか』と恐れない勇氣を持っていた。そして俺もそういう勇氣を持っている！」と書いてしまう「純」な子だった。(――;)」

夢「こんなこと書きちゃダメですよ！(――;)」

マサキ「何がダメなんですか！(、・・)」

夢「何がって・・・難しいね・・・(・・・;)」

明日はどつなる!？

## 冬休み

私の生徒はいろんな高校の生徒がいて、私に国語、論文、英語、歴史などを習っている。

そして、今のようない長い休みには全寮制の学校に行っている子が地元東海地方に帰ってきて、勉強していることが多い。

カズマ「あつ、ダイキが帰ってきた！ダイキ！ダイキ！」

夢「寮はたいへんだったでしょう」

ダイキ「学校が終わった後、18時半から20時45分まで勉強。21時ぐらいいから25時までまた勉強。テレビはなし。ラジオは教育番組（英会話など）だけよいけど、音楽番組とか聞いてないか、先生が抜き打ち検査するの」

絢香「えゝ、やだゝ、ドラマや歌番組見られなかったら友達と話出来なゝい」

あつちゃん「休みはあるんでしょ」

ダイキ「日中はどっかに行けるけど、何時から何時まではどこに行くって許可をとるの」

夢「カズマみたいにね、彼女の部屋でドラマのDVDボックス見てその後、実事しているようなパーチクリンは許されないんですよ！（、o、）」

カズマ「年間150本も映画観て、週休5日の文学部生活していた

パーチクリンの先生にお言葉はそっくりそのまま、お返しします！  
○（、へー）　パンチ！」

ダイキは冬休みもカズマたちより真面目に勉強していた。

ダイキ（でも、パパとママとお姉ちゃんと一緒にいられてうれしい。  
予備校の方が学校よりは楽しい。みんなも優しいし。）

しかし、そんな心内を表さないポーカーフェイスのダイキだった。

## シヨウくんの手紙

前略、お母さん、岡山から希望と使命に燃えて名古屋にやってきました。(o・-・)b

しかし、先輩で国語の夢野先生と英語のマイティ先生は講師控え室(職員室)でとんでもない話ばかりしています。

マイティ先生「夢ちゃん、これ見てよ!」

夢「わっ!松坂慶子の若い時のヌード写真!若い時はやせていますね!今と違って」

マイティ先生「僕の青春のアイドルだよ!ギャハハハ!」

夢「高橋恵子もけっこうエロな作品、出ていたでしょ。ギャハハハ!」

シヨウくん「(・-・;)」

マイティ先生「あと僕が好きなのは『サスペリア』ね」

夢「ああ、ホラーの帝王ダリオ・アルジェントの」

マイティ先生「夢ちゃん、意外と怖がらないからね」

シヨウくん「(・-・;)」

マイティ先生「僕はね、『黒部の太陽』にエキストラで出たんですよ。夢ちゃんは『チャイルドプレイ』と『オーメン』に出とったよなあ! ( ^ O ^ ) 」

夢「(・-・)ま、失礼な!」

シヨウくん」(････)」

お母さん、僕の学校は大丈夫なんでしょうか？(TOT)

## シヨウくんの手紙？

お母さん、年末年始も頑張って働いています。（o・・・）b

朝、夢野先輩やベテランの先生と喫茶店に行きました。

僕「うわー、コーヒー一杯にあんこのついたトーストと茶碗蒸しとバナナと焼きそばとサラダとヨーグルトがついてくるとはー」

夢「（、・）シヨウ、しっ！後ろの席のオバチャンが！」

後ろの席のオバチャン「地下鉄の四番出口を出たところよ！○○先生の法律事務所は！私には私の言い分があるからね！裁判を何度やつても財産分与で私の取り分が増えることはあつても減ることはないんだから！着物も宝石も私が働いてた時のお金で買ったんだから！」

夢「（ー＋）ニヤリ」

僕「（T|T）」

後ろの席のオバチャン「だいたいお父さんが向こうのご先祖様に申し訳ないとか言うからつけ入れられるのよ！私は被害者なんだから！」

夢「（ー＋）ニヤリ」



僕「（T―T）」

後ろの席のオバチャン「結婚する前に同棲しなきゃダメね！相手の本性が見破れないから！」

僕「（T―T）」

夢「あー、すごい話聞けましたねー！」

マイティ先生「こわっ！」

摩けこの山先生「いやーf（^―^）」

お母さん、僕はいつまで耐えられるでしょうか？（TOT）

## 心理テストで遊ぼう！

今、文学部は人気がない。極寒である。

絢香「文学部やだ、本なんか読みたくない」

ゆう子「心理学は役立ちそうだから心理学やる」

夢「フォーフォーフォフォ。心理テストやりましょう。心理テスト！」

カズマ「（；）チャラすぎる！ミハーだし！」

夢「はい、あなたは桃太郎です。犬、猿、キジの他に何か動物を家来にすることにしました。それは何でしょう？」

絢香「ウサギ」

ゆう子「ネコ」

カズマ「鬼！」

ケンゴ「カズマはやっぱりパーチクリンだな。（・・・）」

夢「はい！ところがその動物を連れていくのをやめました。何故でしょう？」

絢香「どっか行っちゃうから」

ゆう子「相手してくれないから」

カズマ「鬼畜だから！」

（よかったら皆様もやってみて下さい。）

夢「はい！では診断結果です。連れていく動物は自分のイメージ。

連れて行かない理由は自分の思う自分の欠点です！」

絢香「えゝ、どうしようゝ」

ゆう子「当たってるかも！」

ケンゴ「カズマだけすべってるね！」

カズマ「ギクッ（――・:;）」

夢「私は・・・孔雀？」

あつちゃん「（、o´）この狸親父！」

みんな「ギャーハハ！」

夢「（――・:;）」

## 大晦日

今日はやっ和大晦日。しかし、仕事です。（；'；）

私は年末年始が苦手です。厳密に言うとな年末年始でみんなが遊んでいる中で働くのが苦手なのかもしれません。

まあ、普段は「何してる人なんだろう？」と周りの人に思われている訳ですが。

このサイトでは私はそんなに交流がある方ではないですが、メッセージや感想をいただくとやはりありがたいです。

また「エッセー集」という比較的軽いものを書き出したのが、今年の挑戦です。

明日からですが、来年は学生がたくさん卒業したら、また3月ぐらいに何とかまとめた作品を書きたいです。

ちゃんと合格して卒業してくれるといいんだけど。（・・・；）

一年間お世話になった皆様ありがとうございました。

まだ今日中に更新するかもしれませんが、感謝をお伝えします。  
来年もよろしく願います。

## あなたにとって

あなたにとって夢野とは？

カズマ「ボケたおじいちゃん。いろんなこと詳しいし、教えてくれるけど、ボケちゃってるから訳わかんないことよく話してる。そういう時は寝てる。(・・・) z z z ボケてるから予測不可能な行動もたくさんするし。ボケてるから急に怒ったりもするし。すぐ忘れ去るけど。(・|・;) 人生に必要なことは夢ちゃんから学ばなかった。大化の改新を目撃したり、ペリーの通訳をやったりしたらしい・・・」

ヨーコ「時代遅れの男。古典の訳に英語、フランス語、ドイツ語を混ぜるのはやめて欲しい。ゆう子『《つきづきし》ってどういう意味ですか？』夢『《ふさわしい》ですね。《suitable》です』他にも ancient poetryとか chinese ghost storyとか普通に話して欲しい。こんな小細工で喜ぶのは昭和で止まっているKくんとお嬢様学校の子だけ。『自立しているんです。independentです。フランス語ではアンデパンダンです。』自慢以外にフランス語を言った意味は？(?!?) どうでもいいけど、気取って『von Boyage! (フランス語でさようなら)』と昨日、冬季講習を締めくくった時、たんがからんだ。せいぜいお大事にすることだ!」

あけましておめでとーございます

あけましておめでとーございます。今年もよろしく願いします。

昨日は父方の一族の新年会に行きました。そして今日は高校の同窓会に行きました。

同窓会の方が楽しかったです。

スタンダードな同窓会でなく、いろんな学年が集まるスタイルで自分の学年はちよつと少なかったけど、楽しかったです。大満足です。

一応、卒業生のほとんどは大学に行く学校だったので、男子は先生、公務員ばかりでした。

予備校講師の自分はちよつと変わり種かも。 ( ^ ^ ; ) 。。。

女の子の方が生き方が多様だと思う。妊娠中の子。三人も男の子がいる子。キャリアウーマンの子。みんな違ってみんないい！

またいろんな子の情報を交換したのも面白かったです。

コンピュータ会社で活躍している子や、エンジニアになって巨大な装置を設計している子、同級生同士の結婚した子。アメリカに行った子。街角でよく見かける子。大名家の別荘をカフェにしたところに嫁いだ子。

思い出話も。野球部の応援に行ったこと。野球部のレギュラーの子の彼女が中核メンバー。

不良が学校に来て暴れて、番長が撃退したこと。

修学旅行で長崎に行ったこと。当時も今も人気の変わらない福山雅治はすごいなとか。

先生が卒業生と結婚したこと。卒業後付き合い出したと言ってたけど、怪しいなあ。（、へ、）

絆。新しい一年もステキに頑張りたいです。

## ニューイヤークンサート

あゝ、今年のお正月は比較的楽しかった。

昨日、大酒をかつくらったわりに、同級生に久しぶりに会えて、興奮していたのなかなか寝つけなかったけど、今日、毎年恒例のNHKナゴヤニューイヤークンサートに行きました。

毎年1月3日に愛知県芸術劇場でコンサートがあり、東海北陸地方では今夜22時から教育テレビで放送されますので、よかつたらご覧下さい。パイプオルガンの左の方にいるキャーソンの天野に似た神経痛に耐えているオヤジイが私です。(ーーーー)

今日のコンサートのテーマはバロック音楽！

昔は女性が芸術をやれなかったため、男性でありながら女性のパートをやる人がいたのですが、その現代版ソプラニスタの岡本知高さんが「オンブラ・マイ・フ」や「ある晴れた日に」を熱唱していました。衣装がすごい。(ーーーー)

またバロックということで愛知県芸術劇場名物のパイプオルガンの独奏などもあり、個性的でした。

とても楽しいコンサート。

ただNHKのわがままでアンコールは毎年恒例の「ラデツキー行進曲」なのですが、その前に大河ドラマ「江・姫たちの戦国」のメインテーマを日本・世界初演で会場のお客様にプレゼント！というNHKの自分中心主義はすごい。



でも、江姫が主役になるんだったら自分も一つだけ戦国時代の話のアイデアがあるからちよつと書きたくなつた。  
どんなドラマにもゲームにも出てくるけど、意外と一度も主役になつたことのない人物です。

書こうかな？書けるかな？今でもたくさん積み残してるのに。  
――；）

b しかしタイトルは「蘭丸が駆け抜けた17年について」(o - - ;)  
)

## カズマ日記？

カズマ「やった〜！（TOT）冬季講習終わった〜！（TOT）」

夢「いやー、次の大きい行事は春休みの謝恩会ですね！」

カズマ「いや、僕たち来週、天下分け目のセンター試験なんだけど。（-\_-;）」

夢「まあ、そんなもнтаいしたことじゃないですよ。人生の中で学歴とか」

カズマ「（-\_-;）いい加減な・・・」

夢ちゃんは冬季講習の間も

夢「戦中の転向文学を代表する島木健作の『一枚の油絵』を読んで、答えなさい。ヒロイン『桜田もい』は・・・桜田もい、まるで21世紀のライトノベルを先取りしたような」

みんな「だー！（TOT）突っ込むとこ、そこかよ！」

夢「『姫君の幼く可愛い様子を好きになり』ここ、引っ掛けで間違いの選択肢です。ただこういう若者が最近、増えてますね。次の問題の姉と弟が結ばれるという間違った選択肢を選んだ人も多かったですよ。自分の妄想を混ぜちゃダメですよ！」

みんな「だー！誰も妄想なんか混ぜてないよ！（TOT）」

夢「『三國志』ってみんな横山光輝のマンガとか吉川英治の小説で読んでるでしょ。あれは、中国にある本当の原典はすごくファンタジー的な構成になってるんですよ。それぞれの人物が『史記』の中の人物の転生という設定でね」

みんな「だー！（TOT）普通に講義やってくれー！」

来週、僕たちは大丈夫なのか？（――；）

## 2011前期・芥川賞・直木賞の予想

芥川賞

田中慎弥

○朝吹真理子

西村賢太

×小谷野敦

直木賞

荻原浩

○道尾秀介

受賞者なし

×貴志祐介

予想の弁

今回は芥川賞が誰がとってもおかしくない実力者揃い。

田中慎弥は川端康成賞、朝吹真理子はドウマゴ文学賞と芥川賞作家が次の目標にするような賞をすでに受けており、二人のダブル受賞では？

ただ西村賢太と小谷野敦は力量はすごいけど、権威に唾を吐きかけるような破滅型の作家で二人が落選した時の暴れっぷりには太宰治以来の期待。ドキドキ。

逆に実力者が例年が多い直木賞は今回は小粒な感じ。

道尾秀介さんを推す新聞報道が多かったけど、ミステリ界の人なのに、今回はミステリ界が推してないのが不安材料。

逆にミステリ界の去年の一押し貴志祐介の「悪の教典」は直木賞のカラーに合わない感じ。( -\_-; )

直木賞は山本周五郎や藤沢周平のような人情味のある作家を好むから。

しかも貴志祐介さんは多彩な作品を出しており、「青の炎」のような青春小説も出しているから今回は見送りでは？

ベテランの荻原浩さんが有力と思いますが、今回は受賞なしもあるかも。

発表は17日です！( ^ - ^ ) ”g

## 成人式

今日、ケンゴやマサキと一緒に願書を書いていた。

願書の中にごく短い作文を書くところがあり、私は一応出来上がった願書のチェックと作文に手を入れることをやる。

代筆に近い。(――;) )

マサキ「部活・趣味・入学後の抱負・・・」

ケンゴ「勉強してたから部活やってない！(TOT)」

夢「まあ中学の時、マサキは剣道、ケンゴはサッカーをやってたでしょ。それでいいんですよ」

マサキ「趣味・・・」

夢「ケンゴは映画鑑賞と読書でいいでしょ。マサキは・・・AV鑑賞じゃまずいし(――;) )、モータースポーツと英会話にしておきなさい。入学後の抱負はマサキは留学と世界各国訪問ね！」

ケンゴ「俺、外国嫌いや」

夢「ケンゴは地元のお年寄りなどに貢献することね！」

マサキ「長所・短所・・・家族の経歴・・・」

夢「短所書く時に妬み深くて下品とか、嘘ばかりつき他人のものを盗んで恥じないとか破滅的なこと書いたらダメね！真面目すぎるところがあるとか、熱中しやすいとか、長所に替えられるような書き方してね！」

そんな殺伐とした中、ケンゴの姉が成人式の挨拶に来た。

姉「先生、見て。髪もネイルも成人式のために手入れしたの。（＊

＾―＾＊）」

夢「あら、ステキ！服は振り袖？」

姉「はい」

夢「帰り、お酒飲み過ぎたらダメですよ！」

姉「えへっ」

受験生は浮き足だち、卒業した子は成人式を迎え、私も年になっていく訳か。

年になるにしろステキに年輪を刻んでいきたい。

過去の絆を大事にし、新しい出会いを常に見つけて。

何物も吾を汚すなし朝発ちの門に真紅の朝陽渦巻く（前川佐美雄）

やった〜！冬季講習と平常の仕事終わった〜！明日から一週間ぐらいお休みだ〜！

年末年始なかなか連絡出来ないなどお伝えした方にはすいませんでした。

たいした仕事もしていないのに。

明日からは受験生はセンター直前で自習。下級生はスキー合宿などで私は極楽とんぼです。

ごんたくれ坊主たちがダウンー系の気分になっているのをブフフと笑いながら、遊びます。

東海テレビさんのご招待で草なぎくんの新しい映画の試写会も行くし。生徒たちが凍えているのを想像しながら、温泉に入り、ソフトクリームを食べるのだ。ブフフ。

今年の目標は改めてですが特になし。

日々の仕事を頑張ることと健康に気をつけることくらい。

あとは気持ちのがのつたいろいろな書きたいし、感性が鈍らないように今年もいろんな芸術にふれ、感動を味わいたいです。

恋愛はいいかな。今年は。一回休みで。

和歌を新聞に送るのはちゃんとやりたいですが、忙しいとなかなか



アイデアが浮かばないし。

年末年始に一つだけ作った愚詠を書いておきます。

「伝えたい始まりの詩<sup>うた</sup>ありがとう同じ時代<sup>うた</sup>に生まれてくれて」

それでは、さらばじゃ！（＾3＾）ノ

## 間違い言葉辞典

昨日、センター試験の問題で大正時代の小説を取り上げていて、「敷居が高い」という表現が正しく使われているのをきっかけに間違い言葉について考えるのは面白いと気づいた。

？敷居が高い

正：隣の家の窓ガラスを草野球してて割ってしまった。謝りに行くのは敷居が高い。

誤：こんな高級なしゃぶしゃぶ屋さんは僕には敷居が高いなあ。

「敷居が高い」は「何か悪いことをしたので、相手に後ろめたい」という意味が正しい。しかし、高級で気がひけるという意味で使われる誤用が多くなった。

？破天荒

「織田信長は破天荒な男だった」という一文を正しく解釈出来る人はどれくらいいるだろうか？

「ハチャメチャ、自由奔放、豪快」これらは全て誤用である。

「何か前例のないことをやった」「最初」それが正しい意味。

つまり織田信長は前例のないことをいろいろやったという意味である。（ただ歴史の厳密な意味では織田信長が最初に何かをやったと

いうのには異議が多い。)

これは前例のないことをやった人(例えばコロンブスやアインシュタインなど)はハチャメチャな人だったというイメージから意味が間違えられていったのだろう。

これは「天荒を破る」という中国古典の表現がおおもとである。科挙という中国の受験の合格者が出なくて天荒(人材不足)と言われた地区があつたが、そこから合格者が出て、「天荒を破った」という言葉が出来たのである。

間違い言葉辞典、もしかするとシリーズ化するかも知れない。o( ^ - ^ )o

## 「瞳の奥の秘密」

新年一発めにして年間ベストワン最有力なり。昨年のアカデミー賞受賞作「瞳の奥の秘密」観ました。

とにかくおすすめ。絶対観てという感じです。

予告編もちよっとネタバレ気味なので、絶対損しないから観てという感じです。

改行して少しだけ論評します。

アルゼンチンで一人の主婦が殺される事件が起きて、主人公は捜査をします。

そして約30年後ぐらい、それを小説にする老いた主人公。

二つの時間が交錯して描かれます。

途中、「ああ、これは南米文学のマジックリアリズムだな！」と思いました。時間や場所の変化がくるくる起こり、幻想的な世界を描く。それは私たちの記憶や想像力が時間や場所にとらわれないことを上手く再現しています。

世界的に有名なスターは出ていませんが、サスペンス、ミステリとして素晴らしい出来です。

さて、この後、核心のネタを割りたいので、観る前に絶対読まないで下さい。

半分以上進んだところで、ミステリとしての犯人探しは終わるのですが、そこからが本当に素晴らしかった。

アルゼンチン（南米）という設定が生きてくるのです。

軍事独裁、恐怖政治が行われている非民主社会で主婦をレイプして殺害した犯人は反政府の活動家を殺すテロリストとして国家の保護下に入り、追っていた刑事たちが逆に抹殺されていく骨太の政治ドラマになり、その中で主人公とヒロインのラブストーリーとストーリーが激しく展開しながら緊張が途切れることはありません。最後がハッピーエンドなのか否かは是非劇場で観届けて下さい。アルゼンチン恐怖政治をテーマにし、やはりアカデミー賞を制覇したマヌエル・プイグの「蜘蛛女のキス」以来の出色の感動作、傑作です。

「南米なめんなよ!」というぬるま湯の中にいる日本人には衝撃の力作でした。（……）

## 「ノーウェアボーイ」

ジョン・レノン生誕70周年記念作！（私は田舎に住んでいるので、都会では昨年公開ですが）

いや、泣いたわ。今日はアカデミー賞の「瞳の奥の秘密」を観て、ジョン・レノンの映画もついでに観たのですが、意外！無冠のこの作品の方にすごく泣いてしまいました！傑作です。

ジョン・レノンの映画ということで、ジョン・レノンの活躍期ではなく、デビュー前の少年ジョンと二人の母、育ての母ミミと産みの母ジュリアの愛と哀しみを描いており、すごくよかったです。

私はビートルズにすごく詳しいという訳ではないので、ストーリーが新鮮で、面白かった。

ラジオやハモニカを買ってくれた優しい伯父が亡くなり、お葬式でジョンは産みの母に再会します。

産みの母はエルヴィス・プレスリーの音楽をジョンに紹介し、豊かな芸術センスを持つジョンはエルヴィス・プレスリーの音楽に夢中になります。

しかし、そこで産みの母が素晴らしい、ロックは自由みたいな短絡的な描き方になっていないのがいい。

育ての母ミミはチャイコフスキーやバッハの音楽を聴き、文学を読み、ジョンに無償の献身的な愛を捧げます。

その役を英米の映画界、演劇界の大御所クリスティン・スコット・トーマスが演じています。

貧しい港街に暮らしてもイギリス人の気品や風格を失わずジョンを育てる彼女の姿にジョン・レノンという芸術家の一本筋が通っ

たところが養われたとよく分かります。

産みの母の助けでジョンはロックバンドを始め、すぐ頭角を現します。

そこに比較的ちゃんとした感じの少年がバンドに入りたいとやって来ます。それがポール・マッカートニー。

ポールは圧倒的なテクニックと政治力ですぐバンドを乗っ取ろうとし、不器用なジョンはポールをぶん殴ったり、未来の不気味な部分も暗示されていて、きれいごとになっていないのがよかった。

クライマックスはジョンとミミとジュリアの感情がぶつかり、ジョンの出生の秘密が発覚するところ。イギリスの伝統の力が、シェイクスピアの悲劇をほうふつとさせるすごいシーンになっていて、大御所クリスティン・スコット・トーマスが出演している意味がよく分かりました。彼女の圧倒的な上手さと美しさが神話的な迫力すらシーンに与えている。ブラヴォー！

私はビートルズに詳しくないので、どの程度が実話でどれぐらい脚色があるのか断定出来ませんが、映画としてはかなり素晴らしいまとまった作品です。

若い子だとジョンがグレて暴れている無軌道な様子に共感するかもしれないませんが、私は育ての母の姿に涙していました。（自分にも通じる？（^ ^;）。。。。）大事に育てた子はだんだん去っていくってしまう。

しかしジョン・レノンという偉人（と言ってしまったてもよいだろう）は二人の母に無限の愛を捧げており、感動しました。

愛のさまざまな形を描いて、私の心に大いにカタルシスを与えてくれた秀作です！



## 「君がくれた未来」

おすぎさんが推薦しているのを偶然テレビで見たので、観たのですが、なかなかよかったです。

アイドル映画なのですが、ちょっと変わっています。

ザック・エフロンというアメリカの若い男性アイドルの映画で、幼い弟との家族の絆、男の友情を描いたものかと思ったのですが、あら意外。

ネタバレ御免の方はここまでで。

何と一種のゴーストストーリーだったのです。（・・・）

弟とザック・エフロンが重大事故に巻き込まれ、弟は亡くなり、ザック・エフロンは臨死体験をして蘇生。それ以来、弟や友達の幽霊が見えるようになります。幽霊と言ってもおどろおどろしくなく、イラクやアフガニスタンの無益な戦争への批判やリーマンショック以来のアメリカの闇への抗議が霊たちの口を通して語られ、不思議だけど、考えさせる力作です。

後半はアメリカらしく、ザック・エフロンが霊と交流出来る不思議な力で人々を救い、英雄になるサクセスストーリーで見易いですが、私はシリアスな路線を追及して欲しいとも思いました。

ザック・エフロンは顔も体もかつこよくアイドルの 아우ラ が出てた。

無意味に裸になるシーンも多く、自分の立ち位置をよく分かつてる。日本には少なくなった正攻法のアイドルです。

日本人である私はゴーストが日常にいる天使みたいなもので主人公を助けてくれるのを心地よく観てたけど、普通のアメリカ人にとっ  
てはどうなんだろう？

ちなみに南米の人、その祖先のスペインの人は日本人に似たスピリ  
チュアル観を持っていますよ。だから私はスペイン、南米、大好き  
なの。(・・・・)

## 試写会「僕と妻の1778の物語」

東海テレビさんのご招待で拝見しました。お招きありがとうございました。

しかし真実を記録しないといけないので、あえて書くのですが大きい会場がガラガラだった。(TOT)

しかも若い可愛い子がいたらナンパしようと思っていたのにババアばかりだった。(TOT)

SMAP、大丈夫？嵐に負けないで。

草なぎくんの「僕の生きる道」シリーズの完結編の映画です。

小説がテーマでは是非皆さんにおすすみたいです。

小説バカ一代と言っていい、小説だけに打ち込む純粋な美青年草なぎくん。それに献身的に尽くす賢く美しい妻が竹内結子。二人のさやかだけど幸せな日々。

ところが竹内結子は重い癌に・・・

草なぎくんは毎日一話ずつ小説を書いて竹内結子の余生を幸せにしようとして愛を捧げます。そんな草なぎくんの愛に包まれ残された時間を大切に作る竹内結子。

素敵な小説の力で余命一年と言われた竹内結子は五年も生き延び、多くの人が草なぎくんの無償の愛に共感して助けられます。それでももついに訪れる残酷な瞬間・・・

草なぎくんは毎日小説を書くことが奥さんへの愛であると同時に自分の心の支えだったことに気づきます。小説を書くって何？誰のため、何のため書くの？そんなことを改めて考えさせられます。

私も新しい作品を書きたくなりました。

草なぎくんの書く小説が映画内小説として織りまぜられ、幻想的で美しく、楽しい。

おすすめです！是非、ご覧下さい！

## キネマ旬報のベストテン

今日（日付が変わりましたが）キネマ旬報のベストテンが発表されました。

私が去年の回顧で挙げたベストテンとけっこう重複しています。

映画にしる、音楽にしる、美術にしる、文学にしる、評価、評論するにはある程度の訓練や勉強が必要です。それを一定程度クリアしていると一年間で観ておかないといけない勘所の作品はだいたいおさえられるようになります。

私はその程度のうぬぼれは持って、いろいろ観て論評する仕事をやっております。

ただ矛盾するようですが、自分の好みを貫くのも大事なんです。キネマ旬報のベストテンには入ってなくても私が挙げた作品は1位と同じ思い入れがあります。楽しんでもらえると思います。

「第9地区」は年間3位になっていました。

私は最初に論評した時からこの作品を激賞していました。

知り合いが全然ダメと言っていました。その人はその感性を大事にすればいいんです。

ただし焦らず誠実に取り組むことは大事です。

後先が逆になってしまいましたが、キネマ旬報のベストテンはニュースのサイトなどで観られますので、ご覧になって、私の年間ラン

キングと比べて下さい！

あと私は田舎に住んでいるので、まだ観てない作品もありますが、是非キネマ旬報のベストテンを参考に観たいです！

## カンゲキ！日記：「たか女爛漫」

泣いた！（TOT）

感動した！（TOT）

不意打ちだった！

今日は母親と御園座で川中美幸のお芝居とコンサートの予定でしたが、母親の急病で私が一人で行きました。

ところが、低いモチベーションで観たお芝居「たか女爛漫」が「レ・ミゼラブル」「アンナ・カレーニナ」に匹敵する力作だったのです！（TOT）

幕末の大老・井伊直弼のスパイだった村山たか女が主人公です。それを川中美幸さんが演じている。

井伊直弼は歴史上有名ながら評価の定まっていない人です。

最近は幕末のドラマもヒットしていますが、昔は難しくてヒットしないと言われていました。

そしてその理由はいろんな人物が政治的立場で善人とも悪人とも描かれるからです。

しかし、今回は井伊直弼側の人間が主役ですが、権力闘争の中で、善も悪もくるくる変わることで変わる人間の恐ろ

しさが描かれます。

しかし、その中でたか女の優しく純粋な性格が救いになっており、  
明るいつ川中美幸の個性と合致しています。素晴らしかった。

大団円の終わり方もエレガントでした。

お芝居の後の歌謡ショーもよかった。個人的には昭和の名曲を歌っているところが楽しかったです。

後先が逆になりましたが読売新聞さんのご招待でした。  
ありがとうございます。素晴らしい公演でした。



罪

夢「恋ばなしましよ！恋ばな！」

カズマ「( ; ) チャラすぎる！」

マサキ「俺、前の彼女とつきあっている時、本当はもっと可愛い子とつきあいたかったのに妥協してつきあつてたんです。だから、次は本当に好きな子とつきあいたいと反省してます」

蘭「はあ？」

マユ「反省じゃねえよ！サイティ！」

絢香「やだ」

夢「これは……罪ですね……」

マサキ「ちゃうって、ホンマに反省してるんやって！（TOT）」  
 ヨーコ「反省しても許されないんだよ！」

男子たち「こわっ！」

ゆづ子「妥協してとかどんだけ上から目線なんだよ！（、、）」

マサキ「ちゃうっ！言い方が悪かった！謝罪する！（TOT）」

夢「女子全員を敵に回しましたね。（・・・）」

「トット」……うう「マサキ」

カズマ「俺たちも気をつける・・・」

マサキ「うつつ・・・でも、ええんや。今は受験さえ成功すれば・・・  
・左手が恋人なんや・・・」

女子全員「最悪！（、へ、）不潔！（、o、）引くー（- - - #）」

夢「口は災いのもと」

男子たち「マサキ・・・（TOT）」

## 罰

神経痛抱えながらも職場まで歩く頑固な古典オジサン（愚詠）

パツパツパーみたいなエッセーばかり書いているが、実は年末年始ぐらいから神経痛になってしまった。腰から左足にかけてが痛む。しびれるような痛みである。立っている時と歩いている時は痛くない。

立ち上がる時と立ち上がった直後がひどい。

原因は不明である。太りすぎもあるかも知れない。

またこの痛みはいろいろ好き勝手にやっていることへの神仏や生徒たちの生き霊の怒りが爆発したのかも知れない。

お風呂に入ると痛みが取れる時もある。寒さもあるかも知れない。

ベテランの先生や生徒は腹を抱えて笑っている。

シヨウくんは心配そうにしている。

先輩はブフフと笑っている。

しかし、痛むというのも命があるからでもある。

痛みを抱えながら生きていることをかみしめている。

しかし、学恩をわきまえない生徒たちには罰が下るように祈ってい

る。  
(  
|  
-  
#  
)

## 親鸞展

実は今日はちょっと出勤したのだが、センター試験直前はやることもない。

JR名古屋タカシマヤの親鸞展に出かけた。もちろん神経痛はガンガン痛んでいる。

親鸞は浄土真宗の教えを作った偉人である。

親鸞や、親鸞にお告げを与えた聖徳太子、師匠の法然、親鸞を弾圧した後鳥羽天皇の肖像画や古文書が展示してある中、私がぶっ飛んだ出来事があった。

国宝か何かの鎌倉時代の仏様の像の周りに紙幣を含むおびただしいお賽銭が落ちていたことである。

美術展の仏像は美術品のはずである。(・|・)

またお金を払うことで魂の苦悩や不幸から救われるのだろうか？ いやっ！そんな変なことを考える私だから神経痛の罰を受けるの？

しかし、このお金が恵まれない人のために使われたら・・・

しかも会場の出口の売店では親鸞福袋（一万円）というのが売っていた。親鸞グッズ（？|？）が二万円分入っているのだという。

あまりにも訳の分からない気持ちで会場を後にした。

信仰って何？

## 空っぱの教室

センター試験一日めが終わった。

各大学や一部の高校は受験生でいっぱいだろうが、予備校の教室は空っぱで、さみしさを感じた。

「不良」という小説にも書いたが、私は精神論が嫌いなへそまがりなので、大学のそばで出陣式をやったりもしないし、いちいち生徒に付き添ったりもしない。

ただ「もう勉強しなくていいから、体調を整えて受けなさい」と言うだけである。

ところでセンター試験というものを当たり前に書いてしまっているが一応説明すると約56万人の受験生が五教科のテストを全国一斉に受ける。国公立大学希望者はまずセンターを受け、その結果で最終的に受ける大学や学部を決めるのである。

また私立大学のほとんどがセンター試験の点数が一定以上なら入学出来る制度を設けている。

そういう訳でほとんどの生徒がセンターを受けに行き、教室は空っぱである。

小学生の時からめんどろを見ていた子がけっこう受験生になり、卒業していくからさみしい。

しかし、上手く合格して卒業してくれないともっとつらいから、私

はさみしさに耐えて、みんなが志望大学に合格することを祈っている。

明日、二日めの日程が終わるとみんなから成績の報告があり、受ける大学を最終的に決め、その二次試験の勉強が始まり、私の束の間の休暇は終わる。

そして一度空っぽになった教室に春になると新しい顔ぶれが並び、  
(^o^ )とか(o - - ) bとか( ; | ; )とか(T o T )とか  
( - | - ; )とか( , , )とかまたいろんな表情を見せてくれる。

その春を毎日、待っている。



愚詠（＾３＾）／

バンザイ！

愚詠が中日新聞の歌壇に初登場３位で入選した。  
選者は宮中歌会御始めの選者、岡井隆先生である。

ちなみに載った歌は次のようなもの。

パン屋さん屋号ロンドン私見だがイギリスよりもパンが美味しい（  
愚詠）

カズマに「寒い歌ばかり」とかKくんに「今の時代はもうくさい  
歌はダメなんですよ」とか言われながらも、作った甲斐がありました。

今年は歌に少し力を入れようと思っていたので幸先がいいです。

読売新聞の方も頑張ります！

歌が新聞に載るとほんのちょっとした記念品がもらえます。しかし、  
それ以上に載ることが楽しいのです。

最近、ベテランの先生と歌を詠みあっていたのがよかったです。

こういう風に互いに刺激を与えあって作品が生まれるのは素晴らしい

い。

他の方は分かりませんが、私は感動すると瞬間的な爆発のようにアイデアが生まれます。

だから映画館や美術館や劇場に感動を求めてよく行きます。

今年もますます頑張る！　へ（＾Ｏ＾へ）（ノ＾Ｏ＾）ノ

## 「シングルマン」

今日は朝から雪が降っていたのですが映画を観に行ってしまいました。（生徒たちは苦しんでいるのに（――；））

今日はヴェネツィア映画祭やアカデミー賞で台風の目になった「シングルマン」を観ました。ストーリーをあまり楽しむ作品ではないのですが、ネタバレごめんの方はご遠慮下さい。

世界的なファッションデザイナー、トム・フォードが映画作りに挑戦と映画界に話題を呼んだのですが完璧なクオリティでため息。天才って何でも出来るんだなあ。（――；）

日本でも取り上げられやすいセンセーショナルなテーマをゴツンコさせて、新たな魅力を生み出しています。その二つのテーマは「自殺」と「BL」（T・T）

こう書くといい作品になりそうにないのですが、両方、非常にリアルに細部まで描いているので、滑稽にも、噓くさくもならないのです。

ある初老の大学教授が16年一緒に暮らした男の恋人が死んでしまい、一年近い苦悩の果て、自殺することにします。そしてその最後

の1日がきれいごとでなく、しっかり描かれるので、ハラハラしながら作品に引き込まれてしまいます。

ストーリー以上に映像美が力点のある作品なのですがストーリーにも素晴らしい彩がつけてあります。

何と死ぬと決めた瞬間、モテ期がやって来て、ハンサムな優等生の少年が教授に体を捧げようとし、教授は死と生の間でグラグラし始めます。ツンデレじじいです。

ただここも演出、セリフなどが素晴らしいためコメディとシリアスなドラマの二面性を持って展開していきます。

教授の役はコリン・ファースというお洒落でハンサムなじじいがやっているので、説得力があります。

教授は死と生のどちらを選ぶのでしょうか？気になりますね。それでは劇場で観て下さい。サヨナラサヨナラサヨナラ。（ヨドチヨースン風）

## 「フェアウェル」

フランスの映画です。ハリウッドのように予算をたくさん使えなくても、面白い作品は作ることが出来るようです。

1980年代にソ連の機密情報をフランスに渡した「フェアウェル」というスパイの映画です。実話です。

フェアウェルの役が意表をついて、世界的映画監督エミール・クストリツァです。監督が演技出来るのか？と思いましたが、意外と上手かったです。

ちよつと面白いなと思いましたが、レーガン大統領、ミッテラン大統領、ゴルバチョフ書記長などが出て来ます。彼らは私が子供の頃の人物で、歴史上の人物という感じではないのですが、今の若い子からしたら、歴史上の人物ということか？

考えてみると太宰治や三島由紀夫、吉田茂、ヒトラー、チャーチルなども私からすると歴史上の人物だけど、同時代に生きてた人もいるはずだし。(ー・ー・)

この先、こういう近い過去の作品がたくさん作られていくかも。

ところでアメリカの政治家の役でウィレム・デフォーにそっくりな人が出ていた。スパイダーマンの悪役で有名な悪役界の頂点にいる人である。そっくりと思ってエンドロールを見ていたらウィレム・デフォーだった。(TOT)

多分、エミール・クストリツァ監督への尊敬の念から友情出演したのだろう。

一流の人は一流の人を認めるということだろうか？

## 2011年前期・芥川賞・直木賞決定！

こんばんは。

一昨日から今日にかけてちよつと怖いぐらい雪が降りました。  
その中でセンター試験も何とか終わりました。

そのことも改めてまとめたいのですが、今日の夜、芥川賞と直木賞  
が決まりました。

私の予想は今回はやや外れ気味？（\*―\*）

まず芥川賞は朝吹真理子さんの圧倒的な受賞は予想通り。ところが  
ダブル受賞の相手は破滅型作家西村賢太さんでした。

ただ西村賢太さんは今まで町田康さんなど実力者に評価されてきた  
ので、受賞が変な感じはしないです。

私の一押しは田中慎弥さんでしたが朝吹真理子さんとの兼ね合いで  
伝統的作家と破滅型のバランスをとられて損したのかも。ただ田中  
慎弥さんはゆくゆくは一番活躍しそうな大器です。

より予想がひどいことになったのは直木賞。

受賞を疑問視していた道尾秀介さんとノーマークの木内昇さんが受  
賞。

ただ実は昨日の時点でNHKの読書番組をラジオで聴いていたら木  
内昇さん、かなり有力という予想だったのでしまったと思いました。

ただ「悪の教典」の落選はちゃんと予想出来ました。（負け惜しみですが。（\*―\*））

あと荻原浩さんも十分活躍している人で、また機会があれば受賞すると思います。

今回は久しぶりに芥川賞作品を読みたいと思いました。

しかし朝吹登水子の子孫ということで芥川賞までとれて、水嶋ヒロみたいに悪く言われない朝吹真理子さんはうらやましいな。あつ！だからガス抜きで西村賢太さんと一緒にしたのか！なるほどなるほど。



## ショウくんの手紙？

お母さん、センター試験という関門をくぐり抜けました。(o・  
)b

僕「東海地方ですら雪が降ってたいへんでしたねー。ん？夢野先輩、  
ポケットから何か落ちましたよ。(。口。)

な、何ですか！？これ！デパートや温泉の領収書や映画館や美術館  
のチケットの半券。カフェのレシート！生徒が苦しんでいる時に  
(T・T)「

夢「ちっ！バレたか。だってセンターの時しか休めないんだもん！  
学生が街にいなくなる天国だもん！」

僕「若くも可愛くもないのに『もん！』とか言うなー！(TOT)「

夢「(、・・)「

靡けこの山先生「僕も新幹線で東京行って、同窓会でした。ひどい  
二日酔いでガラナ飲みましたよ。ルノワールで。f(ハ―ハ；」

夢「ショウ、この仕事長くやりたかったら生徒と適度な距離感を保  
つこと！(、o・)「

マイティ先生「傾向分析はどうでした？」

夢「大手の予備校や新聞社は易しくなったと書いてますけど、ハイレベルな受験生にとっては傾向がちょっと変わったから高得点を取りにくかったみたいです。二次試験が激戦になりそう。( -\_- ; )」

僕「あきらめずに頑張りましょう！(、o、)」

お母さん、あと一ヶ月ちょっと僕たちの冬の決戦が始まります！

## 間違い言葉辞典？

神経痛がひどい。明日、病院に連れて行かれることになった。耐えながら、ちよつと間違い言葉辞典を再びお送りします。（\*―\*）

### ？煮詰まる

週刊誌の表紙を見ていたら、俗悪なスキャンダル雑誌じゃなく、わりと硬派なオピニオン誌の表紙に「煮詰まる菅政権！」などと書いてあった。

しかし「煮詰まる」という言葉の正しい意味は「結論が出る」「問題が解決する」という意味である。

よく考えてみると煮詰めるというのは料理の一つの立派なテクニクの一つである。

しかし、煮込み過ぎて黒煙が出ているようなサザエさんみたいなイメージから失敗する、とか行き詰まるという意味で使われるようになったのではないかと思う。

次は典型的な誤用。

「昨日の会議、煮詰まっちゃったよ！専務派が営業部長派とケンカし出して、そこに総務部長が茶々入れたりして、1日つぶれちゃった！」

どうやって煮詰まったんだ？

？すべからく・おもむろ

後半はまた漢文由来の言葉。

「すべからく」は「ぜひとも（べき）」という意味。ところが例文が間違えやすく、「全て」という意味の高級な言い方という誤解をなさっている人が多い。

ちよつと以下の例文を見て欲しい。

「すべからく学生は勉強すべき」

これの正しい意味は「学生はぜひとも勉強すべき」という意味なのである。

ところが「すべ」という音にひきずられて、「全ての学生は勉強すべき」という意味にもとれてしまい、「『全て』の高級語」という誤用が広まった。

例えば次のような例文は誤用である。

「僕の作品にはすべからく戦闘シーンが入れてある」

しかし、こんなような誤用はよく見かける。

また「おもむろ」は「ゆつくり」という意味である。漢字で書くと「徐」。徐行という言葉を意識すると分かるようにゆつくりという意味なのだが、正反対の「急に」「突然」という意味で間違えている人が多い。

「老人はおもむろにカバンから書類を取り出した」という例文があったらノロノロ取り出しているのだが、老人は意外とがさつに素早く動くことがあり、誤用が広まったのだろう。

私はおもむろにペンを置き、この章を締めくくる。  
あつ、いてて、足が・・・（――；）

## 間違い言葉辞典？

この間違い言葉辞典がいいねとトキイチロ先生がおっしゃったから  
2011年1月19日は間違い言葉辞典記念日！

？サビ

歌謡曲（日本人がラップ、ヒップホップなどと称するものも広く含む）で盛り上がるリフレインの部分をサビと言う。

若い子でもよく使う言葉である。

しかしこれが誤用なのである。

サビという言葉は「わびさび」という言葉などに名残があるように  
能などの謡曲の寂寥とした感じのメロディに使われる言葉で明るい  
曲の盛り上がる部分がサビというのは本当は誤用である。

私の好きな関ジャニの曲などはサビと本当に言える部分のある曲  
は少ないと思う。（・―・；）

逆にサビがある歌を歌っている人って今は誰がいるだろう。中島み  
ゆきさんの曲も「宙船」など明るいし。

何故か徳永英明さんが思い浮かんだ。（・―・；）

？サワリ

これもけっこう広く誤用されている。

これの正しい意味は「核心部分」「クライマックス」という意味である。

しかし、次のような使い方が見受けられる。

「この映画のサワリを紹介します。主演はブラッド・ピットとキャメロン・ディアスなんですけど、二人がリゾートに行くとか次々事件が起こるんです。続きは是非劇場で！」

お分かりのように「導入部分」「イントロダクション」という意味で使っている人が多い。

この誤用は何故起こったのかよく分からない。  
今後の研究課題。（?―?）

?一敗、地にまみれる

最後、また漢文の言葉です。

負けるといふのの高級な言葉として「一敗、地にまみれる」と言う時がある。

ところが、これは再起不能の大敗という意味なので、使い方によってはたいへん失礼になる。

「昨日、甲子園で一敗、地にまみれたジャイアンツが名古屋ドームにやって来ました」などという表現は不自然なのである。

「地にまみれる」というのは「肝脳が地にまみれる」という表現から来ている。内臓や脳が地にまみれる。中国人怖えな。

だから再起不能。死を表している。

うかつに使わない方がよい。

ところでひどい様を表している言葉だが、「様」という言葉はいい意味では使えないのがもとの意味である。

「俺のカッコいい生きざまを見てくれ」というのは誤用である。

「ザマあねえや!」という言い回しなどに名残があるように本当はさまというのはネガティブな色の発言である。

センター試験、みんな苦しんでいるけど、一敗、地にまみれたつもりはない。捲土重来を期して頑張る!



## センター試験終わって

センター試験終わって、みんななかなか苦戦している。

細かいデータが今日、発表されるだろうが私も国語を解いてみた。  
200点満点で191点だった。

教える立場だからこれぐらい出来て当たり前。

しかし、弟子たちは大いに苦戦している。

大手予備校は易しくなったと言っているが、私の長年のカンではレベルの高い受験生が高得点を取りにくく、苦しんだテストだったのではないかと思う。（一応、国語の感想です。）

センター試験を受ける子にもいろんな層があるので、難関大学を目指す子はこの何年かの傾向を勉強して対策を立てる。そしてセンターの古典は王朝文学の恋愛ものか江戸時代の軽い文章が多かった。ところが、今回は傾向がガラッと変わった。  
軍記ものという初めてのジャンルだった。

私は古典は満点だったが、軍記ものは学校でもあまりやらないし、扱いが難しい。

どんなジャンルでもやれるのが実力というのも一つの見識でしょう。でも何か今までの過去問を頑張って研究していた子たちがかわいそうに思うのは私がまだ若いのか？（――；）

逆に現代文でも軽いタブー破りが。

現代文では有名作品を使わないという暗黙の合意があるのに国語の問題集には必ず入っている大阪大学長の鷲田清一の文章が出てきました。

そうするとこれは差がつかなくて、やっぱり勉強している子に不利になる可能性が高い。

受験なんかたいしたことじゃないと言っても、受験生はそれにかけているので、難しいです。

あまり勉強してないのに出来たと喜んでる子もいるだろうし、勉強したのに、出来なかったという子もいるだろうし。

そういう不条理自体が生きることと学んでくれるといいんだけど、なかなかそんな悟りの境地には達せられないし。(。・。・。)

私も大賢者のX先生に喝を入れてもらいました。

「何か慢心があつたんとちゃうの？」

「ギクッ！(。――。;)」

「流れに任せなあかんの」

「生徒を氣遣つたるだけあんたは偉い」

「挫折を知ることとは大事なの」

(TOT)

## 美術館巡り〜名古屋ボストン美術館

名古屋ボストン美術館に久しぶりに行きました。

一階のカフェに寄ったんだけど、メニューが減っていて、世知辛いわ。プリンとトアルコトラジャのコーヒー頼みたかったのに。

さて、名古屋ボストン美術館の今の展示は「錦絵の黄金時代」展。浮世絵です。

主に鳥居清長、喜多川歌麿、東洲斎写楽中心の展示。

写楽作品をまとめて観られるチャンスは少なく印象的でした。

近現代以前の日本人は理想主義の美意識を持って、あるがままというより理想的な美を描いたのに対して写楽は美も醜もあるがままに描いているため世界三大肖像画家とされています。

私は正直なところ、写楽は上手いとは思うけど、苦手です。歌麿のような理想的美の方がいい。

あと最後のセクションで他の浮世絵師たちをまとめて展示している中で私の大好きな鳥文斎栄之の作品がいくつかありました。

栄之は歌麿に匹敵する美人画の巨匠ですが優れた作品は外国に明治時代に流出しており、歌麿に比べて日本人からは忘れ去られています。

今回の展示はボストン美術館のコレクションです。（・・・）

Kくん「ところで『京都・背徳の夜』のはやみが自分を理想化してスケッチブックに描いていたんですよ。可愛い女の子に囲まれてハレムになっている絵で」  
みんな「ギャーハハ！」

あっちゃん「そういう子が偉い画家になるかも知れないじゃないですか！（、・・）」

夢「えゝ、でも多分、なんないよねゝ」  
Kくん「なんないっす！」

あっちゃん「（――・・）」

## 間違い言葉辞典く変奏曲く

灰黄の枝を広ぐる林見ゆほろびんとする愛恋一つ（岡井隆）

今回は一つ一つの間違った言葉の指摘ではなく、ちょっと違う次元のことを書くこうと思います。

すでにご存知の方も多いかもしれませんが、幕末から近代に日本は欧米からいろんな知識を導入しました。そしてそれを日本に定着させるため儒教や仏教の経典の中からいろんな言葉を調べて、新しい言葉をたくさん作りました。

その最大のヒット作と言えるのはやっぱり「愛」という北村透谷の作った言葉。これほどまでに今や普遍的という顔をしている新語はないんじゃないか？と思います。

「百人一首」をパーと全部見ていっても「恋」「思ひ」という言葉はたくさん使われていますが「愛する」という言い回しは出て来ません。

自分が知ってる限り、古典で「愛」という言葉が出てくるのは「源氏物語」でお経の一節として出てくるところで、その時の「愛」というのは今の「愛欲」という言い回しなんかに名残があるネガティブな意味合いです。

もちろん古代から江戸にかけても豊かな恋愛感情はあり、現代よりはるかに豊かなボキャブラリーがありました。

しかし「愛」という言葉は明治に発明されるのを待たないといけま

せん。（直江兼続が愛という字の兜を使っていたのは現代人が思っている意味ではなく、不良が悪い言葉を使う類いだったと思われる。）

それで、ここから言いたいことですが歴史小説を書く場合は明治時代に作られた言葉が混じらないように慎重に書いてあるかで作者の見識や力量がよく分かります。そういうことを哲学的な考察にまで高めた作品は例えば山田正紀の「天正マクベス」があります。

逆にアイドルが出ている時代劇などはめちゃくちゃです。

しかし、それがダメという訳ではなく、書いている人が一種のファンタジーとわきまえていればかまわないと思います。

私が書いた歴史小説もそういう一種の歴史ファンタジーだと思っています。

一種のおとぎ話をまたお届けしたいです。（＾３＾）／

ぴいえす・愛知、愛媛などは当て字なので、「愛」という字が奈良時代からありますが、今の意味はありません。

それを書き忘れていました。

## 「白いリボン」

観ました。映画ファンの期待の高かった2009年のカンヌ映画祭優勝作品です。

観終わった感想を書くのですが一切のネタバレごめんの方はスルーで。

正直なところ、映画の紹介記事などからオチを予想していたのですが、その通りでした。

だからといってダメではないのです。

むしろ欧米文学のスタンダードを踏まえて、非常に優れた作品になっていたと思います。

ただ心理ミステリとして観た日本人が多いと思われるけど、自分はそういう路線の新鮮さは感じなかった。

作品名を挙げるだけでネタバレになりますが、ミステリの古典にある内容です。

ただ、その描き方が今までになく秀逸でした。監督はオーストリアのミヒヤエル・ハネケですが、すごい作品だった。

この作品がいいと思われた方には「ファニーゲーム」と「ピアニスト」もおすすめです。

ただ（という書き出しばかり（・・・））、ハネケの作品はオバケとかは出て来ないのですが、人間が一番怖いという意味のホラー映画に近いです。

サイコ・ホラー、サイコ・サスペンスとして監督が作ったつもりなら日本やハリウッドのホラー映画よりずっとリアルで怖いです。

ハネケが「ファニーゲーム」で世界的に知られた時、カンヌ映画祭の観客で途中、気分が悪くなったり、激怒して帰っていく人が多かったですが、「白いリボン」も相当の精神力がないと逃げたくなると思う。

ただ、人間の悪の部分や醜さを徹底的に描き、そういう分野やホラーに興味がある人なら是非、観た方がいいと思う。

バカップルだと思うけど、一組だけカップルがいました。でもデートでは絶対NGだと思う。何の救いもないもん。

個人的にはミヒヤエル・ハネケの精神力の強さにびっくりしました。普通カンヌ映画祭のグランプリや最優秀監督賞を何度も受けたたり、栄誉を手に入れたら、人間が丸くなりそうだけど、ならない。その心のねじけぶりは狂人と言っていていいでしょう。

フランソワ・オゾン、ラース・フォン・トリアーと並ぶ映画界三大狂人にミヒヤエル・ハネケを認定します！（\*―\*）

（今回、あまりネタバレせずにハネケ映画の怖さを書けたか自信ない。ネタバレで本格的に書き直そうかな？）



## 初恋の再会

最近、いろんな名作が新訳されている。その中、私の青春？の愛読書「トニオ・クレエゲル」「ヴェネツィアに死す」「マリオと魔術師」などの新訳が出たので早速購入して読んだのだが、衝撃を受けた。

特に「トニオ・クレエゲル」には人生規模で影響を受けている。文学観の面などでも。

しかし、それが悪いことも思わない。

それほど圧倒的な傑作に出会い、魅力され、そういう読書体験を持てたことは幸福だと思う。

今の時代に合っているのかな？と思うが、訳がイカしている。

「誰よりも深く愛してしまった者は敗者であり、苦しまなければならぬ」（トニオ14歳。――）ちなみに愛したのは金髪の美少年ハンス（・・）（；・・）

「文学は天職なんかじゃない。呪いなんだよ」

「僕は人生を愛している。これはいわば告白だ」

「僕が愛しているのは明るく陽気で生き生きとして幸せな、愛すべき平凡な人たちなのだ」

「ここには憧れと憂鬱な羨望とほんの少しの軽蔑とこの上なく清らかな幸福感があるのだから」

すごいな。オールドマスターズは。

三島由紀夫、吉行淳之介、北杜夫、辻邦生らはトーマス・マンを熱狂的に読み、影響下に置かれた。偉大な文学とはそういう尊敬のエネルギーである。  
そういうものがない人は気の毒に思う。

新訳はまた新しい可能性も気づかせてくれる。

「ヴェネツィアに死す」はルキノ・ヴィスコンティの映画化作品の影響もあり、私は主人公アッシエンバッハの一人相撲の悲劇と思っていたが、新訳で読むとアッシエンバッハが恋する美少年タッジオの死も暗示されており、死の世界で二人が結びつく幻想的なロマンスの可能性も感じられた。

新訳、はまりそう。「嵐が丘」、シュペルヴィエールなんかもちよつと読みたい。

## 試写会「ザ・タウン」

「ザ・タウン」試写会で拝見しました。名古屋のテレビ局CBCさんのご招待です。ありがとうございます。

「ザ・タウン」アカデミー賞の前哨戦の映画祭や賞で好評なので、観ることにしました。

監督・主演・脚本はベン・アフレック。

「パールハーバー」や「アルマゲドン」といったB級作品で有名かつ顔でかく、足短いベン・アフレックは一流の監督に使ってもらえるはずもなく、ならば監督も脚本も自分で！という雑草魂！（TO T）

最低監督賞、最低主演男優賞の常連です。

ところが今回の「ザ・タウン」はどうしたのか？すごい傑作！魂が震える！

この章を載せた何分か後にはアカデミー賞のノミネートが発表されますが作品賞と助演男優賞はかたいのでは？

監督賞と主演男優賞もいけるかも。

犯罪ドラマの久々の大成功作品です。

ザ・タウンと呼ばれる街は犯罪の巣窟になっているのですが、その

中で幸せや愛を探す若者たちの苦悩や絶望が家族への愛とからめて描かれ、秀逸！

そしてギャングの若者たちと警察の戦闘シーンも素晴らしく、アクション映画としても人間ドラマとしても楽しめます。カップルで観てもどちらも満足出来そう。

ストーリーは是非、観て欲しいのですが、三人の俳優に夢野は注目！

まずベン・アフレックが主演なのですが、親友でより粗暴なチンピラ役のジェレミー・レナーの演技が完全に主役を食っていた。悪の哀しみや怒りを体現していて、目が離せなかった。

またアカデミー賞常連の大御所クリス・クーパーが1シーンだけ出てくるのですが圧倒的な演技力で作品を引き締めており、流石っ！  
美事！

そして名優ピート・ポスルスウェイトの遺作にこれはなっているのですが、彼も素晴らしい存在感。

ところで私はよく泣くのですが、今日は戦闘シーンに夢中になって泣くタイミングを逃してしまいました。

周りの人が泣いてるとけっこう醒めちゃう。(････)

来週末全国公開ですがおすすめ。

犯罪アクションであり、愛のドラマです！(････)

## 偽峰不二子

のんちゃん「俺、最近、気づいたんすけど、夢ちゃんってけっこう悪人じゃないっすか？」

みんな「だー！（TOT）そんなのみんなずっと前から知ってるよー！」

ヨーコ「あたし、最初に会った時から悪人って見抜いてたよ」

カズマ「夢ちゃんはヒツジの皮をかぶった狼だよ。（・・・）」

夢「（、、）」

のんちゃん「（TOT）みんなが心配で・・・とかX先生に相談しながら、いつの間にか自分の歌や小説の宣伝になっていたり・・・」

夢「（- - - #）」

のんちゃん「けっこう生徒をあおって戦わせてたり・・・」

夢「（、へ、）」

のんちゃん「頑固なんだけど、けっこう生徒に合わせてコロコロ言うことが変わったり土壇場で裏切りそうですよね！」

夢「あっ！それって峰不二子みたいな小悪魔的な魅力があるってこと？（^O^）」

摩けこの山先生「f（^ー^；峰不二子は可愛いから許されますけどね・・・」

夢「（、、）逆接で言いさすのはどうしてなんですか!？」

みんな「（- - -）」

## 長州の美男の血

ゆう子「あたし、カズマよりあっちゃんの方がカッコいいと思う。勉強も出来るし、水泳部のキャプテンもやってたし」

夢「あっちゃんは性格はへそ曲がりですが顔はいいですからね」

摩「この山先生「o( ^ - ^ ) o あっちゃんは先祖が長州出身ですからね。長州の美男の血が流れているんですよ」

久々の出番の先輩「長州の美男の血なんて聞いたことないですよ！菅直人、安倍晋三、伊藤博文、あとロンブーの淳。みんな長州（今の山口県）出身ですよ！どこが美男子ですか！？」

摩「この山先生「f( ^ - ^ )」  
夢「( - - ; )」

## 美術館巡り／名古屋市美術館

まだやっている美術展ですが名古屋市美術館でポーラ美術館のコレクションを観ました。

日本人が好む近現代のフランスの作品のコレクションでした。いわゆる印象派の作品とエコールパリの作品で構成されています。印象派は浮世絵に強い影響を受けているため、日本人が観やすいのです。

またエコールダパリはパリ中心に起こった芸術の運動で日本人も参加し、運動に影響を与えているので、やはり観やすいのです。

私が観て印象的だったのはピカソとスーチン。美しいという訳ではないのですが魅力やエネルギーを感じます。

美しいな、豊かだな、という感じはやはりモネとルノワールに感じます。

一階と二階が企画展で地下は名古屋市美術館のコレクションが展示されていましたが、それがまたよかったです。

前衛芸術のオブジェがけっこうあって。

どうしてそういうものが人に感動を与えるのか、謎です。謎を解くため、美術館を巡っています。

先輩「ピカソの絵なんか観るからKくんを好きになるんですよ。ブフ」

## 佐野元春LIVE

今日、佐野元春さんのLIVEに行きました！泣いた！すごくよかった〜！

佐野元春さんは去年がデビュー30周年で3つのツアーをやったのですが、最後の大都市ツアー、名古屋公演に行きました！

最初のツアーはポエトリリーディングと言って、音楽に合わせ、詩を朗読するもの。

第2のツアーはライブハウスを回るもの。

両方行きたかったのですが、仕事が忙しく、残念ながら行けなかったのです。

今日のLIVEは佐野元春さんの名曲づくしのすごい充実したLIVEでした。

ほとんどの曲がよく覚えている名曲ばかり。

今日、改めて思ったけど佐野元春さんの曲は歌詞とメロディが完璧なまでに素晴らしい。演奏も素晴らしい。歌唱は日本人の基準ではちょっと独特の歌唱ですがポエトリリーディング的な要素が何かある。私は大好きです。

デビュー30周年記念のセルフカバーアルバム「月と専制君主」の中からの「ジユジユ」「レインガール」に泣いちゃった。



そして後半へのブリッジとして「トイレの神様」より長い大曲「ロ  
ックンロールナイト」号泣！この歌は日本のロックの歴史をこの歌  
以前、以後に分けられるような名曲です！

そして異様なまでのグルーヴ感で「約束の橋」「サムデイ」「アン  
ジェリーナ」「悲しきレイディオ」「レインボーインマイソウル」  
「ヤングフォーエバー」を聴き、もう興奮してスタンディング！

私も佐野元春さんもヤングフォーエバー！（o - - ）b

## 生きるって何だろう？

今から書くことをどう皆様が思われるか分からない。だが、書く。

今、受験シーズンに突入し、私もまた少し忙しくなってきた。

ただ受験生は学校に行かなくなるので、予備校の授業は昼になり、私も普通のサラリーマンみたいに夜は少しのんびりしている。

受験ごときでくじけちゃいけないが、けっこうみんな苦しんでいる。

世の中の幸福や不幸は誰にでもあるんじゃないかな？と思う。だから他人をねたんだりせず、この人にも何か苦しみがあるのかもという優しさを持ちたい。

例えば、私の教えている子は比較的恵まれた子が多いが、実は昔担任していた子のお母様が癌で亡くなってしまった。そうしたらその子は生活などは何の苦労もないけど幸せと言えるだろうか？

私や生徒たちに出来ることはその子の気持ちに寄り添うことだけである。

今、いろんな苦しみを抱えている人がいるけど、他者の苦しみを想像出来ることが大事だし、それが世直しの第一歩ではないだろうか？

## ヤングフォーエバー

先日、摩けこの山先生と千種のボアドヴァンサンヌに行こうとしたら千種の正文館に行きましようとう誘われました。

摩けこの山先生は私のリコメンドで、どんどん本を買って行きます。

トーマス・マンの「トニオ・クレエゲル」の新訳。

シュペルヴィエールの「海の上の少女」の新訳。

著者不詳「ハプスブルグ帝国」

三浦哲郎先生「忍ぶ川」「白夜を旅する者」

サマセット・モームの「月と6ペンス」の新訳。

お買い物後は珈琲を飲みながら、談論風発！

サマセット・モームがイギリスのスパイをやっていたこと。

私の先生がホモだったこと。

小説を書きたいが、気が立っているの、なかなか書けないこと。  
でも私は多分、書きたいことは一生分あるからある意味幸せ。

私も刺激されて本を買ってしまいました。( -\_- )

神野志隆光先生の「万葉集鑑賞事典」

兵藤裕己先生の「王権と物語」

お二人は私の大学の先生。

竹西寛子先生の「詩歌断章」

講談社学術文庫の「建礼門院右京大夫集」

角川ソフィア文庫「芭蕉全句集」

大人買い？（\*|\*）

## ショウくんの手紙？

お母さん、今は学校は自由登校になり、予備校に来ている子も多いです。(o・・・)b

マイティ先生「僕はね、今、K A R Aの真ん中の子と一番右の子が好きなんですよ！ギヤーハハハ！」

夢「お尻が売りがK A R A、足が売りが少女時代、私が好きなのは胸！ギヤーハハハ！」

僕「(・・・;)」

マイティ先生「K A R Aと少女時代、合併すればいいのに」

マサキ「俺は板野友美が好きです。(^q^)」

カズマ「俺は堀北真希が好きです。(^q^)」

のんちゃん「俺は橋本愛(「告白」に出てた子)が好きっす！」  
ケンゴ「俺、外人が好き！」

夢「馬鹿も〜ん！市橋達也と一緒にじゃないか！歪だ！(・・・)」

僕「(・・・;)」(外人好きってけっこう潜在的にいると思うけど・・・)

夢「ユージローはどう？」

ユージロー「朝吹真理子きれい・・・」

みんな「(・・・;)」

お母さん、朝吹真理子がきれいと思った人はMらしいです。僕は僕  
は。(TOT)

## 試写会「ヒアアフター」

クリント・イーストウッドの新しい作品「ヒアアフター」試写会で拝見しました。メーテレさんのご招待です。

すごい作品だったのにエンドロールと同時に「分からなかった」と帰っていく観客が圧倒的に多くて、残念でした。(TOT)

このサイトもそうかもしれませんが「分かりやすく」表現したもののしか最近の日本人は分からなくなっているようですが、本当に素晴らしい作品は観る人も相当集中力や理解力がないと楽しめない場合があります。

その辺りで媚びたり、妥協したりしないクリント・イーストウッドはすごいと思いました。

そんなにどんでん返しとかある作品ではないのですが、少し内容に触れながら論評していきます。ネタバレ御免の方はここまでで。

作品は実は3つの映画を作る3つのストーリーを美事に絡めながら展開します。

舞台もアメリカ、イギリス、フランスと3つに分かれています。

アメリカ・ある霊能力のある青年の苦悩を描きながら、マイノリティの苦しみや差別、人間の弱さなどが描かれるパート。

マット・デイモンはジミー大西にそっくり。(････)

それなのにマット・デイモンはアメリカでは絶大な人気を誇っています。ルックスより才能重視のアメリカ人。(････)

イギリス・ある双子の兄弟の片方が事故で亡くなってしまい、生き残った方の孤独と家族愛が描かれます。このパートには流石イーストウッドとうならされる大仕掛けがあるので、特に注意して観て欲しいです。

煽るような撮り方じゃないところが素晴らしい。

しかしそこで素人はふるい落とされてしまうので、残念です。

しかし映画をある程度観慣れている人ならイギリスのパートの大仕掛けで作品の意図が理解出来て、感動の涙があふれて止まらなくなるでしょう。

フランス・私が一番好きなパート。

傑作「チェンジリング」で女性を主人公にするのに成功したイーストウッドはフランスのパートであるフランス人女性ジャーナリストの女としての苦悩を描きます。

恋と仕事。そして彼女は歴史的な大事件に巻き込まれ、人生が変わっていきます。

この3つのパートがくるくる入れ替わって描かれ、あっ！と思う手



法で交錯します。

その時、いろんな伏線が一気につながり、涙があふれて止まらなくなります。

3つのパートの主人公たちはもちろんもう一つのテーマ、現代の世界という隠しテーマが見えてきます。

もしご覧になる方がおいでしたら3つのパートに気をつけてご覧下さい。

今年もイーストウッドが年間ベストワン争いの中心になりそうです。

## 大凶の昨日

昨日はたいへんな1日だった。( ; \_ ; )

花粉症の薬を昨日から飲み出すため、病院に行ったのだが、神経痛を診てもらった時の血液検査の結果が出た。

糖尿病や痛風など怖い病気ではなかったのだが、血液の中のコレステロールが高く、薬を服用することをすすめられた。(TOT)

去年、秋に簡単な手術をして、回復させるため栄養をとっていたのが行き過ぎだった。(TOT)

実は以前もコレステロールが高くなって自力でやせて改善したことがあるので、今回も1ヶ月の猶予をもらい、また改善することにした。(副作用のない薬ですと言われるけど、やはり服用しない方がいいと思う。)

まあ、食事と運動に気をつけて、治していく。

甘いもの、油っこいもの、炭水化物、チーズ、牛乳、卵、お豆腐などは控えないといけない。

何を食べればいいんだ？( - \_ - # )

その病院の後、温泉に入りに行ったのだが、着替えの時にケータイを落として壊してしまった。

温泉はショッピングセンターの中にあるので、すぐケータイショップに行ったが、あいにく免許証などを持っていなかったなので、買い換えることが出来ず、レンタルケータイを借りたのである。

そして遅刻しそうになりながら、試写会に行った。

レンタルケータイで一つエッセーを書きたかったけど、流石に難しかった。そして今日、やっと新しいケータイをゲットした。

ケータイが新しくなったので、一部の顔文字などが使えなくなるかもしれませんが、いろいろ模索しながらやっていきます。

## 間違ひ言葉事典？

こんばんは。久々に。

？うつつ

「夢かうつつか幻か」という言い回しから「うつつ」は夢や幻の仲間と思っている人がいる。しかし「うつつ」は「現実」という意味の古語である。

「うつせみ」は現実に生きているこの体のことである。

斎藤茂吉の歌で「みそ汁は尊かりけりうつせみの命の限り飲まむと思へば」は現実に生きている限りという意味である。

私も斎藤茂吉と同じでおみそ汁や麺類のスープは必ず飲んでいたのだが。（TOT）

？気のおけない

これは先にお断りしておくとは「気がおける」という言い回しと共存している。誤用が一つの意味と認められた例である。

しかし本家本元は「気のおけない」の方で、「気をつかおうと思つてもつかえない。それぐらい親しい」という意味である。しかし、言葉に否定形が含まれているので、何となく「気がおける」という

言い回しも広まったのだろう。

？今こそ別れめ

最後に卒業式によく歌われる「仰げば尊し」の「今こそ別れめ」は別れ目ではない。「今こそ別れむ」というのが古典文法の係り結びという現象を起こしているのである。

ここは古典文法の初歩を理解しているかのバロメータになる。

「今こそが別れる時だ！」ではなく「さあ別れましょう！新しい道にそれぞれ行きましょう！」という前向きな希望を歌っているのである。

最後に釈超空（ガン！ちょうの正しい字が出ない！）の歌を書いておく。

「桜の花散り散りにしも別れゆく遠き一人に君もなりなむ」

（しかし私の生徒、来月卒業出来るのか？（- - -）卒業出来なかったらちちまわしてやる！（、・、））

ちちまわす・・・大分弁で「ぶん殴る」の意。

## 生きていく私

タイトルは宇野千代さんから。

近況報告です。

今年は受験生が多く、あまり暇にならないです。

私が教えている子が受けるのは京大、早稲田、名古屋大、などです。生徒に教えるため、もちろん自分自身も問題を解きますが、一流大学の問題は文学的に素晴らしい作品が多いです。勉強して文学を味わい、お給料がもらえるとはありがたいです。

例えば野上弥生子（夏目漱石の弟子、100歳まで生き、文化勲章受賞）が息子（京大名誉教授）に出した手紙。ものすごい知識や主張が含まれている。（・・・）それが問題になっている。

のんちゃん「こんな手紙送られてきたら引きますよね。（TOT）ビリビリって破って捨ててやる！」

夢「何、言ってるんだ！（、（これぐらいの文豪になると情がなくなるんですよ」

のんちゃん「母性がないですね。（TOT）」

夢「でも野上弥生子って80ぐらいの時、哲学者の田辺元とすごい恋したんだよ。いくつになっても恋出来るんですよ。（^O^）」

Kくん「あつ、何かカッコいい！」

他にも寺田寅彦や岡本綺堂、柳宗悦、高村光太郎、西田幾多郎、日野啓三などいろんな人の名文を楽しんでいる。

また古文や漢文も楽しんでいる。

古典というものには現代にも通じる知恵があるし、現代文学に負けないロマンもある。

愛に滅んだ女詩人魚玄機、曹操の詩、江戸時代の随筆など面白い面白い。

そして休憩時間は珈琲を楽しみながら先生同士で文学談義に花が咲く。

僕たちみんなヤングフォーエバー！

## カフェを訪ねて三千里

私は仕事の休憩時間などはよくカフェに行く。  
私のおすすめカフェをいくつか書いておく。

？ボワドヴァンサンヌ

千種という学生街のカフェだが高級な豆を使っており、ちょっと高いので、学生がおらず、私や摩けこの山先生のたまり場？になっている。（・・・）

二人が大いに語りあっていることが多い。

また私が一人で原稿などを書いている場合も多い。

店内は照明抑え目でシックで大人っぽい雰囲気である。

？タイガーカフェ

名古屋の繁華街、伏見にあるカフェ。

ヴァンサンヌとは対照的に外光たっぷり。フランスやスペインのカフェを意識しており、店の造り、店員の服装や態度などヨーロッパ的な感じ。窓際の席は夏はオープンになる。

おすすめはヨーロッパなエスプレッソ。

スイーツやフードも充実している。

私のおすすめはビーフシチュ。



？為三郎記念館

本当の隠れ家カフェ。古川美術館の分館為三郎記念館でお茶が飲める。

和風の抹茶とお菓子が楽しめる。

先日、言った時は抹茶、そば茶、おまんじゅう二つ、梅あられがセツトになっていた。

あつ、でも、カフェやスイーツも控えなきゃいけないのか？（TO  
T）

どうしよう？

## 遅めの新年会

昨日、遅めの新年会がありました。

実はマサキがある大学の一次試験に合格したので、休みがつぶれて、新年会もパスしようかと思ったのですが・・・

しかも、居酒屋さんとかでアットホームにやるのかと思ったたらグラ  
ンコートホテルの30階の展望レストランでの会食に。

服もいつも教室にいる時の普通のワイシャツにパーグラムマーケッ  
トのネクタイ、黒いカーディガンだよ！（TOT）

ま、いいや、黙ってシャンパン飲んでればいいだろ、私のような雑  
魚に関心を持つ者もないだろ、と腹をくくって出席。

何か予備校のオーナーまで、来てる。（TOT）

シャンパンでカンパイ！

オーナー「夢野くん、君の卒業論文のテーマは何だね？」（私の一  
番苦手の質問！）

夢「あの、『源氏物語』の朝顔姫です」  
オーナー「ほほう」

うーい、シャンパンごくごく。卒業論文のことなんか聞くなよ！  
(TOT)

マイティ先生がシャンパンを飲んでいなかったたので

夢「お召し上がりにならないんですか？」

マイティ先生「僕、お酒飲めないの」

夢「じゃ、私もらいますよ」

ベテランの国語の先生「わしがもらおうとしてたのに」

ソムリエ「すぐおかわりをお持ちしますので、大丈夫ですよ」

料理は

グラタン風ムース

フォワグラのパイ包み焼き

パンとクラムチャウダー

真鯛のポワレ

シャーベット

ビーフステーキ

デザートプレートと珈琲

夢「〇〇先生は数学と物理と生物が出来るんですか！？すごいですねー！」（ギャピー！何でこんな媚びてしまうんだ！？自分が憎い！（TOT））

夢「先生は柔道黒帯なんですか？」  
先生「もちろんです！」

（もちろんって何だよ！（TOT）うぎゃー！またシャンパン飲んじゃう！）

オーナー「夢野くん、今年の抱負を言ってくれたまえ」

夢「あ、えと、今年も頑張ります」

みんな（えっ、それだけ？）

自分は太宰治の「斜陽」のお母様の精神で何とか会食を乗り切る！

礼法にこだわらず、食事を楽しむ！

何とか無事に会食が終わり、私は地下鉄へ。

生物の先生が

「フオワグラって初めて食べましたわ」

夢「あらっ！」

生物の先生「僕は吉野家の牛丼の方が好きですわ」

夢「(TOT)」

(料理とお酒は美味しかったですよ。会食は苦手です。)

## カズマ日記？

一応、受験シーズンなので、自習室などにみんなが遅くまでいます。

「あれっ？」

高一のKくんが何故か、自習室に。

「Kくん、どうしたの？」

「酒飲んだことが父ちゃんと母ちゃんにバレとる。証拠隠滅したのに。(TOT) 弟かばあちゃんがチクった。よって家に帰れん。(TOT)」

困ったな。自由じじい(夢野)に相談しても「酒ぐらいいいんですよ。そうだ！健康ランドで話し合いましょー！」とかなりそうだし。(…)

「うち、来る？」

「助かるっす！(TOT)」

Kくんは俺の部屋でPSPをやったりしていました。

明け方

「あつ！父ちゃんのメールや。『まあ酒ぐらいええやろ。急性アルコール中毒だけ気をつける』よかった、家帰って、学校行こ！」

「よかったね」

その3日後、Kくんは新型インフルエンザで倒れてしまいました。

「大丈夫？」（メールで）

「きちいです。でも父ちゃんがタミフルの他にマムシやスッポン、鹿の角など飲ませてくれたので、大丈夫です」

Kくんのパパはお医者さん。

父と子の絆を見た。

夢「今回、私、出番ないんだけど！（、・、）」

## ホタルノヒカリ

間違い言葉辞典の変奏曲なのですが、卒業シーズンの二大名曲「蛍の光」「仰げば尊し」の二つは歌詞が古語のため、いろんな間違いが横行していると靡けこの山先生などが教えて下さった。

例えば「かたみに思ふ千萬ちよろずの」の「かたみ」は「形見、遺品」ではなく、「互いに」という意味の古語である。

また「仰げば尊し」の「思へばいととし」というところ、「愛おしい」と空耳で聞いている人がある。これは漢字で書くと「いと疾し」となり「すごく速い」という意味である。

少し次元が変わるが、この二曲は外国の曲ということもあまり知らない人が増えてきた。

「蛍の光」はアイルランドの曲。

「仰げば尊し」は長らく作曲家不明だったが、アメリカで楽譜が見つかったと先週ニュースになったのは記憶に新しい。

ちょっとした曲などにも学びのヒントがあふれている。

しかし、私は不徳のいたすところにより二曲を歌ってくれる素直な真面目な生徒を育てられなかった。（- - - #）

日々是騒日。（\* - \*）



ありがとう

ありがとう。

今日、マサキが合格した。三浪の苦しい生活、勉強の果て、やっと合格をつかみとった。ありがとう。私が必死に励まして慰めて勉強させようとする言葉を信じて、頑張ってくれてありがとう。泣きたいぐらいうれしいよ。自分も。

4月からはふるさとを離れて、一人で大学で勉強をしていくんだけど、そのたいへんさやさみしさのその先にマサキはまた大切なものを次々とつかんでいく。今回の成功の喜びを忘れず、頑張っている。学歴が大事なんじゃなくて、こうやって頑張ってやり遂げたことが大事なんだよ。こうやって書いてて先生も何故か涙が出てくる。

人一倍優しく、真面目で、ハンサムで、そんなマサキはこれまでの悔しさや痛みも他人への優しさに変えられるからね。

マサキの前には未来が広がっていった、たくさんの友達や、大切な恋人が待っていると思うけど、マサキのこの一年を支えたシヨタおじさんのことは忘れて、新しい世界で思いっきり活躍してね。

ありがとう。マサキは先生にたくさん幸せや思い出をくれたんだよ。ありがとう・・・大好きだよ。

## 爆弾発言！浮気（、）

すみません。浮気していました。（・・・）

「小説家になろう」をやれなかった時期、mixiをちょっとやっていた。

と言っても私の場合、出逢いみたいな使い方はしていません。

いろんなLIVEやコンサート、映画のことを書くのですが、このサイトに書くほど詳しいことは書けないものです。しかしそれでもけっこう関心を持って下さった方と友達になり、ちょっとしたゲームを始め、何かはまってしまいました。

特にはまっているのは「星空バータウン」というバーを運営するゲームです。

内装を青い薔薇にしたり夢野ワールド全開です。水晶占いも出来ます。

それはそれとしてmixiのゲームは他愛ないものが多いです。バーのゲームはただ友達のバーに行ってお酒を飲むだけだし。（もちろん仮想空間内で）

でもこちらのサイトにやって来られない時、寝る前にちょっとバーのゲームをやってここ最近の殺伐として忙しい日々を過ごしています。

した。

あとちょっとで全ての入試が終わりますが頑張って走ります！

## 美術館巡り〜堂本印象展

土曜日は生徒が早稲田大学を受験しに行っていたのですが、少しだけ時間があり、松坂屋美術館に堂本印象展を観に行きました。

先週全然更新出来なかったのは早稲田大学対策をやっていたのです。

さて、堂本印象展ですが、素晴らしかったです。

堂本印象は日本の近代美術が興ってくる時から活躍した巨匠で、今回は京都の堂本印象美術館のコレクションを名古屋で展示していました。

堂本印象の絵は色彩とタッチ、またテーマの選び方に独特の感性があり、例えばある美術館のコレクション展に混じっていても、遠くから（あつ！堂本印象の絵だ！）と分かる強い個性があります。

それが集まるとするさくならないかと思ったのですが、全然そんな風にならず、いい意味で独特の世界観が確立されていました。

特に素晴らしいと感動したのは、第二次大戦の敗戦後、既存の芸術のあり方に強い疑問を持ち、すでにかなりの巨匠だったのに日本画と前衛的な抽象画の融合に挑戦し、成功させていたことです。

私はこういう成功にあぐらをかくかかす新しいことに挑戦し続ける人が好きです。そういう強い魂が好きです。

大いに勇気づけられました！

## 「80年代ボーイズ」を読んで

私はこのサイトでトキイチロ先生の「80年代ボーイズ」をありがたく拝読し、連載を楽しみにしています。

先週、すごく忙しい時だったので、レスポンスが遅れましたが、ファミコンのことが書いてあり、非常に懐かしく記憶が刺激されました。感想に書ききれない感慨があったので、エッセーの方にちょっと書くことにいたしました。

だいたいトキイチロ先生は非常に記憶が精細で私はいつも舌を巻いているのです。

ファミコンについての回を是非読んでから、私が今から書くことを読んで下さるとありがたいです。

私がうなったのが80年代の新しく出てくる風物を描きながら、同時に失われかけている日本の光景（田舎の山水とかでなく、人々の風景など）をトキイチロ先生がしっかり描いてらっしゃるところです。

ファミコンの回で言うところ初めてファミコンを買った家に人が集まる場所。

実は私の家は商店街にあったため、商売人特有の見栄や意地でいろ

んなものはわりかし早く買っており、ファミコンも実は買った日を覚えていいます。

1984年7月20日。私の小一の誕生日でした。

その時は商店街の子だけでなく、比較的近くの街の子も来ていました。それを覚えています。

ところが！私はトキイチロ先生のエッセーを読んでいると時代感覚の鋭さにもため息をつくのですが、私は幼稚かつ鈍くてファミコンの価値を最初はあまり分からなかったのです。

最初に買ったソフトはパックマンとピンボールとあとタイトルが分からないけどSFのシューティングゲームでしたが、反射神経の鈍い私はその当時の素朴なゲームですらついていけず、誕生日は周りの子の熱狂の中、虚ろになっていました。(････)

ちなみに同じころ近所のお兄さんの家でマイケル・ジャクソンのPVを見せてもらった時もピンと来なかった自分。(････)

SFのシューティングゲームは二つ下の弟と母親がやるようになり、自分はザ・ベストテン、ひょうきん族などを見、朝日小学生新聞の忍たま乱太郎や小学〇年生の少女マンガを読み、女の子と遊ぶ、という風になっていきました。(ちよつと脇道にそれますがそんな自分は変わっていると思っていたのですが、歌人穂村弘さんが私とすごく似た少年時代だったとエッセーを書いてらして、それを読んだことがこのエッセー集を書くきっかけになりました。)

そんな自分が少しファミコンやゲームに目覚めたのはゲーム文化がだいぶ成熟してきてからでした。

何も資料もなく書いているので、発売時期とかはつきり分かりませんが私がはまったと言えるほどやったゲームは3つあります。

? ウィザードリイ

? ファイアーエムブレム

? 信長の野望<sup>なごりエイのゲーム</sup>

多分、これだけで分かる人には分かる私の体質。( - . - ; )

まずRPGというジャンルが出てきた時、自分にもやれそうだと初めて思いましたが、生意気なことにドラクエやFFはピンと来ず、初めてゲームにはまったのはウィザードリイに出会ってでした。ウィザードリイは今の若い子がやったらびっくりすると思うけど、ほとんど画面に記号や数字が羅列してあるだけで、シンプルながら、奥が深いのです!あとモンスターのグラフィックがきれいだった。

ウィザードリイ熱は高校生ぐらいがピークでした。高三の時、ポケモンが出て、一応やったけど、ウィザードリイのちょっと暗いけど、本格的な世界が好きでした。

またファイアーエムブレムは今でも覚えています。ですがファミコン版が出た時は難しくてびっくりした。( \* - \* )

これはRPGとシミュレーションの合体です。しかし難しかった。ファミコン版はクリア出来なかった。

スーパーファミコンに移植されて操作性がよくなり、やっとクリア出来ました。



ファイアーエムブレムは何となくストーリーが好きでした。ちょっとピンボケの意見かも知れないですが恋愛ゲームみたいな感じもしました。

また信長の野望は大学生の時、古書店を巡っていて床に段ボール箱が置いてあり、その中の信長の野望を買いました。群雄伝でした。100円ぐらいだったと思います。パッケージも説明書もない投げ売りでした。

それは今でもやっています。(・・・・)

信長の野望は歴史に基づくシミュレーションゲームで歴史を知っていると面白さが増すので、好きです。

これもとりとめない話ですが、ニューヨークの同時テロの時、私は信長の野望をやっていて、少し気づくのが遅れました。(・・・・)

何かファミコンの思い出を上手くまとめたかったのですが自分の偏愛を書いただけになってしまいました。すいません。

ちなみに私は今もファミコンとスーパーファミコンを大事に持っています。それより新しいゲーム機は持っていません。

## 貴族の学問

先日のバレンタインデー、摩けこの山先生と教室のあるビルの地下街で珈琲を飲んでいた。するとチョコレートを一粒もらえたのはご愛嬌。

その時の摩けこの山先生のお話がすごく面白かったので、記録することにした。

摩けこの山先生は一番のご専門は数学である。エッセーリストとしても活躍なさった京大の森毅先生のお弟子である。

そんな摩けこの山先生が「数学は貴族の学問」とおっしゃった。

数学は美しい真実だけで構成されており、実力がなければ理解することも出来ないし、中身をごまかすことも出来ない。政治力や徒党を組むことでデモンストレーションを行ったり出来ない。金儲けや一山当てるなども出来ない。そういう厳しく美しい世界だから、数学は貴族の学問だとおっしゃるのである。

確かにその通りで私もかつこよさにしびれてしまった。

翻って文学はどうかというと、ごまかしや政治力が横行する汚い世界である。

例えば芥川賞や直木賞の選考委員をやっている人で、ほとんど政治力だけで生き残っている人がいる。またベストセラー作家には政治家、商人としか言いようがない人がいる。

数学の真実は多数決で変えられない。「 $1+1=3$ 」に多数決で変えましょうとは出来ない。

ところが文学は多数決や売れ行きで良し悪しが歪められたりする。

汚れた世界だが、私はバカなので、美しい数学の世界には行けず、文学の世界で切ったはったの大騒動を続けていくのである。

先輩にも電話でその話をした。

「そうですね！数学は心がきれいじゃないと出来ないんです。邪悪な雑念があると出来ないんです！」

夢「えゝ、じゃあ私、出来なゝい（^O^）」

「そうですね！私が『そんなことないですよ』（^O^）」とか言うと思いましたか！？（、o、）」

夢「（-\_-#）」

## 「武士の家計簿」

去年のことになってしまいが、ごはんライス先生が感想の中ですすめて下さった「武士の家計簿」を今日、観ました。キネマ旬報やブルリボン賞でも高く評価されていました。

どんでん返しとかあるストーリーではない映画なのですが、一切の予備知識なしで観た方がよい方はこの先ご遠慮下さい。

舞台は幕末の加賀藩、代々加賀藩の勘定の仕事をしている一家があり、主人公は堺雅人、奥さんは仲間由紀恵、お父さんが中村雅俊、お母さんが松坂慶子、ばあちゃんが草笛光子先生です。また仲間由紀恵の父役の西村雅彦さんが久々にコメディ的演技をしているところも楽しく、うれしい。

この一族の歴史を明治になってから主人公の息子が語っているという設定です。

たいへん面白い作品で、感動も出来ます。

ここは私の日本文学、日本史研究から言えるのですが、この一家の年収は今のお金で言うところと1000〜2000万円ぐらいあるのですが、まさに放漫な親世代のぜいたくで借金がいつの間にか膨れ上がっていたのです。

そこで堺雅人が大蛇をふるって一家の暮らしを節約に切り替えるのが最大のクライマックスです。いろんなぜいたく品は売り払い、節約生活を始めます。

ただそこが暗い感じになっておらずコメディタッチになっている森田芳光監督の手腕はさすがっ！

実は観てみると意外と長い話で一家の生死まで描かれるのですが、そこが駆け足の気がしたので、節約の話をもっと詳しく描くとよかつたかもしれません。

お金がテーマの作品なんだけど、不器用にしか生きられない青年を家族が見守っているところが心に響いてきて、最後は感動の涙があふれて、止まりませんでした。

そついう個性が堺雅人というちょっとクセのある俳優で上手く強調されていました。

あと森田芳光監督は女優さんの魅力を引き出すのが上手いので、仲間由紀恵も私が観た中でベスト演技をしていました。

ただ、松坂慶子さんが節約生活をしていても太っているのは何故？

( - - - ; )

## 「最後の忠臣蔵」

杉田成道監督と言って、作品が分かる人がいたら、けっこうテレビ好きである。人気シリーズ「北の国から」の監督である。

その監督の映画「最後の忠臣蔵」観ました。

うーむ。扱いが難しい。

素晴らしい作品、究極のラブストーリーと言ってよいかもしれませんが、ラストが気になる。優れた作品は作品として最後が納得出来ない。こういうのが一番扱いが難しい。

ちょっと内容にふれて論評します。

忠臣蔵、赤穂の47人の武士が殿の仇を討つため戦うのですが、今回は戦いが終わったところからスタートします。

討ち入り前日に逃げた男を役所広司さん、男が仕える姫を桜庭ななみさんが演じています。実は姫は赤穂軍団のリーダー大石内蔵助の娘で、男は姫が成人して、結婚するまで、身を守り、育てる使命を負います。そして男、孫佐と姫、可音はかすかな恋心を隠しながら、大富豪茶屋四郎次郎との婚礼をすすめます。そして生き残った赤穂の侍が姫の婚礼に結集する感動のクライマックスになるのですが・

作品全体に近松門左衛門の「曾根崎心中」の死のイメージが巧みに織り込まれ、（あつ、孫佐は姫が結婚したら切腹するつもりだ！（\*―\*））と気づいてしまい、やりきれなかったです。

そういう悲劇的な愛しかないという封建時代を描いているのかもしれないけど、自殺を美化しているような気もしてざわざわしました。

映像も美しいし、役者も素晴らしい。だからこそ、生きて欲しかった。（；―；）

## 若大将・島耕作

シヨウくん「昨日、ラーメン屋さんで『課長・島耕作』っていうマンガを読んだら、面白かったです！（＾Ｏ＾）」

夢「だー！昔からマンガ界にある名作だよ！（TOT）課長・島耕作のモデルは加山雄三だよ！（本当。弘兼憲史先生がラジオでおっしゃってた。）」

シヨウくん「加山雄三って誰ですか？」

夢「ガン！（\*ー\*）」

加山雄三。若大将。戦前の大スター上原謙と小桜葉子の間に生まれる。

映画「若大将」シリーズの大ヒットで国民的スターとなる。

また弾厚作のペンネームで自作を作詞作曲。日本のシンガーソングライターのパイオニアとなる。紅白歌合戦出場17回。そのうち司会3回。

大河ドラマ、黒澤明監督映画など出演多数。

大ヒット曲「君といつまでも」で日本レコード大賞特別賞受賞・・・

の大スターを知らない若者が！（TOT）



シヨウくん「『課長・島耕作』って僕が生まれる前に描かれたマンガですもん！〇（＾－＾）〇」

夢「ギクツ！（・・・；）」

シヨウくん「エッチな内容が多かったです」

夢「バブル時代だったしね」

シヨウくん「バブル時代ってどんな時代だったんですか？」

夢「ギクツ！（・・・；）」

かなりのジェネレーションギャップが！

でも、穂村弘もバブルを知っているかどうかで作風が変わるって言った。

シヨウくん「でも島耕作って、危機が起こるとセックスで解決するんですけど、今、こんな奴いたらすぐリストラですよね！？」

夢「昭和に帰りたい・・・」

## 完走：みんなありがとう

今日、2010年度受験シーズンの仕事を終えました！明後日が国立大学の試験で、今日、受験生への最後の授業をやって、送り出しました。生徒は明後日が大舞台だけど、私は今日で一区切りです。

たいへんな一年間でしたが完走することが出来ました。それは家族や友達、同僚の先生、事務所の方、そして生徒みんなのおかげで感謝の気持ちでいっぱいです。みんな本当にありがとう。頑張ってくれました。必ずいい結果が出ると信じています。でもその結果以上に頑張ったことやみんなで過ごしたことが必ず未来の大切な宝物になります。

すごく疲れているけど、満たされています。

ところが実は夕方に受験生を送り出し、夜には来年受験生になる子を教えていたんだな。（・・・）

まるで止まると倒れる自転車かサメのような人生。（\*―\*）

でも新しい生徒とまた一年間走っていきます！

また新しい気持ちで小説、文学も頑張っていきます！  
書きかけの作品も完成させたいし、新しい作品も書きたいし、この

エッセーもいろいろ工夫したいです。

またいろんな勉強もしていきたいです。

後先が逆になりましたが、このサイトでお世話になっている皆様にも本当に助けられました。本当にありがとうございます。

これからもよろしくお願いします。

## 間違言葉辞典？

間違言葉辞典、再開！

？ 憊然

これは最近、新聞などで見かけたのだが、闇の権力者小沢一郎氏が強制起訴、党の処分などを受けて、「憊然」としていたとあった。これは誤用ではないか？

私は政治・経済についてはパーチクリンだから、小沢一郎氏の思想や能力については論評出来ない。しかしテレビなどで見ていると小沢一郎氏は非常に傲然としている。

そして自分の配下の議員を動かして菅総理を恫喝したり、閣僚経験者を動かして新党を作る計画を立てたりしている。

「憊然」というのは「落ち込んで沈んでいる様子」である。どこが憊然なのか？

多分、「憤然」という逆ギレ気味の言葉と勘違いしているのではないか？

確かに最近、人に叱られても反省するより逆ギレする愚か者が多い。だから「憊然」は怒りの意味と錯覚されたのだろう。

？小春日和

最近、暖かくなってきた。しかしめでたさも中くらいなり花粉症。花粉が飛んでいます。

ちなみに小林一茶の信州（長野）では「中くらい」は「ちよつくれー」と発音し、実はかなり劣るという意味である。この辺り、信州に流罪にされた歌人・斎藤史の研究に依る。

ところで、暖かいので、「小春日和」ですね、と言う人がいるが実は「小春日和」は秋の終わりから冬の始めにかけての言葉なのである。

また「時雨」というのも同じ時期に京都に降る雨である。他の季節は誤用である。

しかし、季節感の言葉は難しい。私は歌人でもあるので、花なんかは若い女の子より詳しいが、季語の問題を学生にやらせると壊滅的である。

ところで出版界の風雲児角川春樹氏が最近、憂国俳句というのを作っているらしい。

「ハンカチや愛する国の滅びゆく」(春樹)

憂国俳句、即刻廃止してよし！(――#)

## ゲームの思い出

ファミコンの思い出を最近、書いたことに触発されたのだが、ゲームの思い出を少し詳しく書こうと思う。

### 第1回は「ファイヤーエムブレム」

私はファミコン版とスーパーファミコン版を手に入れた。マルスが主人公のものだけである。

このゲームはRPGとシミュレーションゲームのミックスで、一人のキャラクターを育て、その集合体の軍団を作り、敵の軍団を倒すのである。

そしてキャラクターには長所短所があり、例えば弓兵は竜騎士を倒せるが至近距離の敵には反撃出来ないとか、ペガサスナイトは魔法攻撃に耐えやすい、とか。

魔法や武器などでもいろんな工夫が出来る。

難易度は高かった。私はスーパーファミコン版で詳しい攻略本を使い、やっとクリア出来た。

私が気に入ったのはストーリー、世界観が比較的しっかりしていた

ことである。また登場人物の設定も詳しく、家族や恋人が近くにいるとキャラクターがパワーアップするところなどは恋愛ゲームみたいでもある。

ところが、へそ曲がりなのだが、私は家族も恋人もない地味なキアラが何か可愛く、成長促進のアイテムなど使い、育ててあげた。

( - - - - )

自分でも理由は分からない。あと私はナバルという人気キャラが気障っぽくて嫌いだった。

逆に好きだったのはカミュというキャラだった。

とにかく難しいゲームだった。

そんなゲームをやってた私の今のマイブームはサンシャイン牧場である。( - - - )



## ゲームの思い出？

### 第2回は「信長の野望」

「ウィザードリィ」とどちらにするか迷って、信長に。

実は今日、生徒に中国の戦国時代の説明をしながら、日本の戦国時代の話をしていたのだが、今はアクションゲームの「戦国BASARA」が主流である。私も実は温泉のゲームセンターで真田幸村と森蘭丸のステッカーを作った。（そういうマシーンがある。名前を入られるので、夢野ユーマと入れた。）

しかし、昔の「信長の野望」も頭を使うゲームで面白かった。

私がやっていたのは群雄伝というので、日本全国ではなく、西端は長州（山口県）、東端は新潟から東京にかけてなのだが、戦国時代のオールスターが出ていて、面白かった。

最初は織田信長や武田信玄、毛利元就など強い武将でクリアし、少し上手くなると今川義元、朝倉義景、北条氏政など比較的弱い武将でクリアした。

そして慣れてくるとそれこそいろいろ縛りを作った。

例えばクリア時間の短さを競う。

またあまりに圧倒的な勢力を持つと降伏してくる敵が出てくるので、死者をどれだけ出さずにクリア出来るか、など。

ちなみに誰も求めていないのに攻略法を教えよう。

まず人口が多い国を占領し、そこに要塞を作ったり、防御力の高い軍を配置したりして、そこを拠点に領土を広げるのである。後に東大で「三国志」が得意な子と話したら、全く同じ戦略だった。(・・)

あと歴史シミュレーションゲームは歴史の勉強になる。例えば、歴史上武將が亡くなった年にはその武將が亡くなる。また歴史上仲のよかった武將、悪かった武將の相性もあるので、そういうのも考えることになる。血縁などと言うまでもない。(三国志もそう)

ところで、私の生徒は師匠が師匠だけにちょっと変わり者。(・・)  
(・・)

ケンゴ「先生、歴史上一番長生きの武將分かるでしょ。それ選んで、他の武將が死ぬまで逃げ回ったら、どうなるの？」

夢「う、うーん・・・」

(ちなみに長生きナンバーワンは宇喜多秀家。関ヶ原合戦の約50年後に亡くなり、太平の世の人々を驚かせた。)

## ゲームの思い出？

「ウィザードリィ」の出番である。

これは今のゲームに慣れた子には、（えっ！？）という感じかもしれない。

ほとんどが数字と記号の羅列。ダンジョンが舞台なのだが、グラフィックも単調。

しかしながら、しかしながらである。その数字や記号の羅列の世界やキャラクターだからこそ、空想力が無限に羽ばたき、無限に世界が広がるのである。そしてその世界を自分のペンや絵筆で書きたくなる欲望に駆られる。

「ウィザードリィ」の普及に今の宝島社、当時のJICC出版が力を入れており、「ウィザードリィ」のコーナーはたくさんあった。恥ずかしながら、たまにハガキ送って、載っていました私。

また「ウィザードリィ」が生んだ小説はたくさんあるがベニー松山さんの「隣り合わせの灰と青春」「風よ龍に届いているか」は日本ファンタジー文学の金字塔である。

またグラフィックが少ない中、モンスターのグラフィックを一流画

家末弥純先生が手がけていたことも忘れがたい。

また「ウィザードリイ」はストーリーも実は簡潔でプレイヤーがいろいろ考えられた。優劣がある訳ではないが、「ファイナルファンタジー」とは対極の作品じゃないかと思う。

若い時の夢、「ウィザードリイ」の小説書くことだったな。純粹だった。

今は何故、ヨゴレに？（；'；）

## 美術館巡り〜昭和の記憶展

昨日、仕事が一区切りした休日以小牧のメナード美術館に出かけた。プチ旅行である。

大垣から岐阜に行き、名鉄に乗り換える。犬山というところを経由し、小牧へ。はつきり言つて、特別な風景ではない。でも変かもしれないが私は住宅街や田園風景を眺め、ああ人間が生きているなあとと思うと何かホツとする。また夜に家々の灯りを見て、人間が生きているなあとと思うとホツとする。（変ですね！）

さてメナード美術館の今回の展示は昭和の記憶展と言つて、ほぼ全て日本人画家、ただし日本画・洋画を分けず、あくまで時代順に配列していた。さりげないが秀逸なアイデアである。

また横山大観、鏑木清方、前田青邨といった巨匠だけじゃなく、松本竣介、山口薫、海老原喜之助、田淵俊夫、高山辰男といったちょっと通な人の作品が観られた。こういうのが美術ファンにはうれしい。

昭和というテーマだから、年配のお客さんが多かったです。

帰りは小牧シティホテルでランチ。そっちが楽しみだったりして。

（・・・）

## 美術館巡り〜第95回院展

なかなか更新出来なくてすいません。(・・・；)

国公立大学の試験はまだ一部残っていますし、新しい子が来たりして、なかなか新しい作品が書けません。

しかし、昨日、仕事の前、名古屋、栄の三越デパートの中で第95回院展を拝見しました。

実は今回は何かパンチのある作品が少なかったような気がします。私が毎年楽しみにしている松村公嗣先生や那波多目功一先生の作品などが弱かった。

また院展はセミプロの人が応募してくる展覧会なのですが、何かいんな賞をとった作品が訴えてくるものも何故か弱かった。また無冠でも「おっ！」と思う作品も例年、あるのですが、今年はうーん。私の心に余裕がないせいなのか？(・・・；)

ただ、現代の最高の巨匠田淵俊夫先生の作品はさすがに素晴らしくて、ため息が出ました。

ところで、院展は日本画の展覧会なのですが、ピカソのような作品

や、外国の風景、現代の都市の風景なども多いです。

でも上手く説明出来ませんが、日本伝統の花鳥風月に回帰することルネッサンスになるんじゃないかな？古典に回帰すること。

芸術の世界も世の中の影響を受けて、萎縮しているのかも知れないけど、頑張って欲しいです。

同じ表現者としてエールを送ります！！（b^ー。）

## 美術館巡り〜怒りのカンディンスキ

今日は仕事が夕方だけで、美術館巡り、大いにやっていたが、少し精神的に荒れていました。

いい展覧会をやっているのに、観客がガラガラ。虚しい。

今、名古屋ではゴッホ展をやっています。それはマスコミの宣伝もあって大盛況ですが・・・私が行ったのは愛知県美術館の「カンディンスキと青騎士展」実は一抹の不安が。大物画家と〇〇展と書いてあると大物画家の作品は少なくて、弟子の下手な絵が多いのですが、今回はカンディンスキというピカソやシャガールにもまさるとも劣らない巨匠の作風を最初期から完成期までしっかり紹介していました。カンディンスキは抽象美術を生み出し、創作も研究も励み弟子もたくさん育てました。そして全く新しいスタイルの芸術を生むことはヒトラー、スターリンといった権力者の弾圧との闘いの生涯でもありました。

カンディンスキ芸術をたっぷり楽しみながら、少しホロツとしたのは妻の肖像画だけは抽象絵画でなくリアリズム、伝統的絵画で描いてあり、すごく上手かったです。通常、人間を描いているとあまり知られていない画家の人物画には何か感動があります。

ここで終わると感動だけど、カンディンスキの絵で構成された空間の片隅にジブリのマンガみたいな絵があり、膝かっくんという感じでした。何なのか見てみたら、奥さんが旦那やその弟子を描いた絵



だ  
っ  
た。  
(  
-  
.  
-  
;  
)

## 天使な悪魔

夢「はい、新しい生徒の慶ちゃんです」

カズマ、あつちゃん、のんちゃん、Kくんらの顔が蒼冷めた。

慶ちゃん。まるで地上に降りた天使。小学生時代の滝沢秀明を彷彿とさせる天使度の高さ。

女子たちの顔色も変わった。

カズマ「慶ちゃん、メルアド教えてよ！」

慶ちゃん「えゝ、僕、ケータイにiモードとかついてないんです」

慶ちゃんは三学期期末テストの勉強をしていた。

のんちゃん「あ、あれっ！？この前あげた過去問のプリントは？」

慶ちゃん「あゝん、ミスタードーナツで勉強してたらなくしちゃった！」

のんちゃん「ガーン（\*―\*）」

あっちゃん「この参考書いいよ。あと水曜日に勉強やる！」

慶ちゃん「先輩優しい」

水曜日。慶ちゃんは来ない。

プルル。

あっちゃん「慶ちゃん!？」

慶ちゃん「先輩すいませ〜ん!物理の先生のとこ行くの忘れてて  
あっちゃん「ガーン（\*|\*）」

女子たち「恐るべし・・・天使の顔した悪魔ね・・・」

天使な悪魔がどんな波乱を!?

## 「金閣寺」

今日はビッグイベントがありました。

三島由紀夫原作、宮本亜門演出、森田剛くん、高岡蒼甫、大東俊介主演の「金閣寺」観賞。

ブラボーブラボー！素晴らしかった！音楽を使うのが得意な宮本亜門さんらしいすごい工夫がありました。「金閣寺」ほどの文学史の金字塔の説明は書きません。もっと詳しい論評を書きます。金閣寺を擬人化した人物があり、ホーミーという民族音楽を要所要所で歌い、森田剛くんを苦しめます。

金閣寺で修行する三人の少年が原作では哲学的な会話、宗教の考察をするのですが、そこは全面的にカットされ、三人の苦悩を抱えた少年が傷つくのを恐れながら愛を求めて叫んでいる。そのことが人間が演じているため、すごくひしひしと迫ってきて、開幕すぐ涙があふれ、最後まで止まりませんでした。

森田剛くん、大東俊介くんもカッコよくて素晴らしかったですが、悪役の高岡蒼甫は本当に演技と存在感は圧巻です。映画界でかねがね上手くて感心していたのですが、今日も素晴らしかった！

三島由紀夫は「金閣寺」をトーマス・マンの「トニオ・クレエゲル」を踏まえ、現実世界と美が調和するマン文学を反転させ、現実世界と美の対立、崩壊を描き国際的な評価を得ました。だから、マンを入り口にワーグナーの「ニーベルングの指輪」のクライマックスを連想させます。また細かい演出で「アンダルシアの犬」へのオマージュが捧げられていました。

素晴らしい舞台でした。愛知県芸術劇場にうちたてられた金字塔でした。

## 早乙女太一「龍と牡丹」

何か遊んでばっかいると思われそうですが、みんなが遊んでいる時に働いているので、よしなに。(・・・・)

早乙女太一さんの公演に行つて参りました。一年に一回、必ず行っています。去年は名古屋で最高の格式の御園座という劇場で公演をやったのですが、今年は名鉄ホールというところです。観客は老婆メインです。(・・・・)

行ったことがある人はご存知でしょうが早乙女太一さんの公演にはセリフを一切使わず、全ての感情やストーリーを舞踊で表します。

今回は前半が衝撃的！

私の文章を読んで下さっている人ならほめ言葉と分かって下さると思いますが、一つの道を極めた天才は変！

早乙女太一さんは海老蔵さんの暴れっぷりに比べ、真面目、ストイック(忙しくて遊べないのかもしれないが。(・・・・))。そんな彼が十代最後の年にやっておきたかったとやったのは普通の洋服を着て、普通の若者が道端でやっているようなダンスをすること(ただし、めっちゃうまで、美麗！)そして老人たちと自分は衝撃を受けていたのです。(＊――＊)

しかし後半、第二部は完全に天才女形として「絵島事件」を華麗に演じていました。絵島事件は映画版の「大奥」などでも取り上げられており、有名ですが、大奥総取締役の絵島が役者生島新五郎と恋し、絵島は追放、生島は処刑された事件です。事件そのものがでっち上げで幕府の権力闘争の犠牲者の二人でした。

本人はいろいろ挑戦しているようですが、私はやはり早乙女太一くんは女形としての舞踊が素晴らしくて、見とれてしまいます。輝いています。この道でずっと輝いて欲しいです！でも新しいことに挑戦し続けるのも素晴らしい。来年がまた楽しみです！

## 震災記

東日本大震災の被害者のみなさまに心からお見舞い申し上げます。

今回の震災のことを何か記録すべきか迷ったのですが、だんだん何か書きたいという気持ちになって来ました。

今日、ラジオを聞いていたらアンパンマンの曲が二曲流れ、たいへん喜ばれたと言っていました。また子供や老人の話し相手になるのもボランティアになると言っていました。（子供や老人のめんどろをみるのは私が日常的にやっていることです。（-.-;））

ただ、本当は気持ちをまだ整理出来た訳ではありません。

なるべく虚飾を排して、書きたいのだけど、不謹慎に思われないか？あるいはデマやパニックを広めるようなことにならないか？

そうならないように賢くあらねばなりません。

簡単ではないですが、頑張って書いていきます。

さて、3月11日、私はたまたま自宅マンションにいました。漫



然とラジオを流していたのですが、国会中継が中断され、緊急地震警報が流れました。

そして岐阜県大垣でも揺れ出したのです。私は今、33才で阪神大震災の時は高2でしたが、あの時以来の揺れで、正直なところ、東海地方で震災が起きたと思いました。

ところがラジオは東北地方が震源と言い出したのです。

実は私は昨年、引っ越したのもあり、テレビ、パソコン、固定電話がありません。

マンションの下の階に祖父母が住んでいるので、そこでテレビを見せてもらいました。

津波の光景をテレビで見て、これはとんでもない事件が起こったと悟りました。

また首都圏もかなり被害を受けていることがだんだん報じられて来ました。

正直なところ、その時はパニックになりましたが、首都圏に連絡することは控えるべきと思いました。私は大学時代東京にいたので、首都圏は友達、知り合いが多いのです。

岐阜県の北隣、富山県の友人、プロのミュージシャンの方がお電話を下さって、話しました。東海エリアと北陸エリアなら回線が通じているかと思つて。

人様と話を出来て、少し落ち着いてやったことは、あまり落ち着いているとは言えないのですが、夕食でした。

お叱りを受けても仕方ないのですが、「明日からはもう食べられないかも」と思つて、すき焼きを食べました。でも食べながら涙が出て来ました。やっぱりあんまり落ち着いてないか。(････)

その時はいろいろな意味でパニックだったと思います。私は日本の文学や歴史の専門家なので、被害の規模がだいたい予想出来たのです。

今、16日で東海エリアはまだ食料もありますが、地域によっては買い占めがあるようです。(ただ首都圏の方などはパニックを起こさず、買い占めなどはお止め下さい。)

すき焼きは駅ビルのスーパーで食べ、焼き鳥のお弁当、お寿司、パンを買い、帰宅しました。

パニックと冷静さが共存していて、万が一、夜に余震が来た時に備えて買ったのです。(買い占めの心理に近いものがあり、ほめられたものではありません。でも今も仕事の後、菓子など少し買った

くわえています。ちなみにいつでも逃げられる準備はしていますし、気が小さいですが、怖くて火はまだ使っていません。（・・・）

最近は花粉症の薬を服用しているので、一応寝ましたが、深夜というか早朝に目が覚めました。気が立っていたのだと思います。

こんなアホなこと書くと言われるそうですが、私は最近、健康上の理由で食事を減らしていたので、夜に目が覚めた時、空腹でお弁当を食べました。

そうしたら、ちょうどその時に新潟から長野にかけての比較的大きい地震がありました。

私は科学的なことに無知なので、それが昼の震災と関連があるのか分かりません。ただ強い恐怖を感じました。

東日本の方からすると「ふざけるな!」と思われるかもしれませんが、この辺りの時期は「死」を感じました。もちろんすぐ死んじやうとまで思っていた訳ではないですが、死ぬこともあり得ると考えるのはやはり怖かったです。

寝苦しい夜でした。

## 震災記？

2日目、土曜日。

私はもとも低血圧でなかなかスイッチが入らないのですが、コーヒーを飲んで、えいっ！と起きました。

昨日、買ったお寿司をご飯に。

その日は名古屋で仕事の予定でした。この時点で名古屋はどんな状態が分からなかったのですが、名古屋在住の摩けこの山先生が「名古屋は日常の生活」「生き残ったものはやるべき仕事をやるべき」とおっしゃって下さったこともあり、出勤を決意しました。

もう一つ私を勇気づけてくれたことがありました。一日が新しく始まり、ツイッターやソーシャルネットワークサービスなどで、首都圏の友人が無事ということが次々連絡が入ったのです。

ただみんな一様に命は助かったがアクセスが麻痺し、帰宅難民になり職場から日付が変わった後まで、早朝まで歩いて帰ったとのことでした。

助かったことはありがたいと思いつつ、帰宅難民の苦しさなどに思いを馳せるとズーンと沈んだ気持ちになりました。

しかし、東海地方内部では鉄道も動いていました。

この先がデリケートな感性の方を傷つけないか心配です。

名古屋駅で降りた私は別のショックを受けました。

それは名古屋の街は平常、いえ、かえって人出など多いぐらいだったのです。

この頃、まだ少しおかしくなっているのですが、冷静な部分が、「あつ！テレビなどがニュースだからみんな遊びに外出しているんだ！」と察しました。

非常に複雑な気持ちでした。被災地（首都圏も含む）のことを考えると不謹慎な気もする、でも平常心を持つことも大事なのか？この疑問はまだ解決出来ていません。でも例えば食事している若い家族などを見ているとかえって家族、命のありがたみを再認識した輝きみたいなものを放っている感じもしました。

ただ昨日、今日ぐらい富山県のみうずきちゃんの方が「生き延びて日常生活していることに強い罪悪感がある」と言っていて、「あつ！仲間だ！」と思いました。

そして夕方に仕事（学生に勉強を教えている）している時、大事件が起きました。私のパーチクリン仲間カズマが「みんなでボランティアになって救援に行きたい！（TOT）」と直訴してきたのです。私はそれを一喝しました。

「今回の震災は阪神大震災の時とケタ違いの大災害だ！今、安全なところにいる私たちがうかつに被災地に行ったりするのは二次災害を起こしかねない！私たちは安全なところで命を大事にして、復興の時に働くのに備えるの！」

感情的に叱ったかもしれませんが、この時、言ったことは基本的には間違っていないと思います。

また私は大学の先輩や同級生がテレビ局や新聞社に勤めているので、いろんな意味で、ひ弱な優等生たちが入れるような被災地の状態じゃないと聞いていました。

ただボランティアをやりたいという生徒たちにも涙が出ました。素直で優しい。そんな生徒たちだから危険にさらすことは耐えられなかったのです。エゴイズムでもあり、ある意味、罪深いです。

その日は大垣に帰ったのは深夜でした。疲れました。（\*―\*）

## 震災記？

日曜日、少し迷ったのですが、その日はオーケストラアンサンブル金沢のコンサートがありました。問い合わせしてみるとコンサートは追悼・チャリティコンサートとして決行することと、私も出かけました。

コンサートまでの時間、金山の名古屋ボストン美術館や栄の愛知県美術館に行ったのですが、やはり人出はかえって多いぐらいでした。

そしてその中で若者たちが募金活動をしていました。ミクシイのブログやツイッターなどを見ていると自分が現地に行くことを止めたカズマたちも募金活動のボランティアを始めたようでした。

涙があふれて来ました。

15時にオーケストラアンサンブル金沢のコンサートが始まりましたがマエストロ飯森範親が「拍手なしで聴いて欲しい」と断り、バッハの「G線上のアリア」が演奏されました。その日のコンサートに参加する全ての人々がステージ上で哀悼の気持ちを示しました。私はバッハのアリアを聴いて、ドツと涙があふれ、体を震わせ、全身で泣いていました。自分自身の緊張感や死の恐怖が少し緩んだのもありますし、亡くなられた方々への思いもこみ上げて来ました。

そしてクラシックのコンサートは半年ぐらい前からプログラムが決

まっているのですが、その日、フォーレの「レクイエム」が演奏されました。不思議な天の配剤です。

チケット代とは別に会場内で寄付をしました。

寄付しか出来ないのはもどかしいのですが。(････)

またカズマたちがボランティアをやっているのを励まそうと広場に行きましたが、片付けに入っていて、生徒たちはいませんでした。

この頃から情報がないことや、デマが流れたりしていることに苛立ちを感じ始めました。

また電力のことなど不安で、作品を出すことに自主規制の心理が働く、ひどい状態でした。(＊―＊)

最後にフォーレの「レクイエム」の歌詞を少し書いておきます。

「私を解き放つて下さい主よ。永遠の死から。あの途方もない日に  
「楽園へと導きますように天使たちが。永遠に保ちますように安息  
を」



## 震災記？

新しい一週間が始まり、首都圏は前例のない計画停電になるということ。世の中は異様な雰囲気でした。

しかしその中でNHKのラジオは時間帯によってレギュラー番組をやっているアナウンサー、キャスターの人が放送を担当し、地震速報や深刻なニュースで寸断されるのですが、聞き慣れたお声を聞くと少しホッとしています。

しかし、一方で被災地じゃないところにもじわじわと影響が広まってきました。

私はわりと身内の人向けに書いているような感じなのですが、よくテレビ局や雑誌社の招待で映画の試写会に行っているとご存知と思います。そういうものが次々中止、自粛になっていくのが連絡されて来ました。また公開自体が中止になる映画、CDの発売が中止などの報道がありました。

もちろん被災地の方のことを考えれば、遊ぶことなど優先出来ません。

しかしほとんどの国民の心理が萎縮してしまうことも心配です。（  
- - - ;）

もっとも月曜日ぐらいの時点では私もズーンと沈んだ気持ちで、作品発表は自粛と思っていました。

後先が逆になるのですが、仕事をやり、文学を教えながら、そういうものを後生に伝えることも生き残ったものがやるべきことかも、と思うようになり、こうやって書いています。

ただ月曜日の夜ぐらいは気持ちの底だったと思います。ちょっと無気力になっていました。

## 震災記？

火曜日は何か原子力発電所を巡る報道などあり、月曜日のどん底の気持ちを引っ張っていました。

しかし、仕事をするため名古屋に行き、地下街のAL ALAV ISでシェカラートとクロックムツシュの夕食をとっていると若い女の子が話していました。

「私たちは生まれてからずっと不幸じゃん。阪神大震災。オウム事件。同時多発テロ。今回の地震。ずっと不幸だったから強くなったの。ギャーハハ」

女の子たちは本当に元気で、笑って話しており、私は強い悲しみを感じて店を飛び出しました。

しかし、地下街から地上に上がると若者たちが募金活動をしていました。そのことをミクシィのつぶやきに書き込むとカズマたちが「それは俺の同級生です！」「俺も栄で募金しています！」「など書き込みがありました。

またその日、私は戦国時代の英雄が好きという新入生のために「常山紀談」という戦国時代の説話を集めた古典を用意していました。

文学や古典など役に立たないことは理解しつつも、日本の歴史や文学に思いを馳せました。

応仁の乱の時の読み人知らず「汝<sup>なれ</sup>や知る都は野辺の夕雲雀上がるを  
見ても落つるは涙」(お前は知っているか? 都は焼き尽くされ野と  
なり、夕方には雲雀が空に飛び上がるのだ。それを見ても落ちるの  
は涙だ。)

この歌を頭では分かっていたつもりでしたが、本当の悲しみ、怒り、  
慟哭が胸に染みて来ました。こういう破壊と再生を繰り返してきた  
のが日本の歴史だったのかもしれない。( ; | ; )

また本当は風流な歌も違う顔を見せて来ました。  
八幡太郎義家「吹く風を勿来<sup>なこそ</sup>の関と思へども道も狭<sup>せ</sup>に散る山桜かな」  
(吹く風をやってくるなと思う勿来の関だが風が吹いてきて、道を  
所狭しと散る山桜だなあ)

勿来は東北の名所です。「なこそ」とは「くるな」という意味の古  
語で、桜が美事だから風よ吹くな吹くな、と歌っているのですが、  
何故か昨日から真冬のような気候で、被災地の人に冷たい風が吹き  
つけませんようにと祈らずにいらませんでした。( ; | ; )

あるいは与謝野晶子「漁り火は身も世も無げに瞬きぬ陸は海より悲  
しきものを」

この歌は親友であると同時に夫の不倫相手だった山川登美子を悼む  
歌で死後の世界 海より生きている陸にいろんな悲しみはあるのに、  
という歌。しかし、この歌も海に消えてゆかれた方々と陸で悲しん  
でいる私たちのことのように響いて来ます。

私はこの歌を本歌どりして、こう歌いました。「海よりも悲しき陸  
に住み果てて空に向かってうたう悲歌へえれぢい」( ; ; )

でも昨日詠んだ愚詠(自作)を末尾に書いておきます。

「ガーベラを希望を込めて育ててる再び花が地を埋めるまで」

## 日本人と文学

震災のことをきっかけに改めて日本人と文学について考えています。  
震災直後は太宰治のような気持ちでした。

「神様！いるのなら出てきて下さい！」（「ヴィヨンの妻」）

しかし、生き残ったものは何かやるべきことがあつて神様に生かされていくのかもしれませんが。（；―；）

以前も書いたことがあるのですが「めでたさも中くらいなりおらが春」と詠んだ一茶。「中くらい」は長野弁では「ちよつくれー」と発音し、かなり劣るという意味と研究されたのは斎藤史でした。

その一茶が愛する子供が亡くなった時に詠んだ句は今の日本人の胸にズーンと響きます。

露の世は露の世ながらさりながら

撫子の何故折れたぞよ折れたぞよ

昨日も書きましたが人間の歴史はずっと悲しみとの闘いだっただかも  
しません。

あるいは斎藤史の力強い歌。

死の側より照らせばことに輝きてひたくれないの生ならずやも

生きているといろんな悲しみや悩み、苦しみ、争いすらあります。

しかし死の世界から生を見れば、生の世界は輝いている。そう史は歌います。史は斎藤劉（正しい字が出ない）將軍の娘で、226事件に巻き込まれ、多くの友人は処刑され、父に連坐して長野に流刑にされ、戦後偉大な文学者として復権しても長野を離れず、悲しい歴史の証言者となりました。

三島由紀夫も第二次大戦とその後の混乱を目撃しました。その死は悲劇的でしたが、「金閣寺」の最後はこんな風です。「一仕事を終え一服した人間が思うように私は思った。生きよう、と」

大乱世ですが生きていきましょう。頑張ろうとか無理に笑おうとかじゃなく悲しみは悲しみとして受け止め、休息をとり、お互いをいたわりながら生きていきましょう。

「いいじゃないの。私たちは生きていさえすればいいのよ」（「ヴィヨンの妻」）

## 日本人と文学？

「国破れて山河あり、城、春にして草、青みたり・・・」

あまりにも有名な「奥の細道」のクライマックスの芭蕉の吟きです。実は杜甫の詩を口ずさんでいるのですが「草木、深し」というオリジナルを「草、青みたり」とアレンジしたところが素晴らしい。(TOT)

スーパーに珈琲、牛乳、バナナを買いに行きました。裏口から入って、表から出たら沈丁花が美事に咲き誇っています。素晴らしい香りです。また涙があふれて来ます。自然は恐ろしい。しかし、私たちを救うのもまた自然の素晴らしさです。

花は咲くことを自粛したりせず、命を輝かせています。

もうすぐ白木蓮、紫木蓮、コブシが咲くでしょう。大垣にはユスラウメもあります。紅梅白梅はすでに満開ですね。そして桜が満開になるでしょう。

「さまざまのこと思ひ出す桜かな」

芭蕉が故郷伊賀で詠んだ句です。

今まで毎年、桜を見てこの句を口ずさんで来ました。



毎日しょうもないことを家族と口論したりしながら、楽しいことを思い出していました。

しかし、今年、桜を見たら、また格別のいろいろなことを思い出すでしょう。泣くことを止められないでしょう。（；・；）

「そのままのこと思ひ出す桜かな」

## 日本人と文学？

いろんな人間がいる。いい人間もいる。悪い人間もいる。いい人間でも好きになれない時もある。悪い人間でも好きになってしまうこともある。それでよいのだと思う。そして人間がいろいろいる以上、文学者もいろいろいると思う。

ただ好みは刻々と変わる。

震災が起こって、格下げされたという誤解を招くが例えば古典美を追求した与謝蕪村などはしばらく二軍行きの気もする。

逆に今、凄みを持って迫ってくる文学者もいる。

戦前の文豪・前川佐美雄の弟子で塚本邦雄とライヴアル関係にあった巨匠山中智恵子、彼女の神話的スケールの大作が気になる。

生きて負ふ哀しみぞここ鳥髪に雪降るさらば明日も降りなむ

桜花、陽に泡だつを目守りあるこの冥き遊星に人と生まれて

我ら鬱憂の時代に生きて恋せしと碑銘に書かむ世紀更けたり

鳥髪とはスサノオという神が日本を作るため降り立った土地である。  
（一応、島根県にあります、山中智恵子は神話世界を歌っている  
んだと思う（・・・））

そこに雪が降り続き、人間が生きる間背負う哀しみを感じる。

今までこの歌は第二次大戦の敗北を歌ったものと思っていたけれど、  
もっと深い日本人の心や歴史を歌っていたのかもしれない。

二首めもそうです。桜花という明るく美しいものを歌いながら地球  
を冥き遊星と歌う。その時、悲しい現実美しい神話に高められて  
いるようだ。

また三首めの歌は晩年の作品と思うが、いろいろな歴史的事件を見  
つめた作者の凄みが感じられる。そしてそれでも生ききつて、恋も  
したのだという少し誇らしい感じすら漂っている。

私はしたたかに生き抜いて、自分の命を見つめなおすことが出来る  
だろうか？

震災が起こって十日。希望を感じるニュースと、悲観的なニュース  
が入り混じっている。私はなるべく希望を信じて復興に協力してい  
く。そして日本人が受け継いできた文芸を未来にリレーする。そん  
な覚悟で毎日生きている。

## 三島由紀夫について

ごはんライス先生が震災の日の朝だったか、三島由紀夫は何故切腹、自殺したと思うか？とお尋ね下さったが、震災のことではばらくはお答え出来なかった。すいませんでしたね。（――）

さて、三島由紀夫が切腹した理由だが、究極的には本人にも分からないのではないかと思う。

ただ以下、私に分かる範囲から推定出来ることを書く。

三島由紀夫は最期の日の朝に「豊饒の海」の完成させた原稿や辞世の歌を用意しており、精神が錯乱していたことはないと思う。

三島由紀夫は右翼的に思われているが、実は世界文学を非常に理解していた。だからこそ国際的な評価も高かった訳である。

若い時の代表作のうち「潮騒」は「ダフニスとクロエ」、「金閣寺」は「トニオ・クレエゲル」を下敷きにしている。（このレベルになるとパクリとは言わない。）

そして「トニオ・クレエゲル」を書いたトーマス・マンはナチスと戦って政治的な発言を繰り返していた。

そのことから三島由紀夫も政治的な発言を文学者はするべきという信念を持ち、政治的活動にのめり込んでいったのではないかと思う。

三島由紀夫が亡くなったことは非常に惜しく思うが、三島由紀夫の志をことさら貶めるような説は私は好きでない。

震災前に書いたコメディ小説ですが「ザ・対決」という短編に三島由紀夫が生きているパラレルワールドを想像して書きました。

## 「ダフニスとクロエ」

新しい一週間がスタートしました。何となく連休中、希望を感じるニユースが増えてきて、最悪の時期は脱したような気がします。もちろん油断は出来ませんし、復興には協力し続けたいですが。

実は土曜日に文部省の仕事をしている友達から連絡があり、首都圏は自分が思っていたよりは大丈夫そうでした。

その土曜日に愛知県の小牧というところにあるメナード美術館に行きました。（仕事前の時間です。）

今、やっているのはシャガール展です。美術が好きで、ある程度美術館に足をお運びになる方ならシャガールはピカソやゴッホ、モネなどと並んで非常によく出展されるとご存知と思います。私も何度目か分かりません。ところが、今回は今までにない強い感動がありました。（TOT）

大作「ダフニスとクロエ」の連作全部を一気に観たのですが、この作品に込められた愛と命への讃歌が初めて理解出来て、今の日本人に「生きよ！生きよ！」と呼びかけているようで、涙、涙。あふれて止まりませんでした。

古代ギリシアの農村で暮らしながら、愛を育むダフニスとクロエ。

時に天災、人災が二人を襲います。しかし人々は決して屈しません。そして大らかに命と恋を讃えます。

それは人類普遍の愛の讃歌なのでしょう。それが大危機の日本にいる私を励ましてくれたのです。

また「サーカス」はシャガールが貧しい故郷に生きた悲しみを描き、「人間は皆、悲しみを隠してサーカスを演じている」という主題をサーカスの絵で表現したものです。私たちも悲しみを抱えながら、それでも生きていきます。

大災害の危機はまだ去っていません。文学は無力と一時は絶望しましたが、やはり私を助けてくれるのは文学や芸術のようです。

それを若者に教えている時も気が慰められます。私は生きていきます。

## 日本の美

どんだけ気が小さいんだよ！という話ですが、震災以来、怖くて映画館には行っていません。一応密室になっているところに行くのが怖くて。

まだ開放的な美術館によく行っています。

たまたま、今の名古屋は素晴らしい美術展が多いです。

愛知県美術館のカンディンスキの展覧会については以前も書きましたが、あまりに素晴らしかったので、もう一回行きました。

また名古屋ボストン美術館の展覧会と松坂屋美術館の展覧会にも二回行きました。

名古屋ボストン美術館でやっているのは東京の出光美術館のコレクションのやきものの展示です。

日本の主なやきものの流派全ての優品を一気に観られて、それぞれの影響関係なども分かります。柿右衛門が特に素晴らしい。

また松坂屋美術館では松坂屋がコレクションした着物を展示しています。これも日本人の暮らしや歴史をよく伝えるものです。



今、そういうものが特に心にしみるのかもしれませんが。

今、お気楽に見えるかもしれませんが、また復興が進んだ時、美や文化は必ず復権するでしょう。春よ来い。そう願っています。

震災から二週間たとうとする夜に。

## チャリティコンサート

昨日、またチャリティコンサート行きました。そういう行事に寄せて寄付するなどしか出来ないのがもどかしいですが。あとは買いい占めなど迷惑をかけることをしないぐらいです。

昨日はチェロの巨匠堤剛先生（芸術院会員、今の天皇の20周年式典の演奏を行う）とマエストロ下野竜也さん指揮の名古屋フィルのコラボレーションでした。

内容はあまり追悼というよりは人々に夢やエネルギーを与えるロマン派の音楽のプログラム。フンパーディング「青い鳥」ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」前奏曲と愛の死（私が一番好きな曲の一つです。）

休憩を挟み後半はリヒャルト・シュトラウスの交響詩「ドン・キホーテ」素晴らしかったです。ロマン派の音楽や文学は今の日本の文化に絶大な影響を与えた流派です。古くは森鷗外や与謝野晶子。近年では宮崎駿や松本零士など。主人公が騎士やお姫さまのことも多いです。

そしてマエストロ下野竜也さんのお話も素晴らしかった。音楽会は直接的には被災者に届かないが芸術家は芸術をやることが復興支援になるという。そして追悼のため、バッハの「G線上のアリア」を演奏。昨日は泣くというより、「頑張るぞ！」と意気込みを新たにしました。

今日（3月27日）は比較的穏やかな感じですよ。

春になり、ますます復興が進みますように！

## 生徒たち

実は東日本大震災のため書きそびれてしまいましたが、生徒たちも進学することになりました。

東京医科歯科大学、名古屋大学、獨協医科大学、東京歯科大学、早稲田大学、防衛医大、愛知医科大学、愛知学院大学、法政大学などです。

ところが一部の大学はすでに報道などでも言われていますが入学式中止、大学のスタートもゴールデンウィーク明けぐらいまで延期になってしまいました。（――）

被災地の方のことを言えば、大学の入学式中止やスタート延期などで文句を言ってはいけませんが、生徒たちをちょっと気の毒にも思っています。

またあまり書いてはいけないですが、今の首都圏に行かせることも不安です。

でも頑張って新しい生活を切り開いて欲しいです。

東急ホテルでの謝恩会も中止で私の気持ちも少し沈みますが、落ち着いたら、今年度の卒業生の子をお祝いしてあげるつもりです。

しかし世の中には学校も家もめちゃくちゃになってしまった子、亡くなってしまうた子もいる訳で、そのことを考えると胸が張り裂けます。

西日本にいて難を逃れた私たちは出来ることは何でもしたいと思っています。

明日はまた少し復興が進みますように！（；|；）

## カズマ日記？

東日本大震災の被災地の皆様、僕からもお見舞い申し上げます。

僕は法政大学に行くことになりました。けっこうゴールデンウィーク明けまで大学が延期される子が多いから心配なんだけど。

中学生の弟の制服をデパートに買いに行くのについて行きました。

店員さん「あらっ！どうぞご試着して下さい！」

僕「（、（）・・・僕は大学に進学するんです・・・」

店員さん「あらっ・・・」

みんなにブログなどで発表したのですが・・・

ヨーコ「何、その年を間違えられたらみたいなニュアンス」

蘭「間違ってるのは実年齢でしょ」

マユ「また中学生からやり直しなさいって店員さんからのメッセージよー！（、（、（）」

絢香「歳、偽らないで下さい！」

僕「(TOT)」

## 「しあわせの雨傘」

今日、大震災以来初めて映画館に行きました。（・・・）

少しずつ日常を取り戻していくことが大切だと思って。

今、岐阜の柳ヶ瀬はカトリーヌ・ドヌーヴ映画祭みたいになっており、新作旧作合わせて四本が上映されます。

今日は新作の「しあわせの雨傘」拝見しました。

「白いリボン」の時に映画界三大狂人に挙げたフランソワ・オゾン監督の作品です。オゾン監督は（作風は全然違いますが）クリント・イーストウッド監督と同じく多作です。日本ではキャリアの初期の「まぼろし」「八人の女たち」「スイミングプール」などが高く評価されていますが、私は近作の「エンジェル」という小説をテーマにした作品も大好きです。

ただオゾン監督は非常に暗く重い作風が得意で、カトリーヌ・ドヌーヴという大スターとの相性は（？）？）だったのですが、意外！素晴らしい人間讃歌のコメディで涙と笑いが止まりませんでした。本当の天才は笑いなんか軽々こなせることを美事に見せつけていました。

ある中小企業の社長夫人のカトリーヌ・ドヌーヴ。孫までいますが、美しく可愛らしいまま。そしてお洒落。

ある時、社長である旦那が倒れたことをきっかけに社長代行を始め、企業や男社会の常識にとらわれず、元カレだった政治家なども巻き



込んで大成功をおさめ、フランス社会に旋風を巻き起こします。そこが何度も笑ってしまうくらい面白い。

貧しい人に会うのに礼儀や品格を失わないためと言って全身をオーガンジイのドレスと宝石で身を包んで、マリー・アントワネットを意識したり。傘を作る会社なのですが、一流の芸術家の絵が描いてある傘を売り出し、大ヒットさせたり。

そんな彼女を妬んで足を引っ張ろうとする下衆が出てくるのですが・・・いったいどんなラストになるかは是非ご覧下さい！おすすめですよ。

人生は美しい・・・そういうシャンソンがラストに流れ、涙があふれて止まりません。

今こそみんなに勇気を与える素晴らしい作品でした！！（b^ー。）

「シチリア！シチリア！」

今日はもう一本、映画観ました。

「ニューシネマパラダイス」の天才ジュゼッペ・トルナトーレの最新作です。

私はトルナトーレが大好きで「海の上のピアニスト」（原作はアレックス・サンドロ・バリッコの「ノチヴェント」）も「マレーナ」も劇場で観ています。

そして最新作は名作「ニューシネマパラダイス」の感動もよみがえる傑作でした。特にどんでん返しとかある作品ではないのですが、何も予備知識なしでご覧になりたい方はお控え下さい。

歴史などお好きならご存知でしょうが日本とイタリアは非常に似た歴史や文化を持っています。その中でペツピーノという一人の男性を中心に第二次大戦前夜のイタリアから現代までの数十年がペツピーノの父の若き時代からペツピーノの子供たちの未来まで絡めながら描ききられ、3時間近い大作なのに飽きることも緊張が途切れることもありません。実はほとんど説明的なセリフなくストーリーが展開していくのですが分かりにくさはありません。そういうところも下手に作っていない感じで感動しました。力強く生きる人々、その生活、そして時にはさまれる死や悪のかげ。それがまたかえって命と人々を輝かせています。素晴らしい。最初と最後、美しくも活気のある街を少年が走るシーンに号泣してしまいました。

走れ！走れ！未来に向けてみんな走るのだ！そんな命をたたえるメッセージを受け取りました。ジュゼッペ・トルナトーレありがとう！

そして人間や家族の愛や優しさを信じて生きていくんだよ、というメッセージの込められたラストシーンに涙があふれてあふれて本当、こちらにも止まりませんでした。でも辛気くさい作品でなく爆笑も何度もしてしまいました。

私たちが生きることには愛があつて、優しさがあつて、涙があつて、爆笑があります。

明日は朝一で教室を開ける係の日ですが頑張ります。

愛があるから生きるのだ！

## 「綺譚・桜姫」

こんな時に不謹慎のそしりは免れませんが、読売新聞さんのご招待で御園座のお芝居「綺譚・桜姫」の千秋楽の公演を拝見しました。

四世鶴屋南北の代表作で歌舞伎のスタンダードである「桜姫」をミュージカル仕立てにして、セリフは現代語、女形がやる桜姫は宝塚の男役トップスター大和悠河さんがやっていました。私、いろいろ劇場に行っているわりに宝塚の男役の人の生の声を聞いて、あまりに力強いので、びっくりしてしまいました。（・・・）

もう一つびっくりしたのが「桜姫」って、あまり明るい話ではないのです。桜姫という貴族の令嬢が呪われた運命を生きる話で、シエキスピアの「タイタス・アンドロニカス」も真っ青の残酷劇なのです。（・・・）

その辺りは全部カットして、現代風にハッピーエンドに改変してあるんだらうと甘い気持ちで観ていたら、全然改変してなかった。（  
――）

でもだからこそ徹底的に張り巡らされた伏線が一気にクライマックスを盛り上げ、華麗に作品世界の破滅を描くのがスケール感たっぷりで、感動しました。負というのも徹底するとカタルシスがあります。（――）

作品終演後、大和悠河さんが千秋楽を終えた挨拶と大震災のためのチャリティー募金を呼びかけていました。カーテンコールの後、大和悠河さんがロビーで募金活動をしていました。

作品はあまり事前に予習せず行っただのですが、素晴らしかったです。

ところで今日は京大出身の数学の先生、摩けこの山先生と一緒したのですが、先生はさすがに文学にも造詣が深くていらっしゃるので、感想を話しあって面白かったです。

私は四世鶴屋南北は何らかの形で（オランダ人に聞いたりして）「王女メディア」を知り、日本版を書いたのでは？と思ったのですが、摩けこの山先生は、ある貧しく不幸な女性が死ぬ時に見た幻想だったんじゃないか？というご意見でした。それも悲しくも美しい。（；  
ー；）

## お花見（・・・）

日曜日、たまたまお休みで、朝早く目が覚めたので、大垣城の周りのコブシや白木蓮を見に行きました。桜より早く咲くのです。（学恩をわきまえない生徒に「ジジイだぜ！」とか言われている（・・・）  
- # ）

しかし一本一本の枝ぶりを眺めていると本当のジジイに「どけっ！」と押しのけられたり、大垣城の周りがすごい人出になってきました。

大垣は松尾芭蕉ゆかりの街であり、京都を模して作った街であり、歴史博物館みたいなところに行くと芭蕉祭という花見祭をやっていました。（・・・）

全国的に自粛しているのに恐るべき民度の低さです。地元の女子大生たちがプラスバンドをやったり、ばあちゃんたちが琴を演奏したり、しかし神の怒りでソメイヨシノは全然咲いていません。（・・・）

私はお城の近くの本格的な珈琲店に逃げ込み、ベトナムコーヒーを飲みました。ちなみにベトナムコーヒーはグレアム・グリーン（何故、ノーベル文学賞が与えられなかった？）の「大人しいアメリカ人」を読んで、作り方を知り、はまりました。お城の花見をしてベトナムコーヒーを飲むのが春の楽しみです。

祭の大群衆を避けて、私はお城のそばの枝垂れ桜を見に行きました。  
大垣は私の庭。観光客は知らない隠れ家にソメイヨシノより先に満  
開になる枝垂れ桜が美事に咲き誇っています。美しかったです。

桜咲く遠山鳥の枝垂り尾の長々し日も飽かぬ色かな（後鳥羽院）

仏には桜の花を奉れもし後の世を人弔はば（西行）

## 「ロシュフォールの恋人たち」

私は若い時は年間150本ぐらい映画を観ていた。劇場がほとんどである。

今は年間50〜60本ぐらいと思うが、総計は多分1000本ぐらいは観ているだろう。

その中で好きな作品はたくさんあるのだが、意外とベストテンはあつさり決まっている。

1位さらば我が愛

2位ダンサーインザダーク

3位めぐりあう時間たち

4位アンダーグラウンド

5位ローマの休日

6位アマデウス

7位恋に落ちたシェイクスピア

この7本までは圧倒的で揺るぎない。そして残りはガス・ヴァン・サント「ミルク」「エレファント」ピーター・ジャクソン「ロードオブザリング」シリーズ、「キングコング」ギジェルモ・デル・トロ「パンズ・ラビリンス」デビッド・フィンチャー「セブン」ペドロ・アルモドバルの「トークトゥハー」「ヴォルヴェール」あた



りが残りの席を争ってデッドヒートするだろう。

しかし上位7本は揺るぎないと思っていた。ところが、日曜日にお花見の後、観た作品に十数年ぶりに1位が交代するかも知れないと魂が震えた。

以前も書いたけれど、岐阜は古い街で新しい映画をやる映画館の他に古い映画をやる名画座がある。そこで観た1966年から1967年のミュージカル「ロシユフォールの恋人たち」

あまりに感動すると言葉もなくなる。歌、踊り、衣装、ストーリー、全てが完璧だった。往年の大ヒット作で私たちが日常、よく聴く曲の大元がこの作品の中にたくさん含まれている。カトリーヌ・ドヌーヴ、ジョージ・チャキリス、ミシェル・ピコリなど素晴らしい役者の何と美しいこと。

そしてストーリーがまた素晴らしいのである。ロシユフォールという田舎街に旅芸人の一座がやって来て、双子の姉妹（カトリーヌ・ドヌーヴと姉が共演）と祭の出し物をやったり恋をしたりする。その中でほぼ全ての登場人物が好きな相手と結ばれ、幸福一色に作品が塗りつぶされる。そこが素晴らしい。幸福一色はありそうで、なかなかない。不幸を描くのは簡単だが、登場人物全員が幸福で、しかもストーリーが変じゃないというのは並の技量ではない。舌を巻いた。

そんな素晴らしい「ロシュフォールの恋人たち」だが、1位は三日  
天下かも知れない。( - - - )

来週、それをしのぐ傑作という「シェルブールの雨傘」が上映され  
るからである。

## 「隠された日記」

さて、カトリーヌ・ドヌーヴの映画を最近、観ていますが、新作の一つ「隠された日記」も観ました。

祖母、母、娘の三代が女性の生き方を見つめるという作品で母がカトリーヌ・ドヌーヴ、娘は初めて見る娘さん、そして祖母は回想の中の存在でマリー・ジヨゼ・クローズ（ドゥニ・アルカン「みなさんさようなら」でカンヌ映画祭の最優秀主演女優賞受賞）が演じていました。

十分面白かったけど、すごく惜しいのが、この三代に渡る女性の生き方というのが「めぐりあう時間たち」ですでに使われたアイデアだということです。

でも米英とフランスで微妙な価値観の違いもあるから飽きはしませんでした。

カトリーヌ・ドヌーヴより娘さんが主役なんだけど、カトリーヌ・ドヌーヴが出てくるシーンはやっぱりすごい。

人間ドラマ、感動などを求めている方におすすめ。

## 男子の本懐

Kくん「男なら本当に可愛い子とつきあいたいと心の中で思ってますよお！それが本音ですよお！（；、皿、）」

夢「はあ？」

女子たち「（- - - #）」

Kくん「俺たちの周りの女子たちは性格ブスばかりですよお！（TOT）」

カズマ「ブスなのは性格だけじゃないよ（^O^）」

ヨーコ「じゃあ、私たちも言わせてもらうけど、私たちだって本当にカッコいい子に囲まれて暮らしたいと思ってるよ！（、o、）」

蘭「オーランド・ブルームとかダルビッシュとか」

夢「まあ、そんなこと争っちゃダメですよ。（^O^）みんな違ってみないいい」

Kくん「先生は顔よくて悪女と、ブスで性格いいだったらどっち選びます？」

夢「（- - - ;）・・・両方がいい子・・・」

Kくん「そういうズルいのダメ！どっちか選んで！」

夢「（- - - ;）・・・じゃあ、ブスな子・・・ところで、今日は

伊勢（人名）の生涯をやります。伊勢は宇多天皇の后にお仕えしていましたが本人が絶世の美しさと歌の上手さを誇っていたため、本人が后を押しつけて帝の赤ちゃんを産み、伊勢御息所みやすんじころという称号や宮殿を与えられました。難波なる長柄の橋も作るなり今は我が身を何に例へむ（古いものの象徴長柄の橋も作り替えるそうだ。今は老いた我が身を何に例えよう）。これは勝者の余裕です。また左大臣様にふられそうになった時はこう詠みました。人知れず絶えなましかばわびつつも無き名ぞとだに言はましものを（みんなに知られずにふられてしまったならつらいけれどもとつきあっていなかったと言えるのに）。しかし、帝に愛されるチャンスが巡ってきたら、簡単に左大臣様を捨てたのです」

Kくん「そういう人好きってことは美人で悪女好きなんじゃないですか！？（、o、）」

夢「（――）ギクッ！」

## 「レオニー」

半年ぐらい前に試写会にお招きいただいたのですが、行けなかった作品でした。それをだいぶ遅れて観ました。

非常に素晴らしい作品でした。世界的芸術家イサム・ノグチの母親がアメリカ人ということは知っていたのですが、そのレオニー・ギルモアという人の生涯を松井久子監督が映画化した日米合作作品です。

レオニー・ギルモアは悪い日本人（中村獅童）の赤ちゃんを身ごもってしまい、明治時代の日本に単身渡って来るのですが、男には妻子があり、レオニーは異国で女手一つでイサム・ノグチを育てるのです。津田梅子（原田美枝子）やラフカディオ・ハーンの末亡人セツ（竹下景子）らと交流しながら。

そしてイサム・ノグチは日本とアメリカの両方の美的感性をアマルガムにして育っていくのです。架空のキャラクターと思うけれど、イサム・ノグチに人生を諭す大工の親方の役で大地康夫さんが出ていたのが全体を引き締めていた。

イサム・ノグチがアメリカに帰国し、一流の芸術家の地位を確立し、レオニーがそれを見届けて世を去る辺りで作品は終わるのですが、ラストシーンにある工夫がしてあり、感動の涙があふれて、止まりませんでした。是非、劇場でご覧下さい。

女性の愛と強さを讃える必見の一作です。全ての母親と、母親から  
産まれた存在に捧げられた讃歌です。( ; \_ ; )

## 駅の切符売り場

今から書くことは残念ながら私の独創ではない。私が尊敬する現存の作家清水義範先生がすでに指摘されていることだが、駅の切符売り場には人間ドラマがある。清水義範先生の傑作に駅の切符売り場に並ぶ人々をただ描いたものがあるが、私も似たような経験をする事になった。

大垣駅は新幹線は通っていないが、けっこう特急など止まる大きい駅である。

その窓口には新年度になり、たくさんの人々が定期券を買うため、並んでいる。私は「ご苦勞なことだ」と思いながら、自動販売機で電子定期券を買おうとした。

ところが！

「あれっ？（・―・:）」

電子定期券が何故か自動販売機にはじかれて出てしまう。

私は数年ぶりに窓口に並んだ。老人が窓口の係員に「渋谷まで通学定期券を買ったらいくらなのだ？」とか訳の分からないことを話している。イライラ（・―・#）

自分はいよいよ迷惑をかけまいと思いながら、窓口で「あの、電子



定期券がはじかれちゃうんですけど」と申し出た。最近はその女の子も駅で働いている。

二人の女の子の駅員は何か機械に電子定期券を通して「あれー、おかしいなー？」などやっている。

そのうち芭蕉祭に行っていた老人たちがどすどすと私の後ろに並び始め、殺気立ってきた。自動販売機で切符買えばいいのに。(――;) )

結局、電子定期券は壊れており、再発行。その間の代わりの定期券が発行されることになった。

老人、女子高生、サラリーマンなどが殺気立って後ろにいる。頼珍漢なことを言って、迷惑をかける老人たちみたいになっちゃいけないと思っていたのに。(TOT)

しかし私の持ち前の好奇心とパーチクリンのため、私は言ってしまった。(――;) )

「ところで、これ何で壊れたの？」

女の子の駅員が分厚い説明書を取り出し、後ろの殺気がブワッと膨れ上がった。

## 「やぎの冒険」

映画です。何と！中3の少年が監督！もちろん多分、かなり優れた大人の映画人がサポートしているのでしょうが下手な邦画よりはるかに優れた作品でした。

話も素晴らしい。沖縄といっても那覇は都会扱いで、その少年がもっと海沿いの田舎の従兄のところに遊びに行きます。

そこではやぎを飼っていて、都会の少年はペットとして可愛がっているのに、ガン！

やぎは村の行事があると屠殺されて食べられてしまうのです。可愛がっていたやぎを喜んで食べている親戚に都会の少年は激しいショックを受け、やぎを逃がし、自分も逃げ出し、村は大騒ぎになります。

オチがある話ではないのですが、結末を知りたくない方はここまででご遠慮下さい。

結局、都会の少年は人間がいろんな生き物の命をありがたくいただいているという真理を学び、受け入れるのですが、素晴らしい作品

になりました。一時間半ぐらいの短い作品なのですが、最後、少年がさまよっているところが少し冗長なのですが、それも少年の葛藤をよく表しているでしょう。

監督の同世代の子たちにも大人たちにも観て欲しい佳品です。！（b h i o ）」

## 「シエルブルーの雨傘」

観ました。「シエルブルーの雨傘」

結論としては「ロシユフォールの恋人たち」は三日天下にはなりませんでした。「シエルブルーの雨傘」の方がはるかに分かりやすく一般受けすると思うけど、私は「ロシユフォールの恋人たち」の方が好きです。

名作なので、ご存知の人も多いと思いますが、この先、結末にふれて書きますので、ネタバレ厳禁の方は引き返して下さい。

「シエルブルーの雨傘」は本当に好きな人とはかえって一緒になれないという普遍的なテーマを扱っているので、受けやすいと思います。

こういうテーマでは最高の出来と言える音楽性や映像の美しさなどもあります。

でもやっぱり「ロシユフォールの恋人たち」の全てを幸福一色で塗りつぶした荒技と微妙に漂うエロチックな雰囲気の方が好きだな  
(･･････)

自分の好みを再認識した意味でも、この二本をまとめて観られたのはよかったです。(^^)

## 偽善者の血

Kくん「俺の父ちゃんにも偽善者の血が流れてるし、俺の母ちゃんにも偽善者の血が流れてるから俺にも偽善者の血が流れてるんですよー!（；、皿、）」

カズマ「な、何でそう思うの?（・・：）」

Kくん「この前、母ちゃんが近所のオバチャンの前で『お弁当に〇作ってあげるからね』（^^）』とか言ってたのに、『作れよ』と俺が言っても『やだ、めんどくさいもん』って作らないんですよ（；、皿、）」

ケンゴ「（・・：）」

Kくん「俺はマサキくんみたいに『お父さんを尊敬しているので、家の仕事を手伝いたい』とか書いたら、東大に入れてあげるとか言われても、絶対書きません!（；、皿、）」

夢「はあ?」

慶ちゃん「でもKくんの話っていつも家族5人で行動してる話ばかりですよね!（b^ー。）」

Kくん「ギクッ!（・・：）」

## 新たなる激動の始まり

夢「はい、新しい生徒（大好評増殖中）の良ちゃんです」

良ちゃん「こんにちはは〜初めまして〜良ちゃんです！私立文系受験を目指しています。ジャニヲタです！KinKi Kidsの堂本剛くんの追っかけをやっています！（b^\_^）」（男子です）  
（- - - -）

慶ちゃん「ピキッ！（- - - #）良ちゃん、悪いけど可愛い不思議ちゃんってキャラ作りやめてくれる？僕とかぶってるから」

良ちゃん「え〜、何もキャラ作りなんかしてないもん！自然体だもん！」

慶ちゃん「（、o、）てめー、図にのるなよ！教室のあるビルの裏路地でタバコ吸いながら『〇〇学院の夏服はダサイ』とか『〇〇学院の子は勉強出来ても不細工』とか陰口ばかり言いやがって！」

みんな「こわっ！（- - - -）」

慶ちゃん「（、o、）だいたい入りやすい私大に入ってから国公立大学の大学院に入り直す方法を夢ちゃんに相談したり、お前のどす黒い計算に満ちた心はみえみえなんだよ！（、o、）」

みんな「こわっ！（・・・・・）」

良ちゃん「うつせーよ！（；；皿）俺は一流の大学院に行って、政治家になって、可愛い男の子を侍らせながら、お前らゴミ虫を支配してやる！（；；皿）」

慶ちゃん「ふざけんな！俺が阻止する！（、o、）」

夢「仲良きことは美しき哉」

みんな「いや、それ間違いコメントだから」



## ミラクルボーイ

夢「唇にメロディいつしか刻む夕暮れ　はい、新しい生徒のタカフミです」

タカフミ「ピース！ピース！」

クラス中の顔色が変わった。タカフミは大学生と言っても通りそうなハンサムでスタイルもカッコいい子だった。

夢「タカフミは頭もすごくいいし、スポーツも出来るんですよ！21世紀の光源氏です」

タカフミ「ピース！ピース！」

夢「東大クラスに入る子に力試しでやってもらう問題を数個やってもらいましたが、簡単に解かれてしまいました。例えば『山紅於染』という四文字熟語を中国語で読み下すやつ。『ヤマハソメルヨリモアカシ』。於という字の上に形容詞があると中国語の比較級になるんですね。また山の紅葉の赤は人間が作る染め物より鮮烈な赤色だという意味もちゃんとつかめていました」

すげえ〜とクラスにどよめきが広がる。

夢「いやー、新しいエースが加わり、ますますクラスが活気づきますね（＾Ｏ＾）」

カズマ「（・・）慶ちゃんと良ちゃん、机の下でお互い手や足つねりあってたけど」

## スカウト大作戦

タカフミ「栄とか上前津とか大須観音とか（名古屋の繁華街）歩いてるとよくナンパされたり、スカウトされたりする〜！」

慶ちゃん「される〜」

良ちゃん「スカウト多いよね〜」

Kくん（ギクツ！（――・:;）、ウソだろ？毎日歩き回ってるけど、スカウトなんかされたことないぞ！でも、話合わせなきゃ！）「あるよね〜」

慶ちゃん「ホント？！（b^ー。）」

Kくん「ギクツ！（――・:;）」

夢「本当ですよ。私もクラシックのコンサート行こうとして、お洒落して歩いてたら目の前の子がスカウトされて、『えっ！ウソでしょ！？』ってストリートをもう一回歩いたけど、スカウトの人は無視って感じだった！（、´・´）」

みんな「（――・:;）」

慶ちゃん「その時、どういう服だったんですか？！（b^ー。）」  
夢「Yシャツにパーグラムマーケットのネクタイでオスカルの軍服

みたいなスプリングコート着てた( ^ O ^ )

みんな「ほっておきましょう」……」

## まるばつ人生

まず断っておかないといけないのは、これから書くことは私のアイディアではなくプロの歌人、作家の穂村弘さんが考えた遊びだということである。

穂村弘さんは非常に面白い個性的なエッセーを書く人で、ある時、急にご自分の人生のいろんなことを経験の有無でまるばつをつけた。今、手元に急がないので、うる覚えだけど「世界音痴」という作品に収録されていると思う。穂村弘さんの作品には外れがないので、よかったら探して読んで欲しい。模倣してもかまわないけど、元祖である穂村弘さんのまるばつの表は是非見て欲しい。（ちなみにお若い時の作品だと思うので、穂村弘さん自身の表も変わっている。）

という前置きが終わり、私も人生のいろんな経験をまるばつで表してみる。

保育園○  
幼稚園○  
小学校○  
中学校○  
高校○  
大学○  
大学院×

結婚×

子供持つ×

恋愛

失恋

飲酒○

喫煙×

結婚式

お葬式○

バイト×

就職活動×

海外旅行

スキー○

キャンプ○

相撲○

野球○

サッカー○

テニス○

ハンドボール×

ゴルフ×

結婚と子供持つが×なのはちょっとへこむ。(・ー・)  
でも多分、ずっと×

あとバイトや就職活動をやっていない(卒業と共に教える側に交代した。)は微妙にかけを投げかけている。  
ドワンゴという企業を知らなかったことを生徒に突っ込まれて以来、この辺りは慎重になっている。(・ー・)

海外旅行は弟の結婚式でグアムに行っただけ。飛行機が苦手なので多分、一生それだけ。

結婚式は大人になってからは×で、これも微妙なかけ。

喫煙は本当に×

飲酒は自主的にはしないけど新年会などでつぶれたことなし！(b  
hー。)

スポーツは体育でやったものは○それ以外は×

スキーとキャンプは中学校で行ったが二度と行かないと決心し、そ

の信念を守っている（・―・＃）

他にもうちちょっとおかしみのあるものを挙げてみる。

風俗・キャバクラなど×多分、一生×

コース料理○

ユツケ×

入院○

手術○

子供の時、ひき逃げにあったので（・―・）

短歌を詠む

小説を書く

油絵×

生徒の似顔絵（ただし生徒には不評）

体罰×

多分一生×

イヤミ



派閥抗争×（多分一生無縁）

美術館行く

映画館行く

試写会行く

パーティー○

社員旅行×

株×

逮捕×

英会話○

そろばん×

合コン×

出会い系サイト×

テレクラ×

プリクラ×

ナンパ○

オーダーメイドの服×

カラオケ大会×

甲子園の応援○

新型インフルエンザ×

始末書○（・―・）

社長とケンカ○（・―・）

バイトの子とデート○

クラシックのコンサート○  
ロックのコンサート○

能○

歌舞伎×

落語○

レ・ミゼラブル

家に泥棒が入る○（・―・）  
万引き×

東京○

九州○

北海道×

大阪×

何かレスポンスがあったらさらに書くかも。

## 続まるばつ人生

自宅に帰って確かめた。やはり「世界音痴」にまるばつが書いてあった。

私が思いつけなかった独創的な項目が多い。

以下、私が思いつけなかった独創的な項目。

- 一人暮らし○
- 離婚×
- 家を買う×
- 洗濯○
- 骨折○
- 献血×
- 投票○
- ボタンつけ×
- ペットを飼う○
- 髪型を変える○
- お年玉をあげる○

(^| ^:)

私も少し考えた。少し面白みがあるやつ。

髪を染める×  
アクセサリーをつける○  
エロなビデオ見る×  
古本買う○  
ブラックコーヒー○  
ロシア紅茶○  
青汁×  
てっちり×  
チーズフォンデュ○  
チョコレートフォンデュ○  
初詣○  
裸祭り×  
教会×  
おはらい×  
おみくじ○  
金魚すくい○  
釣り×  
スノボ×  
花火大会○  
警察に通報○  
救急車○  
食中毒○  
気絶×  
学校の窓ガラス割る×  
学校をサボる×  
着メロ○  
着うた×  
パソコン○  
iPod×

ファミコン○  
スーパーファミコン○  
ゲームボーイ○  
プレイステーション×  
Wii×  
モンハン×  
サイン会○  
ファンレターもらう○  
花束もらう○  
バレンタインチョコ○  
クリスマスデート×  
親におごる○  
姪との対面×  
職務質問○  
大学のゼミナール○

親知らず抜く○  
整形×  
クレジットカード×  
借金×  
大金を使った買い物×  
ブランド品買う○  
トランクス○  
ボクサーブリーフ○  
ふんどし×  
エステ×  
マッサージ×  
応援団×

生徒会○

ミステリの途中で結末を見破る○

ジャニーズのコンサート×

農業×

漁業×

サラリーマン×

バンド×

教師○（多分、一生）（一・二）

## 「英国王のスピーチ」

ゴールデンウィーク中、何でこんなに働くの？というほど働いていました。まあその方があまり暗いことや不安を考えないからいいけど。

「先生、お土産！」ともらったのはアカデミアナツツ一袋。バーロオーうれしくねーぞ！o( ^ - ^ )oと照れつつ、しまっておりま

す。  
しかしまあ普通の学校に生徒をお返しして、今日は映画を観ていました。

アカデミー賞作品賞制覇の「英国王のスピーチ」

結論としてはすごくよかったです、映画界の潮流を考えると近年のアカデミー賞はいろいろタブーとされていた監督に賞を与えていたので、今年本格的、ちよつと古風な作品が作品賞制覇したことが久々です。

第二次大戦前夜、大英帝国のジョージ6世は苦悩していました。ヒトラーやスターリンなど悪の独裁者が台頭する中、ジョージ6世は本来王になれるほどの地位ではなかったのに兄がスキャンダルを起こしたため王に擁立ともしりされます。しかし因習にとらわれた王宮で育ったジョージ6世は吃音で演説が出来ないのです。

そこでエリザベス王妃が吃音を治す心理カウンセラーを探して来ま



す。心理カウンセラーに王家に生きる哀しみや苦しみを訴え、平民、庶民にふれることで生きる喜びを知り、言葉が出るようになって来ます。しかし神様はジョージ6世とイギリス帝国に試練を与えます。

ドイツ第三帝国の侵略です。

ジョージ6世は心理カウンセラーの助けも借り、宣戦布告の日、国民に語りかけます。

ジョージ6世役はコリン・ファース。

王妃役はヘレナ・ボナム・カーター。（アリスに悪い女王の役で出てた人）

心理カウンセラーは映画界の宝・ジェフリー・ラッシュ。彼が主演とも言えます。

近年のアカデミー賞はちょっと通な作品、ちょっと奇抜な作品が多かったのですが、ストーリーの面白さと役者の演技に力点があつて、観やすかったです。

若い子は食い足りなく思うかもしれませんが、名作のスタンダードを知るため、是非観て欲しいです。

## 「ザ・ファイター」

アカデミー賞ものね、もう一つ観ました。

演技賞を制覇した「ザ・ファイター」です。

ただこちらは後半あつまってくるまで、ちょっとしらけた気持ちもありました。何かアカデミー賞を狙っている感じがあまりにも見えてくるのです。そして間違っていると思うのですが、美男美女の役者が特殊メイクで汚れ役をやるのが主流です。だからブラッド・ピットやレオナルド・ディカプリオは人気のわりに無冠です。

「ザ・ファイター」はボクシングを縦系に、家族を横系にしています。ある強烈な母がいて父の違う9人の子供がいる。そして主人公ミッキーは恋人と家族を離れて生きようとしますが、家族はミッキーを非難します。

その辺りの描き方がかなり迫力があります。

家族と恋人の板挟みになりつつ、みんなを愛そうとするミッキー。そしてミッキーのため麻薬中毒の兄が過去と決別するところがクライマックスで、よかったです。

母役のメリッサ・レオが女優賞でしたが、恋人役のエイミー・アダムスが私は底力を感じました。

ちよつと前半をくさしましたが、一年に一本の映画として観ても楽しめると思います！

## 私は何百冊も本を読んでいる

もしかしたら何千冊かも。たくさん本を読めば読むほどプロ作家への道は遠ざかるらしい。大先生がご託宣としておっしゃっていた。しかし私は根っから本が好きなのだろう。

やはり大震災であまり創作に集中出来ないので、また読書して勉強しようと思った。最近、読書がおろそかになっていたかも。

ジュール・シュペルヴィエールの「海に住む少女」大震災後にこんなに心に沁みる作品とは。

「斎藤史歌文集」日本近代の宿命を感じさせられた。

竹西寛子先生「贈答のうた」「詩華断章」古典の勉強。

谷川俊太郎「夜のミッキーマウス」角川春樹社長「檻」詩集や句集は疲れをほぐすもの。

そんな風を読んでいる私を喜ばすものが出てきた。角川春樹事務所から出てきた280円文庫である。

与謝野晶子「みだれ髪」、岡本かの子「家霊」読んで、愕然（\*—

＊

若い時は中の深みを全然理解していなかった。

そこで次は新潮文庫で斎藤茂吉の「赤光」これもやっぱり若い時は読めてなかった！（＊―＊）

今日は２８０円文庫で有島武郎読みました。感動！（TOT）

あゝ読むことは素晴らしい。楽しいから読むだけなのにね。（・・  
-;-）

## 西原理恵子さんの映画（前編）

ゴールデンウィークが忙しかったので、いろいろ書けなかったのですが、岐阜の柳ヶ瀬で西原理恵子さんの映画が特集上映されていました。

「酔いがさめたら、うちに帰ろう」と「毎日かあさん」

実は二作は同じ出来事を旦那さんの立場からと奥さんの立場から描いているものでした。

西原理恵子さんは戦場カメラマンの鴨志田穰さんという男性と結婚し、兄と妹の子ども生まれるのですが悲惨な戦場取材する鴨志田穰さんはひそかに心を病み、アルコール中毒になってしまいます。

それを受け入れ、夫と子供たちを大きな愛で包みこむ西原理恵子さんに涙。（TOT）

「酔いがさめたら」はどちらかというと鴨志田穰さんの闘病中心。鴨志田穰さんの役は浅野忠信さん。西原理恵子さんの役は永作博美さんでした。

鴨志田穰さんはアルコール中毒を克服するのですが、癌になってしまいます。でも「酔いがさめたら」は鴨志田穰さんの死を描かず、家族の最後の幸福な時間をゆったり描いていました。

監督はベルリン映画祭準優勝の東陽一です。おすすめ感動作。  
（；

## 西原理恵子さんの映画（後編）

昨日、久しぶりに更新したので、変なテンションになって「てにをは」などが乱れていて、ひどい。直そうかと思ったがそれも昨日のリアルな記録と思って、そのまま。

さて西原理恵子さんのもう一つの映画「毎日かあさん」は西原理恵子さん役が小泉今日子さん、鴨志田穰さんの役が永瀬正敏さん。

こちらは全体的に明るくパワフルで、それが西原理恵子さんらしいところなのかな？と思う。

私は一人暮らしだけど、結婚や子供っていいなと思わされる。そういう肯定的な、でも世の中の厳しさを知っているのが西原理恵子さんなのだろう。

しかし浅野忠信さん、永作博美さん、小泉今日子さん、永瀬正敏さんらがかなり大きい子供がいる設定を演じるとは自分もひしひしと厳しさを感じる。（・・・）

でも同窓会で女の子が子供が小学生になるって言うってたからな。「子」って何だよ？って生徒につっこまれるけど。



## 恋愛小説を読む男

夢「今日は古典をマンガにしたのを持ってきました。『和泉式部日記』『蜻蛉日記』『更科日記』『春色梅児誉美』などです」

ゆか「こんなのいや！（、〇、）もっと豪儀な男たちが命がけで戦う『平家物語』『太平記』『信長公記』とか読むの！（、〇、）」

夢「（、〇、）女の子はそんなもん読まなくていいの！嫁き遅れるから！」

ゆか「先生の思考の方が時代遅れなの！（、〇、）」

夢「むむむ（・・・）」

マサキ「先生（――・・・）恋愛相談して」

夢「マサキは素直ない子です」

マサキ「告白したのに避けられてる（TOT）」

ケンゴ「マサキ、恋愛文学の御大・村山由佳先生の『天使の卵』『星星の舟』『ダブルファンタジー』とか愛読してるじゃん。あれ、やめた方がいい」

マサキ「（TOT）何で！」

ヨーコ「夢みすぎー！」

ゆう子「現実はあるのにロマンティックじゃないの！」

蘭「恋愛文学読む時間減らしたら多分上手くいくよ」

夢「（、、）私は小学生の頃から『源氏物語』や『好色五人女』、テネシー・ウィリアムズの『ガラスの動物園』、グレアム・グリーンの『愛の終わり』、スタンダールの『赤と黒』、サガンの『悲しみよ、こんにちは』など愛読してきましたよ！」

カズマ「この青春ゾンビ！（、o、）」

## ホラー映画（前編）・「ブラックスワン」

のっけからお詫びですがなかなか更新出来ず、すいません。ゴールデンウィークに働いていた分の休みを楽しんでいました。楽しんでいたというのは今の時期、いかがかとお叱りを受けそうですが、ちよつと筆がそれますが大震災後、体調を崩される方が多いことに心を痛めています。一つ言えるのはことさら明るくなるうとせず、日常を受け入れることが大事なんじゃないでしょうか？（・・・）

さて、仕切り直すため文体を変えて書くのだが、のっけからお詫びである。

私は今までホラー映画、ホラー小説に怖いと思ったことがなかった。しかし、その発言をついに撤回することになった。

ホラーという分野の感性の処女膜が破られた。そんな凄まじい作品に出逢ってしまった。

アカデミー賞受賞作「ブラックスワン」である。

正直、油断があった。アカデミー賞受賞作でチャイコフスキーの「白鳥の湖」をベースにした作品。私の得意分野だと思った。

しかし、ふたを開けたら、予想外の作品に私はうちのめされたので

ある。ホラー映画というのを怪物が出てきて、人間がバタバタ死ぬと定義するならこの作品はホラー映画ではない。怪物も幽霊も出てこない。しかしホラーというのを観るものに恐怖や絶望を与え、その人生観や魂を揺るがすと定義するなら「ブラックスワン」は第一級のホラー映画であり、なおかつ全てのジャンルの映画の中でも今年のベストワンを争う傑作だった。

あまりの恐怖に私は何度も両手で顔を覆い、ついには上着で顔を隠すに至った。しかし、私はなまじ英語が出来てしまったため、耳から恐怖が入ってくるのである。しかも恐怖でありながら、最後まで引きつけられ、帰ることも出来ないのである。

何の予備知識もないが「白鳥の湖」はオーロラ姫と黒鳥オディールの両方を一つの劇団の最高のスター、プリマドンナがやることだけは知っていた方がよい。

この先、予備知識なしで観たい方はご遠慮願いたいけど、本当に怖いので、敢えておすすしめない。

アカデミー賞女優賞のナタリー・ポートマンがプリマドンナの役をやっているのだが、オーロラ姫のパートはともかく、オディールのパートが上手くないと周りに言われる。ナタリー・ポートマンは「

スターウォーズ」のアミダラ姫をやっていた人である。

オデールの役がやれない彼女にプレッシャーをかけてくる人間が三人いる。ヒロインにプリマドンナの地位を失うなと圧力をかけてくる母親。役とひきかえに体を迫ってくる監督。そしてオデールのパートが上手い後輩。こう書くところと芸術が好きな人なら大映ドラマという昭和のほのぼのしたドラマみたいな道具立てだと思うかも知れない。しかし演出と演技が徹底しているので、三人により主人公がどんどん狂っていく様が本当に怖い！（TOT）こんな恐ろしい作品は流しちゃいけないだよ！（- -）

さらに主人公の正気が失われていく中で観客の心に決定的なダメージを与えるような恐ろしい秘密が暴露される。（もし観るならその辺りはあまり意識せず不意打ちを受けて欲しいが普通の人間なら恐怖で警告は忘れてしまうので、大丈夫???）

チャイコフスキーの有名な傑作に彩られながら、本当に恐ろしいストーリーが展開していく。

そしてこの作品を観た私は数日後にやはり私の人生観を揺るがすような、そして映画史に残るような掛け値なしの傑作ホラー映画を観たのである。（続く）

## ホラー映画（後編）・「ぼくのエリ、200歳の少女」

さて、「ぼくのエリ、200歳の少女」は大都市圏ではすでに去年公開された作品だが、私はこの時期やっと回ってきたのを観たのである。

私は「破格」「破調」という言葉が好きだが、「ぼくのエリ」はまさしく破格の作品だった。

私は最近パンフなどを読むと結末が予想出来てしまうので、ほとんど予備知識なしで観る。またこの作品はヨーロッパの片田舎スウェーデンの作品であり情報がない。監督が話を作ったのか、原作者が別にいるのかも分からないが、この映画はそんなことどうでもよくなるほどの傑作だった！

すごく乱暴なことを言うが、この監督は同じぐらい優れた作品は二度と作れないのではないか？何故かと言うと作品が例えばクリント・イーストウッドのような映画史を踏まえ、計算した作りでなく、映画の常識をはみ出すような、まさに破格の作品だからである。こういう作品があるので、世界は豊かになり、決して飽きることはない。監督は何か訳の分からないエネルギーでこの作品を作ってしまった。そして出来上がった作品はプロ、玄人を蒼冷めさせるものすごい作品になり、全世界の映画祭で優勝を重ねたのである。

ホラー映画というのは怪物が出てきて、人間がバタバタ死ぬと定義しても、この作品はホラー映画である。

事実、そういう見方で全部を観ても観られるだろう。

しかし、やはりこの作品はそれだけのつまらない、下品な作品ではない。

では何が本当のテーマかと言うと愛なのである。やはり。しかも単純でない。

スウェーデンの片田舎、今より少し昔、オスカーという美少年が住んでいる。めちゃくちゃいじめられている。誰も助けしてくれない。そんなオスカーのマンションの隣にエリという子が引っ越してくる。しかしエリは何百年に渡って人間を食らってきた魔物なのだった・

・  
すごく無礼なことを言うが、この設定は凡庸と言ってもよい。

このサイトにこんな設定の作品はいくつも探せる。

しかし、しかしながらである。そのオスカーとエリの愛が予想をはるかに超える激しさと深さで展開する。

正直、怖くはなかった。（一般論としては「ぼくのエリ」はオーソドックスなホラー映画で、怖いもの、残酷なものが苦手ならつらいだろう。）私からすると怖いというより哀しくて、切なくて、美しかった。

私は映画を論評する時、あまり核心を論評しないのだが、今回は封印を解くというか、少しヒントを出す。

オスカーは何故いじめられているのか？その理由が表面的には分からない。

ホラー映画として観た場合、分からずじまいだが、ヒントはオスカーのお父さん。オスカーはお母さんよりお父さんが好きな様子だし、お父さんもお母さんより優しい。

しかしお父さんを注意深く見て欲しい。その時、この作品もまたホラー映画の仕掛けを借りて、人間の光と闇、愛と哀しみを描いていることに気づく。そしていろんな伏線がエレガントではなく強引に結ばれた時、感動の涙が止まらないだろう。

監督は恐らく計算していないだろうが結果的にギリシア悲劇やアルベール・カミュの第一級の作品に共通する普遍的な主題がせり上がってくる。それは最高にハッピーエンドでありながら最悪のバッドエンドである。普通の監督だったら描くことをためらっただろう。だが何故か、この監督にはそのボーダーラインが見えなかったのである。映画の歴史の中の奇跡である。

近年観た作品の中で一二を争う傑作だった。ちなみにハリウッドでリメイクされるらしいので、監督など関係者は一生遊んでいける。

( - - - ) ?

それもまた奇跡？



## 群衆

ホラー映画紹介のお口直しに？（――；）

Kくん「先生、ゴールデンウィークにグアム行っただお土産です！」

夢「うう・・・（TOT）」

Kくん「どうしました先生！？美味しくなかったですか？（・・・；）  
」

夢「違うよお・・・Kくんは海外旅行行く度（ゴールデンウィークや冬休みはハワイかグアム。春や夏はヨーロッパに必ず行く）、毎回必ずお土産を買ってきてくれて、何て素直で優しいいい子だと感謝してたんだよお・・・（TOT）なのに何で女の子にモテないのか不憫に思ってたんだよお・・・（TOT）タカフミはゴールデンウィーク明けにすぐ国体選手やっている彼女が出来たのにKくんが不憫だよお！」

Kくん「（――；#）」

夢「シャンソンの大曲『群衆』（醜く貧しい少女が毎日過酷な労働に苦しみながら、幸福な恋をつかの間夢見るが群衆に踏みじられ、少女は群衆を憎み、呪いをかけるという内容。相当の歌唱力と表現力のある歌手が歌わなければ喜劇に終わるであろう）を聴いて、Kくんを思い出して号泣してたんだよお！（TOT）」

摩「この山先生「生きるっていうのはそういう不条理なものですか

らね。o(^-^)(^oだから豊かな文学や芸術が生まれるん  
「o(^-^)(^o」

Kくん「(^-^)(^oそういうのセクハラっていうんですよ!!」

## 秘密の夢ちゃん

それは秘密！秘密！秘密！秘密の夢ちゃん

タカフミ「秘密の話があるの」

慶ちゃん、良ちゃん「聞きた〜い（＾o＾）！」（仲悪いが抜け駆けされないように一緒にいる）

タカフミ「夢ちゃんには秘密にしてね。おしゃべりだから」  
慶ちゃん、良ちゃん「するする！」

タカフミ「クリスマスぐらい目標にライブハウスでバンドやるの。今、ヴォーカルレッスン受けてるの」

慶ちゃん、良ちゃん「キヤー！（＾o＾）絶対行く！」

タカフミ「最終的にはエムステ出て、タモさんと話すの。『今日、初めてだね』って」

良ちゃん「僕の秘密はK i n K i K i d sの剛くんの他に好きな人が出来たの。ゆずの北川悠仁・・・」

三人の会話を喫茶店の席の裏側で聞いていた夢「タカフミ、クリスマスにバンド。良ちゃん、北川悠仁。メモメモ。――（・・）――」

Kくん「タカフミに負けられないぜ！俺たちもバンド作ろうぜ！」  
ヒロキ「俺たちのバンド名はキャラメル隊」

夢「キャラメル隊・・・メモメモ」(キャラメル隊ブレイクするか  
な?)

あなたの秘密も秘密の夢ちゃんにバレているかも？

## 「津軽百年食堂」

さて、ホラー映画の他にもいくつか重厚な作品を観たのだが、ほのぼのした作品も観た。

オリエンタルラジオ、福田沙紀主演「津軽百年食堂」

青森、津軽に百年続く食堂がある。それを継承する青年の青春と恋を描く。  
オリエンタルラジオのメガネ

青森が舞台ということで収益は東日本大震災の復興に寄付。( ; \_ ; )

肩に力を入れず観られる。

そう断ってから二つつっこむが、オリエンタルラジオの二人がモテるといふ設定はひいきの引き倒しだろう。ひげの方が明治時代に店を開く過去パートがあるが、それにもロマンスがからめてある。( ; \_ ; )

それならば妻夫木聡、小栗旬などの美男子がやらなければ不自然だろう。オリエンタルラジオのメガネの方が高校の時からモテていたなど首をかしげてしまった。なかなか厳しいよ、私は。

もう一つ衝撃を受けたことがある。福田沙紀という女の子を初めてしっかり見たが、久しぶりに演技の出来ないアイドルを見た。久し

ぶりに見たわ、あんな下手な嘘泣き。

こっやってつっこむと面白くなかったと誤解する人がいるが私は好きな人ほどこらかう昭和のガキ大将みたいであり、どうぞよしなに。

「津軽百年食堂」良かったら観てみて下さい。

## 「羅生門」

さて、「津軽百年食堂」を観たのと同じ日に名画座で黒澤明監督の「羅生門」を観た。実は大学時代にも劇場で観たことがある。今はあるか分からないが、調布のパルコの中に映画館があり、そこで観たのである。

しかし十数年ぶりに観直し、やはり桁外れにこの作品が優れているので、びっくりした。

ビデオなどでもインターネットでも観られる方は是非観て欲しい。今、観てもちつとも古びていない。素晴らしい。

芥川龍之介の「羅生門」や「藪の中」をモチーフにしながら、黒澤明監督の味がくわえられている。これぐらいのアレンジ力があれば、二次創作などと言われず、古典を再生産した巨匠ということになる訳である。

あと若い時はストーリーに気を取られていたが演技や映像のセンスも素晴らしい。

何度も観られる傑作である。

芥川作品のビターな味を最後逆手にとって希望と救済を与えたところが一番すごいのかも知れない。(････)

## 毎日が冒険？

ゲームをやらなくても私の毎日は冒険の連続である。騒日である。

ゴールデンウィーク直前、私はゴールデンウィーク中に使うお金を下ろすため銀行のATMに行った。

その時、小銭入れをATMの上に置いてしまった。

それを忘れて、海老フライサンドイッチを食べ、珈琲を飲み、支払いはカードだったけれど、小銭入れがないことに気づき、ATMコーナーに走って行った。

しかしもう閉まっており、設置してある電話で尋ねてみると「確かに小銭入れがあったので、名古屋駅前の交番に届けた」とのこと。

慌てて交番に走っていくと、やっぱり小銭入れは届いていた。

しかし！

私の小銭入れは小銭でパンパンになっているのである。

一応言い訳としてはコピー機を教室で使うため小銭がいるからなのだが、警察署によるとこういう場合、何円玉が何枚と正確に書類を作らないといけないらしく、警察官総出でコインを数えているらし



い。(――;) )

歴とした業務妨害である。

「信用しているので、数えてもらわなくてもけっこうです」と言っても、そういうものではないらしい。

結局、一万円近い小銭を数えてもらい、小銭入れを返していただいた。  
(\*――\*)

明日はまた何が待ってる？

## 荻上直子監督（前編）・「バーバー吉野」

ゴールデンウィーク前後にいろいろ観た中で荻上直子監督作品の特集もとても楽しかった。

特に数年前の作品だがベルリン映画祭で賞をとった「バーバー吉野」は素晴らしい秀逸な作品で、笑って笑って泣ける作品だった。

ある田舎町にバーバー吉野という床屋さんがあり、もたいまさこさんが経営している。そしてその村にはそこしか床屋さんがないので、村の男の子はみんな同じダサイ髪型（こけしの髪型？）をしている。バーバー吉野の息子ももちろん。

ところがそこに都会から髪型を自由にしたいという転校生がやって来て、波紋が起こる。

村の子供たちにも反逆ムードが広がり、髪型の自由をめぐって大人と子供の戦争が始まる。

実はこのエッセーの中で論評したミヒヤエル・ハネケの作品でも大人と子供の対立が描かれるが荻上直子監督の方が格が上だと思った。日本とヨーロッパの違いもあるのだろうが、対立しながらも大人も子供も愛情と優しさに満ちていて、最後はアツと驚く爽やかな終わり方だからである。それを目撃して、私は感動の涙があふれるのを止められなかった。

是非、ご覧になることをおすすめする。子供たちが同じダサイ髪型でいるのを見るだけでもじんわりとおかしい。（＾ｏ＾）

## 荻上直子監督（後半）・「マザーウォーター」

さて、荻上直子監督は「バーバー吉野」の後、小林聡美さん主演で、自由に生きる女性たちの映画「かもめ食堂」「めがね」といった作品を手がけた。

そして「マザーウォーター」は荻上直子監督本人の作品ではないのだが、スタッフやキャストが荻上直子監督のグループの方々である。

舞台は京都で水を使って仕事する三人の女性がいる。

水割りのバーをやっている小林聡美さん。珈琲屋さんをやっている小泉今日子さん。お豆腐屋さんをやっている市川実日子さん。そして京都を歩き回っている元気なおばあちゃん役のもたいまさこさん。

事件らしい事件が起こらず、まったり時間が流れるのを見るだけであるが、私は大好きな作品である。出来事がないのを否定的にとらえる映画ファンも多いのだが。

ただリアリズムじゃないから仕方ないけど水割りや珈琲しかない店なんかやっていけないぞ！現実世界では！（私の家は忙しい飲食店だった。）

## 美輪明宏先生「愛の讃歌」

ちよつとなかなか載せられなかったのだが、美輪明宏先生「愛の讃歌」拝見した。

今の日本は伝統がめちゃくちゃになってしまったが例えば歌舞伎や落語をやる人は本来は何でもかんでもやるものではなかった。この作品はこの人というレパートリーがあつたのである。

そして美輪明宏先生はそういう日本の伝統を守り、いくつかのレパートリーを毎年交互にやっている。そして今年はエディット・ピアフの生涯を描く「愛の讃歌」であつた。

ちなみにレパートリーには江戸川乱歩の「黒蜥蜴」三島由紀夫の「近代能楽集」寺山修司の「毛皮のマリー」ジャン・コクトーの「双頭の鷲」などがある。毎年拝見するのを楽しみにしている。(・・・)

しかし去年比較的上演時間の短い「近代能楽集」をやつたので、時間の長い「黒蜥蜴」と「愛の讃歌」は永久欠番になったと思つていたのだが、今年「愛の讃歌」が上演され、パワーはむしろ500パーセントましぐらいだった。(・――・)

全三部構成で4〜5時間ぐらいあるのだが、第1部はエディット・ピアフのデビュー前。貧しいピアフは赤ちゃんの病院代を稼ぐため「群衆」などを怨念を込めて歌うが、赤ちゃんは天国に召されてし

まう。ピアフは絶望に沈むが、その才能に目をつけた劇場の支配人にスカウトされ、第二次大戦のパリを解放した連合軍のため「ラ・ヴィ・アン・ローズ」を歌う。もう第一部で「群衆」を聴いただけで号泣してしまった。Kくんを思い出したのは本当である。（――・――）

第二部、ピアフはボクサーの恋人が出来てシャンソン最大の曲「愛の讃歌」が生まれる。しかし飛行機事故が起こり、恋人は死んでしまふ。その知らせを聞きつつ、ピアフはたくさんの観客のため、天国の恋人のため「愛の讃歌」を歌い、倒れてしまふ。この2幕目の終わりではほとんどの観客が号泣しながらスタンディングオベーションしている。（TOT）

そして第三幕、全てを失ったかに見えるピアフのところにテオ・サラポという少年がやって来て愛を捧げる。ピアフはテオ・サラポに芸術家としての技術や教養を教えつつ、テオの腕の中、愛に包まれ、息をひきとる。ピアフの脳裏を生涯の思い出がよぎる・・・fin

今回が二回目だが、もう泣いた泣いた。美輪明宏先生の歌唱と演技が素晴らしい。

あとピアフの妹役のYOUさんが上手かった。

それにしても泣くとお腹ペコペコ。

シーフードクリームパスタを食べて帰った。（^^）

## 清&直美「紺屋の恋女房」

優れたお芝居や映画は何か集中するもので、「愛の讃歌」の二日後、前川清さんと藤山直美さんの「紺屋の恋女房」拝見しました。御園座。読売新聞さんのご招待です。

いろいろな作品があり、いろいろなファンがありますが、私はやはり古典を下敷きにしたものが好きということを再認識させられました。「紺屋高尾」という落語やお芝居のスタンダードを翻案したものでした。

藤山直美さんが吉野太夫という最高の花魁をやっています。それが無理があるという人もいますが、藤山直美さんはキレイだし、貫禄があると思いますよ。

そして前川清さん演じる職人が吉野太夫を見かけ、一目惚れし、一回だけ逢うため必死にお金を貯めます。吉野太夫は大名や豪商を相手にする花魁で逢うのにすごくお金がかかるのです。

しかしそこで吉野太夫は前川清さんが必死に逢いに来てくれたことに感動して、花魁をやめ、紺屋（染め物屋）の妻になります。

その全体がコメディとしてさっぱり描かれ、ほのぼのと明るく演じられています。

素朴なストーリーだけど、人間の真情がよく描かれています。だか

ら古典だけと現代に生きると思います。

お芝居の後は二人のコンサートで、今の日本を励ますため、明るく  
元気に歌とお話をやっていました。戦後のヒット曲がちりばめられ  
ていました。そして最後はお二人の名曲「ラブソングが聞こえない」

素晴らしい公演ありがとうございました。

## 毎日が冒険？

お芝居を見に行った日のことだが、喫茶店でカルボナーラスパゲティを食べ、珈琲を飲んでいたら、小柄なババアがケータイで話していた。

「イネちゃんに電話しても出てくれないのよ！あの人も借金を返してくれたことがなくて、いつも物で返してくるだけで。こんな不景気だから骨董品も売れないし！あら！一千万円持ってきてくれるの！」

何か危なそうな感じ。( - . - . ; )  
ババアは電話を切ると

「イネちゃん！今、京都の人が電話してきて、一千万円持ってくるって！」

イネちゃんは電話出ないんじゃないのかよ！？

詐欺のにおいがして怖くなる( - | - )

しかし詐欺って、こんな喫茶店でさりげなく行われるのか？怖い怖い。( - | - )



## 試写会「パラダイスキス」

名古屋のテレビ局CBCさんのご招待で「パラダイスキス」試写会  
拝見しました。

しかし、ちょっといかなかった？と思う内容だった。(････)

久しぶりの試写会の雰囲気は楽しかったけど。

今、若い女の子に人気の作品らしく会場は90パーセントぐらいは  
女子高生。残り老人、ホモっぽい少年、変人(私)という感じでした。

あと節電を頑張らなきゃいけないのに会場がすごく寒いの。(＊――)

ストール(お洒落マフラー)を体に巻きつけて二時間震えていました。

「パラダイスキス」主演は北川景子・向井理。しかしファンの人には  
お詫びするけど演技が酷すぎる。(――)笑いをかみ殺すのに  
骨が折れた。

あと国際的スーパーモデルと天才デザイナーの恋を描くんだけど小  
道具のスケッチが下手くそでトホホのホ(････)

北川景子を向井理と争う優等生役の山本裕典くんだけが顔もしゃべりも性格も全部いいですね！（b^ー。）

ファッションの話だから女の子にとっては衣装や音楽がガールッシュでいいかも。

正直お招きいただいたのに心苦しいけど、ちょっと厳しい出来かな。私が否定的にとらえること、めったにないんだけど。（- -）

## 夢ちゃんの頭人中

夢「はい、という訳で、新学期の最初の定期テストも終わりましたが、何か質問があったらして下さいね（＾o＾）」

ヒロキ「はい！先生はいつもペットボトルのふたを底にして逆さまに置いているのは何故なんですか？危なっかしくて気になるんですけど！」

夢「（・・・；）・・・こうするとね、ジュースやお茶がよく混ざって、美味しいまるやかなお味になるんですよ」

慶ちゃん「（、o、）ならねーよ！」

良ちゃん「（、o、）どうせ、何の意味もないんでしょ！！しょうもない言い訳して！！」

ヒロキ「あと、先生はいつ結婚するんですか？」

みんな「ギクツ！（――；）」

夢「次、結婚するのはいつだったかな？」

カズマ「あつ！必殺ボケたフリだ！（・・・；）」

夢「逆に皆さんに聞きたいのですが第12回ジュノンスーパーボーイが誰か知っていますか？・・・私ですよ！」

タカフミ「えっ！ウソ！」

慶ちゃん、良ちゃん「(。(;)」

夢「フオーフオフオ、ウソに決まっていますでしょう。ジュノン  
スーパーボーイだったら、こんなところにいませんよ」

慶ちゃん「(。(;)このブタメガネ！」

みんな「(。(;)」

## 「恋文」星野哲郎物語

さて、「パラダイスキス」にお招きいただいたのに不満を口にしていた私ですが、今日は読売新聞さんのご招待で「恋文」というお芝居を御園座で拝見しました。実はあまり期待も下調べもしていませんでしたが、意外、この作品がダークホースで感動で号泣してしまいました。明日が千秋楽ですが、また再演があつたら必ず観たい傑作でした。

戦後日本の大ヒット曲をたくさん作つた星野哲郎先生と奥様の生涯を辰巳琢朗さんとかとうかずこさんが演じており、戦後日本のドラマとしても楽しめるし、さらに秀逸だったのはご夫妻のロマンスのメインストーリーに星野哲郎に憧れるサラリーマンの生涯がサブストーリーとしてからめてあり、それをモト冬樹さんとおつまみ枝豆さんがやっており、コメディタッチながらモト冬樹さんの演技、歌唱、ギター演奏が主役のお二人を食っていました。「昔の名前で出ています」「みだれ髪」など魂が震えた。しかも髪ネタで爆笑をとつた後、美空ひばりの「みだれ髪」に圧倒的な力量で場面を転換し、歌世界の舞台である東北に追悼を捧げたところ、素晴らしかった。

他にも「自動車ショー歌」「黄色いさくらんぼ」「365歩のマーチ」「兄弟船」「風雪流れ旅」「男はつらいよ」など、まさに気がつけばそこに歌が流れていた、です。涙涙。( ; \_ ; )

そして圧巻は劇中コンサートで小林幸子先生の圧倒的な歌唱と星野哲郎先生の思い出話。

歌唱した曲は「思い出酒」「女の酒場」「雪椿」

小林幸子先生も辰巳琢朗さんも大震災のチャリティーに力を入れてらっしゃる方で随所に励ましかったわりを感じました。

偉人の生涯を描きつつ、生きる歓びと夫婦、家族、友人の絆、人間の愛を描いた素晴らしい作品でした。ありがとうございました。素晴らしかったです。

## キャラメル隊のうた

キャラメル隊（モテない軍団が結成！カリスマはたまたカルト？）  
がテーマソングを発表！

Kくん「俺たちキャラメル隊！最近、遅刻が多いからママが担任に  
呼び出され、怒られたぜ！モテる男子はハンサムでやせててお洒落  
な子！生きるとは不条理だぜ！」

ヒロキ「俺のお兄ちゃんは速水もこみちにそっくり！毎晩俺の部屋  
の隣に彼女を連れ込むぜ！俺は進学校に行くよりお兄ちゃんのDN  
A分けて欲しかったぜ！」

マサキ「俺のアイドルはとちん！昨日の総選挙はあれは何だ！？  
一人で何票も投じてる不正があるぜ！でも俺のために笑ってくれて  
ありがとう」

ユージロー「僕のアイドルは綿矢りさと深田恭子と涼宮ハルヒ！最  
後の非現実の存在だろって言わないでね！嫌いな食べ物も赤色の  
食べ物！マグロ、いくら、さくらんぼ、スイカ、イチゴ！見た目が  
ダメだぜ！」

カズマ、タカフミ「（・・・）」  
ケンゴ、ゆか「（・・・）」

慶ちゃん、良ちゃん「ギャーハハ（^O^）」

夢「歌詞にね、ひねりが足りないですよ！もっと『ヒュペリオン』とか『夏姫』とか読んで研究しなきゃ！（、o、）」

キャラメル隊「くーっ！厳しいぜ！」

カズマ「マネージャー替えた方よくね？（-\_-）」



## ブロックバスターを観た日（前編）

馬鹿がひく夏風邪をひきました。（\*ー\*）

仕事を休まずやっていることだけ救いがありますが、なかなか更新出来ず、すいません。

月曜日に私にしては珍しくブロックバスター（映画の大ヒット作）を二つ観ました。「パイレーツオブカリビアン4」「X-MEN」です。

まず「パイレーツオブカリビアン4」を観ようと思ったのは監督がロブ・マーシャルに変わったから。

ロブ・マーシャルの作品には必ず逞しい悪女が出てきて、清々しい程です。それで新しい主要キャストとしてスペインを代表する女優ペネロペ・クルスが加わったので、観ました。

正直言うとストーリーはちょっと粗いところもあるのですがジョニー・デップ、ペネロペ・クルス、ジェフリー・ラッシュといった主要キャストの演技がしっかりしているので、最後まで観られました。

意外な喜びは監督の友人としてジュディ・デンチという大女優がちょつと出ていたのが味がありました。キャプテン・ジャック・スパロウがロンドンを逃げ回っている時に身を隠す馬車に乗っている老婦人の役でちょつとだけ出ているのに、すごくチャーミング！（＾  
＾）

そして女は怖いという監督の信念は意外な形で出てきました。

ブロックバスターを観たのはかなり久しぶりと思いますが、面白かったです。たまには映画でもという方におすすめ。

## ブロックバスターを観た日（後編）

さて、どちらかと言うと自分の本命だった「X-MEN」は大満足！年間ベストワンも狙える出来でした。今作は5に当たるのですが、このシリーズは監督がブライアン・シンガー、ブレット・ラトナー、ギャビン・フットと一流の人が手がけているため、ドラマ部分がしっかりしていて、全て劇場（試写会含む）で観ています。

今作も新人天才監督マシュー・ヴォーンが手がけており、素晴らしかった！内容は善のプロフェッサーXと悪のマグニートの青年時代を描いているのですが、マグニートを悪に染めたより悪の存在を名優ケビン・ベーコンがやっていて大感激！ケビン・ベーコンは映画祭の賞などはあまりとっていないはずですが、演技や存在感が素晴らしいのです。大ファンです。（＾o＾）

近年は映画界の人に尊敬され、大人しめだったのに「俺のこと忘れるなよ！」と喝を入れるような大活躍！惚れ直し！（\*―\*）

またいろんな能力のあるミュータントが人間に差別されるというシリーズを通しての主題が社会・文明への批判になっていて、ストーリーに厚みを与えているのも素晴らしい。悪役のマグニートの魅力がむしろ輝いています。

今の期待は本編の最新作を作って欲しいということです。

これもパワーブッシュの作品です！（b^ー）

## モテ期

タカフミ「（・・・；）」

カズマ「どうしたの？（・・・；）」

タカフミ「この前、学校のキャンプ行って、バーベキューやったの。その時、女の子たちが『私のも食べて！』『私のも食べて！』とお肉持ってきたから言われるままに食べてしゃべっていたら、彼女がキレたの（・・・；）」

カズマ「（・・・；）キャラメル隊からそういう景気のいい話聞いたことないね・・・」

Kくん「（；、皿）この前、先輩が広末涼子に似ている子、紹介してくれるっていうからすごく期待して行ったのに、性別と髪型しか似てなかった！」

ケンゴ「向こうにも気持ちがある！」

慶ちゃん、良ちゃん「ギヤーハハ（^O^）」

Kくん「（；、皿）」

## ファム・ファタール

「ファム・ファタール」フランス語で「運命の女」という意味で、「悪女」を暗示する。

夢「そこで孔子は南子という悪女を説得しに行くんですが、彼女の宝石がカチンと鳴る意味深なシーンで場面が転換するんです。そして孔子の弟子は孔子が南子に取り込まれたんじゃないかと疑いを持つたのです！（bへー。）」

Kくん「S女学院にそういう奴いますよ！男がそいつの前で足組んだりすると『アタシの前で足組んだりするんじゃないやねえーよ！（、o（、）』って怒るけど、キレイだからみんな従っているんですよ（；、皿、）」

慶ちゃん、良ちゃん「ブフッ！（^^）」

ヒロキ「うわー、そういう子、ストライクゾーンど真ん中！」

ユージロー「付き合いたい！」

カズマ「（・・・）どうして自分から地獄にはまっていこうと・・・」

夢「Kくんも気をつけないといけないですね」

Kくん「いや！俺、そいつのこと、全然好きじゃないんで！（；、

皿、）  
「

慶ちゃん「相手にされないから大丈夫！（b^I。）」

Kくん「ギクッ！（- - ;）」

## 日本画の美術展（前編）

さて、美術館はゴールデンウィーク頃もよく行っていました。小牧のメナード美術館で「吉田善彦・林功展」を観ました。

結論としてはすごくよかったですが、タイトルを「速水御舟・吉田善彦・林功展」にして欲しかったです。つまり速水御舟から吉田善彦、そして林功と教えが継承されているのを観ることが出来ます。三人は表面的には似ていないですが、もっと深いメンタリティを共有しているのでしょう。古いほど偉大という訳ではないですが、速水御舟、吉田善彦の方がすぐれた作品が多いです。端的に言うと速水御舟は自然の風物を細かく描いています。吉田善彦はもっと雄大なテーマが多いです。これは同じジャンルでは師匠を超えられないという葛藤とかもあったと思う。林功は吉田善彦を超えるため海外に修行に行っている時に交通事故で亡くなりました。（；|；）

でも林功から誰かにもバトンはきつと受け継がれていると思います。



## 日本画の美術展（後編）

さて、メナード美術館に行った後、名古屋に移動し、桑山美術館と  
いうところに行きました。仕事でよく行く街の近くにあるんだけど、  
住宅街の中にあり、迷ってしまいました。（\*―\*）

桑山美術館は日本画の巨匠たちの名作がたくさん展示されていました。  
私が好きだったのは前田青邨の作品。何故か受付の人に「どの  
作品がよかったですか？」と話しかけられ、美術の話をしました。  
作品点数が少なく、質的に高いので、初心者の方におすすめです。

ちょっと短く終わってしまうので、私は日本画が比較的好きです。  
好きな画家は例えば川合玉堂、川崎小虎、加山又造、平松礼二、松  
村公嗣、片岡球子などです。

## 日本洋画の美術展（前編）

さて、一つ前の話がすごく短くなってしまったので、ちょっと反省。いつもいきなり入力で、あまり考えていないから。

次は日本人の洋画の美術展を取り上げようと思うのですが、取り上げるのは古川美術館の鬼頭鍋三郎展、松坂屋美術館の荻須高德展、愛知県美術館の麻生三郎展です。

だいたい日本人が洋画を描く場合、何故、日本人なのにわざわざ洋画を描くのか？という疑問があり、しょうもない作品に終わることも多いのですが、今回取り上げる三人はそれぞれ独自の世界観を築き上げていました。鬼頭鍋三郎展と荻須高德展はまだ観られるので、よかったらおすすめします。

鬼頭鍋三郎の場合は洋画の確かなテクニクで日本ならではの風物を描くことに成功。鬼頭舞妓と呼ばれる舞妓さんの絵などです。

一方、荻須高德はユトリロやヴラマンクの影響を受けながら、ヨーロッパの都市の風景を描き独特の世界観を確立しています。荻須高德の絵に囲まれるとヨーロッパの都市の日常に迷い込んだようです。決して美しい観光名所でなく、その風景は日常の風景です。

## 日本洋画の美術展（後編）

さて麻生三郎展はあまり期待していなかったのですが不意打ちをくらいました。麻生三郎は私が好きな松本竣介の仲間だったことが分かり、初期は非常に力強い絵です。

そして晩年に近くなると前衛芸術になってきます。

生涯を通じて政治的な意識なども強かったようです。

そして麻生三郎展に合わせて、愛知県美術館で東日本大震災追悼の展示をやっていて、素晴らしい展示でした。（；|；）

しかし予定されていたプーシキン美術館展も中止。  
クラシックのコンサートなども中止が多いです。でも負けずに復興に向けて頑張っていきましょう！

## 復活！間違言葉辞典

今日、教えるために教材を見ていてひっくり返った問題があった。

「羅綺」という言葉の意味を答えなさいという問題である。時々おかしい先生がいて、こんな愚問を作る。

中国語の名詞熟語は前後が入れ替わることがあるので、これは「綺羅」である。そして「綺羅星のように」という連想から「美しい服」という意味を答えさせようとしているのだが、高校生に聞くのは狂気の沙汰。

しかし「キラ星のように」という誤用はよく取り上げられる。

「キラキラ星」という子供向けの歌の影響。

また「きらめく才能」というような表現から、「キラ星のように」というのを素晴らしいものがたくさんあるという意味で間違っ使用することが多い。しかし、正しい意味は「美しい衣装が星のように」という衣服をほめるだけの言葉である。

発音も「綺羅」は後ろが上がるイントネーションで、星という言葉の前に呼吸を一拍入れる。

しかしこういうのは文学や言語学の知的な楽しみで、学生への問題としてはアウトである。

この問題を作った人は知識のある馬鹿だったのである。

逆に東大、京大、早稲田、立命館などの問題文は文学として優れたものがある。

現代日本文学の巨匠沢地久枝先生が少女時代を描いたエッセーで、戦前の小学校で「金色夜叉」という文字を読んだところ先生に叱られる。理由は何故でしょう？という問題がある。  
何故だかわかります？

「金色夜叉」は今の時代の昼ドラマみたいなドロドロした話で、（貫一とお宮が恋をしていたがお宮は金に目がくらみ、貫一を捨てる。貫一は金しか信じられなくなり、金でお宮に復讐しようとする）その作品の毒を小学生が味わったことを先生は怒ったのである。この問題は実にさりげなく「金色夜叉」ってどんな作品か分かっていますか？と問いかけているのである。

しかし、沢地久枝先生のエッセーの中でドロドロ作品を読むのはほんの脇道で、本筋は沢地久枝先生が「ケーティ」というアメリカの小説を読み、その中のアメリカの暮らしや食べ物を夢見ながら、戦争を耐えたこと、そして老いた先生が再び「ケーティ」に出会い、失われた記憶を取り戻し、生きる支えを取り戻すところである。

そこを読む時、国語の問題文であることは忘れ去られ、感動の涙が  
あふれて止まらないだろう。( ; ; )

## 出撃！キャラメル隊！

ユージロー「たいへんだよ！ファムファタールがキャラメル隊に用があるんだって！」

ファムファタール「悪いけどさ、Kくんの同級生の石田って奴がアタシをしきりに口説いてきて、うざいんだよね。成敗してよ！（、o、）」

Kくん「みんな、作戦会議だ！」

ヒロキ「図メールで呼び出してさ、恥ずかしい写真撮ろつよ！」

Kくん「おっ！やるやる！」

慶ちゃん「ブラックメールじゃん！（、o、）」

良ちゃん「ほっておきましょう（――・・・）」

Kくん「石田くん、私は北川結衣と言います。学園祭とバスケットボールの試合で石田くんを見て、好きになってしまいました。石田くんに好きにされたいの。石田くんのしたいこと全部していいよ！石田くんの体操服カッコいいから、それを着て星が丘三越に来て下さい・・・と」

マサキ「うひゃー！ドキドキする！」

Kくん「石田が来たら成敗しようぜ！」

ケンゴ「ブラックメールのアドレス、Kくんの名前とアドレス入ってたけど・・・（――・・・）」

カズマ「最初の依頼自体がファムファタールのいじめじゃないかな  
（――）」

ゆか「メールの文面がモテない男子の妄想！（、o、）」  
キャラメル隊「ギクッ！（――）」



## Hello my friend

少し身近にザワザワがあつたのだが、私はこのサイトより現実世界に友達が多いので、創作に専念するよう反省した。

ただこのサイトに発表しないかもしれないが、あつ！と思うやり方で私は昨日、今日のことも文学に昇華しようと思っている。

富山県在住で、佐野元春さんのライブの時に知り合つたNAG@さんが今回特に私を氣遣つて下さり、ありがたかった。

タイミングをはかっていたのだが、NAG@さんはインターネット上でライブをやっており、クオリティが素晴らしいので、これを読まれて、興味を持たれた方は是非、ネットライブを聴いて欲しい。

「NAG@」または「平坂長人」で検索するとながとさんのツイッターなどが出てきて、そこからニコニコ生放送のながとさんの放送に行けます。

ながとさんがギターを弾き、いろんなアーティストをカバーしています。

レパトリーは書き尽くせないですが、佐野元春さん、浜田省吾さん、桑田佳祐さん、忌野清志郎さん、ボウイなど。またB・Z、浜崎あゆみ、さらにはAKBなどまでながとさんアレンジで演奏、歌唱します。ながとさんの個性、素晴らしいと私が思うポイントは歌詞世界が目につかぶ豊かな表現力、ストーリーテリングの能力で、

ながとさんは文学にも造詣が深いから、歌詞を深く歌えるんだと思います。パチパチ！

あとながとさんは素晴らしいアーティストにも関わらずトークなども非常に面白くお洒落です。

あとモノマネも絶品！「ぶらり途中下車の旅」の真似など抱腹絶倒です。

ながとさん、いつもありがとう。

皆様、よかったら放送を聴いてみて下さい。＝。・。・。（）＝。―。（）

## 謎の名古屋駅

夜の駅には何故、変な人が多いのだろう。

名古屋駅はＪＲ、名鉄、近鉄、名古屋市の地下鉄が合体した巨大な駅だが、ある曜日の夜、毎週抱き合って泣いている若いカップルがいる。（――）

でも全然美男美女じゃない。むしろきつい。（――）

映画みたいな行動って美男美女じゃないと喜劇になっちゃうんだな。小栗旬と長澤まさみとかじゃないと。

でもながとさんにダメ出しされた。小栗旬と長澤まさみとかもう旬じゃないと。山本裕典と武井咲とかじゃないとって。

あと関係ないけど夕方ごろ、危ない店のティッシュを女の子に配っている奴がいて、もらえなかったオバチャンが抗議していた。（――）

あと何故かケンカしているカップルがよくいる。（――）

自分（３３）より上の感じのカップルがケンカしていて、「ちゃんとお別れのあいさつしろよ！」と言う男に「あんだけケンカしたんだからできねえよ！」と女がキレていた。

そんな名古屋の夜。

## ながとさんのライブ

さて、二つ前の回で紹介したながとさんのライブだが、ながとさんの厚意でホームページのアドレスなどを貼ってもよいことになった。

<http://com.nicovideo.jp/community/co1085765>

<http://twitter.com/#!/NAG222>

私はこの小説のサイトの技術的なことが分からないので、もし小説の中からはアドレスに飛べないなら活動報告に書いてみようと思う。

587

私はもともとインターネットに詳しい方ではなく、ながとさんの放送で初めてニコニコ生放送というのにふれたのだが、正直言って、素人のしょうもない芸が多い。

その中でストイックに一流の技術を見せるながとさんの努力に私もシンクロするところがあるのである。

でもトークなどは非常に軽妙。

曲のセレクションにも文学性もある。

是非、皆さんにお聴き願いたい。

この小説のサイトの方はけっこう音楽もやってみた人もいるようだけれど、生身の人間の一流のテクニクにふれて欲しい。必ず感動がある。

## 最終回

300話めを一区切りにして最終回にいたします。

しかし引き続き、エッセー集パート2を書いていきます。

私はこのサイトの技術的なことはよく分からないので、一つの作品に話数や文字数の制限があるかはよく分からないのですが、長くなってきたので、一区切りにします。しかし登場人物などは変わりません。偉大なるマンネリズムで行こうと思います。

映画や美術展でまだ論評していないものもあるし、生徒たちも日々いろんな事件を起こし、先輩や摩けこの山先生やながとさんも活躍されると思います。

このサイトの他の人とは逆なのかもしれませんが、私は事実中心に書き、書いた人に見てもらっています。まあ、身内向けで閉じていると言えばそうなのですが、何の宣伝もしていないのに時々、通して読んで下さる方がいらして、かねがね感謝をお伝えしたいと思っています。本当にありがとうございます。

本当にすぐ新しいシリーズを書きますので、またよろしく願います。

約一年弱、書いてきて、生徒の出入りもあり、歴史的大事件もあり、最初の意図とは変わってきたところもあるのですが、これから元

気に書いていきます。

それでは皆さん、ボン・ヴォヤージュ！

## 最終回（後書き）

実は最近、ちょっといやなことというかもめ事というかあったのですが、周りの人たち、仕事の仲間、生徒、小説を認めて下さる芸術家仲間などに思いを話し、すぐ立ち直りました。愛し愛されて、時々つまずいて、立ち上がって歩き続けます。

愛のほか何もないから誰よりも強くて弱い私たちだった（愚詠）



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4807n/>

---

エッセー集

2011年6月26日06時45分発行